取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

bZ4X

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
EV システム	充電に関する情報など （主な項目：EV システム、充電のしかた）	2
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	3
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ）	4
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：EV システム始動のしかた、運転支援装置）	5
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	6
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	7
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	8
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：各フルード量、タイヤ空気圧）	9
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと.....6
本書の見方.....11
検索のしかた.....12
イラスト目次.....14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....26
安全なドライブのために.....27
シートベルト.....29
SRS エアバッグ.....32

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....38
チャイルドシート.....39

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....53
オートアラーム.....54

2 EVシステム

2-1. EV システムについて
EV システムの特徴.....58
EV システムの注意.....61
電気自動車運転のアドバイス.....65
走行可能距離について.....67

2-2. 充電について
充電に関する装備について.....68
普通充電ケーブルについて.....71
普通充電コネクターのロック・アンロック.....77
接続可能な外部電源について.....79
充電方法について.....84
充電に関するアドバイス.....86
充電の前に知っておいていただきたいこと.....87
普通充電のしかた.....90
急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた.....98
タイマー充電機能を使う.....104
マイルームモードを使う.....113
ソーラー充電システム.....116
正常に充電できないときは.....120

2-3. DC 外部給電システムについて
DC 外部給電システム.....132
DC 外部給電システムの使い方.....133
DC 外部給電システムが正常に作動しないときは.....140

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方
警告灯／表示灯.....144
計器類.....148
マルチインフォメーションディスプレイ.....151

4 運転する前に

4-1. キー
キー.....158
デジタルキー.....161

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア.....164
バックドア.....169
スマートエントリー＆スタートシステム.....182

4-3. シートの調整

フロントシート..... 188
リヤシート..... 189
ヘッドレスト..... 191

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル..... 194
インナーミラー..... 195
デジタルインナーミラー..... 196
ドアミラー..... 204

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ..... 206

4-6. お好み設定

マイセッティング..... 209

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 213
荷物を積むときの注意..... 219

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ..... 221
シフトポジション..... 225
方向指示レバー..... 230
パーキングブレーキ..... 231
ブレーキホールド..... 234

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 237
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 240
フォグランプスイッチ..... 243
ワイパー＆ウォッシャー..... 244

5-4. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 設定車）..... 247
Toyota Safety Sense..... 249
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 255
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 264
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 268
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 273
発進遅れ告知機能..... 278
RSA（ロードサインアシスト）.. 280
レーダークルーズコントロール. 283
クルーズコントロール..... 291
ドライバー異常時対応システム. 294
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 296
後方車両接近告知..... 302
周辺車両接近時サポート（通報提案機能）..... 304
後方車両への接近警報..... 307
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）..... 309
安心降車アシスト..... 311
クリアランスソナー..... 315
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 323
RCD（リヤカメラディテクション）..... 328
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 331
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 336
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 339
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 340
トヨタチームメイト アドバンストパーク..... 342
スノーモード..... 375
X-MODE..... 375

運転を補助する装置 380
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 386

5-5. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 391

6 室内装備・機能

6-1. エアコンの使い方
ALL AUTO（ECO）制御..... 396
オートエアコン..... 398
リモートエアコンシステム..... 404
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター..... 406

6-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧..... 410

6-3. 収納装備
収納装備一覧..... 412
ラゲージルーム内装備 416

6-4. その他の室内装備の使い方
電動サンシェード..... 420
その他の室内装備 421
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 432
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 440

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた
外装の手入れ..... 444
内装の手入れ..... 448

7-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット..... 451
ガレージジャッキ 453
ウォッシャー液の補充 454
タイヤについて 455
タイヤの交換..... 467
タイヤ空気圧について 473
エアコンフィルターの交換 474
電子キーの電池交換 477
ヒューズの点検・交換 479
電球（バルブ）の交換 481

8 万一の場合には

8-1. まず初めに
故障したときは..... 484
非常点滅灯（ハザードランプ)... 485
発炎筒 485
車両を緊急停止するには 486
水没・冠水したときは 487
車中泊が必要なときは 488

8-2. 緊急時の対処法
けん引について..... 489
警告灯がついたときは 494
警告メッセージが表示されたときは 501
パンクしたときは..... 507
EV システムが始動できないときは 517
キーをなくしたときは 518
充電リッドが開かないときは..... 519
電子キーが正常に働かないときは 520
補機バッテリーがあがったときは 522
オーバーヒートしたときは 526
スタックしたときは 528

9 車両情報

9-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ 530

9-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能 534

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 546

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）548
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 550
アルファベット順さくいん..... 552
五十音順さくいん 554

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けボルトの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.10 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

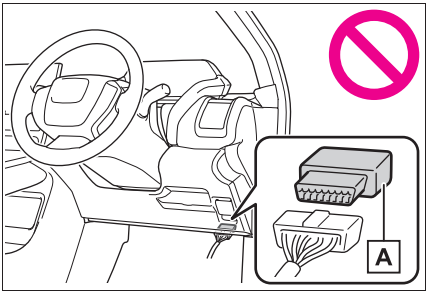
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ ※

※ グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバーモニターのカメラ画像）※2

※2 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行してい

る場合

- EV システム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご著名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合

・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EV システム
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.386）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

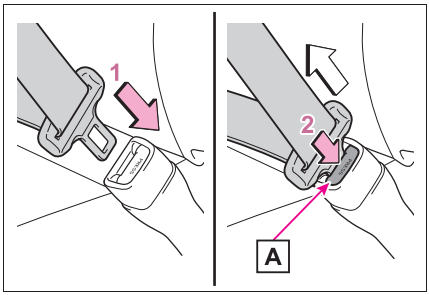
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

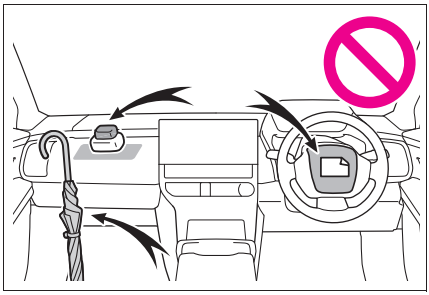
本文の記号について

記号	意味
⚠	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
⚠	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
📖	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておいておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
➡	押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。
⇨	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



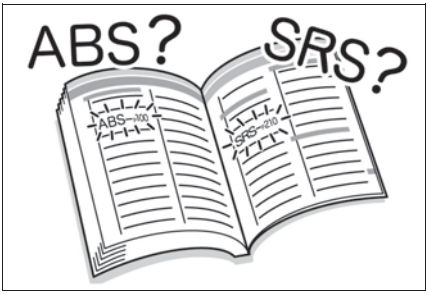
記号	意味
➡	説明の対象となるもの・場所を示しています。
⊘	**してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでください**という意味です。

検索のしかた

■ 名称から探す

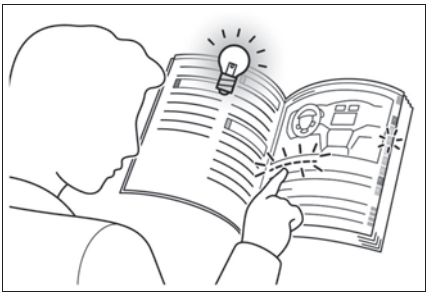
●五十音順さくいん：→P.554

●アルファベット順さくいん：
→P.552



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.14



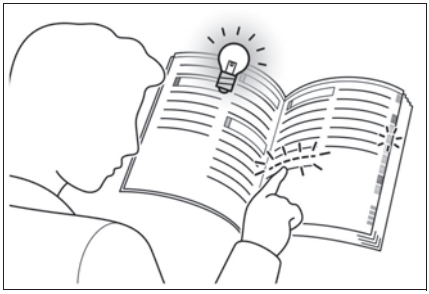
■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：
→P.548

●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.550

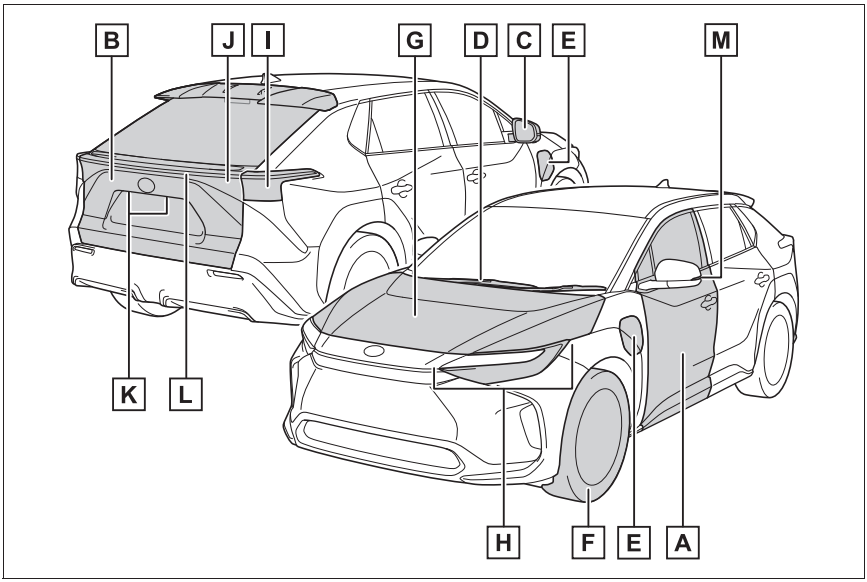
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。

A ドア P.164

施錠／解錠 P.164

ドアガラスの開閉 P.206

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.520

警告メッセージ P.501

B バックドア P.169

施錠／解錠 P.170

開け方／閉め方 P.171

パワーバックドア★ P.172

警告メッセージ P.501

C ドアミラー P.204

鏡面の角度調整 P.204

ミラーの格納 P.205

曇りを取る（ミラーヒーター） P.399

D ワイパー **P.244**
冬季の注意 P.391
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ P.400
洗車時の注意 P.445

E 充電ポート **P.68**
充電方法 P.84
DC 外部給電システム P.132

F タイヤ **P.455**
サイズ・空気圧 P.532
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.391
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム P.455
パンク時の対処 P.507

G ボンネット **P.451**
開け方 P.451
オーバーヒート時の対処 P.526
警告メッセージ P.501

走行に関わる外装の電球（バルブ）
（交換について：P.481）

H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト **P.237**
方向指示灯 **P.230**

I 尾灯 **P.237**
方向指示灯 **P.230**
制動灯
緊急ブレーキシグナル P.380

J 尾灯 **P.237**
リヤフォグランプ★ **P.243**
後退灯
シフトポジションを R にする P.225

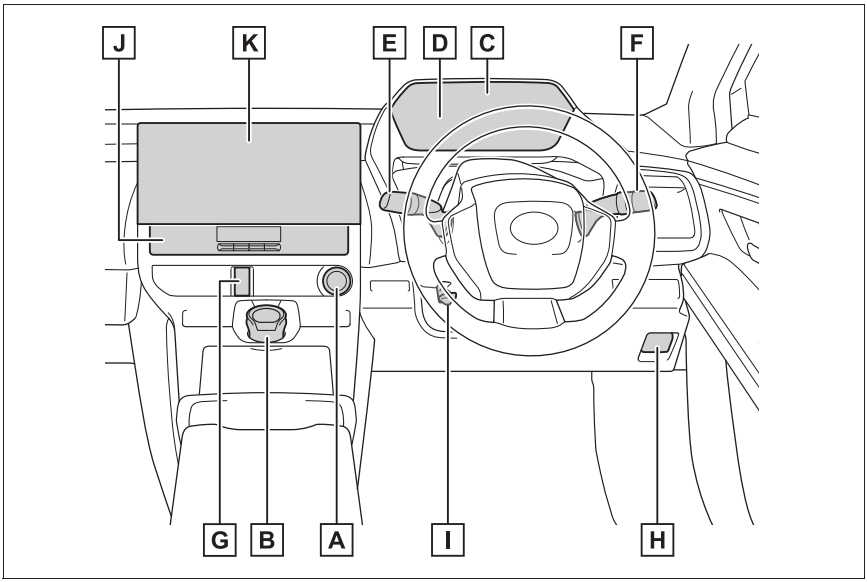
K 番号灯 P.237

L 尾灯 P.237

M 方向指示灯 P.230

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A パワースイッチ P.221

EV システムの始動・モード切りかえ P.221, 223

EV システムの緊急停止 P.486

EV システムが始動できないときの対処 P.517

警告メッセージ P.501

B ダイヤル式シフト P.225

シフトポジションの切りかえ P.225

けん引時の注意 P.489

C メーター P.148

見方・明るさの調整 P.148, 150

警告灯／表示灯 P.144

警告灯点灯時の対処 P.494

D マルチインフォメーションディスプレイ P.151

表示内容 P.151

警告メッセージ表示時の対処 P.501

E ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント）..... P.244

使い方 P.244

ウォッシャー液の補充 P.454

警告メッセージ P.501

F 方向指示レバー P.230

ランプスイッチ P.237

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト P.237

リヤフォグランプ★ P.243

G 非常点滅灯スイッチ P.485

H ボンネット解除レバー P.451

I ハンドル位置調整レバー P.194

調整方法 P.194

J オートエアコン P.398

操作方法 P.398

リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.. P.399

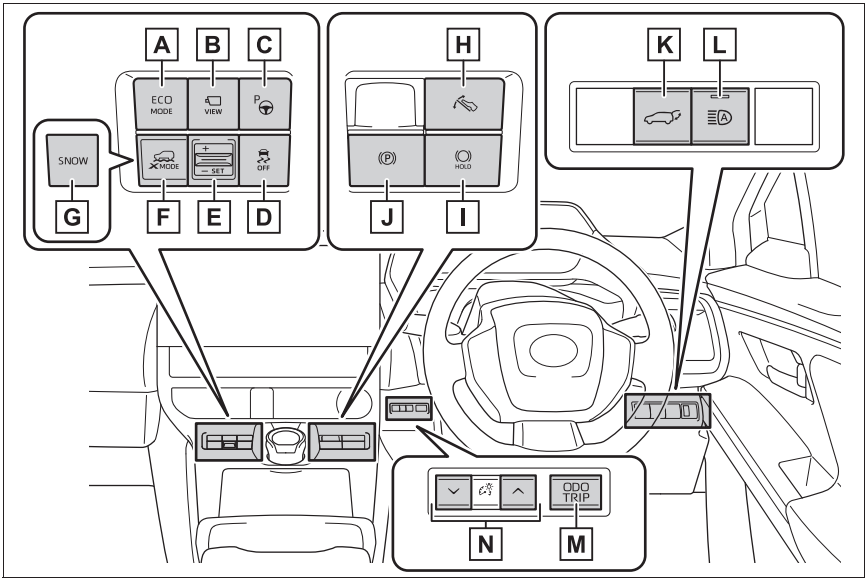
K マルチメディア ※

音楽を聴く ※

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類



A エコモードスイッチ P.228

B カメラスイッチ ※

C アドバンストパーク（駐車支援システム）メインスイッチ P.350

D VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ P.381

E グリップコントロールスイッチ★ P.375

F X-MODE スイッチ★ P.375

G スノーモードスイッチ★ P.375

H 回生ブーストスイッチ P.229

I ブレーキホールドスイッチ P.234

J パーキングブレーキスイッチ P.231

かける・解除する P.231

冬季の注意 P.392

警告ブザー・警告メッセージ..... P.494, 501

K パワーバックドアスイッチ★..... P.172

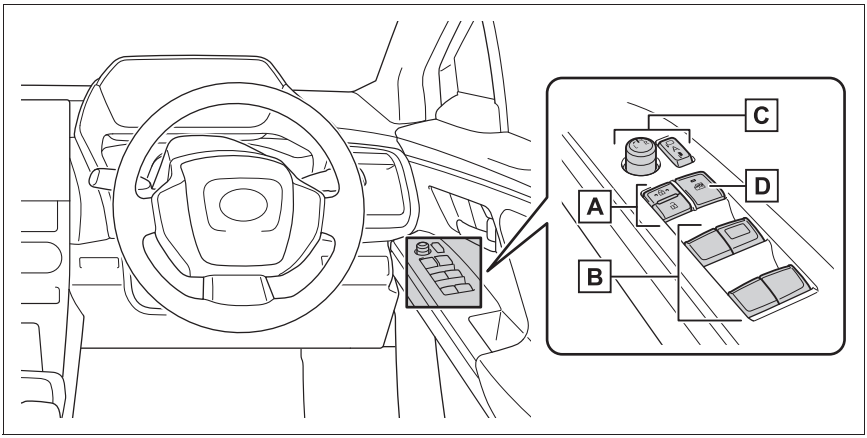
L アダプティブハイビームシステムスイッチ..... P.240

M オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーター
リセットボタン..... P.150

N インストルメントパネル照度調整スイッチ..... P.150

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

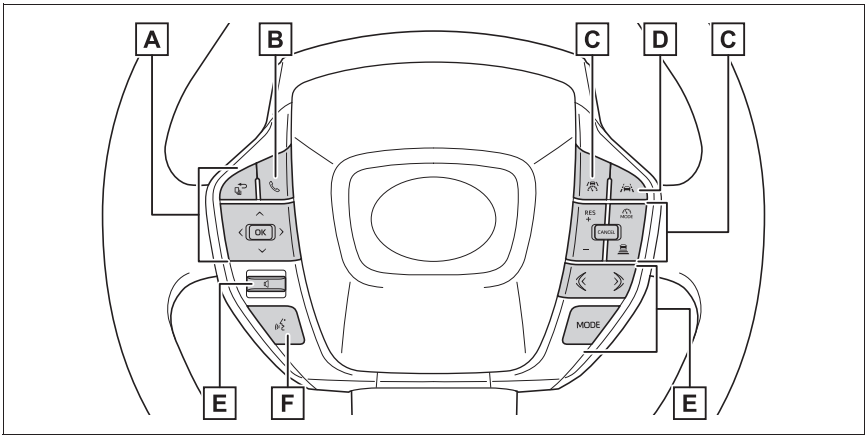


A ドアロックスイッチ..... P.167

B パワーウインドウスイッチ..... P.206

C ドアミラースイッチ..... P.204

D ウインドウロックスイッチ..... P.208



A メーター操作スイッチ P.152

B 電話スイッチ ※ P.152

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール P.283

クルーズコントロール P.291

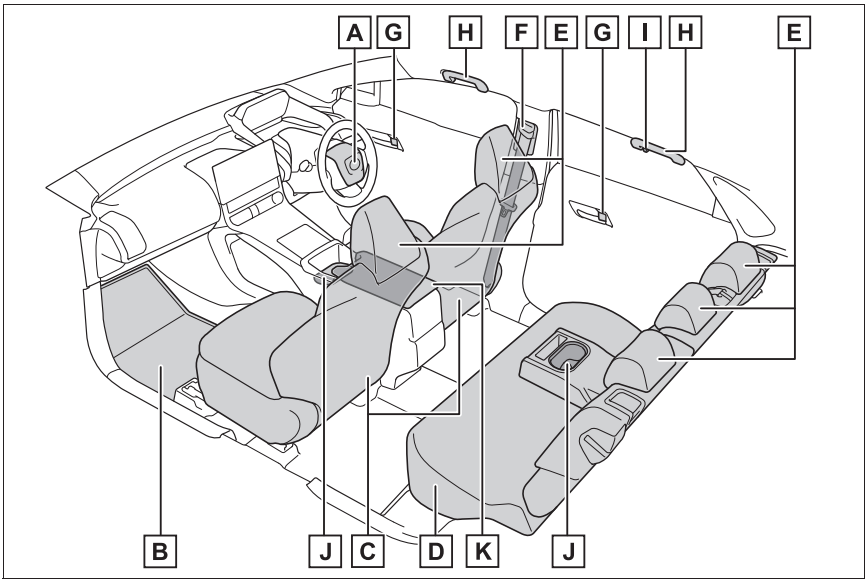
D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.264

E オーディオスイッチ ※

F トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.32

B フロアマット P.26

C フロントシート P.188

D リヤシート P.189

E ヘッドレスト P.191

F シートベルト P.29

G ロックレバー P.167

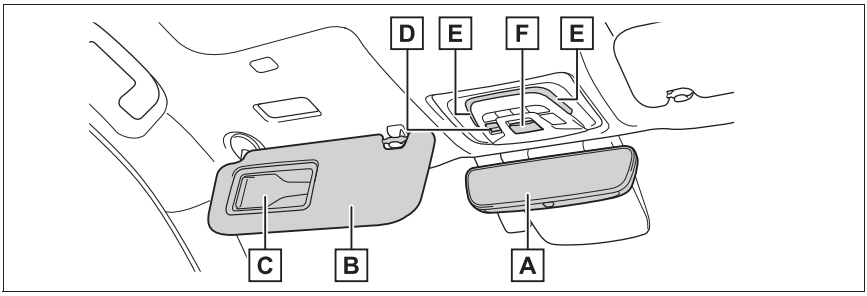
H アシストグリップ P.431

I コートフック P.431

J カップホルダー P.413

K コンソールボックス P.413

■ 天井



A インナーミラー★ P.195

デジタルインナーミラー★ P.196

B サンバイザー ※1 ..... P.421

C バニティミラー P.421

D 電動サンシェードスイッチ★ P.420

E インテリアランプ ※2 ..... P.411

パーソナルランプ P.411

F ヘルプネットスイッチパネル ※3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.41）

※2 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

シートベルト 29

SRS エアバッグ 32

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 38

チャイルドシート 39

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 53

オートアラーム 54

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

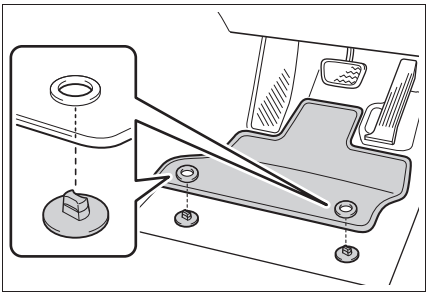
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

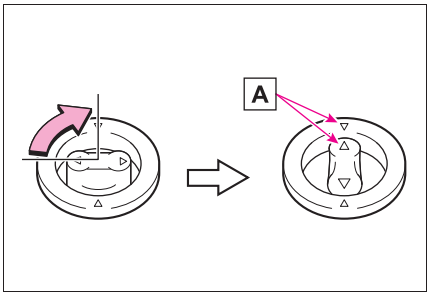
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

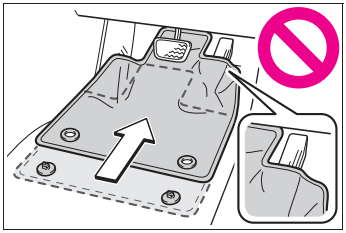
■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

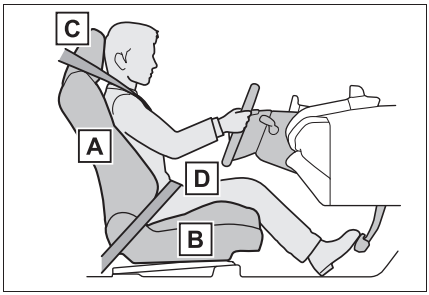


●EV システム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.188）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.188）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.191）

D シートベルトを正しく着用する（→P.30）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.30）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.39）

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラーを正しく調整してください。（→P.195, 196, 204）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

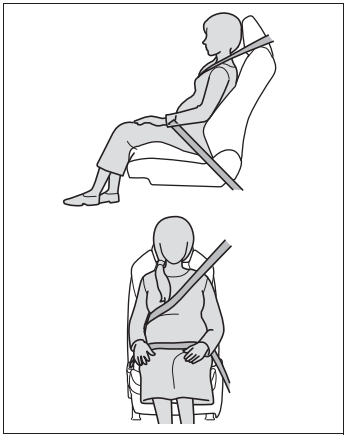
警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.30）通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.49

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

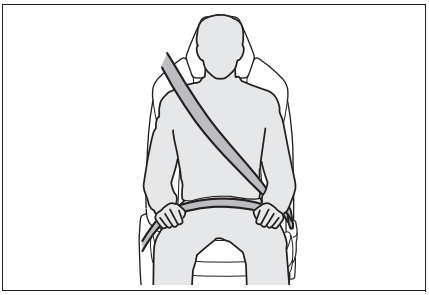
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る



- ねじれがないようにする

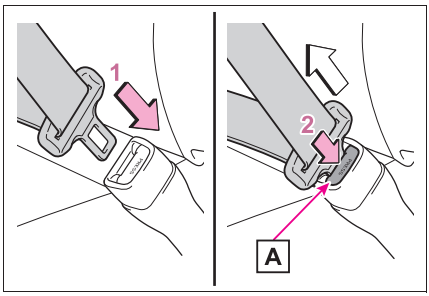
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.39)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.29)

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

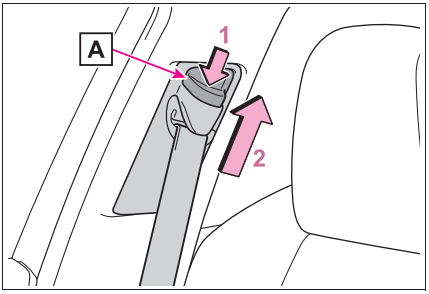
2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

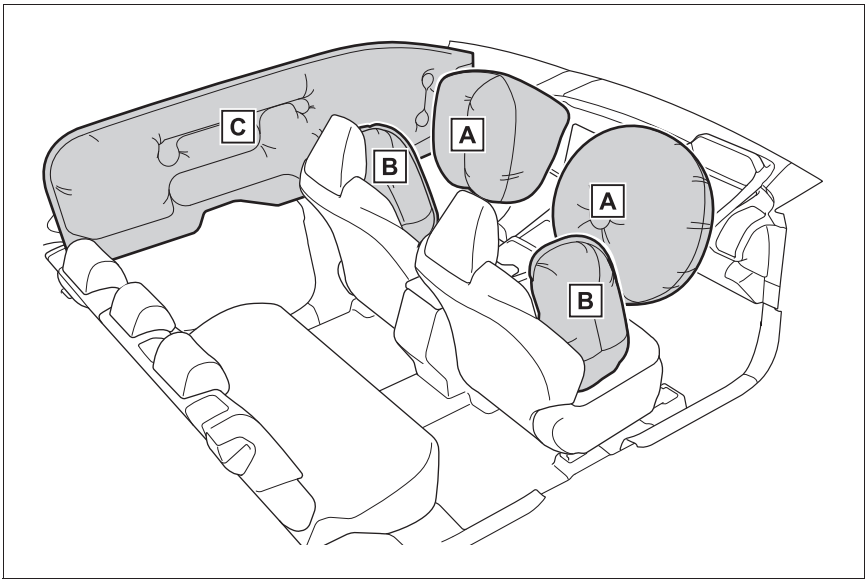
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



A フロント ＳＲＳ エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

C SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあり

ます。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●EV システムを停止します。（→P.64）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.165）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.380）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.411）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.485）

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・フロント SRS エアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
・シートベルトプリテンショナー

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

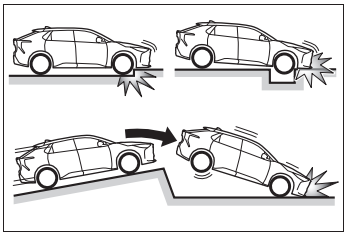
■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

●車両側面のどちらかに衝突があった場合でも、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

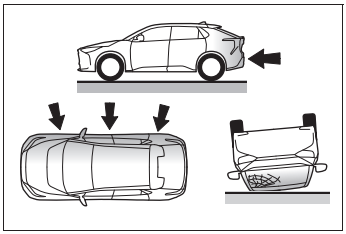
●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
・フロント SRS エアバッグ
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ



■SRS エアバッグが作動しないとき

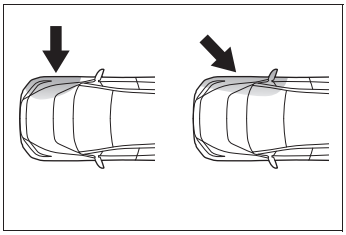
●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

・フロント SRS エアバッグ



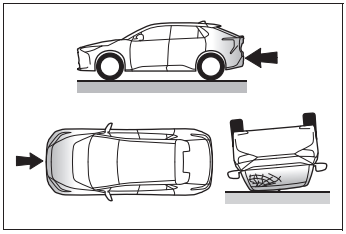
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ



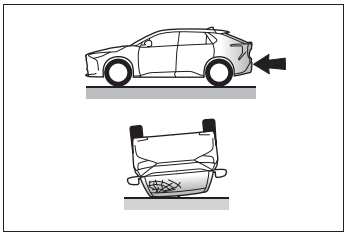
●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃、横転、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・SRS カーテンシールドエアバッグ



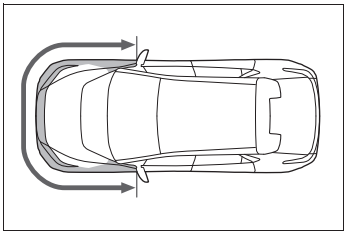
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

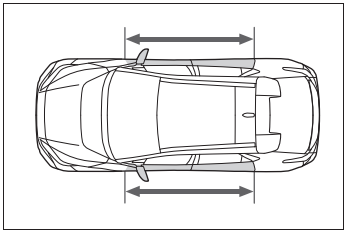
●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

・フロント SRS エアバッグ



●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

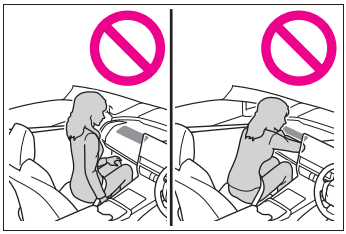
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

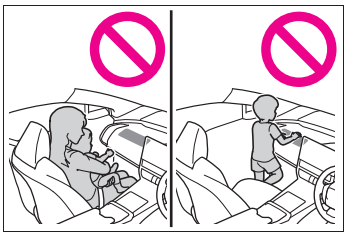
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.39)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



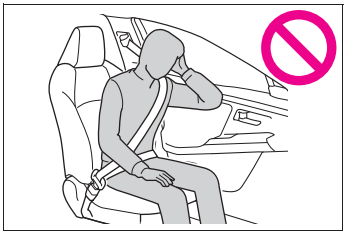
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

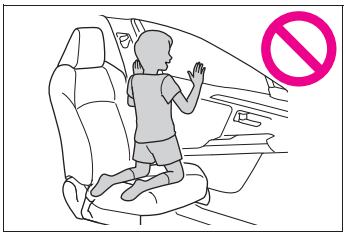


警告

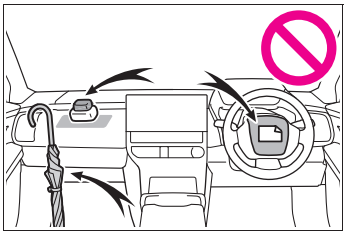
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



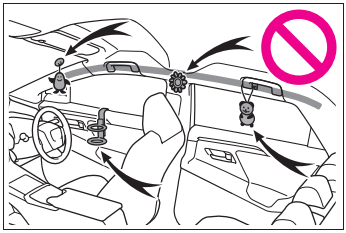
●ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→P.511）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

警告

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

・ハンドル
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・シート
・シート表皮
・フロントピラー
・センターピラー
・リヤピラー
・ルーフサイドレール
・フロントドアパネル
・フロントドアトリム
・フロントドアスピーカー

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●次の部品やその周辺の修理・改造

・フロントフェンダー
・フロントバンパー
・車内側面部

●次の部品、または装置の取り付け

・グリルガード
・除雪装置
・ウインチ

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.39）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.168）・ウインドウロックスイッチ（→P.208）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.39 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.39

チャイルドシートを使用するときは：P.40

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.42

チャイルドシートの取り付け方法：P.47

・ シートベルトで固定する：P.48

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.50

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.51

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.42）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

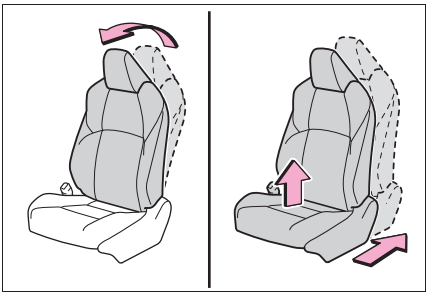
助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さ調整ができる場合はいちばん高い位置まで上げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

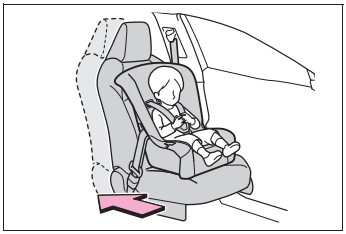
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

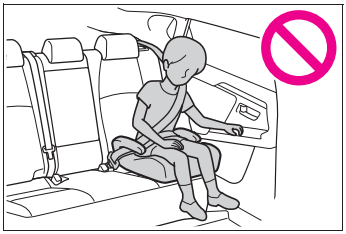
警告

警告

●助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



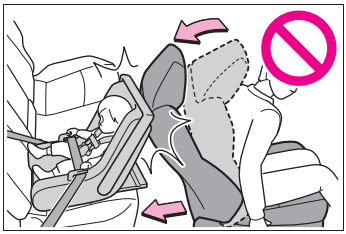
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.44）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.46）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

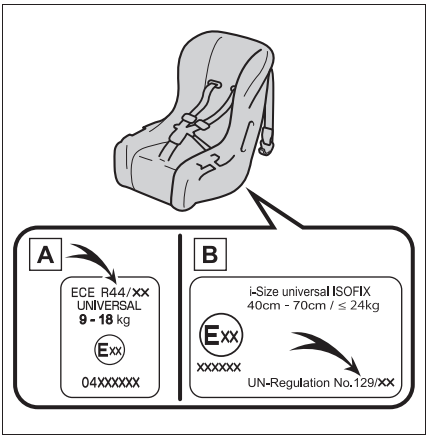
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク※2

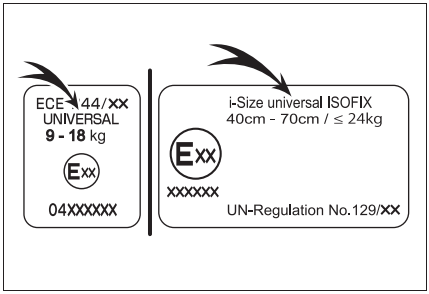
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

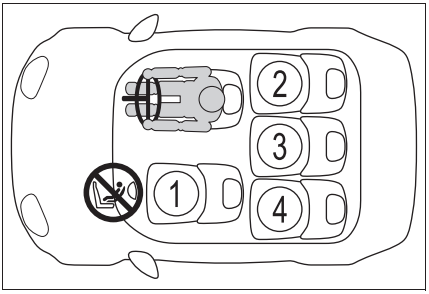
・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	UF ※4
2 ※2, 3	U L
3 ※2, 3	U
4 ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.46）に記載されたチャイルドシートに適しています。

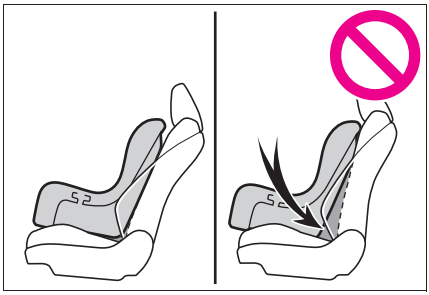
i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

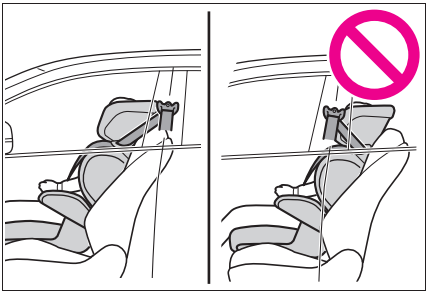
推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150cm（体重：15 ～ 36kg）	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調

整してください。

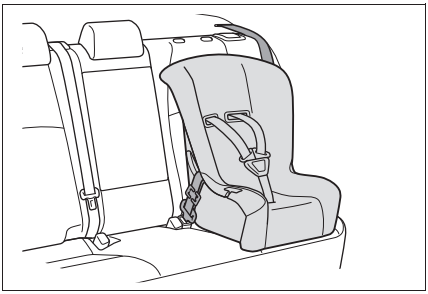
● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

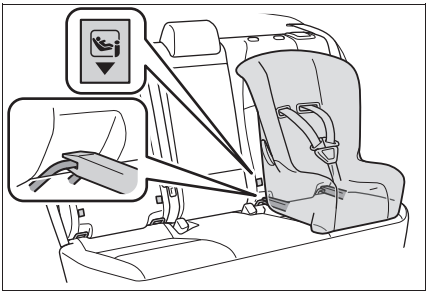
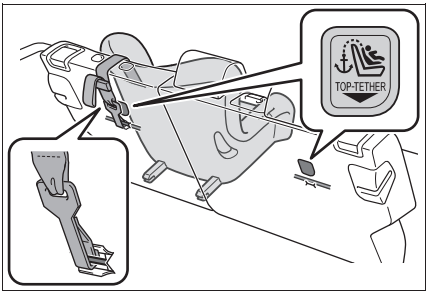


● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.48

固定方法		ページ
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.50
テザーベルトを固定する		P.51

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.42, 44）

1 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.40）

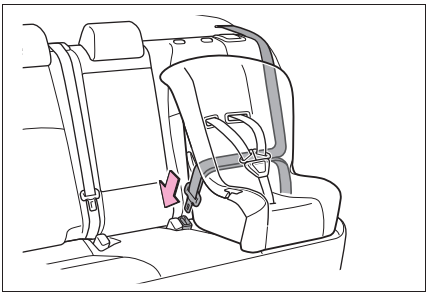
2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.191）

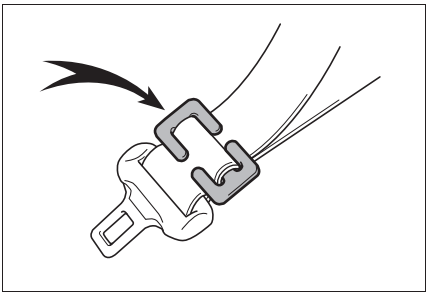
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.49）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

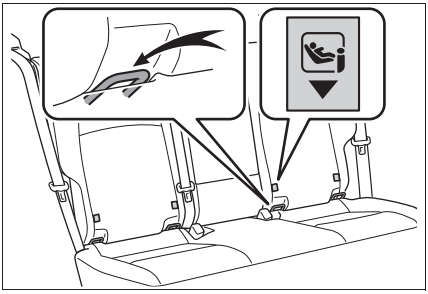
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.42, 44）

1 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.191）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.49）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

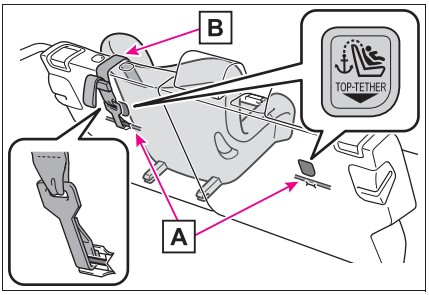
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

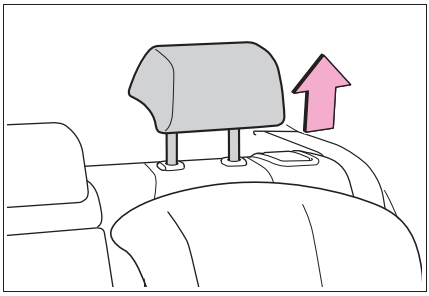
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる（→P.191）

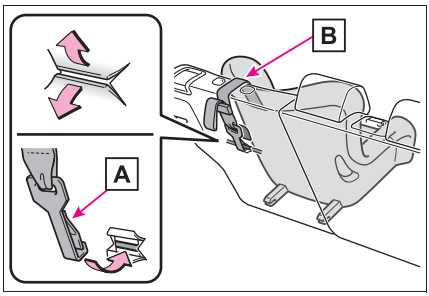
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.49）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

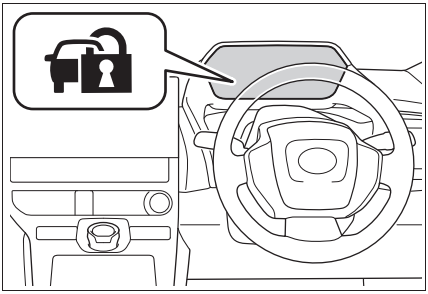
●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外では EV システムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

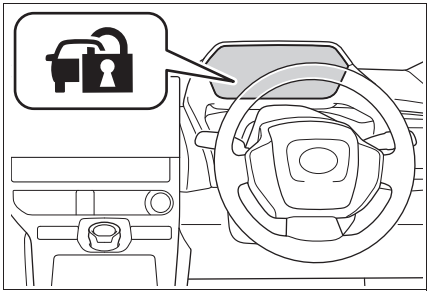
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、EV システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

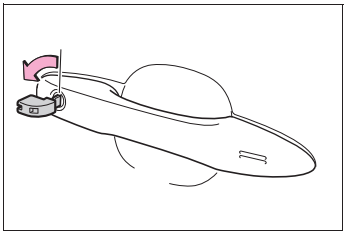
■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■オートアラームの作動について

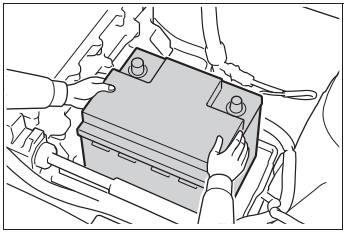
次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき

●施錠後、バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.524）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。（→P.534）

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

EV システム 2

2-1. EV システムについて

EV システムの特徴..... 58
EV システムの注意..... 61
電気自動車運転のアドバイス..... 65
走行可能距離について..... 67

2-2. 充電について

充電に関する装備について..... 68
普通充電ケーブルについて..... 71
普通充電コネクターのロック・アンロック..... 77
接続可能な外部電源について..... 79
充電方法について..... 84
充電に関するアドバイス..... 86
充電の前に知っておいていただきたいこと..... 87
普通充電のしかた..... 90
急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた..... 98
タイマー充電機能を使う..... 104
マイルームモードを使う..... 113
ソーラー充電システム..... 116
正常に充電できないときは..... 120

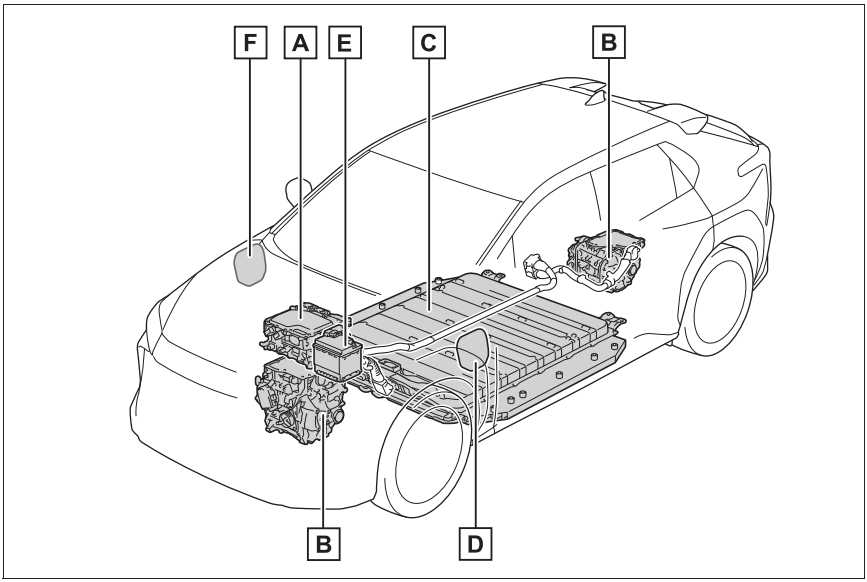
2-3. DC 外部給電システムについて

DC 外部給電システム..... 132
DC 外部給電システムの使い方 133
DC 外部給電システムが正常に作動しないときは..... 140

EV システムの特徴

電気自動車は、従来の車両とは大きく異なります。駆動用電池に充電された電気で電気モーターを駆動させることで、走行します。電気自動車は電気を使用して走行するため、CO_2（二酸化炭素）や、NOx（窒素酸化物）などを排出せず、環境に優しい自動車です。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ESU：Electricity Supply Unit（車載充電器・DC/DC コンバーター内蔵）

B 電気モーター（駆動モーター）／インバーター（フロント／リヤ★）

C 駆動用電池

電気モーターに電気を供給します。

D 急速充電ポート

E 補機バッテリー

SRS エアバッグ、ヘッドライト、ワイパーなどのさまざまなシステムに電力を供給します。

F 普通充電ポート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

充電について

- 充電に関する装備について（→P.68）
- 普通充電ケーブルについて（→P.71）
- 接続可能な外部電源について（→P.79）
- 充電の前に知っておいていただきたいこと（→P.87）
- 充電方法について（→P.90、98）
- 正常に充電できないときは（→P.120）

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EV システムが作動しているとき、または駆動用電池の充電中に、駆動用電池から充電されます。車両を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合があります。この場合は、正しい手順に従って、対処してください。（→P.522）

■車を長期間使用しないとき

- 車を長期間使用しない場合は、駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、1ヶ月に一度は駆動用電池を充電してください。
- 車を長期間使用しない場合は、補機バッテリーあがりを低減する目的で、駆動用電池の電力で補機バッテリーを充電します。その場合、冷却ファンが作動することがありますが、異常ではありません。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、車両から取りはずしておいてください。

■駆動用電池の充電について

- 駆動用電池が低下すると、駆動用電池充電警告灯が点灯または点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、走行ができなくなります。駆動用電池の残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて、シフトポジションを P にしてください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●運転席のドアが開いたときに車両の前方から聞こえるブレーキシステムの操作音

●モータールームもしくはラゲージルームからのモーター音

●EV システム始動時および停止時に車両モータールームから聞こえるリレーの音

●次のような場合は、“コトン”、“カチッ” などのリレー作動音が駆動用電池から聞こえます。
・EV システムが始動または停止したとき
・充電が開始または終了するとき
・急速充電を使用して駆動用電池を充電した後、初めて車両を運転するとき

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる作動音

●ラジエーターから聞こえる冷却ファンの作動音

●エアコンシステム（エアコンコンプレッサー、送風機モーターなど）の作動音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

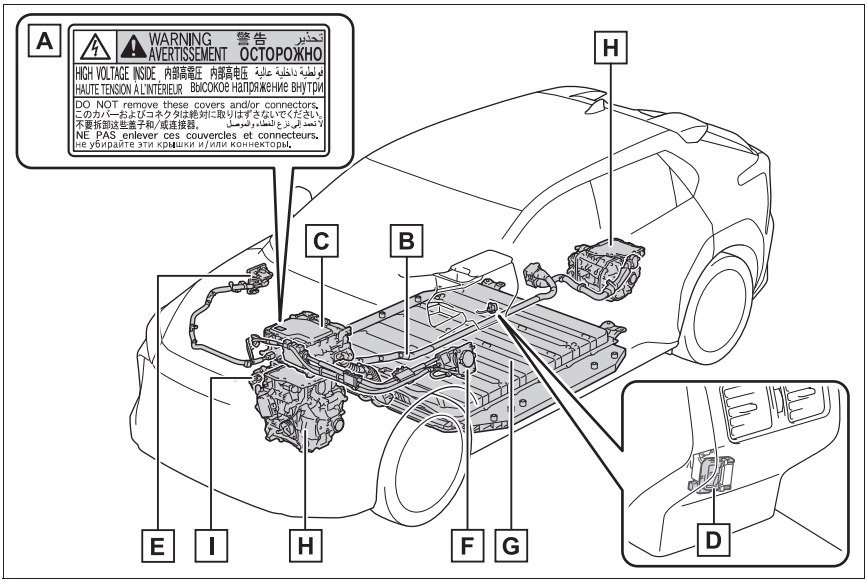
■マルチインフォメーションディスプレイに “車両接近通報装置故障 販売店で点検してください” が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

EV システムの注意

EV システムには、駆動用電池・ESU・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（公称約 355.2V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B 高電圧ケーブル（オレンジ色）

C ESU：Electricity Supply Unit（車載充電器・DC/DC コンバーター内蔵）

D サービスプラグ

E 普通充電インレット

F 急速充電インレット

G 駆動用電池

H 電気モーター（駆動モーター）／インバーター（フロント／リヤ★）

I エアコンコンプレッサー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池（リチウムイオン電池）について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池と同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。
これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.89 の“駆動用電池の容量低下について”に記載されていることを心がけてください。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。
その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

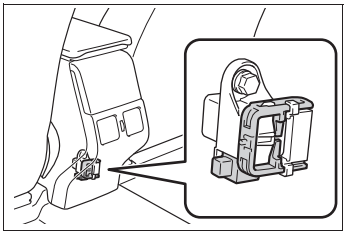
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はEV システムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

警告

●サービスプラグが床下の駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。
サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.489）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。
軽度な事故であっても、駆動用電池や周辺部位が損傷している可能性がありますので、事故にあった場合は、トヨタ販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。
床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。
また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用電池が損傷している可能性がありますので、車両床下に衝撃を受けた場合には、トヨタ販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

■改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

緊急停止システム

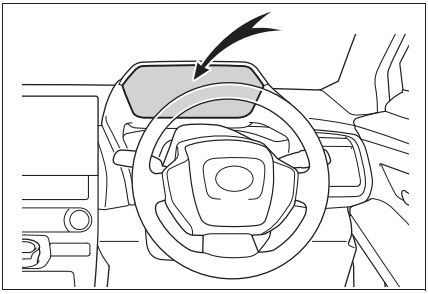
事故により衝撃を受けたときなどは、EV システムを停止して高電圧を遮断します。

この場合、EV システムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

EV システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。（→P.126, 501）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

EV システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■駆動用電池が電欠になったとき

駆動用電池が電欠で EV システムが始動できないときは、駆動用電池充電警告灯が消灯するまで、十分に充電（普通充電または急速充電 [V2H 充電]）してから再始動してください。

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、電気自動車が走行を続けると電力消費率は低下します。高速道路での運転または平均車速の高い運転を続けた場合、走行できる距離が短くなる可能性があります。駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された走行可能距離に頼りすぎたり、高速道路を運転したりしないでください。適度な車速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。
- 駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。
- シフトポジションをNにしても、電費向上の効果はありません。N では、駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際

は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON/OFF

● 必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な電力消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けましょう。ヒーターを使いすぎないことも電費向上に効果的です。

● エアコン操作スイッチの ALL AUTO（ECO）スイッチを ON にすると、エアコンシステムは消費電力の少ないシートヒーターなどを優先的に使用し、エアコンによる消費電力を抑えることができます。

● 普通充電ケーブルが車両に接続されている状態でリモートエアコンシステム（→P.404）を使用すると、主に外部電源の電力を使用して車内を空調できるため、出発直後の駆動用電池の電力消費を抑制できます。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、電費悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

走行可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイには、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推定して表示しています。（→P.152）低温時には、駆動用電池残量が残っていても、走行距離がなくなる場合があります。早めに充電してください。

走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行することを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房・暖房は避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用し、タイヤの空気圧を適正に維持する
- 不要な荷物を積まないように心がける

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

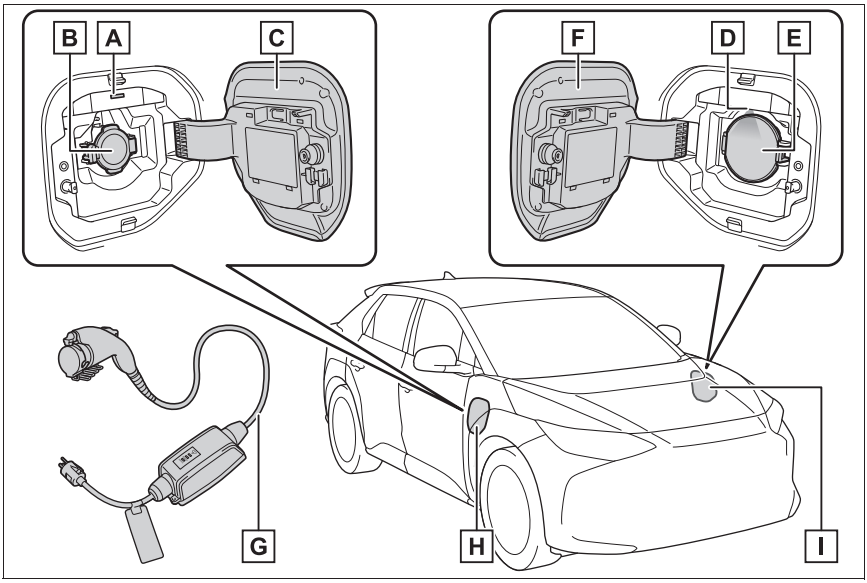
- 普通充電ポートの充電インジケーターが消灯する
- パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに“充電結果のお知らせ　充電完了しました”と表示される（→P.87）

接続する電源やタイマー充電機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：→P.126

充電に関する装備について

充電装備と名称



A 充電インジケーター（→P.70）および普通充電インレット照明

B 普通充電インレット

C 普通充電リッド（→P.69）

D 急速充電インレット照明

E 急速充電インレット

F 急速充電リッド（→P.69）

G 普通充電ケーブル（→P.71）

H 普通充電ポート

I 急速充電ポート

充電リッドの開閉

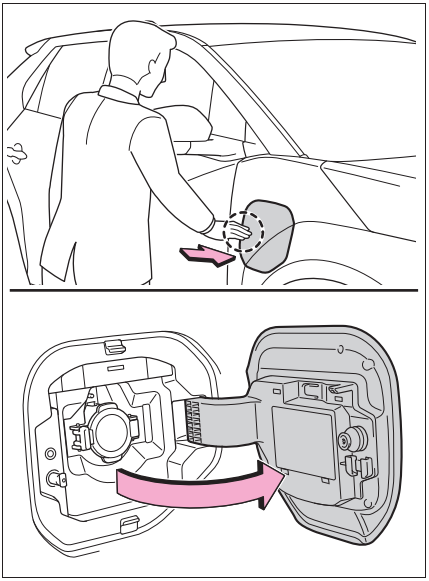
普通充電リッドと急速充電リッドの開閉操作は同様です。

■ 充電リッドの開け方

ドアを解錠することで、充電リッドをアンロックする。（→P.164）

充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押し、充電リッドを開ける。

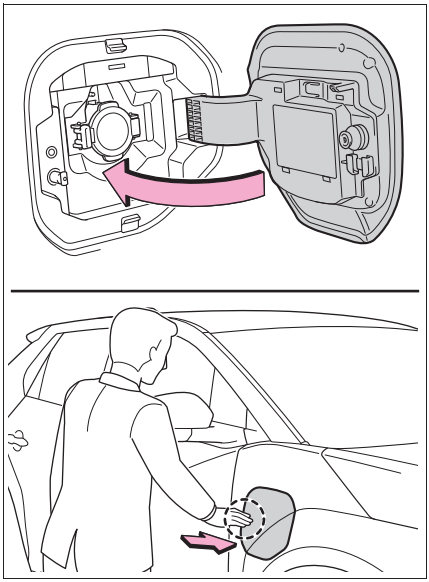
押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



■ 充電リッドの閉め方

充電リッドを閉め、充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押す

ドアを施錠すると、充電リッドもロックされます。



知識

■充電リッドのロックについて

●次のような場合には、充電リッドがロックされます。
・ワイヤレスリモコンでドアを施錠する
・スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠する
・メカニカルキーでドアを施錠する

●ドアのセキュリティ機能で施錠された場合、充電リッドが閉まっていれば、連動してロックされます。（→P.54）

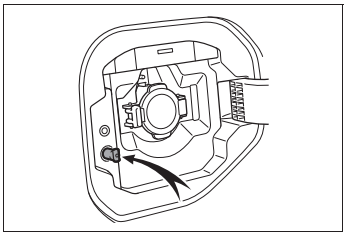
●ドアが施錠されている状態で、充電リッドを閉めた場合は、充電リッドがロックされません。その場合は、ドアを再度施錠することで、充電リッドをロックすることができます。

●普通充電コネクターがロックされると、急速充電リッドもロックされます。

■リッドリフターについて

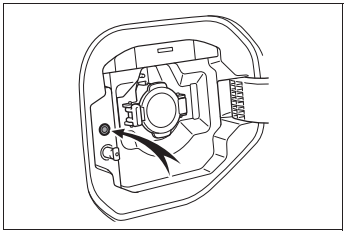
●充電リッドを閉める前に、リッドリフターが押し込まれている状態だと、充電リッドが閉まりません。その場合は、

ドア解錠状態でリッドリフターを押して飛び出ている状態にしてから、充電リッドを閉めてください。



■充電リッド開閉検知スイッチ部について

充電リッドが開いているときは、充電リッド開閉検知スイッチ部（図に示す位置）にふれないよう注意してください。誤ってふれると、車両が充電リッドの開閉状態を誤表示したり、充電コネクターが正常にロック・アンロック出来なくなるおそれがあります。



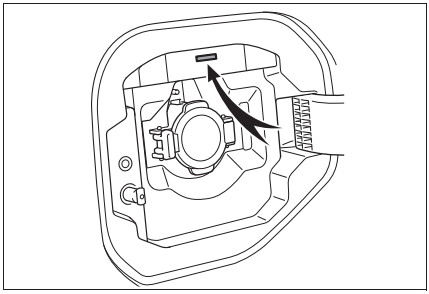
■充電リッドが開かないとき

→P.519

充電インジケーター

充電インジケーターは、普通充電リッドにのみ搭載されています。

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電に関する状況をお知らせします。



点灯・点滅パターン	車両の状況
点灯	・充電中※1 ・駆動用電池ヒーター（→P.84）の作動中
点滅（通常）※2	充電スケジュール（→P.104）が登録されている状態で、普通充電ケーブルを車両に接続したとき
速い点滅※2	電源または車両の異常などにより充電ができない状況（→P.122）のとき

※1充電が終了したら、消灯します。

※2一定時間点滅したあと、消灯します。

普通充電ケーブル★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

警告

■普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない
- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

注意

■普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する（→P.77）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクターを取りはずしたあとは、普通充電インレットキャップを確実に取り付ける

■普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

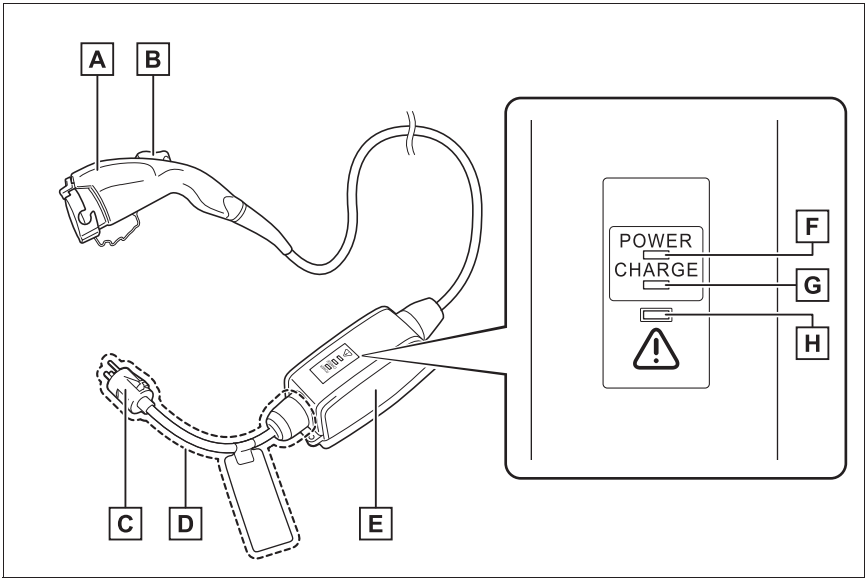
→P.90

注意

■寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



A 普通充電コネクター

B ロック解除ボタン

C 電源プラグ

D 電源プラグコード※

E コントロールユニット

F 電源インジケーター（→P.73）

G 充電インジケーター（→P.73）

H エラーインジケーター（→P.73）

※ 接続する電源電圧（200V または 100V）に合わせて、電源プラグコードを交換する必要があります。（→P.74）

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。（電気が遮断された場合の対処方法については、P.73 を参照してください）

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケーターの点滅でお知らせします。（→P.73）

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

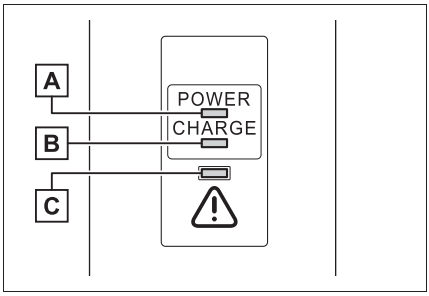
■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクターが車両に接続されていないと、普通充電コネクターに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケーターについて

■ 各インジケーターの働き

3 つのインジケーターで、それぞれ次の状態を示します。



A 電源インジケーター

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

B 充電インジケーター

充電中に点灯します。

C エラーインジケーター

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

電源インジケーターが点灯し、エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。それ以外の場合には、次の表に従って対処してください。

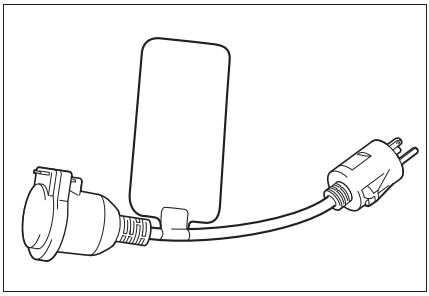
状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**
	点灯	点滅	
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 **→ 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているかを確認してください。点滅が解消しない場合も、電流を制限して充電が行われます。**
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 **→ トヨタ販売店にご相談ください。**

電源プラグコードの交換★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

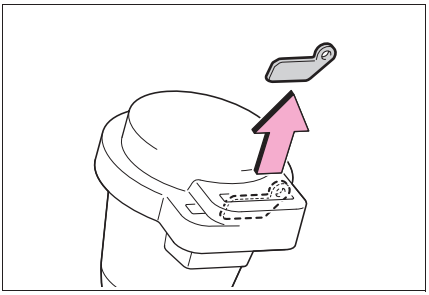
電源プラグを 100V 用、または 200V 用に交換したい場合は、次の手順で電源プラグコードを交換してください。

1 普通充電ケーブル（→P.72）と交換用電源プラグコードを用意する

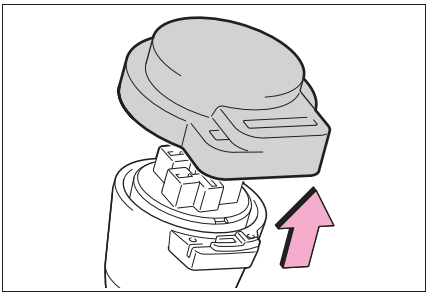


2 解除キーを取り出す

取り出した解除キーをなくさないようにご注意ください。

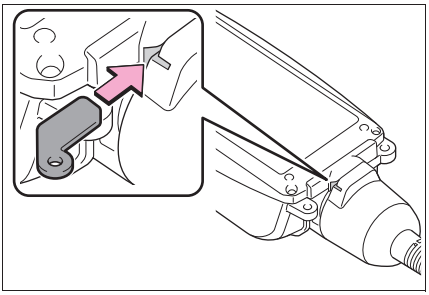


3 保護キャップを取りはずす



4 コントロールユニットの解除穴に解除キーを挿し込む

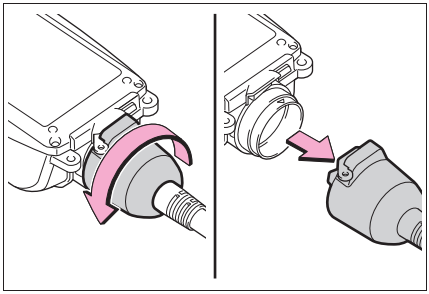
解除キーは図の向きで挿し込んでください。



5 コントロールユニットの解除穴に解除キーを奥まで挿し込んだまま、電源プラグコードのナット部をまわして、電源プラグコードを取りはずす

電源プラグコードを取りはずしたら、解除キーを抜いてください。

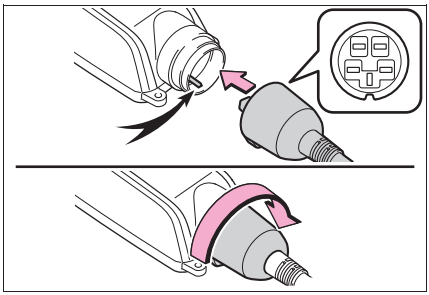
電源プラグコードを取りはずしたまま放置しないでください。電源プラグコードが接続されていないと、コントロールユニットの内部に水などが入り、故障につながるおそれがあります。



6 コントロールユニット接合部の突起と、電源プラグコードコネクターの溝とを合わせて挿し込み、電源プラグコードのナット部をまわして取り付ける

電源プラグコードを取り付ける前に、接続部に異物が付着していないか確認してください。異物が付着している場合は、必ず取り除いてください。異物が付着している状態で接続すると、水などが入り、故障につながるおそれがあります。

“カチッ” という音がして固定されるまで、取りはずしたときと逆方向にまわします。



7 取りはずした電源プラグコードに、保護キャップと解除キーを取り付ける

紛失を防ぐため、解除キーは保護キャップに確実に取り付けてください。また、解除キーが保護キャップから意図せず脱落しないよう、ご注意ください。

電源プラグコードは、ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

警告

■電源プラグコードを交換するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 電源プラグコードの交換作業は、ぬれた手で行わない
  また、雨や水のかかる場所で行わないでください。
- 電源プラグ・普通充電コネクターを接続した状態で、電源プラグコードの交換作業を行わない
- コントロールユニットから電源プラグコードを取りはずした状態で放置しない
- 電源プラグコードをコントロールユニットに取り付けるときは、接続部に異物が付着していないことを必ず確認する
- 電源プラグコードの交換時には、“カチッ”という音がするまで電源プラグコードのナット部をしっかりまわす
- 電源プラグコードを交換する際は、必ず解除キーを使用する

注意

■電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で使用しないでください。電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

警告

■日常点検について

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**普通充電ケーブルのお手入れについて**

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**長期間普通充電ケーブルを使用しないとき**

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

普通充電コネクターのロック・アンロック

普通充電中の充電コネクターの取り外しや、第三者による充電ケーブルの持ち去りなどのいたずらなどを防止することができます。

普通充電コネクターをロック・アンロックするには

■ **ロックするときは**

普通充電コネクターは、普通充電インレットに挿し込んだ状態において、ドアの施錠状態・解錠状態に連動してロック・アンロックされます。
普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込んだ状態で、ドアを施錠すると、普通充電コネクターがロックされます。ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクターを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。

■ **アンロックするときは**

ドアを解錠すると、普通充電コネクターがアンロックされます。

知識

■**普通充電コネクターのロック機能について**

●普通充電コネクターをロック・アンロックくり返し操作すると、普通充電コネクターのロックシステムがシステムを保護するために、一時的に作動しないことがあります。この場合は、普通充電コネクターを普通充電インレットに再び接続する前に、少し待ってく

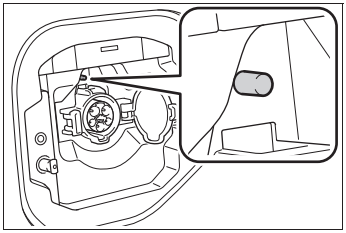
ださい。

●普通充電コネクターのロック機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

■普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

コネクターロックピンが出ていないか確認してください。

コネクターロックピンが出ている場合は、ドアの解錠操作をしてコネクターをアンロックし、コネクターロックピンが出ていない状態にしてください。



■普通充電コネクターをアンロックできないとき

通常の操作で普通充電コネクターをアンロックできないときは、コネクターロック緊急解除ワイヤーを操作して、普通充電コネクターをアンロックすることができます。

緊急時以外は、この方法で解錠させないでください。

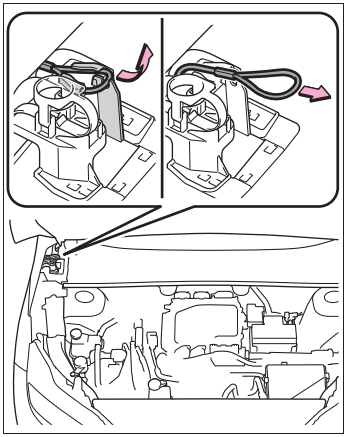
異常が解消しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

1 ボンネットを開ける（→P.451）

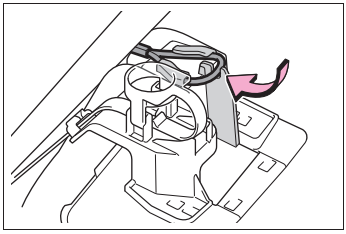
2 コネクターロック緊急解除ワイヤーを引く

リングに無理な力をかけたり、引っ張りすぎないようにしてください。

普通充電コネクターがアンロックされ、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。



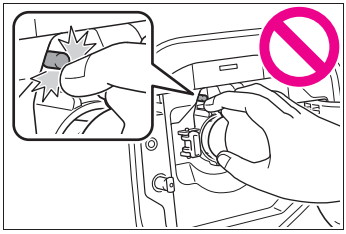
3 普通充電コネクターのアンロック後、緊急解除ワイヤーの取手部をアタッチメントに固定する



警告

■普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき

●コネクターロック部に手を入れないでください。コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



注意

■普通充電コネクターをロックするとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

●普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する
異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、ロックできない可能性があります。

●普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけない
普通充電コネクターを取りはずすときは、必ずコネクターをアンロックしてください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

警告

■電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

■契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力※をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※ 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

■充電環境について

●必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載され

ている普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。

- 200V 電源で 30A に対応した充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
- 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。
- 家庭の 100V 電源で 6A に対応した普通充電ケーブルを使用した場合、約 0.6kW で充電されます。

● 自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

■ 200V 電源を使用する場合

● 200Vの充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。

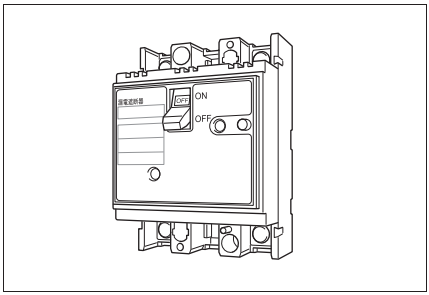
● AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。※

※ 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

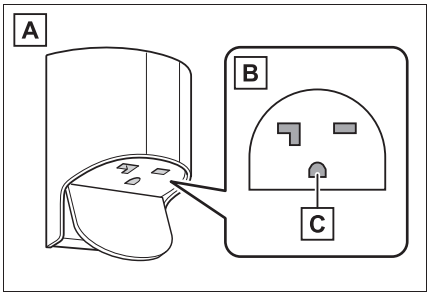
● 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



● BEV ／ PHEV専用コンセントに接続してください。



A BEV ／ PHEV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式：
パナソニック製 WK4322（200V）

B 200V コンセント極配置 ※

JIS C 8303
2 極接地極（アース）付コンセント
20A 250V

C 接地極（アース）

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

■ 100V 電源を使用する場合 ※

※ 100V 電源で充電する際は、普通充電ケーブルの電源プラグを 100V 用の

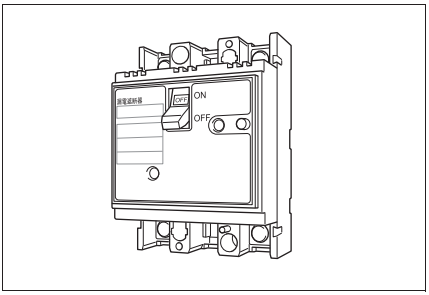
ものに交換してください。（→P.74）

- ブレーカーの容量を確認してください。車両に付属している充電ケーブルでの充電時には、100V で最大 6A の電流が流れます。余裕をみて、20A のブレーカーを備えたコンセントに接続することを推奨します。※
  ブレーカーの容量に余裕がないと、ほかの電気製品を接続した際にブレーカーが作動して、電流が遮断される可能性があります。

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

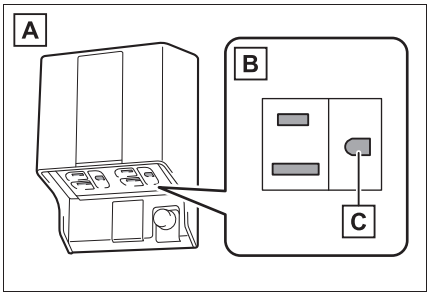
- 回路上に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。（主幹含む）
  もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- 屋外で充電する場合は、軽負荷電動車両充電用コンセントに接続してください。※

※ 日々の充電にあたっては、電源プラグのひんぱんな抜き挿しが必要となるため、抜止形の防雨形 100V コンセントでは耐久性が十分でない場合があります。



A 一般回路用の軽負荷電動車両充電用コンセントの例

推奨コンセント型式：パナソニック製 WK4632（100V）

B 100V コンセント極配置 ※

JIS C 8303 2 極接地極（アース）付コンセント 15A 125V

C 接地極（アース）

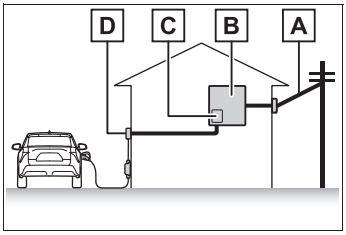
※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

- 普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

知識

■自宅の電源（コンセント）と普通充電ケーブルを使用して充電するとき（200V 電源の使用時）

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。※



A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D BEV ／ PHEV 専用コンセント

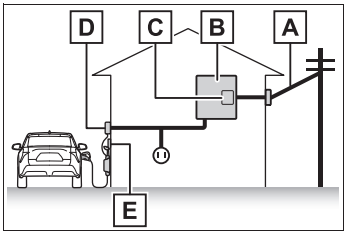
（→P.80）

BEV ／ PHEV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

※ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

■自宅の電源（コンセント）と普通充電ケーブルを使用して充電するとき（100V 電源の使用時）

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



A 電線

B 分電盤

C 高速高感度形漏電遮断器

漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D 軽負荷電動車両充電用コンセント

（→P.80）

一般的な抜止形の防雨形 100V コンセントでは、ひんぱんな抜き挿し使用による耐久性が十分ではない場合がありますが、軽負荷電動車両充電用コンセントは耐久性が確保されています。

充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぐため、フックを併用していただくことをおすすめします。

E フック

普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

警告

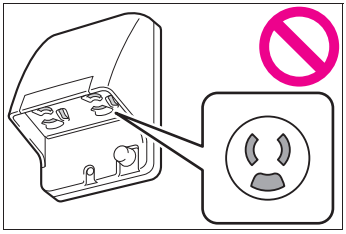
■電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

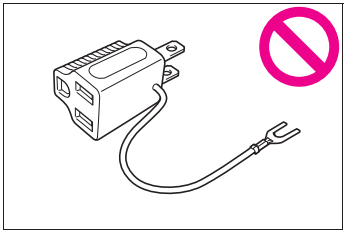
●安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。

●必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。

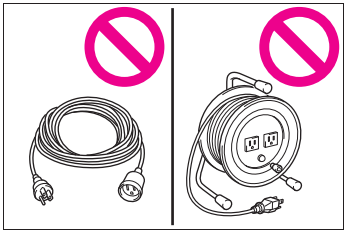
●抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



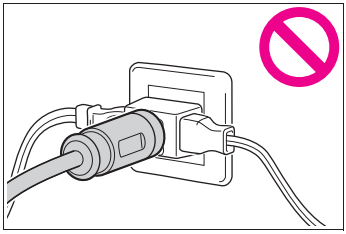
●コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。



●必ず車両に搭載されている普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.73）が働かなくなるなどの原因になります。



●分岐用コンセントには接続しないでください。



●普通充電コネクターと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
普通充電コネクターと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

充電方法の種類

■ 普通充電（→P.90）

AC コンセントと普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。

タイマー充電を設定することで、ご希望の日時に充電を行うことも可能です。（→P.104）

■ 急速充電（→P.98）

CHAdeMO(チャデモ)※ 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。

※ CHAdeMO はチャデモ協議会が提案する商標名です。

■ V2H（→P.98）

車両と V2H 機器双方向に給電することを「V2H（ヴィーツーエッチ）」といいます。V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H 機器を経由して車両から自宅へ給電することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H 機器 ※ が必要です。（車両には付属していません）

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取扱説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

※ 車両から自宅へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用給電システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠したもの。

■ ソーラー充電システム★（→P.116）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車中、車両のルーフに搭載されたソーラーパネルで発電した電力を駆動用電池に蓄えることができる、充電補助システムです。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

■ マイルームモード（→P.113）

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力 ※ で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できます。

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

■ 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池が一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

- 車両から充電ケーブルをはずす、または充電ケーブルを接続したまま、およそ 3 日が経過すると、システムが自動で停止します。
- タイマー充電時（→P.104）は、タイマー設定内容に応じて

作動します。

■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池を冷却し、保護します。

高速道路で高い速度で連続運転するときや急速充電中などの場合には、作動することがあります。

知識

■急速充電中のマイルームモード使用について

→P.114

■駆動用電池ヒーターについて

●駆動用電池ヒーターの作動中は、充電インジケーターが点灯します。

●充電中に駆動用電池ヒーターが作動すると、通常よりも充電時間が長くなる場合があります。

●駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。

■駆動用電池冷却について

●普通充電のみ：マルチインフォメーションディスプレイで“駆動用電池冷却”の設定変更が可能。

●駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが点灯します。

●駆動用電池冷却は、最大で約 30 分作動します。

●駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。

●駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。

・ボンネットを開けたとき
・パワースイッチを OFF 以外にしたとき
・シフトポジションを P 以外にしたとき
・リモートエアコンシステム（→P.404）を作動させたとき
・駆動用電池の残量が一定未満になったとき

●駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。

・駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
・駆動用電池冷却の作動中も、充電器（スタンド）からは充電中と認識されます。
よって、充電時間に応じて課金される充電器（スタンド）では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生します。

■駆動用電池冷却の設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、駆動用電池冷却の設定を変更することができます。

メーター操作スイッチ（→P.152）を操作して、“車両設定”、“充電設定”、“電池冷却”の順に選択し、設定を変更してください。

“Off”を選択すると、走行状況に応じて駆動用電池の出力を制限される場合があります。

充電に関するアドバイス

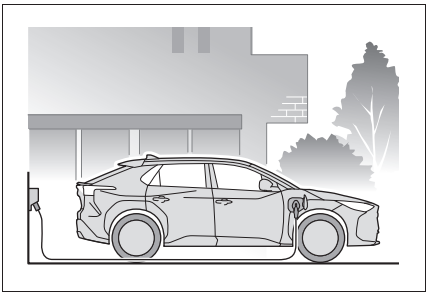
この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、車両の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

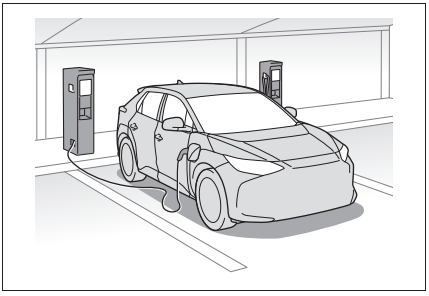
■ お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。（→P.90）



■ ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。

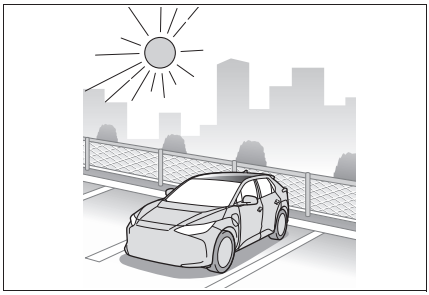


■ お出かけ先で

ソーラー充電システム装着車は、駐車中などの必要条件を満たしている場合に、太陽光発電を行い駆動用電池を充電できます。（→P.116）

数日間ドライブの予定がないときは、お出かけの直前まで充電を控えることで、ソーラー充電システムの機能を効果的に利用できます。

駆動用電池が満充電の状態では、ソーラー充電システムによる駆動用電池への充電が実施されません。



■ 帰宅したら

次回のドライブのために、駆動用電池を充電しておきましょう。
充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。
なお、タイマー充電は、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。（→P.104）

充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

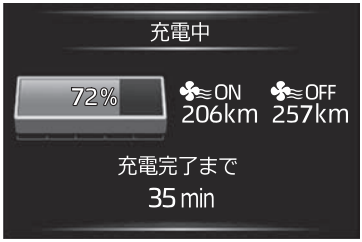
■ 充電中は

充電中にパワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、現在の充電状態と充電完了までに必要な時間の目安※ が一定時間表示されます。

駆動用バッテリーの残量や外気温、充電器（スタンド）の仕様、外部電源の供給電圧などの条件により、実際の充電時間とは異なることがあります。

充電電流が小さくなり、充電時間が長くなると、充電完了するまでの時間が表示されない場合があります。

※ V2H 充電中は、充電完了までに必要な時間の目安は表示されません。



■ 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、充電結果についてのメッセージが一定時間表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。（→P.126）

充電の前に知っておいていただきたいこと

充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

知識

■安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作しても EV システムを始動することはできません。
- READYインジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EV システムは自動的に停止し、走行できなくなります。

警告

■充電、V2H 充電／ V2H 給電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電または給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 充電または給電時、充電器（スタンド）、急速充電器（スタンド）、充電ケーブル、V2H 機器に近付かないでください。または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電または給電中は車内にとどまらないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

警告

■車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを P から切り替えないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用電池を充電できます。ただし、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200V での普通充電時は、長時間にわたって大電流が流れる（→P.79）
- お客さまの充電環境によっては、充電作業が屋外で行われる

注意

■充電に関する留意事項

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 充電器（スタンド）または、V2H 機器で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること（→P.231）
- パワースイッチが OFF になっていること（→P.221）
- ヘッドランプ、非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。（→P.76）

知識

■充電中は

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- 充電中は、空調システムおよび駆動用電池冷却の作動にともない、駆動用電池付近から音が聞こえることがあります。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。

■普通充電・急速充電・V2H 充電／ V2H 給電について

普通充電・急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケー

ブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

■公共の普通充電器（スタンド）で充電する場合は、タイマー充電の設定状態を確認してください。

●充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、“今すぐ充電”を ON にしてください。（→P.109, 112）

●充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

■駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

●満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける

●走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない

●最高車速付近での走行を控える

●充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電（→P.104）を活用する

●ひんぱんな急速充電は避ける

なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

●気温が低い、または高い環境で充電したとき

●高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■駆動用電池への充電量が減少するとき

エアコンの使用、または駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量もしくは駆動用電池残量が減少することがあります。

■充電時間が長くなるとき

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

●低温または高温の環境下にあるとき

●高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき

●車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）（→P.237）

●マイルームモードを使用しているとき（→P.113）

●充電中に停電したとき

●充電器（スタンド）、V2H 機器で供給電力を調整しているとき

●外部電源の供給電圧が低下したとき

●車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき

●車両の充電電流設定で充電電流上限を変更したとき（200V での普通充電時のみ）（→P.93）

●駆動用電池ヒーター（→P.84）が作動したとき

- 充電前に駆動用電池冷却（→P.85）が作動したとき
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- ひんぱんに急速充電をくり返したとき
- 車両の急速充電電力設定で充電電力上限を変更したとき（急速充電時のみ）
- 充電関連部品の温度が高いとき

■**普通充電電力について**

この車両は最大約 6kW の普通充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

100V 電源での充電は、充電電力が小さいため、充電時間が長くかかります。

また、100V 電源での充電時に、外部電源の供給電圧低下などにより充電電力が低下した場合、充電を停止する可能性があります。

200V 電源での充電をおすすめします。

普通充電のしかた

ここでは、普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、“今すぐ充電”を ON にしてから充電を実施してください。（→P.109, 112）

⚠ 注意

■**普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき**

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する
- 普通充電コネクターの保護キャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- 充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない
  充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター以外のものを挿し込まない
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する
- 普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない

⚠注意

- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
  絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしない。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→P.87

充電するときは

1 普通充電ケーブルを用意する

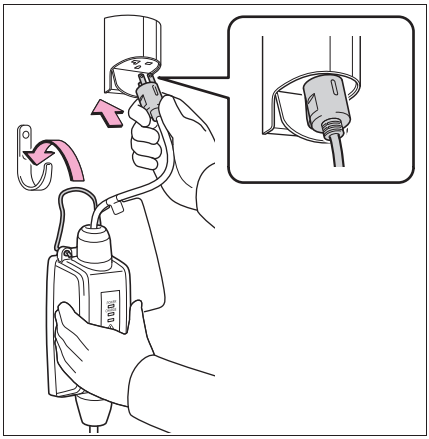
2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

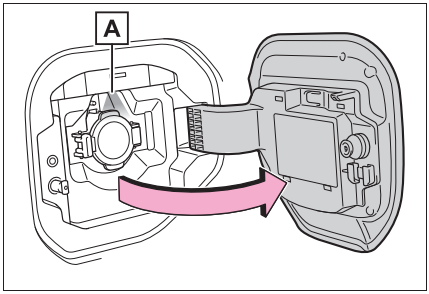
コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.120を参照してください）

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用してください。

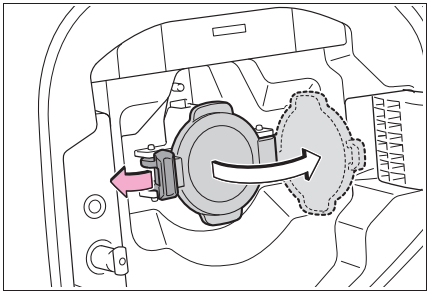


3 車両のドアを解錠して、普通充電リッドを開ける（→P.164）

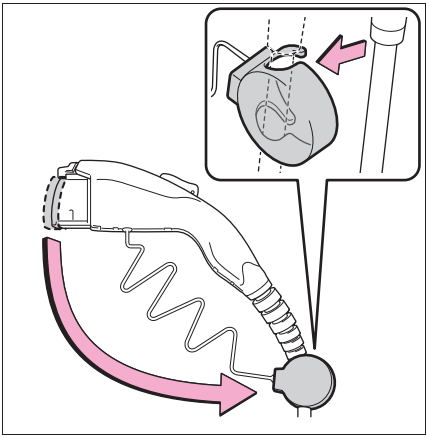
普通充電リッドを開けると、普通充電インレット照明Aが点灯します。



4 普通充電インレットキャップを開ける



5 普通充電コネクターの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する

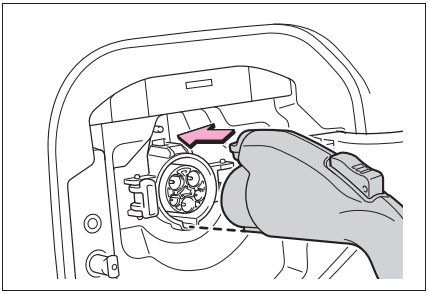


6 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込みます。

“カチッ”という音がして、普通充電コネクターが確実に接続されたことを確認してください。

ドアを施錠すると普通充電コネクターがロックされます。
ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクターを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。（→P.77）



7 普通充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認する

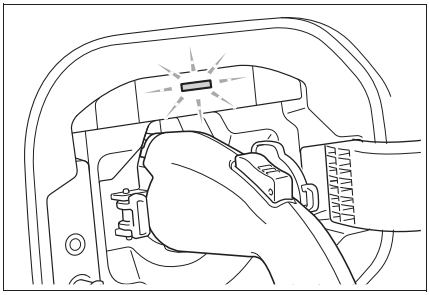
充電インジケーターが点灯していないときは、充電が開始されていません。（→P.70）

充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときは、充電スケジュールが登録されています。（→P.104）

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したときは、P.73 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケーターが消灯します。

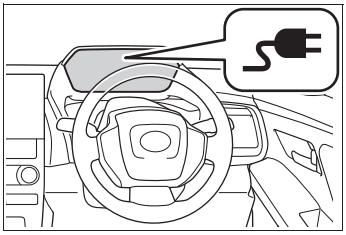
充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケーターが消灯します。その場合は、P.120 の記載をご確認ください。



知識

■普通充電コネクターが接続されているとき

普通充電コネクターが接続された状態でドアを開けるかパワースイッチを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイの充電コネクター接続表示灯が点灯して、充電コネクターを接続していることを通知します。



■普通充電コネクターの接続後に充電ポートの充電インジケーターが点滅したとき

充電スケジュール（→P.104）が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

● “今すぐ充電” を ON にする（→P.109, 112）

●充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直す

■普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

→P.78

■安全機能について

普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクターを抜いてから再度、普通充電コネクターを挿し直して、充電ポートの充電インジケーターが点灯することを確認してください。

■充電時間が長くなるとき

→P.89

■200V での充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアで、充電電流の上限値を変更することができます。※1

●マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの＜または＞を押して “車両設定” を選択し、OK を押し続ける

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “充電設定” を選択し、OK を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “充電電流” を選択し、OK を押す

“充電電流” 画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “16A” または “8A” を選択し、OK を押す

●マルチメディアでの設定操作

1 ⚙ を押す

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 “充電” を選択する

4 “充電電流” を選択する

5 “16A” または “8A” を選択する

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。※2

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。（→P.80）

※1カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

※2充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

■充電量上限設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアで、充電時の充電量の上限を変更することができます。

充電量上限で設定した値は普通充電、急速充電共通です。

●マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して “ 車両設定 ” を選択し、OK を押し続ける

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “ 充電設定 ” を選択し、OK を押す

“ 充電設定 ” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “ 充電量上限 ” を選択し、OK を押す

“ 充電量上限 ” 画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “Full”、“90%”、“80%”、“70%”、“60%” または “50%” を選択し、OK を押す

●マルチメディアでの設定操作

1 ⚙ を押す

2 “ 車両カスタマイズ ” を選択する

3 “ 充電 ” を選択する

4 “ 充電量上限 ” を選択する

5 “Full”、“90%”、“80%”、“70%”、“60%” または “50%” を選択する

急速充電中に変更した場合、充電器（スタンド）のタイムアウトにより、満充電せずに途中で停止することがあります。

■普通充電インレット過熱保護

充電コネクターの接点への異物混入などにより、温度が上昇して溶損してしまうことを防ぐために、普通充電インレット部に温度センサを搭載しています。

一定の温度上昇が検知されると、速やかに充電を停止します。その後、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
（→P.126）

警告

■充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する（→P.79）
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
  付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクター・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
  防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- 充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
- 延長コード・変換アダプターを使用しない
- 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
  冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する
- 普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください。

警告

■充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。
P.73 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、トヨタ販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。
普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止したりするおそれがあります。

■充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止するおそれがあります。

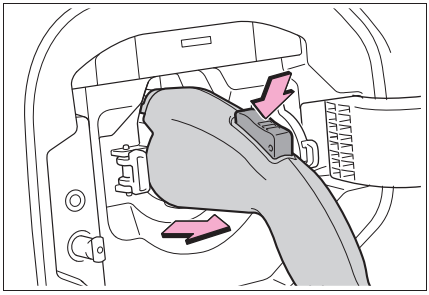
充電したあとは

1 車両のドアの解錠操作をして、普通充電コネクターをアンロックする（→P.164）

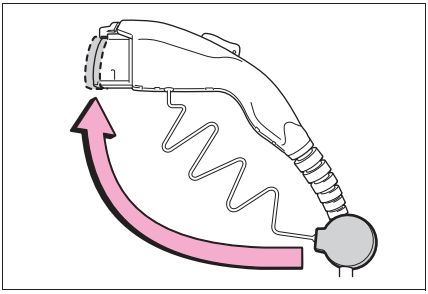
ドアの解錠操作をすると、普通充電コネクターもアンロックされ、普通充電インレット照明が点灯します。

2 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクターを取りはずす

充電中（充電インジケーターの点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止します。

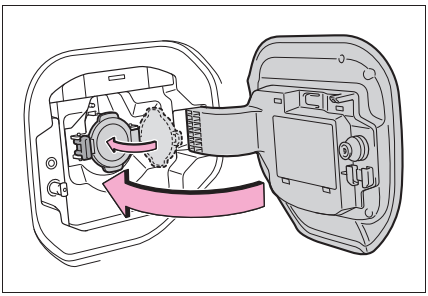


3 普通充電コネクターの保護キャップを取り付ける



4 普通充電インレットキャップを閉め、普通充電リッドを閉める

普通充電リッドをロックするときは、車両のドアを施錠します。（→P.69）

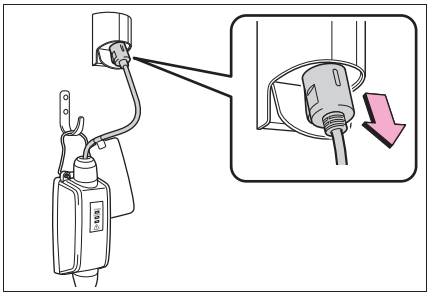


5 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。（→P.98）

電源プラグを挿したままにするときは、1ヶ月に 1 回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。



知識

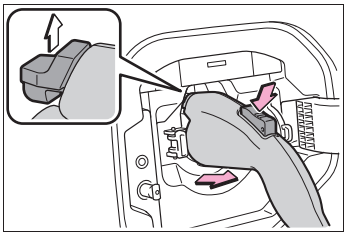
■周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計（→P.148）が満充電の状態になっていても、パワースイッチを ON にすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

■普通充電コネクターをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。

ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクターがロックされています。その場合は、スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスリモコンなどでドアの解錠操作をし、普通充電コネクターをアンロックしてください。（→P.77）



■普通充電コネクターをアンロックできないとき

→P.78

警告

■充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。
電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■充電後の注意

●普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。

●コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。
普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

●普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップを閉め、普通充電リッドを閉めてください。
普通充電インレットキャップを開けたたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電のしかた

ここでは、急速充電・V2H 充電／V2H 給電の手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、急速充電器（スタンド）および V2H 機器の取り扱い方法をご確認ください。

警告

■急速充電器（スタンド）・V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●CHAdeMO 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用してください。

●電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠した V2H 機器を使用してください。

●30m をこえるケーブルを使用しないでください。

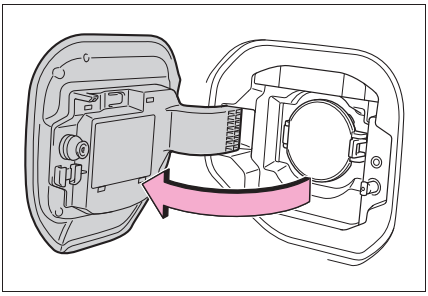
急速充電・V2H 充電／V2H 給電前の重要確認事項

→P.87

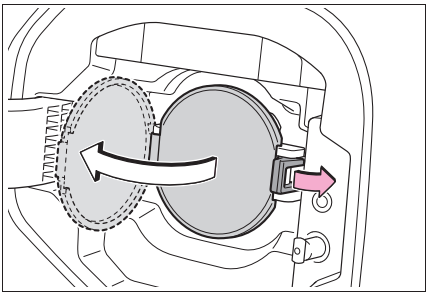
急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときは

1 車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける（→P.164）

2 急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。



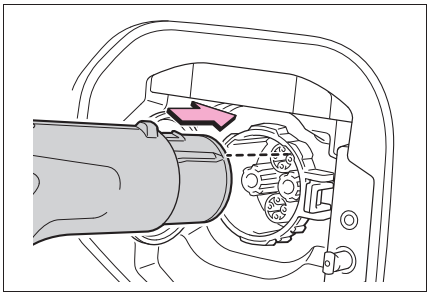
3 急速充電インレットキャップを開ける



4 急速充電コネクターを急速充電インレットに奥まで正しく挿し込む

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



5 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を開始する

具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従ってください。

システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が開始されます。

充電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止してください。

知識

■充電時間が長くなるとき

→P.89

■急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージが表示されたとき

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージ（例えば、“車両に異常がみつかりました”、“車両故障発生” など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器（スタンド）・V2H 機器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクター端子故障（接点不良）などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■急速充電器（スタンド）に表示される充電時間について

急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがありますが、故障ではありません。

■急速充電・V2H 充電／ V2H 給電中は

- マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態を確認することができます。
  ただし、V2H 充電中の充電時間は表示されません。
- 急速充電器（スタンド）での充電中、急速充電器（スタンド）に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。
- 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電中は、ノイズの発生によりラジオが聞こえなくなる場合があります。
- 満充電に近づくと充電速度が低下して、充電完了までの時間が長くなります。
- 急速充電器（スタンド）の仕様により、満充電になる前に充電停止する場合があります。
- 駆動用電池の残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までの時間が変化する、または充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。
- 駆動用電池の容量の低下を防ぐため、ひんぱんな急速充電は避けることをおすすめします。
- 急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。
- 寒冷時など、駆動用電池が冷えているときに急速充電・V2H 充電を行うと、モータールームから蒸気が出たり、ボンネットに結露ができたりします。駆動用電池の昇温時に発生した熱が雪や氷、霜を蒸発させるためで、故障ではありません。
- 満充電時に充電量を補正しているため、駆動用電池残量が 100%を表示しない場合があります。

■V2H 充電／ V2H 給電について

V2H 充電／ V2H 給電中は、マイルームモードを使用できません。

■急速充電電力設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディアで急速充電電力の上限を変更することができます。

- マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

1 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して “ 車両設定 ” を選択し、OK を押し続ける

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 充電設定 ” を選択し、OK を押す

“ 充電設定 ” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 急速充電電力 ” を選択し、OK を押す

“ 急速充電電力 ” 画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して

“MAX”、“125kW”、“100kW”、“75kW” または “50kW” のいずれかを選択し、OK を押す

充電時の最大電力が選択した電力以下に制限されます。“MAX” を選択した場合、車両が充電可能な最大電力で充電されます。

●マルチメディアでの設定操作

1 ⚙を押す

2 “車両カスタマイズ” を選択する

3 “充電” タブを選択する

4 “急速充電電力” を選択する

5 “MAX”、“125kW”、“100kW”、“75kW” または “50kW” のいずれかを選択する

充電時の最大電力が選択した電力以下に制限されます。“MAX” を選択した場合、車両が充電可能な最大電力で充電されます。

■充電量上限設定のしかた

→P.94

■急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認” が表示されたとき

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、EV システムを始動できなくなります。

急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後に EV システムを始動できなくなったときは次の手順で充電システムのチェックを実施してください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする

2 急速充電インレットキャップを閉め、急速充電リッドを閉める

3 パワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイに “充電システム確認中” が表示されたことを確認してください。

充電システムのチェック中は、急速充電リッドを開けないでください。

システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。

4 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

警告

■急速充電・V2H 充電／ V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する

急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行わず、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない

●急速充電インレットに急速充電コネクター以外のものを挿し込まない

警告

●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない

●ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する

●急速充電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する

急速充電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

●急速充電･V2H 充電／ V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う

急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を中止してください。

●急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。

●落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を行わない

急速充電中・V2H 充電／ V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにさわらないでください。

●急速充電インレットの端子部が濡れないようにする

●急速充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■急速充電コネクターを接続するとき

●急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクターを車両の急速充電インレットから取り外してください。もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急速充電中に、急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずさないこと。急速充電器（スタンド）を操作して充電を停止した後、急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしてください。

注意

■急速充電･V2H 充電／ V2H 給電するとき

必ず急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電したあとは

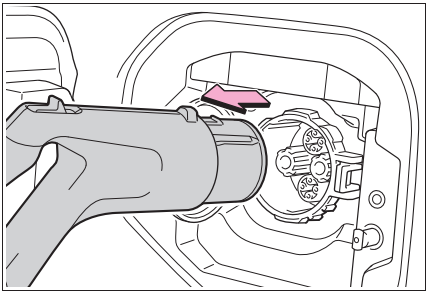
1 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止する

2 急速充電コネクターを取りはずす

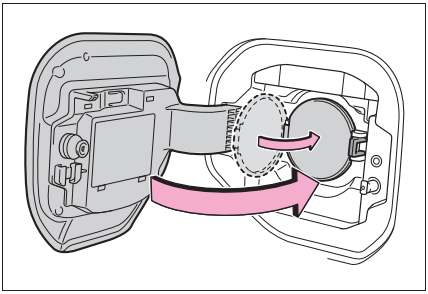
急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

取りはずした急速充電コネクターは、もとの位置にもどしてください。



3 急速充電インレットキャップを閉め、急速充電リッドを閉める



知識

■急速充電コネクターをアンロックできないとき

●急速充電コネクターは、急速充電器（スタンド）によりロックしています。

車両のコネクターロック緊急解除ワイヤーで操作を行ってもアンロックはできません。

●急速充電中は急速充電コネクターをはずすことはできません。はずす必要があるときは充電を中止してください。充電が停止すると急速充電コネクターをはずすことができます。

●充電が停止しても急速充電コネクターが抜けない場合、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に異常がある可能性があります。

・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。

■急速充電・V2H 充電をしたあと

充電量上限で設定した値まで充電しても、急速充電器 (スタンド) ・V2H 機器に表示される充電量が実際の充電量より低く表示されることがあります。

注意

■急速充電･V2H 充電／ V2H 給電後の注意

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットキャップを閉めて、急速充電リッドを閉めてください。
急速充電インレットキャップを開けたまま放置すると、急速充電インレットに異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

タイマー充電機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。

知識

■カレンダー設定について

タイマー充電は、マルチインフォメーションディスプレイに表示される日時に従って実行されます。「設定について」を参照してください。（→P.154）

充電スケジュールを登録しようとしたときに、カレンダー設定の確認画面が表示された場合は正しい日付になっているか確認し、誤っている場合は必ず修正してください。

カレンダーの内容が誤っていると、タイマー充電機能が正しく作動しなくなります。

タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

▶ 開始

設定した時刻※に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

▶ 開始終了

設定した開始時刻と終了時刻に従って普通充電を実施します。※

※ 駆動用電池の状態により、普通充電が開始される時刻に誤差が生じる場合があります。

■ 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返しタイマー充電が行われるように設定できます。タイマー充電を実施したい曜日を 1 つ以上選択してください。

■ 今すぐ充電の ON/OFF

充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、“今すぐ充電”を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電コネクター接続後、普通充電を開始することができます。

充電スケジュールが登録されており、かつ今すぐ充電が ON の時に普通充電コネクターを取り外した場合、今すぐ充電が OFF になります。

■ 次回充電予定

登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻以降で最も近い充電スケジュールを“次回充電予定”と呼びます。

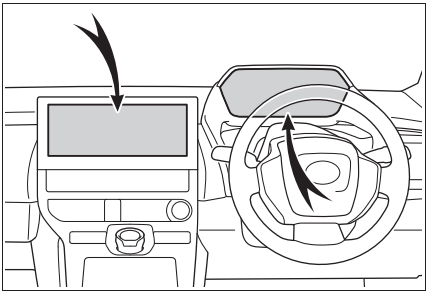
タイマー充電は、次回充電予定に従い、普通充電を実施します。

充電スケジュールを登録するには

マルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディアで、充電スケジュールを登録できます。

- マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作：→P.106
- マルチメディアでの設定操

作：→P.110



知識

■タイマー設定について

●走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。

●充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。

●充電モードを“開始／終了”に設定し、開始時刻と終了時刻を同時刻に設定した場合、開始時刻から 24 時間充電を実施します。

●タイマー充電機能は、急速充電時・V2H 充電／ V2H 給電時には使用できません。

■タイマー充電機能を正しく作動させるために

次のことをご確認ください。

●時計が正しい時刻に調整されていること（→P.150）

●カレンダーが正しい年月日に設定されていること（→P.154）

●パワースイッチが OFF になっていること

●充電スケジュールの登録後に普通充電コネクターを接続すること

普通充電ケーブルを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。

●開始時刻よりも前に普通充電コネクターを接続すること

充電モードを「開始」に設定したときは、設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続すると、次の充電スケジュールが参照されます。

充電モードが「開始終了」の場合は、開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続すると、すぐに充電を開始し、終了時刻まで充電を実施します。

●普通充電コネクターの接続後、充電ポートの充電インジケーターが点滅することを確認する（→P.70）

●電力遮断機能（タイマー機能を含む）を持つコンセントで使用しない

常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

■普通充電コネクターが車両に接続されたままの状態のとき

●充電モードを“開始”に設定したときは、連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電コネクターを取りはずして再接続するまで、次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、タイマー充電は実施されません。

●充電モードを“開始／終了”に設定したときは、満充電となる前に終了時刻に到達した場合、終了時刻以降で最も近い充電スケジュールを次回充電予定に更新して、満充電となるまでタイマー充電を繰り返し実施します。

■スマートフォンとの連携について

T-Connect サービスご契約のお客様は、アプリで充電設定の変更を行うことができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■タイマー充電が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行ったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

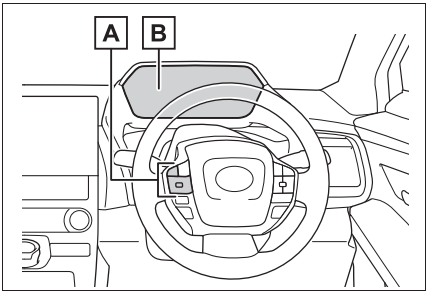
- リモートエアコンシステム（→P.404）を作動させたとき
- マイルームモード（→P.113）を開始したとき
- “今すぐ充電” を ON にしたとき（→P.109, 112）
- タイマー充電を一時的にキャンセルする操作を行ったとき（→P.93）

■駆動用電池ヒーター（→P.84）／駆動用電池冷却（→P.85）について

駆動用電池の温度によっては、タイマー充電の待機中に駆動用電池ヒーターまたは駆動用電池冷却機能が作動し、充電インジケーターが点灯する場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

充電スケジュール操作を行うときは、メーター操作スイッチを使用します。



A メーター操作スイッチ（→P.152）

B マルチインフォメーションディスプレイ

■ “タイマー充電” 画面を表示するには

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して ⚙ を選択する

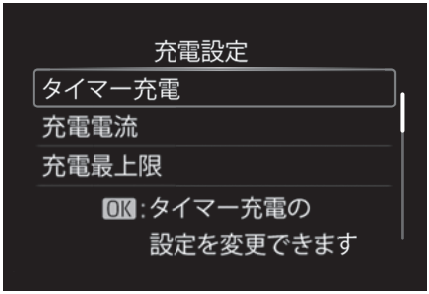
2 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して “車両設定” を選択し、OK を押し続ける

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “充電設定” を選択し、OK を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して “タイマー充電” を選択し、OK を押す

“タイマー充電” 画面が表示されます。

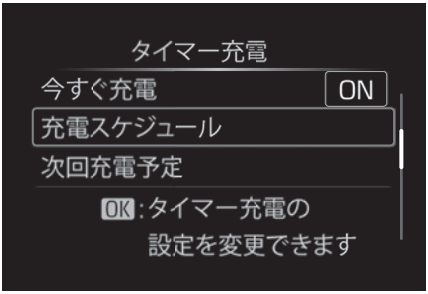


■ 充電スケジュールを登録するには

1 “タイマー充電” 画面を表示する（→P.106）

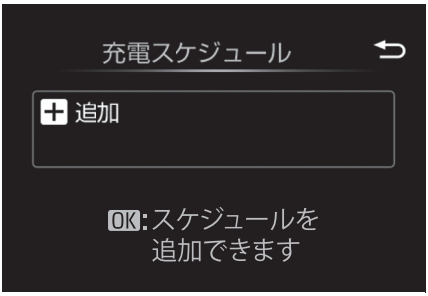
2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、“充電スケジュール”を選択し、OK を押す

“充電スケジュール”画面が表示されます。



3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、“追加”を選択し、OK を押す

“充電モード”画面が表示されます。



4 メーター操作スイッチの〈または〉を押して“開始”または“開始／終了”を選択し、OK を押す

充電モード“開始”では、充電開始時間を設定できます。

充電モード“開始／終了”では、充電開始時間および充電終了時間を設定できます。

5 充電開始時間を選択し、OK を押す

手順 **4** で充電モード“開始／終了”を選択した場合は、続けて充電終了時間を設定します。

6 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、OK を押す

OK を押すたびに、繰り返し設定の

ON・OFF が切りかわります。

設定を ON にすると、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

ご希望の設定に変更したら、“完了”

を選択し、OK を押す

設定の保存を確認する画面が表示されます。

7 設定を保存するには、“保存”を選択し、OK を押す

設定した内容が保存されます。

設定の終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。

■ 充電スケジュールの ON・OFF を切りかえるには

登録済みの充電スケジュールを無効（OFF）にしたり、再度有効（ON）にしたりできます。

1 “タイマー充電” 画面を表示する（→P.106）

2 “充電スケジュール” を選択し、OK を押す

登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、ON・OFF を切りかえたい設定の行を選択し、OK を押す

OK を押すたびに ON・OFF が切りかわります。

OFF に設定すると充電スケジュールが無効になり、タイマー充電が実施されなくなります。

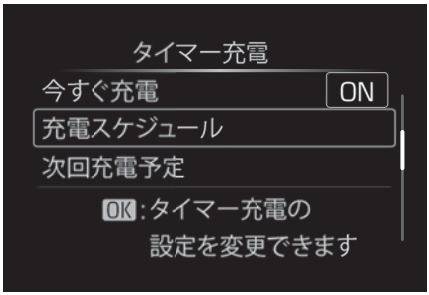
■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

登録済み充電スケジュールの登録内容を変更したり、削除したりすることができます。

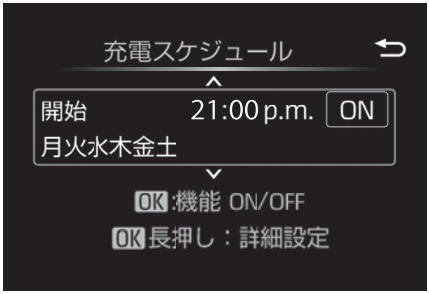
1 “タイマー充電” 画面を表示する（→P.106）

2 “充電スケジュール” を選択し、OK を押す

登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。



3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して変更したい充電スケジュールを選択し、それぞれ必要な操作を行う



● 変更

OK を長押しし、“変更” を選択します。その後、“充電スケジュールを登録するには”（→P.106）の手順 **4** 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更します。

“保存” を押すと、変更内容が保存されます。

● 削除

OK を長押しし、“削除” を選択します。

削除を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの∧または∨を押して“はい”を選択し、OK を押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。

登録内容の削除を中止するときは、“いいえ”を選択して OK を押します。

■ “今すぐ充電”を ON にするには

次の 2 つのうち、いずれかの方法で“今すぐ充電”の設定を変更できます。

▶ “タイマー充電”画面での操作

1 “タイマー充電”画面を表示する（→P.106）

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、“今すぐ充電”を選択し、OK を押す

OK を押すたびに、“今すぐ充電”の ON・OFF が切りかわります。

▶ エンディング画面での操作

1 パワースイッチを OFF にする

マルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。（タイマー充電の待機中にドアを開けた場合にも、同様の画面が表示されます。）

※ マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で“エンディング”が“タイマー充電”に設定されていないと、エンディング画面※が表示されません。その場合は、マルチインフォメーションディスプレイの設定内容を確認してください。（→P.154）

2 OK を押して、“今すぐ充電”を ON にする

OK を押すたびに、“今すぐ充電”の ON・OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、普通充電が開始されます。（→P.90）

■ “次回充電予定”を表示するには

1 “タイマー充電”画面を表示する（→P.106）

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、“次回充電予定”を選択し、OK を押す

“次回充電予定”画面が表示されます。

知識

■充電スケジュールの設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、充電スケジュール操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- 充電スケジュール設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■充電中に充電スケジュールを変更したとき

充電スケジュールを変更すると、次回充電予定が更新され、充電が停止することがあります。充電スケジュール変更後は、

次回充電予定をご確認ください。

充電を継続したい場合は、“今すぐ充電”をONにしてください。

注意

■設定操作を行うとき

EVシステムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マルチメディア画面での設定操作

マルチメディアの詳しい操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

タイマー充電に関する設定操作は、充電スケジュール画面上で行います。

■“充電スケジュール”画面を表示するには

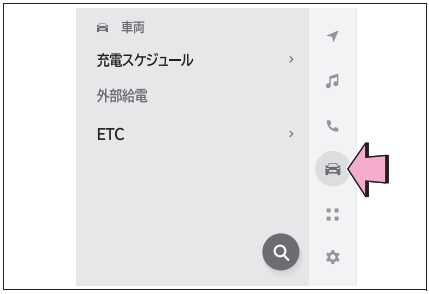
1 パワースイッチをONにしてメニュー画面を表示する

※アクセサリーモードでは充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。

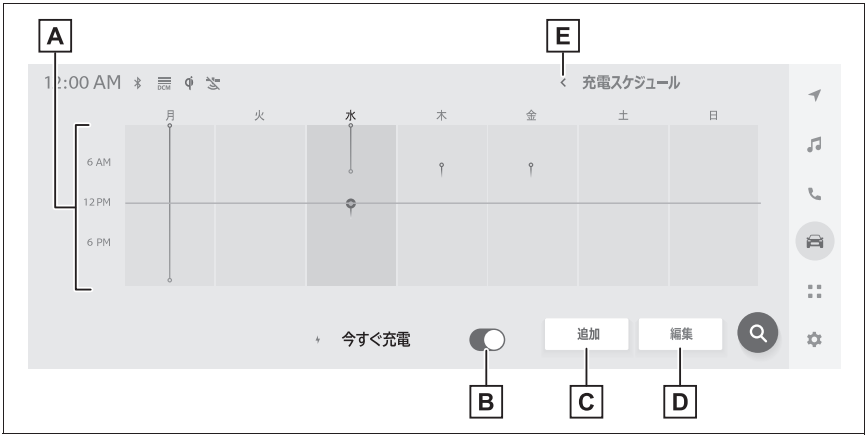
2 マルチメディア画面の に タッチしてメニュー画面を表示する

3 “充電スケジュール”の順に選択する

“充電スケジュール”画面が表示されます。



■“充電スケジュール”画面の見方



A 充電スケジュール

1週間の範囲で、登録済みの充電スケジュールがアイコンの形で一覧表示されます。

B “今すぐ充電” ボタン

タッチすると “今すぐ充電” が ON になります。（→P.112）

C 追加ボタン

充電スケジュールを新規登録するときにタッチします。（→P.111）

D 編集ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変更・削除したいときにタッチします。（→P.112）

E もどるボタン

タッチすると、“充電スケジュール” 画面が終了します。

■ 充電スケジュールを登録するには

1 “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.110）

2 “追加” にタッチする

“タイマー設定を追加” 画面が表示されます。

3 充電モードを選択する

“開始設定” または “開始／終了設定” にタッチします

4 画面を操作して、ご希望の時刻を設定する

充電モードが “開始設定” のときは普通充電を開始する時刻を、“開始／終了設定” のときは普通充電を開始および終了したい時刻を設定します。

5 繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、“OK” にタッチする

複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

チェックボックスを選択するたびに、選択した曜日の繰り返し設定の ON・OFF が切りかわります。

6 すべての設定が終了したら、“保存” にタッチする

充電スケジュールが登録され、“充電スケジュール” 画面にアイコンが追加されます。

■ 充電スケジュールの ON・OFF を切りかえるには

1 “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.110）

2 “編集” にタッチする

“タイマー設定リスト” 画面が表示されます。

3 表示されているリストの中から、ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールのボタンにタッチする

ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールし

て、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンを選択するたびに充電スケジュールの ON・OFF が切りかわります。

■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

1 “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.110）

2 “編集” にタッチする

“タイマー設定リスト” 画面が表示されます。

3 “タイマー設定リスト” 画面の “編集” にタッチする

4 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールにタッチする

● 登録内容を変更するときは：

“充電スケジュールを登録するには”（→P.111）の手順 **3** 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

設定を変更すると、“充電スケジュール” 画面のアイコン表示もかわります。

● 登録内容を削除するときは：

“削除” にタッチする

削除を確認するメッセージが表示されます。

“削除” をタッチして、選択した充電スケジュールを削除します。

充電スケジュールを削除すると、スケジュール上のアイコンも削除されます。

■ “今すぐ充電” を ON にするには

1 “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.110）

2 “今すぐ充電” ボタンにタッチする

ボタンを選択するたびに、“今すぐ充電” の ON・OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、普通充電が開始されます。（→P.90）

■ 次回充電予定を表示するには

パワースイッチを OFF にする

設定された充電スケジュールに従って、次回充電予定が表示されます ※。

※ メニュー内の “ACC カスタマイズ” のスイッチが OFF に設定されていないと、エンディング画面が表示されません。その場合は、マルチメディアの設定内容を確認してください。

“OK” ボタンにタッチした場合：次回充電予定画面を閉じます。

“今すぐ充電” ボタンにタッチした場合：今すぐ充電が ON になります。

知識

■充電スケジュールをすべて OFF にしたとき

“充電スケジュール” 画面上にアイコンは表示されません。

“タイマー設定リスト” 画面で ON にすることで、アイコンが表示されます。

■充電スケジュール設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、充電スケジュール設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- 充電スケジュール設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■充電中に充電スケジュールを変更したとき

充電スケジュールを変更すると、次回充電予定が更新され、充電が停止することがあります。充電スケジュール変更後は、次回充電予定をご確認ください。

充電を継続したい場合は、“今すぐ充電” を ON にしてください。

注意

■設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マイルームモードを使う

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するには

1 車両に充電ケーブルを接続して充電を開始する
普通充電するとき：→P.90
急速充電するとき：→P.98

V2H 充電／ V2H 給電時は、マイルームモードを使用できません。

2 充電の実施中にパワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにマイルームモードの設定画面が自動表示されます。

3 メーター操作スイッチを使って “YES” を選択し、“OK” を押す

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

マイルームモードを使用しないときは、“NO” を選択して “OK” を押します。

マイルームモードを停止するときは、パワースイッチを OFF にします。

急速充電が完了すると、マイルームモードは自動的に停止する。

マイルームモード使用中の電力収支に関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディスプレイに駆動用電池の残量表示画面が自動的に表示され、矢印の大きさで、マイルームモード使用中の電力収支（電気供給量と電力消費量とのバランス）の目安を確認することができます。

A 放電状況

B 充電状況

充電ケーブルからの電気供給量が車内の消費電力より多いときはBが大きくなり、電気供給量より消費電力が大きいときは、Aが大きくなります。

電気供給量と電力消費量の釣り合いがとれているとき（電力の収支がゼロと判断されたとき）は、AとBが同じ大きさで表示されます。

知識

■充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

●駆動用電池の残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止する

その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。

●駆動用電池の充電時間が長くなる

●電波の状況によっては、ラジオに雑音が入る

●普通充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。

●パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがありますが、異常ではありません。

●普通充電時はマイル ― ムモードを維持するために満充電終了しないよう充電量を制御をしています。

■急速充電中のマイルームモード使用について

●急速充電中にマイルームモードを使用するときは、使用しないときと比べて、充電完了時の充電量が低下します。また、外気温が低く湿度が高い環境での急速充電時は、窓が曇る場合があります。冷房・除湿機能を ON（→P.399）にすることで車室内を除湿し、窓の曇りを取り除くことができます。その際は、駆動用電池の温度管理が停止するため充電量が低下する場合があります。

●急速充電時は満充電になるとマイル ― ムモードが終了します。

■駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電、かつ電力が供給されている普通充電コネクターが接続され

た状態で、パワースイッチを ON にすると、“充電リッドが開いています”というメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メーター操作スイッチの⮌を押すことで、マイルームモードの設定画面が表示され、“マイルームモード”を選択することができます。

駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

■マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

● “駆動用電池残量不足 マイルームモード起動不可”

マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。
駆動用電池の残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。

● “駆動用電池残量不足 マイルームモードを終了します”

駆動用電池の残量が不足しています。
マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。

● “駆動用電池残量低下 使用電力抑制下さい”

駆動用電池への充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用電池の残量が低下しています。※

・車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。

・マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオなどの電源を OFF にして、駆動用電池の残量を増やしてください。

※マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量表示画面で、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。（→P.114）

⚠警告

■マイルームモードの使用上の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。

●車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

ソーラー充電システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両のルーフに搭載された大型ソーラーパネル（ソーラールーフ）により太陽光発電を行い、その電力を駆動用電池および補機バッテリー系統へ供給するシステムです。

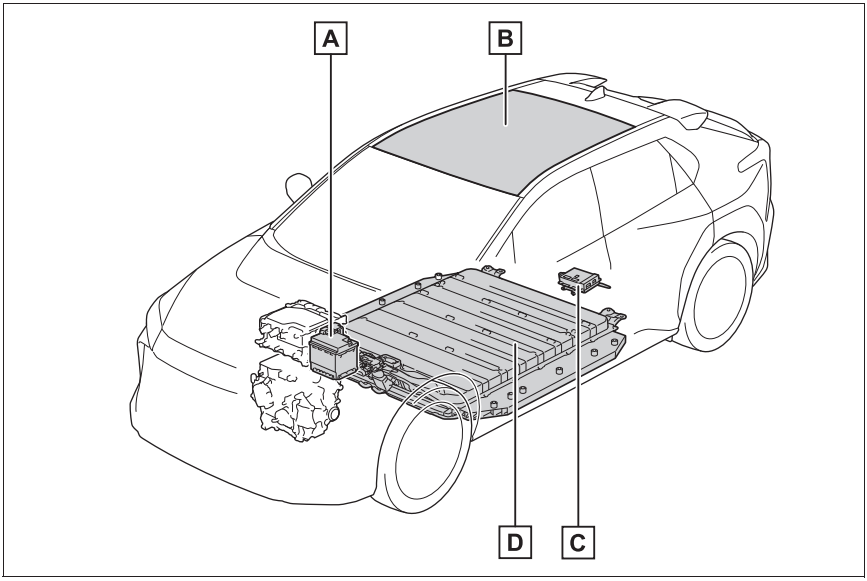
充電設備がない駐車場や災害等で停電した場合でも、太陽光さえあれば、特別な操作をすることなく、駆動用電池の充電※が可能になります。

※ソーラー充電システムによる充電量は、季節や天候などの条件により異なります。

ソーラー充電システムの働き

車両のルーフに搭載されたソーラーパネル（ソーラールーフ）で太陽光発電を行います。

- 駐車中（普通充電中または急速充電中、外部給電中、V2H 充電／V2H 給電中を除く）は駆動用電池を充電します。
- 走行中・外部給電中・V2H 給電中は駆動用電池の消費を低減します。
  太陽光発電した電力により補機バッテリー系統の消費を補うことで、駆動用電池の電力消費を抑え、EV 走行距離の向上に貢献します。



A 補機バッテリー

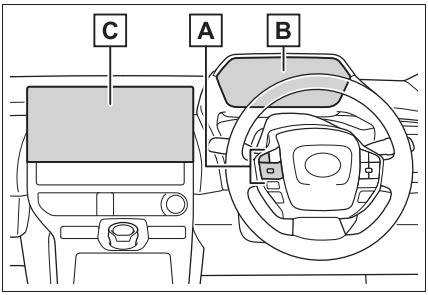
B ソーラールーフ

C ソーラー ECU

D 駆動用電池

ソーラー充電システムに関する情報表示

マルチインフォメーションディスプレイやマルチメディア画面などで、ソーラー充電システムに関する情報を確認することができます。



A メーター操作スイッチ

（→P.152）

B マルチインフォメーションディスプレイ

C マルチメディア

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して を選択する。

2 メーター操作スイッチの〈または〉を押してソーラー充電画面を選択する。

A 瞬間発電量

B 発電した電力の走行距離換算値※

※ 前回走行終了時から現在までの換算値を表示します。発電電力を走行距離に換算した数値であり、実際に走行できる距離とは異なる場合があります。また、オプションタイヤを装着した場合は、表示される値が実際に走行できる距離とは異なります。

▶ マルチメディア画面

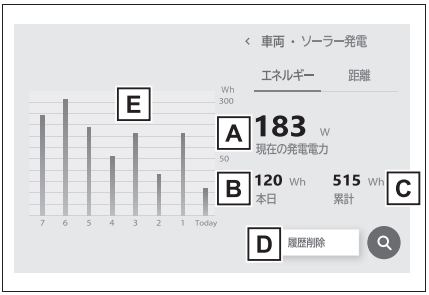
● エネルギー画面の見方

1 を押す。

2 “ソーラー発電” を押す。

エネルギー画面以外が表示されたとき

は、“エネルギー”を押す。



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

A 現在の発電電力

B 本日の発電電力

C 累積発電電力

D 履歴削除

日ごとのデータをリセットできます。

E 日ごとの発電電力※

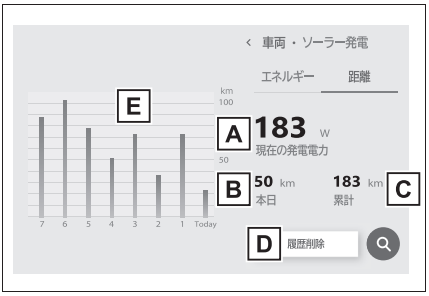
※ 特定の作業によりリセットされる場合があります。

● 距離画面の見方

1 を押す

2 “ソーラー発電”を押す

距離画面以外が表示されたときは、“距離”を押す



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

A 現在の発電電力

B 本日の発電した電力の走行距離換算値※1

C 累積の発電した電力の走行距離換算値※1

D 履歴削除

日ごとのデータをリセットできます。

E 日ごとの発電した電力の走行距離換算値※1, 2

※1 発電電力を走行距離に換算した数値であり、実際に走行できる距離とは異なる場合があります。また、オプションタイヤを装着した場合、表示される値は実際の値とは異なります。

※2 特定の作業によりリセットされる場合があります。

知識

■ソーラー充電システムについて

●次の場合は、ソーラー充電システムによる駆動用電池への充電は行われません。

・パワースイッチが OFF 以外のとき
・駆動用電池ヒーター（→P.84）の作動中
・リモートエアコンシステムの使用中
・V2H 充電または V2H 給電中
・駆動用電池が満充電状態のとき
・駆動用電池が電欠状態のとき

●次の場合は、ソーラー充電システムによる太陽光発電、駆動用電池および補機バッテリー系統への給電を停止します。

・ボンネットを開いたとき
・普通充電中または急速充電中
・マイルームモード使用中

・ソーラー充電システムの温度保護機能が働いているとき
・ソーラー充電システムが故障したとき

●太陽光発電量は、季節や気候、天候、車両の角度、周囲環境などの状況により異なります。

●ソーラールーフの一部にでも影がかかっていると、極端に発電量が低下する場合があります。

●ソーラールーフの性能を十分に発揮させるために、次のことをお守りください。
・ルーフは定期的に清掃する（特に落ち葉や鳥のふんなどは極端な発電量低下につながります）
・ルーフに雪が積もったときはすみやかに取り除く
・シールやステッカーなどをルーフに貼り付けない
必要がない場合は、ルーフキャリアなどの装備も取り付けないことをおすすめします。

●駆動用電池が満充電の状態では、ソーラー充電システムによる充電が行われません。日中に外部電源からの充電を行う必要がないときは、日没まで可能な限りソーラー充電システムで充電しておき、夜間に外部電源からの充電を行うことで、ソーラー充電システムの機能を効果的に利用できます。

●夏場、炎天下の長時間放置は車内が高温になり、温度保護機能が働きやすくなります。

●ソーラールーフにガラスコーティングを施すと光の屈折率が変わり、発電量が低下する可能性があります。

●ソーラールーフ内に小さな点や線、しみのようなものが見えることがありますが、発電機能や安全性には問題ありません。

⚠注意

■ソーラー充電システムの故障を防ぐために

●次のことをお守りください。
・ソーラールーフを改造しない
・ソーラールーフに太陽光を集光しない
・ソーラールーフの上に乗ったり、ものを載せたりしない
・車室内の天井部分からソーラールーフに強い衝撃を与えたり、先のとがったもので力を加えたりしない

●ソーラールーフが破損したときは、破損個所にはふれず、ただちにトヨタ販売店に修理を依頼してください。

■ルーフに荷物を積むとき

→P.220

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.126 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設定されている場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。ほかのコンセントが近くにない場合はトヨタ販売店にご相談ください。充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物／設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。

上記のチェックで解消しない場合、普通充電ケーブル（電源プラグコードを含む）に断線等の可能性がありますので、ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡下さい。

■ コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。いったん電源プラグをコンセントから抜き、正常な電源に接続しなおしてください。 (→P.73) 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ 普通充電コネクターを接続しても充電ポートの充電インジケーターが点灯しない

考えられる原因	対処方法
普通充電コネクターが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 ・普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 普通充電コネクターが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケーターが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高い値に設定して、再度充電してください。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

■ 普通充電ポートの充電インジケーターが点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
普通充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているとき※：充電スケジュールが登録されている	タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、“今すぐ充電”をONにしてください。（→P.109, 112）
充電ポートの充電インジケーターが速い点滅をしているとき※：外部電源、または車両に異常が発生している	パワースイッチがOFFの状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。（→P.126）

※ 普通充電ポートの充電インジケーターの点灯・点滅については、P.70を参照してください。

正常に急速充電・V2H充電／V2H給電できないとき

■ 急速充電・V2H充電／V2H給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクターが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクターの接続状態を確認し、コネクターを確実にロックしてください。
急速充電コネクターが確実にロックされていない	接続状態に異常がないのに急速充電が開始されないときは、急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。 ・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・V2H機器に問題がある場合は、V2H機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ・急速充電器（スタンド）・V2H機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 ・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ・急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。 ・EV システムを始動できなくなった場合は、トヨタ販売店にご連絡ください
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になっている	・急速充電器（スタンド）の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 ・V2H 機器の取扱説明書を確認するなど、電源状態をご確認ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電コネクターも接続している	普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。
EV システムが始動している	EV システムが始動していると、急速充電を開始できません。また、シフトポジションが P でないと急速充電システムを使用できません。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残用より高い値に設定して、再度充電してください
繰り返し急速充電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度充電してください。

■ 急速充電・V2H 充電／ V2H 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器（スタンド）または V2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になった	急速充電器（スタンド）または V2H 機器の電源状態を確認してください。電源の状態が不明な場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電または V2H 充電／ V2H 給電できない場合があります。気温が安定してから急速充電・V2H 充電／ V2H 給電を実施してください。
急速充電器（スタンド）または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。 ・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。 ・急速充電器（スタンド）に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。 ・EV システムを始動できなくなった場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
充電関連部品の温度が高い	充電関連部品の温度が高いと急速充電・V2H 充電／ V2H 給電できない場合があります。しばらく時間をあけてから再度急速充電・V2H 充電／ V2H 給電をおこなってください。
満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した	車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、再度充電してください。

■ 急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後に EV システムが始動できなくなった

考えられる原因	対処方法
充電後のシステムチェックが正常に終了しなかった	P.101 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
急速充電コネクターが接続されたままになっている	急速充電コネクターが接続されているときは、安全のため、EV システムを始動することができません。（→P.87）急速充電・V2H 充電／ V2H 給電終了後は、すみやかに急速充電コネクターを取りはずしてください。
急速充電システムまたは V2H 充電／ V2H 給電システムが故障した	・故障の原因によっては、充電リッドを閉めることで、EV システムを始動できる場合があります。 ・始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 希望の時刻に充電が開始しない

考えられる原因	対処方法
車両のカレンダー、時刻が正しく設定されていない	カレンダーの設定内容を確認し、正しい年月日、時刻に設定してください。（→P.150, 154）
車両に普通充電コネクターが接続されていない	タイマー充電を使用する際は、あらかじめ普通充電コネクターを接続しておいてください。
設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクターを接続した	充電モードが “ 開始 ” の場合は、設定した開始時刻よりも前に普通充電コネクターを接続してください。 ※ 充電モードを “ 開始終了 ” に設定した場合は、終了時刻よりも前に普通充電コネクターを接続すれば、開始時刻を過ぎていても充電します。

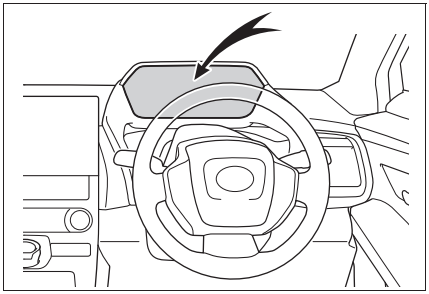
■ 充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
“今すぐ充電” が ON になっている	タイマー充電する際は、“今すぐ充電” を OFF に設定してください。（→P.109, 112）
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。（→P.108, 111）
充電モードが「開始・終了」に設定されており、かつ開始時刻と終了時刻のあいだに普通充電コネクターを接続した	充電モードが「開始・終了」のときは、開始時刻を過ぎて普通充電コネクターを接続すると、終了時刻まで充電が実施されます。充電スケジュールを確認してください。
充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクターを抜き挿しした	普通充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクターを抜き挿しすると、タイマー充電がキャンセルされます（→P.93）。いったん普通充電コネクターを取りはずして、再度、接続し直してください。
マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させた	マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



■ “充電コネクター操作により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電中に普通充電コネクターを取りはずした	普通充電中に普通充電コネクターを取りはずすと、充電は中断されます。充電を継続する場合は、再度コネクターを接続してください。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能※が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクターを取りはずした	
普通充電コネクターが確実に接続されていない	普通充電コネクターの接続状態を確認してください。 ・普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ” と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。 正しい作業手順に従っても充電できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
普通充電中に普通充電コネクターのロック解除ボタンを押した	普通充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクターを接続し直してください。

※ 駆動用電池ヒーター（→P.84）・リモートエアコンシステム（→P.404）が作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモード（→P.113）の使用も、電力を消費します。

■ “充電完了しました（駆動用電池温度による制限）” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

■ “停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・ 電源プラグが抜けていないか ・ 手元スイッチが OFF になっていないか ・ コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しているか ・ ブレーカーが落ちていないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。 なお、コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	●普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 ・ 普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した ・ 普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある ・ 普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない ●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ “充電設備の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。 他の普通充電器（スタンド）で充電可能かご確認ください。他の普通充電器（スタンド）でも充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	
急速充電器（スタンド）が故障している	本メッセージが表示された場合は、急速充電器（スタンド）が故障しているおそれがあるため、その急速充電器（スタンド）は使用しないでください。他の急速充電器（スタンド）での充電が可能かご確認ください。 他の急速充電器（スタンド）で充電しても本メッセージが表示されて充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器（スタンド）で充電してください。
急速充電器（スタンド）が車両に適合していない	

■ “AC 供給電源の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・電源プラグがしっかりと挿し込まれているか ・延長コードを使用したり、分岐用コンセントに接続したりしていないか ・専用回線に接続されているか ・停電が発生していないか ・外部電源の供給電圧が低下していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ “電装品の電力消費大のため充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 ・ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ・パワースイッチを OFF にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。EV システムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。

■ “システムの要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “充電システム確認のため充電リッドを閉めてください 取扱書を確認” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電時・V2H 充電／ V2H 給電時のシステムチェックが正常に終了しなかった	この場合は、システムチェックが正常に終了するまで、システムを始動できなくなります。P.101 の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。

■ “充電終了時間に達したため充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）の制限時間内に急速充電が完了しなかった	・急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。
	車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電が完了しない場合があります。 ・エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源が ON のため、消費電力が大きい可能性があります。電装品の電源を OFF にしてから、急速充電を行って下さい。 ・駆動用電池の温度が低い可能性があります。駆動用電池が温まってから急速充電を行って下さい。

■ “充電設備または車両要因により充電停止しました”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
コネクターロックシステムが故障した	トヨタ販売店にご連絡ください

DC 外部給電システム

車両に外部給電器※1を接続することで、車両から外部へ給電※2を行います。車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも給電を行うことができます。

※1 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用給電システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

※2 車両側の定格出力は DC9kW です。ただし、接続する外部給電器の出力上限以上は出力されません。

DC 外部給電システム

このシステムを使用するには、外部給電器※が必要です。（車両には付属していません）

※ 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用給電システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

知識

■スマートフォンとの連携について

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 専用アプリで、DC 外部給電システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。

T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

DC 外部給電システムの使い方

DC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

DC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキがかかっていること（→P.231）
- パワースイッチが OFF になっていること（→P.221）
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

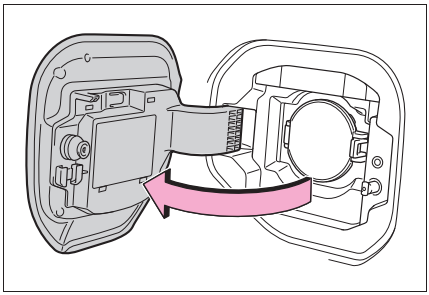
輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- シフトポジションが P になっていること

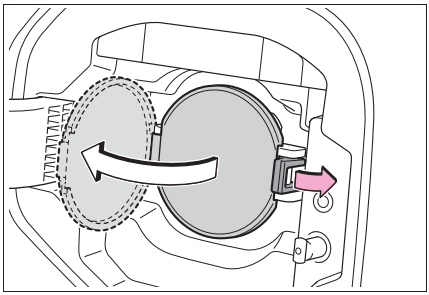
DC 外部給電を開始するときは

1 車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける（→P.69）

急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。

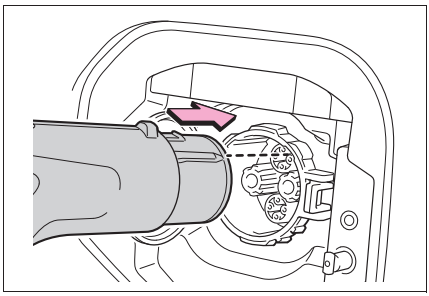


2 急速充電インレットキャップを開ける



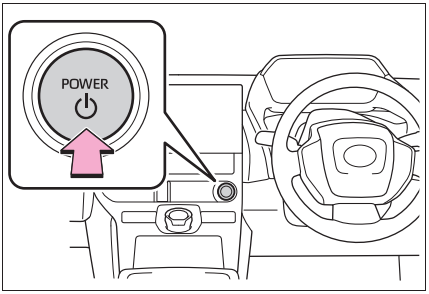
3 外部給電コネクターを急速充電インレットに奥まで正しく挿し込む

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



4 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを押して ON にする

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、EV システムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。



マルチインフォメーションディスプレイまたは、マルチメディア画面で外部給電の設定が行えます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイでの操作：

5 マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して “車両設定” を選択し、OK を長押しする

6 メーター操作スイッチの ⌃ または ⌄ を押して “外部給電” を選択し、OK を押す

外部給電モードの選択画面が表示されます。

7 メーター操作スイッチの ⌃ または ⌄ を押して “EV 給電” を選択し、OK を押す

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。※

駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

※ 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

8 OK を押す

給電待機画面が表示されます。

スイッチを押すと、DC 外部給電システムの設定操作が中止されます。

▶ マルチメディア画面での操作：

5 🚗 を押す

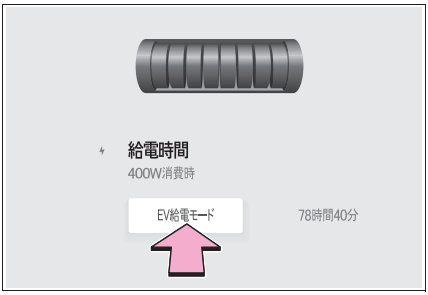
6 “外部給電” を押す

外部給電モードの選択画面が表示されます。

7 “EV 給電” を押す

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。※

駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電を選択できません。



※ 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

8 操作ガイド画面の表示に従う

9 外部給電器で開始操作をする

外部給電器に付属の取扱説明書に従い、操作してください。

外部給電器によっては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止することがあります。その場合は、再度手順 **4** から開始操作を行ってください。

10 接続した電気製品の電源を ON にする

充電インジケーターが点滅しているときは DC 外部給電が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。

DC 外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイで、現在の給電状況をお知らせします。

知識

■DC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションをPからほかのシフトポジションに切りかえることはできません。
- 外部給電器の出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。
- 車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。
- スマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “キーが見つかりません キーの所在を確認してください” と表示されたりすることがあります。
- 気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合、使用する電気製品を減らしてください。
- 走行中は DC 外部給電システムを使用できません。
- 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 炎天下など、車内が高温になる状態で

使用すると、システムを保護するために DC 外部給電システムが自動で停止することがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC 外部給電システムを開始してください。

●DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認 ” が表示されたとき
急速充電後、V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認 ” が表示されたときの手順に従い、処置してください。（→P.101）

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、DC 外部給電システムを使用できないことがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。

●DC 外部給電システム使用中はエアコン・アクセサリーコンセントを使用することができます。

■アクセサリーコンセントの使用について

DC 外部給電システムを使用しているときは、車内にあるアクセサリーコンセントからも電源を取り出すことができます。
ただし、DC 外部給電システムを車両側定格出力未満で使用している場合でも、DC 外部給電システムの出力を優先させるため、アクセサリーコンセントの出力を停止する場合があります。アクセサリーコンセントを使用したい場合には、DC 外部給電システムで使用している電気製品を減らし、もう一度 AC100V 電源を ON してください。（→P.433）使用している電気製品を減らしても、アクセサリーコンセントは自動で復帰しません。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■DC外部給電システムを使用するときの警告

●傾いた場所や坂道などに停めて使用しない

使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認する

●モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●可燃物や危険物を車両の近くに置かない

●給電を開始する前に、接続した電気製品の電源が OFF になっていることを確認する

電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない

●お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わない

警告

●外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する

外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

●落雷の可能性がある天候のときはDC外部給電システムを使用しない

使用中、雷に気付いたときにはDC外部給電システムを停止してください。

●急速充電インレットに急速充電コネクター・外部給電コネクター以外のものを挿し込まない

●外部給電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。

●急速充電インレットの端子部がぬれないようにする

●外部給電コネクター、急速充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない

■車両に給電ケーブルが接続されているとき

●ダイヤル式シフトを操作しないでください。万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■DC外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

●給電時は、外部充電器、給電ケーブルに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■接続する電気製品について

給電を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取扱説明書に記載されている注意事項をお守りください。

記載されている禁止事項を守らずに給電すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版（→P.132）に準拠した外部給電器を接続してください。

ガイドラインに準拠していない外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

DC 外部給電に関する情報の表示

DC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面に外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間※ などの情報を確認することができます。

※ 表示される時間は 400W（急速充電インレットにおける電力）消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の給電時間と異なる場合があります。

● DC外部給電システムを開始した時点で、いったんエアコンが OFF になります。DC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作してエアコンを作動させてください。※

※ DC 外部給電システムの使用中すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

● 外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ（例えば、「車両に異常が見つかりました」、「車両故障発生」など）が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、外部給電コネクターの端子故障（接点不良）などが考えられます。外部給電器に付属の取り扱い説明書を確認してください。

DC 外部給電を停止するときは

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

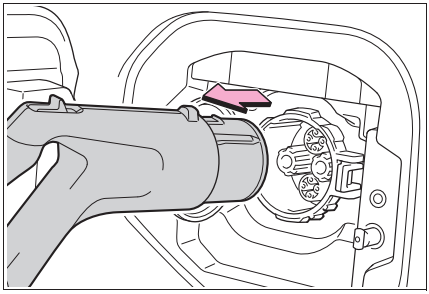
2 外部給電器を停止させる

外部給電器に付属の取り扱い説明書に従い、操作してください。

パワースイッチを OFF にしても給電を停止できます。

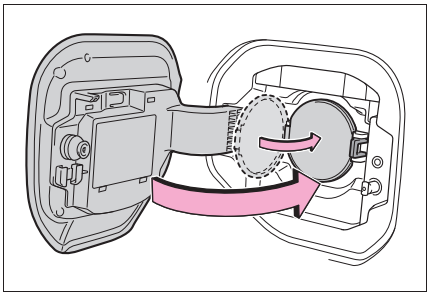
3 外部給電コネクターを取りはずす

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器に付属の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



4 急速充電インレットキャップを閉め、急速充電リッドを閉める

キャップはカチッと音がするまで確実に閉め、ロックされたことを確認してください。



知識

■DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム 確認のため充電リッドを閉めてください取扱書を確認 ” が表示されたとき

「急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認 ” が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。（→P.101）

■外部給電コネクターをアンロックできないとき

「急速充電コネクターをアンロックできないとき」の手順に従い、処置してください。（→P.103）

注意

■DC外部給電システムの故障を防ぐために

●急速充電インレットの急速充電インレットキャップに強い衝撃を与えないでください。

●ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は急速充電リッドでケーブルを挟まないでください。

●外部給電コネクターを急速充電インレットに抜き挿しするときは、過度の負荷をかけないでください。
挿し込み不足の原因になります。

●給電中に外部給電コネクター・ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。

●給電中に外部給電コネクター・ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけたりしないでください。

●給電中に外部給電コネクター・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。

●給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

■DC外部給電システムを使用したあとは

急速充電インレットから外部給電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットの急速充電インレットキャップを閉じてから、急速充電リッドを閉めてください。

急速充電インレットを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

■車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないときは

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないとき

次の記載を参照してそれぞれ必要な処置を行ってください。

■ 給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターがしっかりと接続されていない	外部給電コネクターが急速充電インレットに確実に接続されているか確認してください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
READY インジケータが点灯している	パワースイッチが OFF 状態で、ブレーキを踏まずにパワースイッチを押し、メータに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯（→P.148）でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し（→P.148）、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。（→P.84）
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
外部給電器の電源が OFF になっている	
前回使用時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認” が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。（→P.101）その後、再度開始操作を行ってください。

考えられる原因	対処方法
普通充電または急速充電を使用している	普通充電・急速充電を終了してから DC 外部給電システムの開始操作を行ってください。
繰り返し DC 外部給電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度給電してください。
その他	「DC 外部給電作業前の重要確認事項」（→P.133）を確認し、再度開始操作を行ってください。

■ 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

■ 使用後、EV システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取扱説明書に従って、外部給電コネクターを取りはずしてください。
使用終了時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／ V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “ 充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認 ” が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。（→P.101）

■ 給電終了後、外部給電コネクターがはずれない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

走行に関する情報表示

3

3-1. 計器の見方

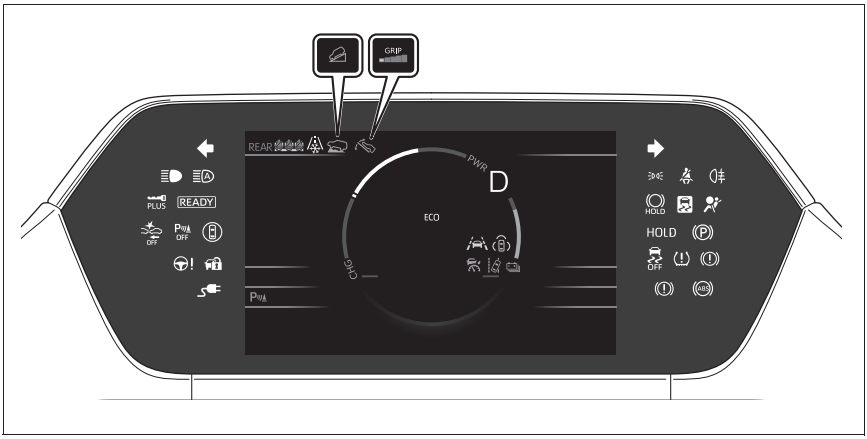
警告灯／表示灯 144
計器類..... 148
マルチインフォメーションディスプレイ 151

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

- ブレーキ警告灯 ※1（→P.494）（赤色）
- ブレーキ警告灯 ※1（→P.494）（黄色）
- 充電警告灯 ※2（→P.494）
- SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.494）
- ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.495）
- ペダル誤操作警告灯 ※3（→P.495）
- パワーステアリング警告灯 ※1（→P.495）（赤色）
- パワーステアリング警告灯 ※1（→P.495）（黄色）
- 駆動用電池充電警告灯（→P.495）（黄色）
- 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.496）
- リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.496）
- タイヤ空気圧警告灯 ※1（→P.496）
- LDA 表示灯（→P.496）（黄色）

（黄色）
LTA 表示灯（→P.497）

（黄色）
PDA 表示灯（→P.497）

運転支援情報表示灯 ※1（→P.497）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（→P.497）

（黄色）
クルーズコントロール表示灯（→P.498）

（黄色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.498）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1（→P.498）

スリップ表示灯 ※1（→P.498）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.498）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.499）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.230）

尾灯表示灯（→P.237）

ハイビーム表示灯（→P.239）

AHS 表示灯（→P.240）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.243）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.263）

（※3）
クルーズコントロール表示灯（→P.291）

（※3）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.283）

（※3）
LDA 表示灯（→P.271）

LDA OFF 表示灯 ※2（→P.271）

（※3）
LTA 表示灯（→P.267）

PDA 表示灯（→P.276）
（※3）

ドアミラーインジケーター ※5
（→P.296, 311, 323）

運転支援情報表示灯 ※1, 2
（→P.296, 311, 323, 328, 331）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2（→P.315）

クリアランスソナー検知表示灯 ※8（→P.315）

スリップ表示灯 ※1
（→P.381）
（点滅）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2
（→P.381）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.234）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.234）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※4
（→P.221）

充電コネクター接続表示灯
（→P.92）

READY インジケーター
（→P.221）

パーキングブレーキ表示灯
（→P.231）

低温表示灯 ※6（→P.149）

セキュリティ表示灯（→P.53, 54）

スノーモード表示灯★
（→P.375）

エコモード表示灯（→P.228）

プラスサポート表示灯★
（→P.386）

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯★
（→P.375）

グリップコントロール表示灯★
（→P.375）

グリップコントロール設定車速表示灯★（→P.375）

回生ブースト表示灯
（→P.229）

SNOW・DIRT モード表示灯★（→P.376）
（※7）

DEEP SNOW・MUD モード表示灯★（→P.376）
（※7）

制動灯表示灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※4 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5 ドアミラーに表示されます。

※6 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※7 システムの作動状態により、表示色が変化します。

※8 マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車

知識

■制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

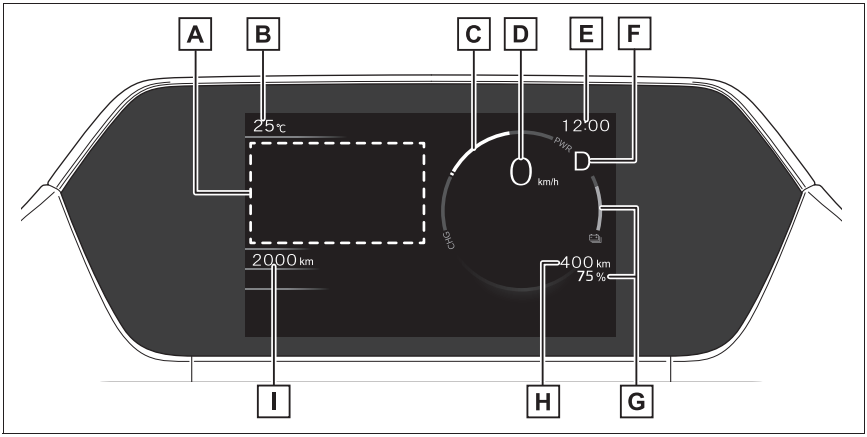
■クリアランスソナー OFF 表示灯について

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、クリアランスソナー機能の ON/OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.151）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.494）

マルチインフォーメーションディスプレイの表示 / 非表示を変更することができます。（→P.150）

B 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

C パワーメーター（→P.149）

EV システムの出力や回生レベルを示します。

D スピードメーター

E 時計（→P.150）

F シフトポジション表示灯（→P.225）

G 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

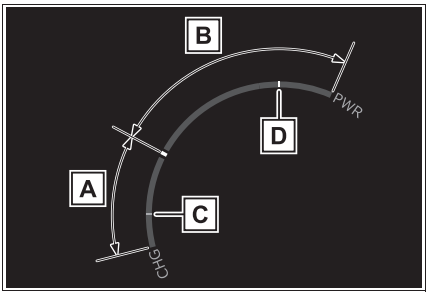
H 走行可能距離

駆動用電池残量による走行可能な距離を示します。エアコンの作動中は、アイコンとエアコンを使用した場合の走行可能距離が表示されます。

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.150）

知識

■パワーメーターについて



A チャージエリア

回生 ※1 ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B パワーエリア

走行中の出力（加速力）を表示します。

C 回生 ※1 制限表示 ※2

次のような状況では、回生ブレーキが制限されるため、その制限の目安を、チャージエリア内に表示します。

・駆動用電池の充電量が多く、これ以上回生ができないとき
・駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

D 出力制限表示 ※2

次のような状況では、出力が制限されるため、その制限の目安を、パワーエリア内に表示します。

・駆動用電池の充電量が少なく、これ以上出力ができないとき
・駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

※1 ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

※2 車両状態によって実際の制限と異なる場合があります。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約25km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

■液晶ディスプレイについて

→P.152

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの で、計器類の表示を変更できます。

（→P.534）

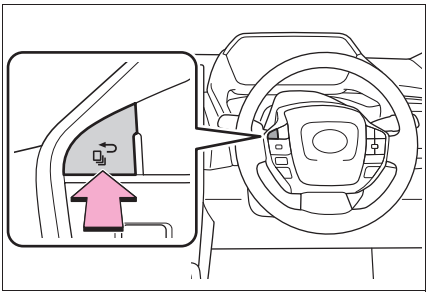
警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

メーター表示の切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの表示／非表示を切り替えることができます。



オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

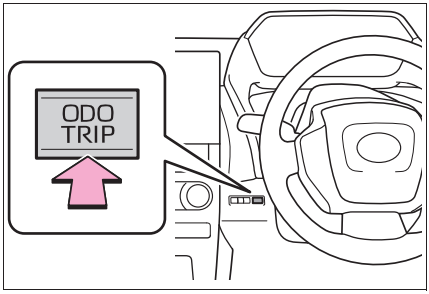
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



時計の調整をするには

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。
設定方法は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

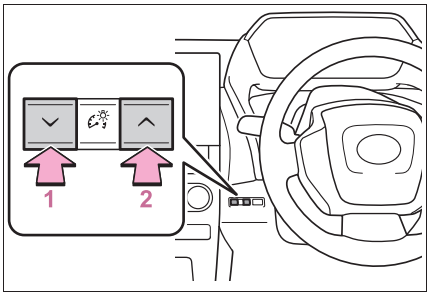
知識

■時計の設定画面

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に 🕒⚙ が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

メーターの明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

知識

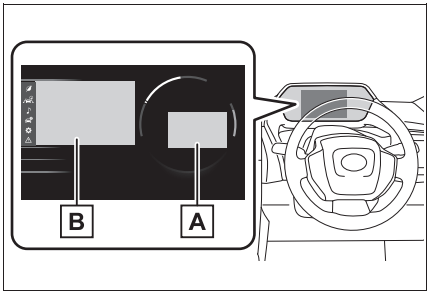
■インストルメントパネルの照度調整について

周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.268）
- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.264）
- RSA（ロードサインアシスト）（→P.280）
- レーダークルーズコントロール（→P.283）
- クルーズコントロール（→P.291）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.273）

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの∧または∨を押すとメニューアイコンが表示されます。

走行情報表示（→P.152）

運転支援機能情報表示（→P.153）

オーディオシステム連携表示（→P.153）

車両情報表示（→P.153）

設定（→P.154）

警告メッセージ（→P.501）

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

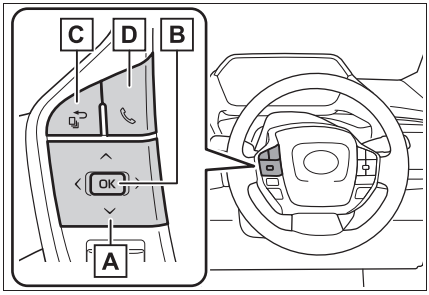
●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.150

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ∧／∨：メニューの切りかえ・ページ送り・カーソル移動

〈／〉：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定

長押し：リセット／詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについては詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

走行情報表示について

■ 表示項目

● 電費グラフ

● ソーラー充電★

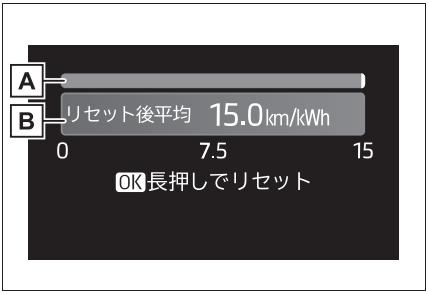
→P.116

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

■ 電費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

B 始動後平均電費／通算平均電費

平均電費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

平均電費の表示は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

● 始動後平均電費

EV システム始動後の平均電費を表示します。

● 通算平均電費

リセット後の平均電費を表示します。

知識

■電費について

電力消費率を表す数値で、ガソリンエンジン車の燃料消費率に相当します。この車では、電力 1 キロワット時（1kWh）あたりの走行キロ数（km/kWh）が、「電費」として各画面上に表示されます。

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.268）

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.264）

● RSA（ロードサインアシスト）（→P.280）

● レーダークルーズコントロール（→P.283）

● クルーズコントロール（→P.291）

● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.273）

■ ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● ルート案内表示

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

車両情報表示について

■ 表示項目

● ドライブインフォメーション

● トルク配分★

● タイヤ空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に２つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォ演算”の設定（始動後・リセット後）との組み合わせによって変化します。（→P.154）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後※

・平均車速：EV システム始動後の平均車速を表示

・走行距離：EV システム始動後の走行距離を表示

・走行時間：EV システム始動後の経過時間を表示

※ EV システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● リセット後※

・平均車速：リセット後の平均車速を表示

・走行距離：リセット後の走行距離を表示

・走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ トルク配分★

０～５の６段階で、各輪の駆動状態を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

電費単位を選択することができます。

● 🍃

・電費グラフ

平均電費の表示を始動後／リセット後から選択することができます。（→P.153）

● ♪

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

● 🚗ⓘ

・表示コンテンツ

トルク配分画面★の表示・非表示を選択することができます。

・ドライブインフォ演算

始動後／リセット後から選択することができます。

・ドライブインフォ項目

１行目と２行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● エンディング

パワースイッチを OFF にしたときに表示される情報を選択することができます。

● 割込表示

割込表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● カレンダー

年・月・日を設定することができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.534

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ パワーバックドア機能★のON切り替え提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（⚙でパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、メインスイッチが ON に変更され

ます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.534）

運転する前に

4

4-1. キー

キー 158

デジタルキー 161

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 164

バックドア 169

スマートエントリー＆スタートシステム 182

4-3. シートの調整

フロントシート 188

リヤシート 189

ヘッドレスト 191

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 194

インナーミラー 195

デジタルインナーミラー 196

ドアミラー 204

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ 206

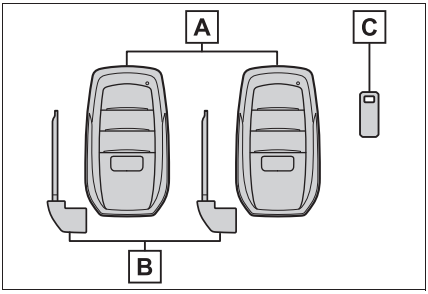
4-6. お好み設定

マイセッティング 209

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.182）
・ワイヤレス機能の作動
・リモートエアコンシステムの作動（→P.404）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、EV システムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.184）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.477）
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.477）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●降車オートロック機能を利用する場合、電池の消耗が早くなる可能性があります。スタンバイ状態で車両周辺に長時間いる時はキャンセル操作をおすすめします。（→P.164）

■電池の交換方法

→P.477

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

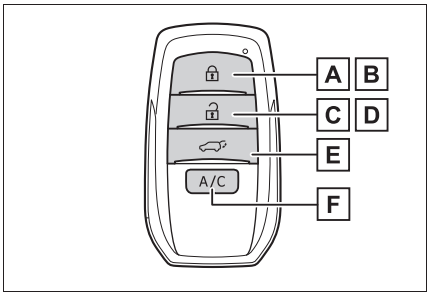
→P.520

■電子キーを紛失したときは

→P.518

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



A 全ドアを施錠する（→P.164）

B ドアガラスを閉める※（→P.164）

C 全ドアを解錠する（→P.164）

D ドアガラスを開く ※
（→P.164）

E パワーバックドア★を開閉する
（→P.172）

F リモートエアコンシステムを作動・停止する（→P.404）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

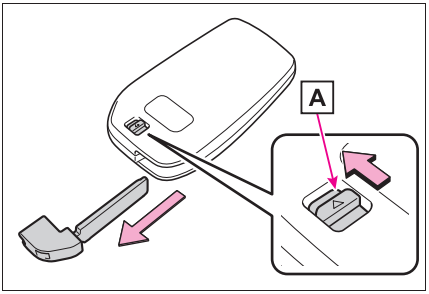
※ トヨタ販売店での設定が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンAをスライドさせてキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.520）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.518

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/

知識

■QR コード

QR コードはデンソーウェーブの登録商標です。

■フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

■デジタルキーの取り扱い

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

● デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります (詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください)。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

・スマートフォンが故障した場合
・スマートフォンとサーバーが通信できない場合
・スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
・システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。
その際は一度、運転席のドアハ

ンドルに触れて下さい。

- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やEVシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

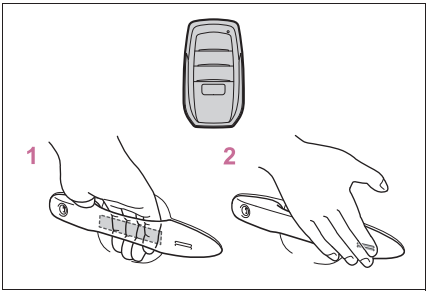
- 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯・パワーバックドアのクローズ&ロック機能スマートエントリー&スタートシステムの降車オートロック機能など一部の機能を利用できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席またはリヤ席（アンロックセンサー装着車）のハンドルを握って解錠する

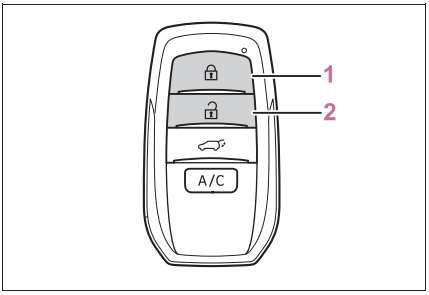
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席またはリヤ席（ロックセンサー装着車）のドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■降車オートロック機能 ※

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

2 ブザーが “ピピッ” と鳴り、降車オートロック待機状態になったことを確認する。

3 降車オートロック待機状態で電子キー作動範囲（→P.164）から離れる。

すべてのドアが施錠され、作動の合図（→P.165）でお知らせします。

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

すべてのドアが閉じられ、電子キーが作動範囲内にあると、降車オートロック待機状態になります。

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー” と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

● ドアを施錠・解錠する

●EV システムを始動する

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 ★のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **2** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示 / ブザー音	解錠できるドア
車外：“ピピッ”（3 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席またはリヤ席（アンロックセンサー装着車）のドアハンドルを握ると全席解錠
車外：“ピピッ”（2 回）	フロント席またはリヤ席（アンロックセンサー装着車）のドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.54）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする （→P.167）

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

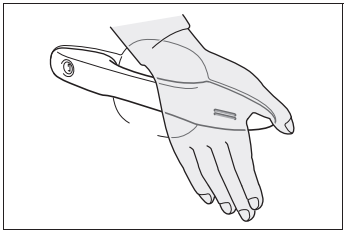
■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.54）

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.184

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.520）

●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.477）

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.520）

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物などの置き忘れを防ぐために、次のいずれかの操作を行ったあとにパワースイッチを OFF にすると、ブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内に EV システムを始動した

・EV システムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しない可能性があります。

●リヤシートリマインダーは、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断する機能です。そのため、状況によっては、リヤシートリマインダー機能が作動せず、リヤシートに荷物などを置き忘れたり、正しく作動しなくなったりする可能性があります。

●リヤシートリマインダーの作動・非作動を切りかえることができます。（→P.536）

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.536）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

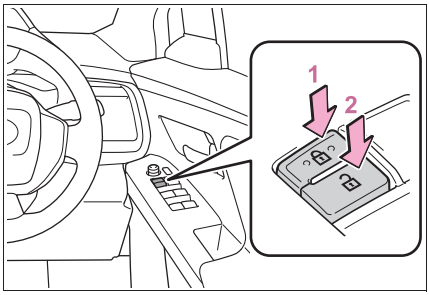
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

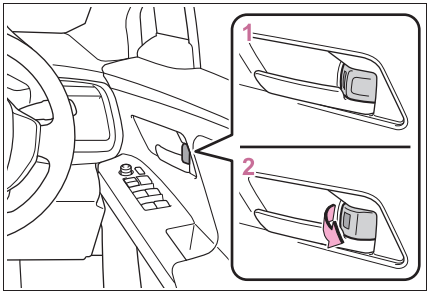
車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

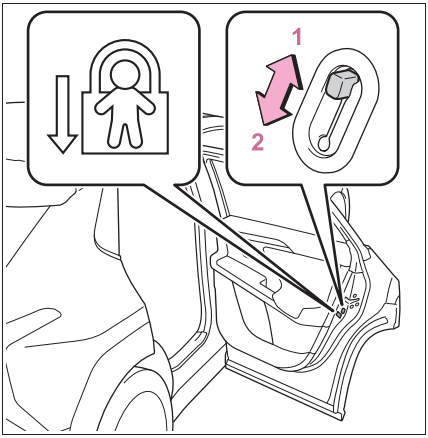
知識

■半ドア走行時警告ブザー

ボンネットまたはいずれかのドアが確実に閉まっていません。マルチインフォメーションディスプレイに開いているドアが表示されます。ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。
ボンネットおよび全ドアを確実に閉めてください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠
2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.534を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	EV システムが作動中にシフトポジションを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

警告

■走行する前に

走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

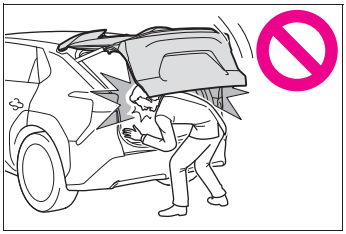
●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

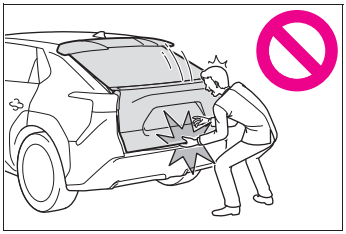
警告

●パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



●パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

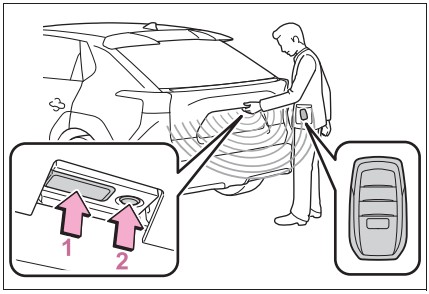
●バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→P.172）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→P.180）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から施錠／解錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.159

車内から施錠／解錠するには

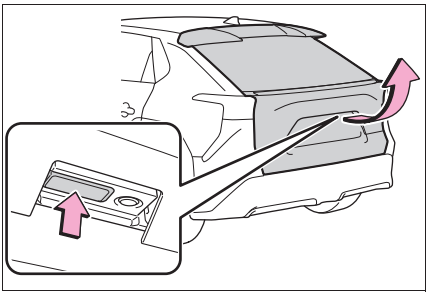
■ ドアロックスイッチを使用する

→P.167

バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

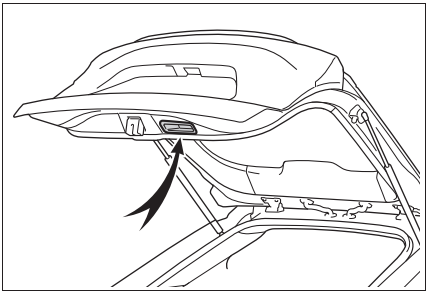
■ 開ける

バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



■ 閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■ラゲージルームランプ

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

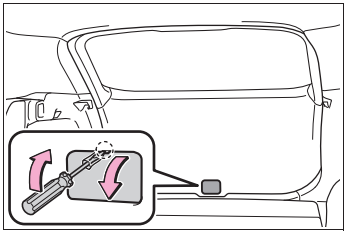
●パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■バックドアが開かないときは

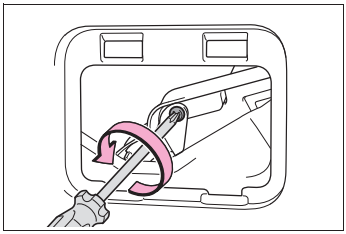
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

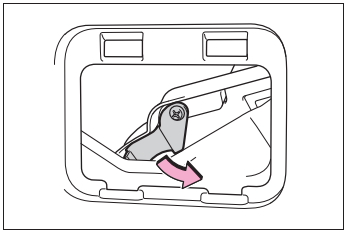
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



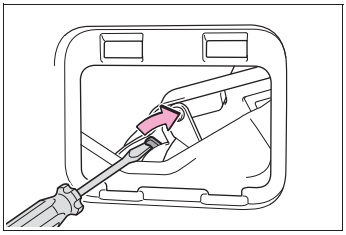
2 ねじをゆるめる



3 カバーをまわす



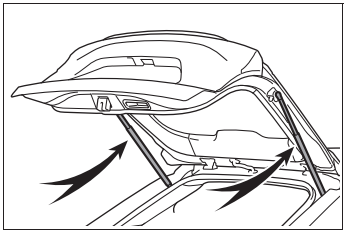
4 レバーを押す



注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

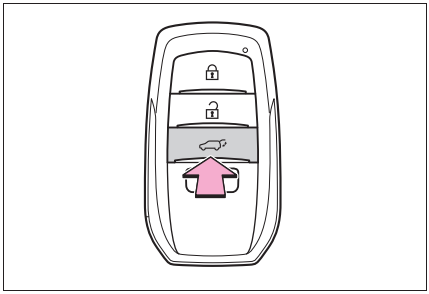
■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

バックドア解錠時※に作動させることができます。

※カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



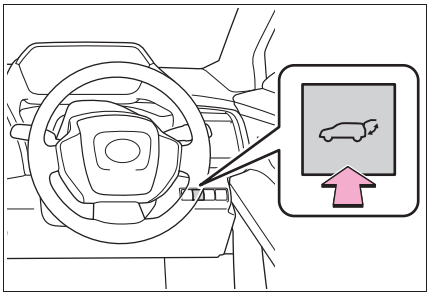
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ バックドアオープンスイッチを使用して開ける

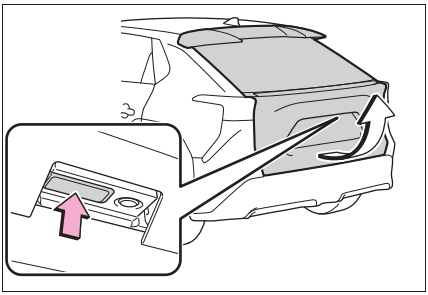
バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンス

イッチを長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



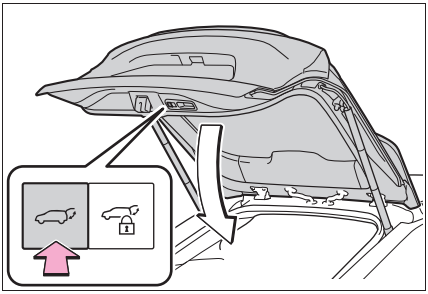
■ バックドアのスイッチを使用して閉じる

● 閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは反転作動します。



● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ＆ロック機能）

電子キーを携帯して、スイッチを押す

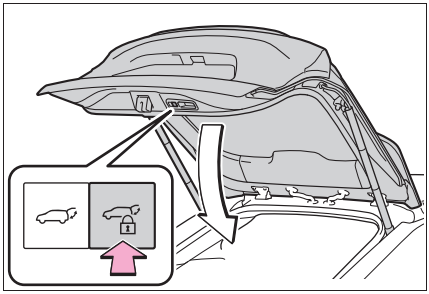
スイッチ操作後、電子キーの検知エリア（→P.183）内にいるときは約 30 秒間パワーバックドアは閉まりません。

スイッチ操作後、電子キーの検知エリア外にでることでパワーバックドアが閉まります。

また、パワーバックドアが閉まる途中でセンサーの範囲内に入ると、パワーバックドアは停止します。

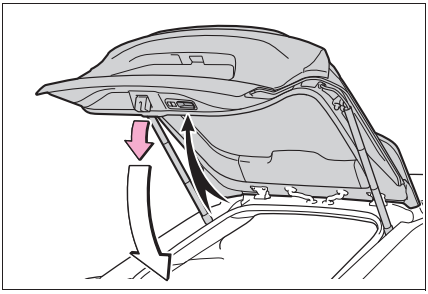
通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは反転作動します。
再度スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。



■ バックドアハンドルを使用して閉じる

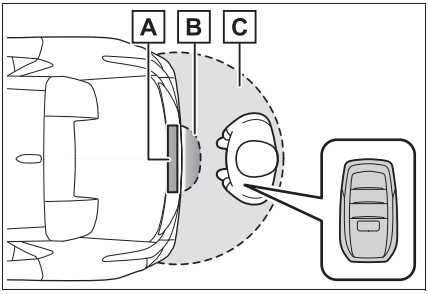
バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



■ **キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア）**

キックセンサーを使用して開閉するときは、パワースイッチがOFF、かつキックセンサーの作動のカスタマイズ設定がONで、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約50～70cm離れた位置に立つ



A キックセンサー

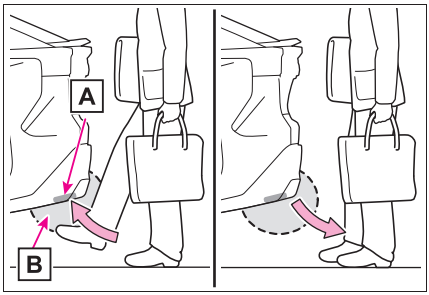
B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア

（→P.182）

2 足をリヤバンパーから約10cmの距離になるまで近づけて引く

・足を近づけて引く動作を1秒以内に行ってください。
・足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
・リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
・車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を入れる動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後足を引く動作をキックセンサーが検知するとバックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの作動中に再度操作をすると、作動を停止します。作動が停止した状態から再度操作をすると、バックドアは反転作動します。

カスタマイズ機能でブザーをOFFにすることもできます。（→P.537）

知識

■ラゲージルームランプ

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動のカスタマイズ設定が ON で、次のときに自動で開閉できます。

●バックドアが解錠されているとき

ただし次のときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。
・電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
・ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき

●パワースイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。
・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトポジションが P にある

■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

●キックセンサーの作動のカスタマイズ設定が ON のとき

●パワースイッチが OFF のとき

●電子キーを携帯して作動範囲内にあるとき（→P.183）

●足をリヤバンパー中央の下部に近付けて離す動作をしたとき（手やひじ、ひざなどでも作動します）

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動について

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.164）またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.159）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ＆ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠する機能です。

自車のもう 1 つの電子キーを車室内に置いていない状態で次の操作をすると、パワーバックドアが閉まると同時に全ドアも施錠されます。

1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部の スイッチ（→P.172）を短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチ（→P.172）を押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の スイッチ（→P.172）を押したとき

●パワーバックドア下部の スイッチ（→P.172）から離れた位置から押したとき

■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき
リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.184）

●外部電源からの充電中、もしくは充電ケーブルを車両に接続しているとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき

アクセサリー用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動のカスタマイズ設定を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、キックセンサーの作動のカスタマイズ設定を OFF にしてください。

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき

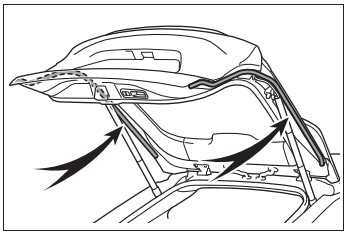
●けん引されるとき

■補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■バックドアクローズアシスト機能

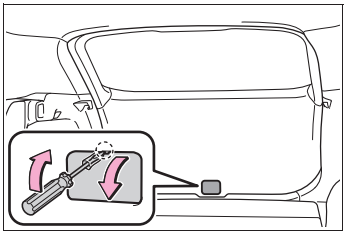
バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

■バックドアが開かないときは

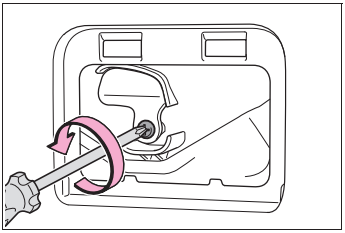
バックドアを内側から開けることができます。

1　カバーをはずす

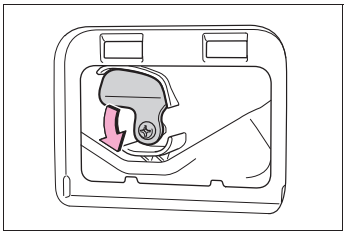
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



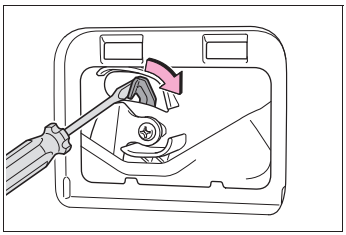
2 ねじを緩める



3 カバーをまわす



4 レバーを押す



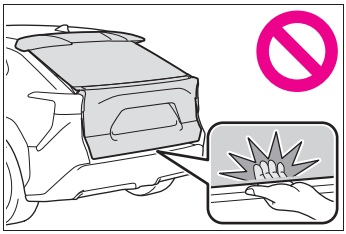
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.537）

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

警告

●自動開閉中に作動可能条件（→P.175）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・EV システム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたり EV システムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

ハンズフリーパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

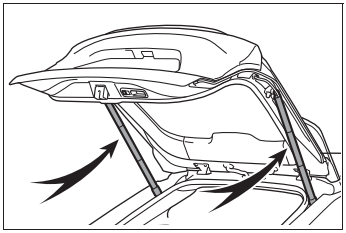
●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.177）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。
正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。
またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。
車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

注意

- リヤバンパーに草木など動くものを近付けない
  リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
  - キックセンサーやその周辺に強い衝撃を受けた
  - リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアにサイクルキャリアなどを取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から、“車両設定” PBD を表示することで、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.537）

パワーバックドアの設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面での設定操作が必要です。

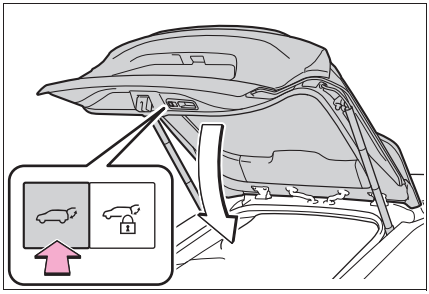
バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.172）

2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける

- 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。
- 次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。



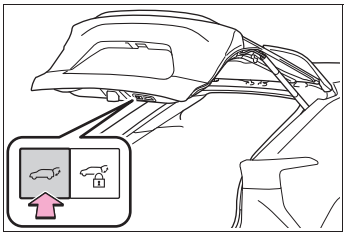
知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける

操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。

スイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

（カスタマイズ一覧：→P.537）

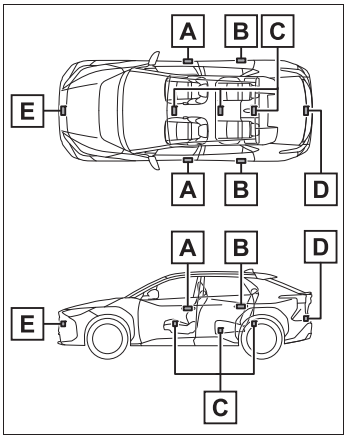
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.164）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.169）
- EV システムを始動する（→P.221）

知識

■アンテナの位置



A 車外アンテナ（フロント）

B 車外アンテナ（リヤ）★

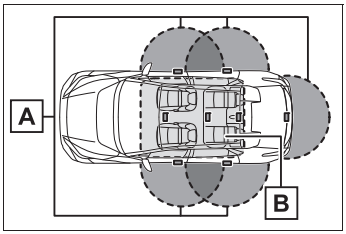
C 車室内アンテナ

D 車外アンテナ（バックドア）

E 室外アンテナ（リモート機能付きアドバンストパーク搭載車）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアハンドル、リヤドアハンドル（センサー装着車）またはバックドアオープナースイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのみ作動します）

B EV システム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
（→P.501）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

●車外から “ピー” と 5 秒間鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

●車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（ACC のとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “車室内にキーがあります” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンド

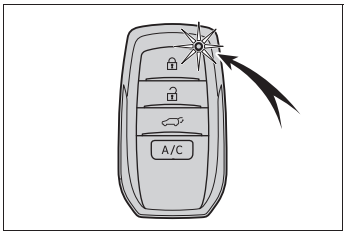
ルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を２回押し、電子キーのインジケーターが４回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.520）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・EV システム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた

●インストルメントパネル上面やドアポ

ケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、EV システムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）

・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.184）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能※についてご留意いただきたいこと

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.164）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあとに次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

・ブレーキペダルを踏む

・パワースイッチを押す

・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.164）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開ける
・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.164）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.164）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.184）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠ができないときは、次の方法を行ってください。
・電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
・ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。（→P.520）

なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.54）

●EV システムの始動ができないときは、次の方法を行ってください。（→P.521）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.538）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.164, 169, 520）

●EV システムの始動・パワースイッチの

モード切りかえ：→P.521

●EV システムの停止：→P.223

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.182）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

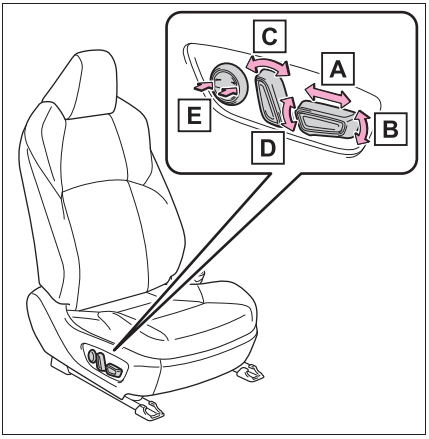
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。**（→P.27）**

調整するには

▶ パワーシート（運転席／助手席）



A 前後位置調整

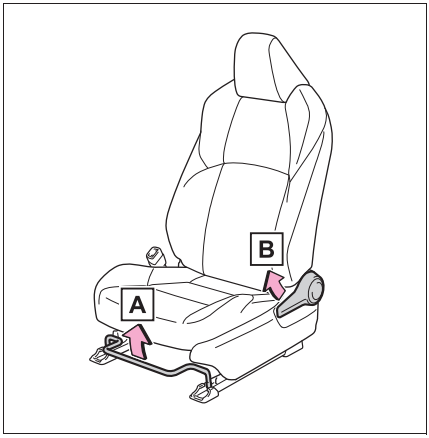
B クッション前端の上下調整

C リクライニング調整

D シート全体の上下調整

E 腰部調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

▶ マニュアルシート（助手席のみ）



A 前後位置調整

B リクライニング調整

知識

■シートを調整するときは

●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

●ヘッドレストが天井やサンバイザーなどにあたらないように注意してください。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

●マニュアルシート装着車：シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

警告

■リクライニング調整について

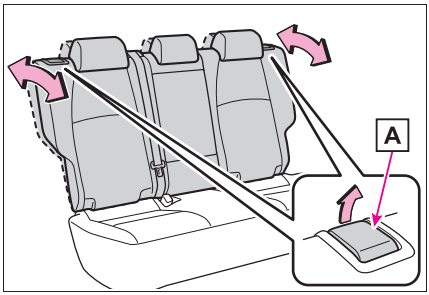
背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

レバーの操作で、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

リクライニング調整レバーAを引いて、背もたれを調整します。



警告

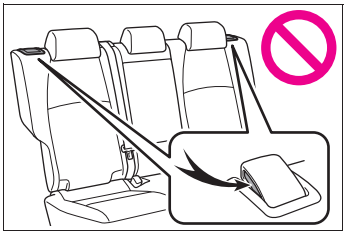
■背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートに当たらないようにしてください。
- シートのあいだや動いている部分に手を近づけないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。

警告

●シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。
背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



背もたれを倒すには

■ 操作する前に

1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。
(→P.225)

2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する
(→P.188)

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

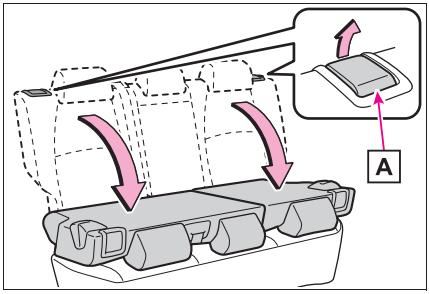
3 リヤシートのヘッドレストを下げる(→P.191)

4 リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する
(→P.430)

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

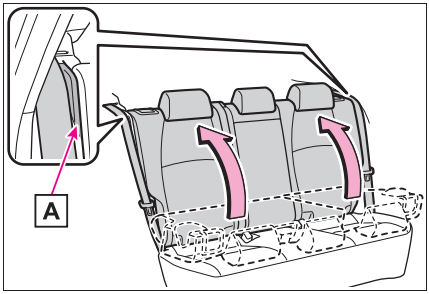
■ 背もたれを倒す

リクライニング調整レバーAを引きながら、背もたれを倒す



■ 背もたれをもとにもどすときは

シートベルトをシートベルトガイドAにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



警告

■背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に前倒しをしない

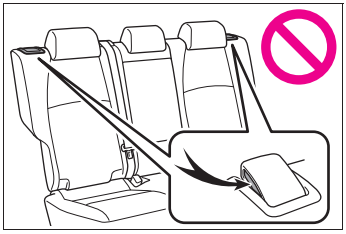
警告

- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

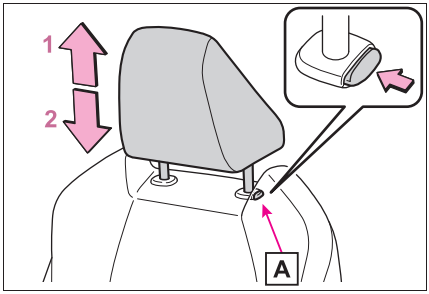
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

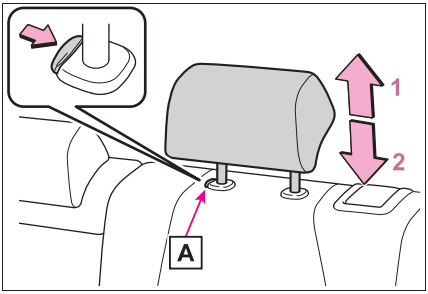
■ フロント席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ リヤ席



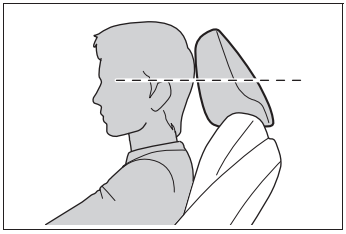
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

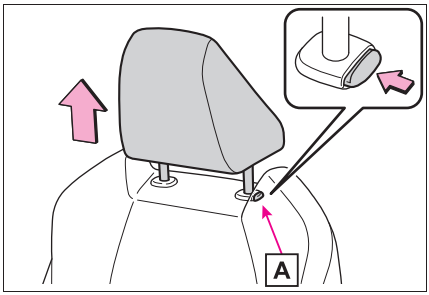
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

■ フロント席

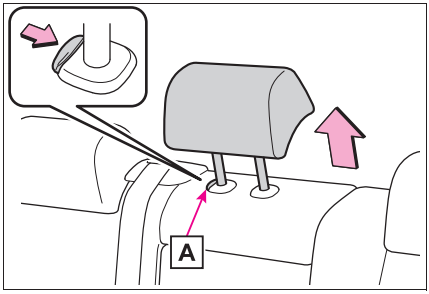
解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P.188）



■ リヤ中央席

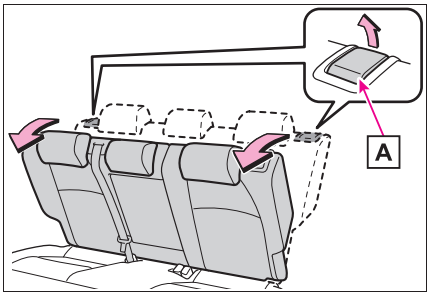
解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。



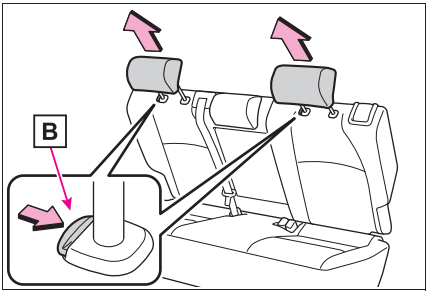
■ リヤ外側席

1 ロック解除レバーAを引きながら、背もたれを前方に倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタンBを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

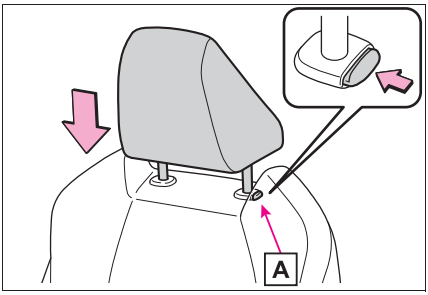


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

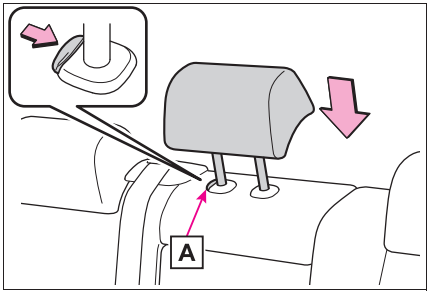
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



■ リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

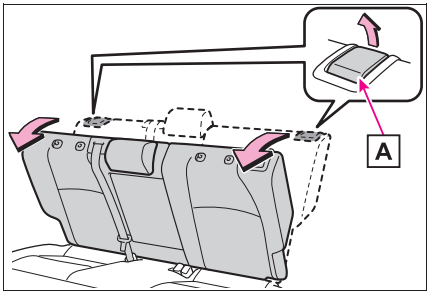
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



■ リヤ外側席

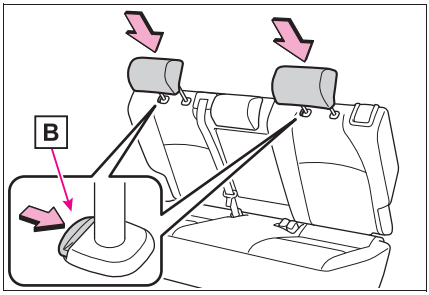
1 ロック解除レバーAを引きながら、背もたれを前に倒す

ヘッドレストを取り付けることができる位置まで前に倒してください。



2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

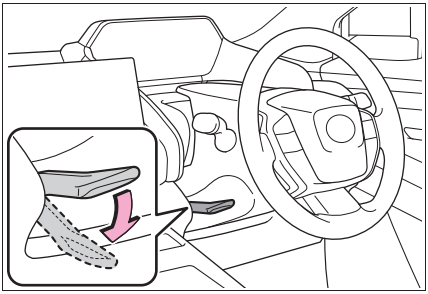
ヘッドレストを挿入するときは、解除ボタンBを押しながら挿入してください。



ハンドル

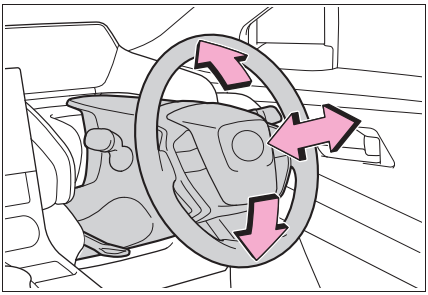
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

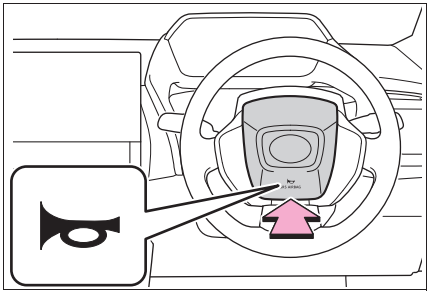
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



インナーミラー★

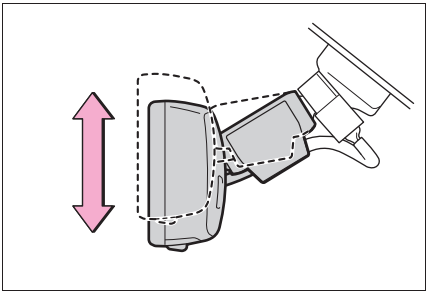
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能を使うには

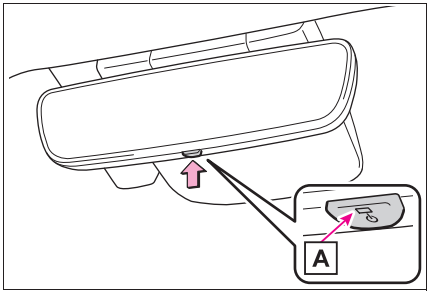
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター A が点灯します。

パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

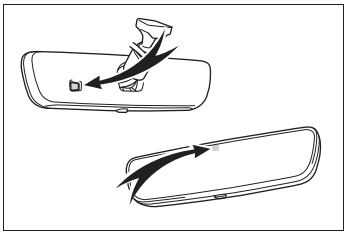
ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、光学ミラーからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

⚠ 警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

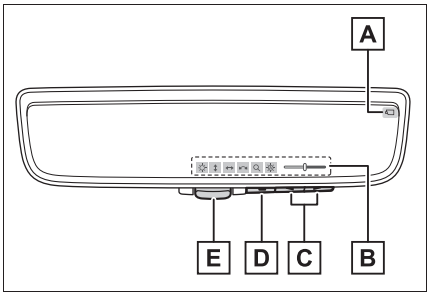
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.198）

・光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

システムの構成部品



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.198）・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

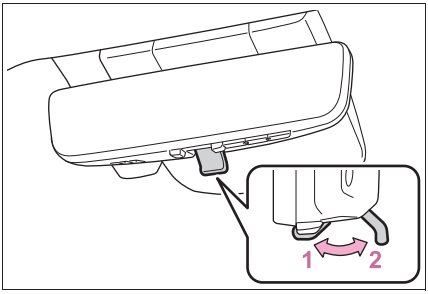
調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●カメラに水滴やホコリが付いているなどで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合は、デジタルインナーミラーカメラウォッシャー（→P.244）を作動させてください。それでも見えにくい場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

●バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、電動サンシェード★を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

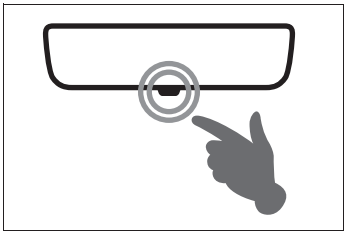
●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

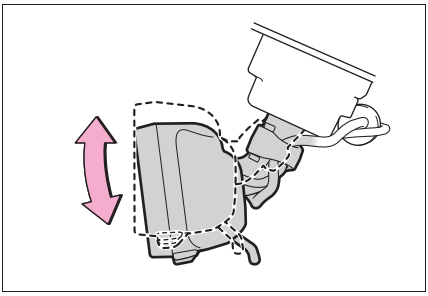


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

光学ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

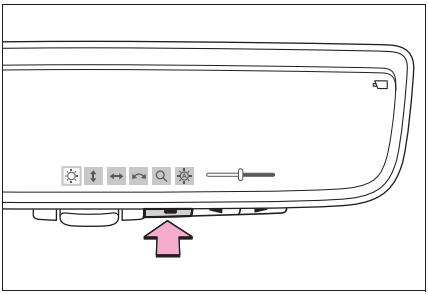


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON/OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 または を押して設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大・縮小することができます。
	自動防眩機能の ON/OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて鏡面の反射光を自動的に低減させます。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

※ 光学ミラーモード時の機能ですが、デジタルミラーモード時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON/OFF 切りかえ (光学ミラーモード)

光学ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。変更は、デジタルミラーモード時、光

学ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

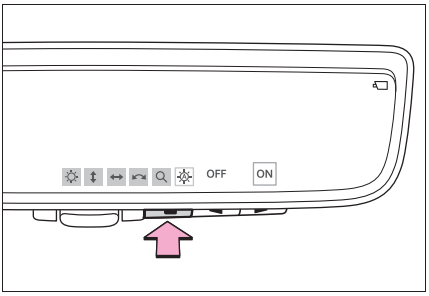
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.198

▶ 光学ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 ▬ または ▬ を押して、自動防眩機能の ON/OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンの表示が消えます。

知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

●約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

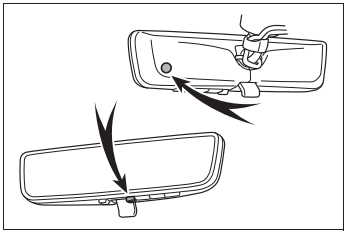
●ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

●ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。

●ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

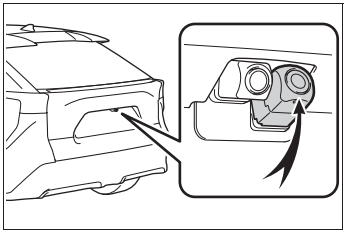
■ カメラのお手入れについて

カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な映像を見ることができません。この場合、デジタルインナーミラーカメラウォッシャーでカメラレンズの汚れを流してください。(→P.244)

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



■ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

●カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなることがありますので、周囲の状況に注意して運転してください。

●カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなることがあります。この場合、光学ミラーモードに切りかえてください。

●カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。

●カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し、分解、改造はしないでください。

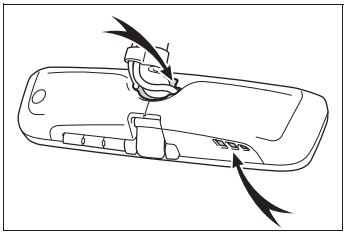
●ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。

●ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●デジタルインナーミラーの取りはずし・改造・分解・塗装などをしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

●ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な映像を見ることができなくなるおそれがあります。

・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	光学ミラーモードに切りかえてください。 （パノラマムーンルーフ★からの光があたっているときは、電動サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した	光学ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなど異物や汚れが付着している	・デジタルインナーミラーカメラウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。（→P.244） ・光学ミラーモードに切りかえてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

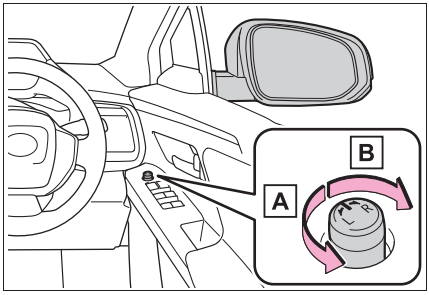
■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

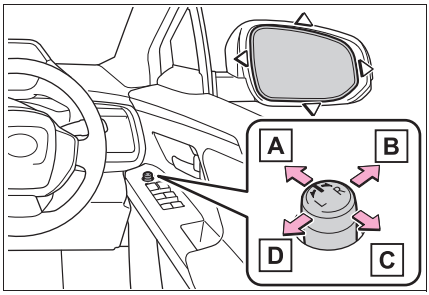
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき

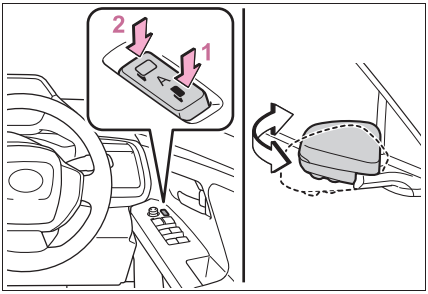
リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.399）

警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



1 格納する

2 もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.538）

警告

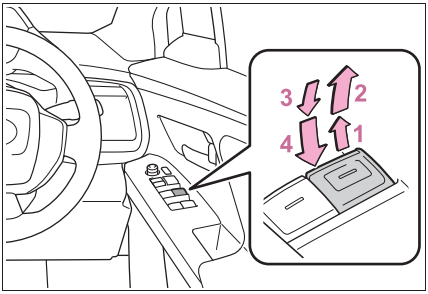
■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



1 閉める

2 自動全閉 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■EV システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.520）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.164）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.54）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.538）

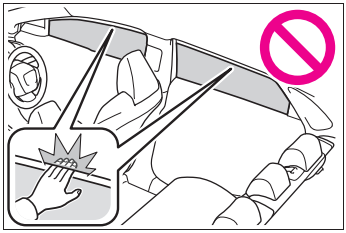
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.208）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

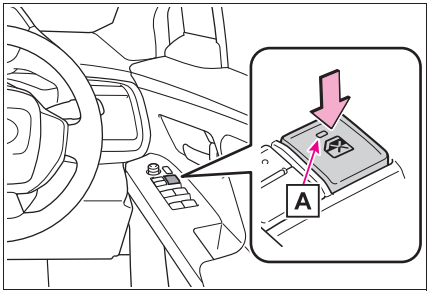
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

マイセッティング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。電子キーの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。

● デジタルキー★

スマートエントリー & スタートシステムがデジタルキーを検出することで個人を特定します。

● Bluetooth デバイス

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

電子キーを検出して個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● メーター表示 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● マルチメディアディスプレイで設定可能な車両設定 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

運転 5

5-1. 運転にあたって

運転にあたって 213
荷物を積むときの注意..... 219

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 221
シフトポジション 225
方向指示レバー 230
パーキングブレーキ..... 231
ブレーキホールド 234

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 237
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 240
フォグランプスイッチ..... 243
ワイパー＆ウォッシャー..... 244

5-4. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 設定車）.....247
Toyota Safety Sense.....249
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....255
LTA（レーントレーシングアシスト）.....264
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....268
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....273
発進遅れ告知機能.....278
RSA（ロードサインアシスト）280
レーダークルーズコントロール283
クルーズコントロール 291
ドライバー異常時対応システム294
BSM（ブラインドスポットモニター）.....296
後方車両接近告知.....302
周辺車両接近時サポート（通報提案機能）.....304
後方車両への接近警報 307
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）.....309
安心降車アシスト.....311
クリアランスソナー 315
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....323
RCD（リヤカメラディテクション）.....328
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....331
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）.....336

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 339
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 340
トヨタチームメイト アドバンストパーク..... 342
スノーモード..... 375
X-MODE..... 375
運転を補助する装置..... 380
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 386

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転..... 391

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ 乗車前の確認事項

充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する（→P.90, 98）

■ EV システムを始動する

→P.221

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.231）

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.232）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P.231）

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.225）

■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.231）

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します

3 シフトポジションを P にする（→P.225）

シフトポジション表示灯が P であることを確認します。

4 パワースイッチを押して EV システムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.231）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.231）

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。（→P.380）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■EV システム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■カスタマイズ機能

後退速度の抑制制御の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.541）

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

警告

●通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.486 を参照してください。

●急な下り坂では、回生ブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.229)

●マルチインフォメーションディスプレイに “回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください” が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。(→P.502)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車：
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作による回生ブレーキで車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトポジションを N にすると、EV システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

警告

●アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

警告

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、EV システムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■仮眠するとき

必ず EV システムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき（4WD 車）

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EV システム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

注意

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.507 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●電装品がショートする

●水の侵入による駆動用電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●トランスミッションフルードなどの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

●駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■事故にあったとき

駆動用電池や周辺部品が損傷すると、誤作動の原因になる可能性があります。軽度の事故であっても、トヨタ販売店で点検を受けてください。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、EV システム出力を抑制することがあります。

・ R に切りかえたとき ※
・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように EV システム出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “速度抑制中” が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.381）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.381）
また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。
・X-MODE★の DEEP SNOW・MUD モードを選択しているとき

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.541）
・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

警告

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・メーターの前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレール★を使用するときは

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長、全幅）をこえる荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

●荷物がバックドアやアンテナにあたらないことを確認してください。

●ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

●75kg 以上の荷物を積まないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■荷物を積むとき（パノラマムーンルーフ、またはソーラールーフ装着車）

パノラマムーンルーフ、またはソーラールーフに荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、EV システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

EV システムを始動するには

1 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する（→P.90, 98）

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.231）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、EV システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、EV システムを始動できません。EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.225）

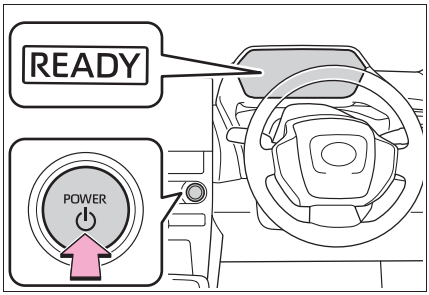
4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでも EV システムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポートをご使用の方は、P.386 も併せて参照してください。

知識

■パワースイッチ照明

次のとき、パワースイッチ照明が点灯します。

- 運転席ドアまたは助手席ドアが開いているとき
- パワースイッチが ACC または ON のとき
- パワースイッチを ACC または ON から OFF にしたとき

また、次のときはパワースイッチ照明が点滅します。

- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏んだとき

■EV システムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.53）トヨタ販売店へご連絡ください。
- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、EV システムを始動することはできません。（→P.87）

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●スマートエントリ&スタートシステムが正常に作動していない場合があります。（→P.184）

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.521 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.167）は EV システムを始動できます。

■外気温が低いときは

●EV システム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－30 ℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■電気自動車特有の音と振動について

→P.60

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.522 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.158

■電子キーが正常に働かないとき

→P.184

■ご留意いただきたいこと

→P.184

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■EV システムに異常があるときは

→P.64

■電池キーの電池交換

→P.477

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえや EV システムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.520 を参照してください

警告

■EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV システムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→P.231）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.225）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

EV システムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

知識

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても ACC になることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動Pポジション切りかえ機能について

→P.227

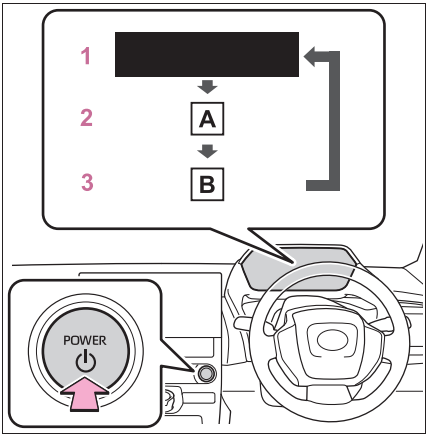
警告

■緊急時の EV システム停止方法

- 走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.486）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A “アクセサリー”

B “パワー ON”

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。

メーターに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに “パワー ON” が表示されます。

※ マルチメディア画面のカスタマイズメニューから有無を切りかえることができます。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上 ACC か 20 分以上 ON（EV システムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- EV システム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトポジション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または EV システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行

知識

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→P.524

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作を行わないでください。横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

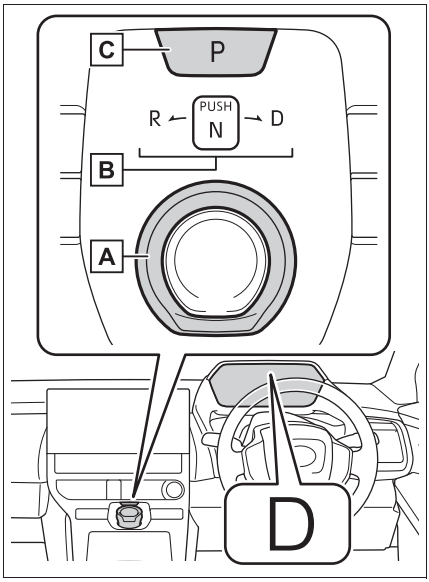
注意

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.501）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A ダイヤル式シフト

ダイヤル式シフトは、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、ダイヤル式シフ

トを押したまま、しばらく保持します。

R または D に切りかえるときは、ダイヤル式シフトを押したまま、シフトポジション表示灯の矢印に従って左または右に回してください。

ダイヤル式シフトを操作したあとは、ダイヤル式シフトから手を離してください。ダイヤル式シフトが定位置にもどります。

P から N・D・R、および N・D・R から P へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

ダイヤル式シフト表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

ダイヤル式シフトを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READYインジケーターが点滅しているときは、ダイヤル式シフトを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度ダイヤル式シフトを操作してください。

■Pから他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、ダイヤル式シフトを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにダイヤル式シフトを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、P からダイヤル式シフトを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からダイヤル式シフトを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からダイヤル式シフトを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からダイヤル式シフトを操作したとき
- 走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した低速走行時は D に切りかわることがあります。

■走行中に N を選択する場合

一定以上の速度で走行中に N を選択する場合、ダイヤル式シフトを N の位置で保持してください。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

●シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・パワースイッチが ON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、ダイヤル式シフトを操作してください。

●走行中に EV システムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.522 を参照してください。

警告

■ダイヤル式シフトについて

●ダイヤル式シフトのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。ダイヤル式シフトが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はダイヤル式シフトにふれないでください。

■P ポジションスイッチについて

●車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

注意

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをNに保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションがPに切りかわるまでの間、自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをNに保持することができます。

1 EVシステムが始動しているときにダイヤル式シフトを操作し、シフトポジションをNに切りかえる
2 ダイヤル式シフトを定位置にもどす
3 ダイヤル式シフトをNの位置に操作しブザーが鳴るまで保持する
4 ブザーが鳴ったあと、5秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションがNのままEVシステムが停止します。※
ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“N保持中 解除するにはPスイッチを押してください”が表示されたことを必ず確認してください。

● シフトポジションをN以外にするには、Pポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションをPに切りかえてください

● 必ずEVシステムが始動している状態で操作してください。
EVシステム停止状態では、シフトポジションをNに保持できない場合があります。

※この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションがPに切りかわったあと、パワースイッチがOFFになります。

走行モードの選択

■ X-MODE

→P.375

エコモードの選択

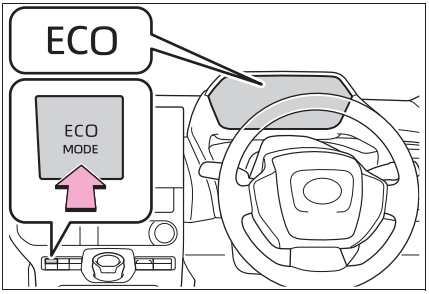
車両駆動力を抑え、電費を向上させる走行に適しています。

エコモードに切りかえるときは、スイッチを押す。

エコモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。

エコモードがONの状態は、パワースイッチをOFFにしても記憶されています。



知識

■エコモードの自動解除について

エコモードは、スノーモードまたはX-MODE を選択すると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

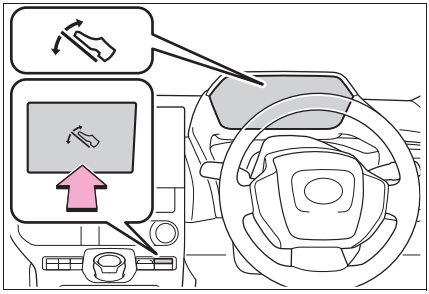
■エコモードが使用できないとき

X-MODE を選択しているとき、エコモードに切りかえできません。★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

回生ブーストスイッチ

アクセルペダルの操作のみで加減速コントロールを行い、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。アクセルペダルを離したときの減速度が従来の車より強いため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくり緩めることで、なめらかに減速することができます。



回生ブーストスイッチを押すと、アクセルペダルを離したときの回生ブレーキ力が通常よりも強い状態になります。

知識

■回生ブーストが使用できないとき

次の場合は、システムが作動しません。

●X-MODE が作動しているとき★

●ブレーキシステムまたは、EV システムが故障しているとき

●回生ブレーキが制限されているとき

次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。

・電気モーターやパワーコントロールユニットの温度が極端に高いとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■回生ブレーキについて

●アクセルペダルを離しても車を停止させることはできません。停車時はブレーキペダルを踏んでください。

●一度パワースイッチをOFF してからEVシステムを再始動すると、回生ブーストは OFF になります。

●高速走行時は、通常の車にくらべて回生ブレーキによる減速感が小さくなります。

●車速によって最大減速度は変わります。

●電池の状態で、回生ブレーキ力が変わる場合があります。

駆動用電池の充電量が多いときや、駆動用電池の温度が低いときには、回生ブレーキ力が弱くなることがあります。

パワーメーター内のチャージエリアの大きさ、回生制限表示にて、制限を確認することができます。（→P.149）回生ブレーキによる減速感が小さいと感じたときは、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。

●マルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されたときは、回生ブーストは使用できません。減速する時は、ブレーキをしっかり踏んで減速してください。

・“XMODE 中のため回生ブーストに切替えできません”
・“回生ブースト使用できません 減速時はブレーキを踏んでください”
・“回生ブースト使用できません 取扱書を確認してください”

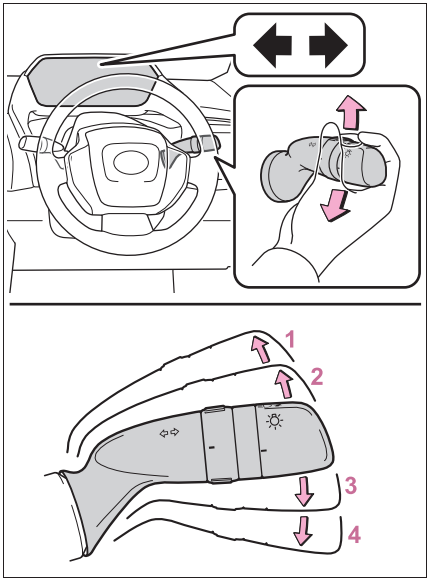
■ストップランプの点灯について

回生ブレーキ力が一定以上の場合、ストップランプが点灯します。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

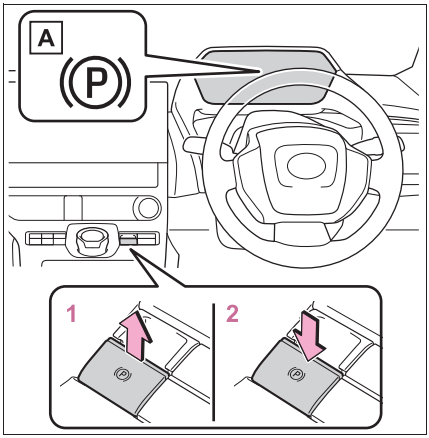
パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、ダイヤル式シフトの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブ

レーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。（→P.232）

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→P.494）

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● ダイヤル式シフトをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● ダイヤル式シフトをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ダイヤル式シフトは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。（→P.231）

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっている

●運転席シートベルトを着用している

●ダイヤル式シフトが前進もしくは後退の位置にある

●ブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではダイヤル式シフトを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席ドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●ダイヤル式シフトがPもしくはN以外の位置にある

（アドバンストパーク作動中はダイヤル式シフトが P のみ。）

●ブレーキ警告灯が消灯している

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください」と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.233

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.494

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.392

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

警告

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、ダイヤル式シフトを P にし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。（→P.522）

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

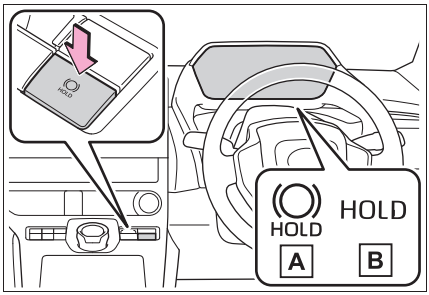
ブレーキホールド

シフトポジションが D または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、「EPB 動作が途中で停止しました」や「EPB 故障　販売店で点検して

ください」が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.231）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.496

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

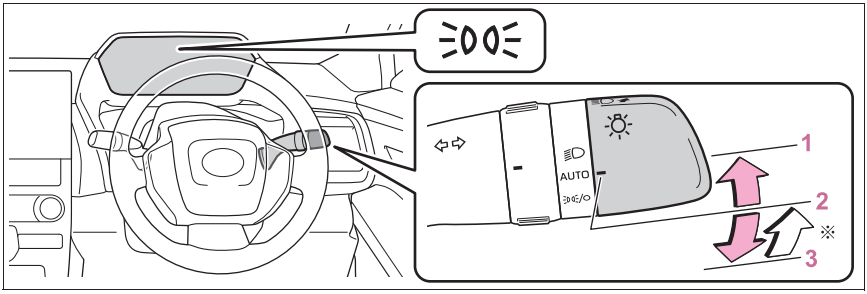
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように☼スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 ≡DO≡/O の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 ≡D	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ※1	LED デイライト（→P.238）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ≡DO≡/O ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

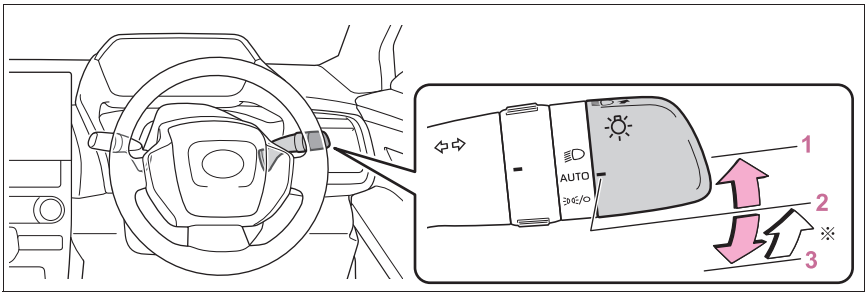
※1 操作するたびに、2 AUTO による点灯状態と 3 ≡DO≡/O による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2 AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト（→P.238）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■LED デイライト機能

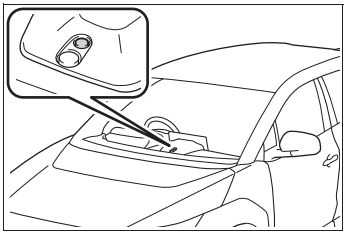
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、EV システム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから/または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

■カスタマイズ機能

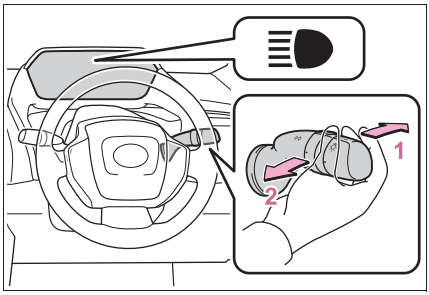
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.539）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.249

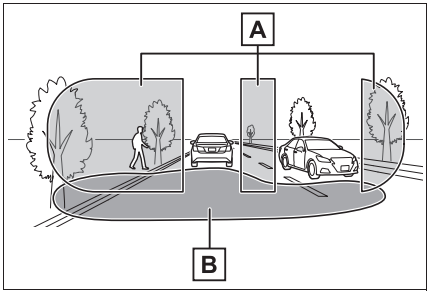
システムの制御

● 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。

● カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。

● 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



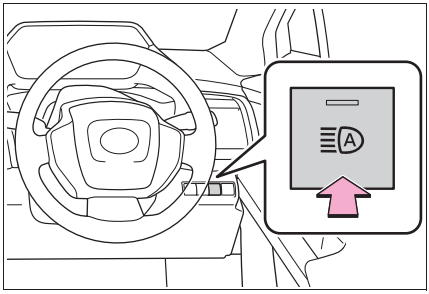
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

● 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

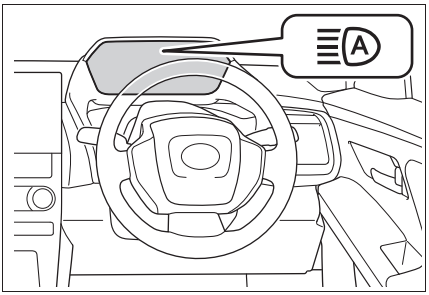


2 ランプスイッチを または

AUTOの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.249
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.539）

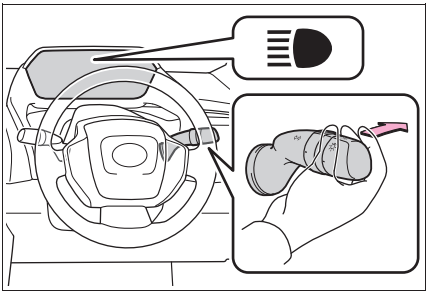
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

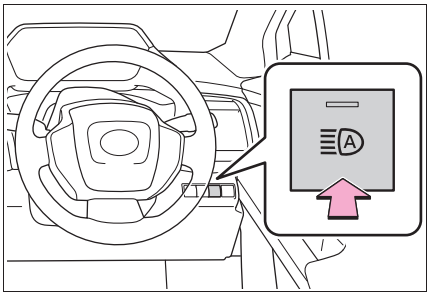


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

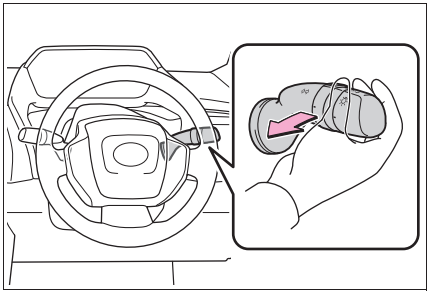


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。

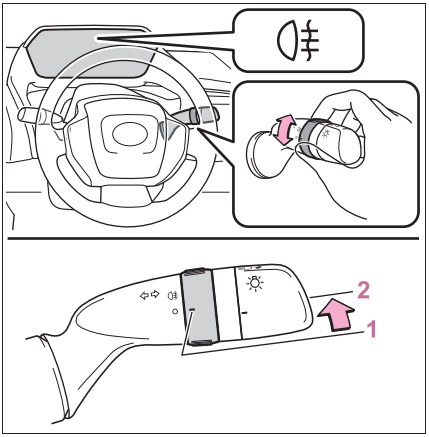


フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下では、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



1 ○ 消灯する

2 リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプが消灯します。

知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているときは**

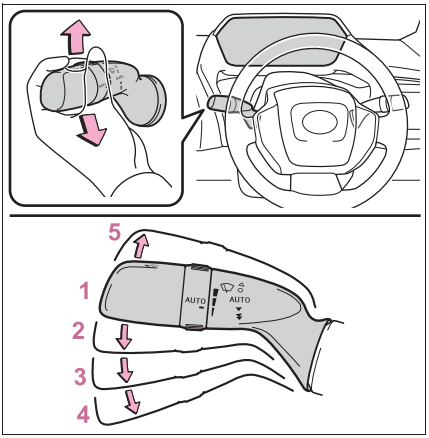
ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のようにレバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



1 ○ 停止

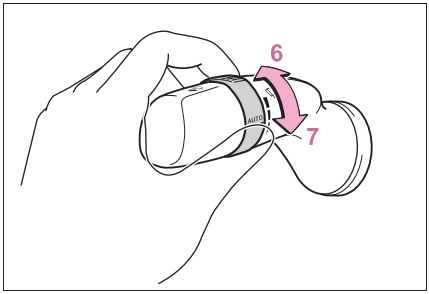
2 AUTO AUTO モード

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

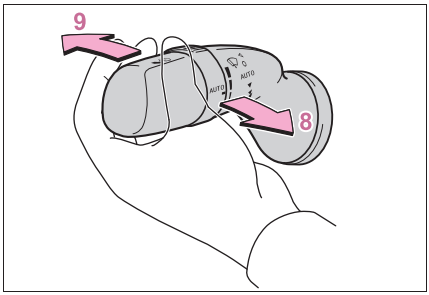
5 △ 一時作動

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）

9 ★ウォッシャー液を出す（デジタルインナーミラーカメラ）

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動して、デジタルインナーミラーのカメラを洗浄します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- ●ワイパーを 1 回のみ作動
- ●フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

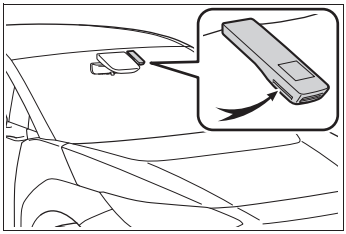
■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■雨滴感知センサー

- ●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- ●パワースイッチがONのときにワイパースイッチを AUTO にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- ●雨滴感知センサーの温度が 85 ℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO 以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパー停止機能

シフトポジションが P の状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

⚠警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

警告

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 設定車）

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

●Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱書での記載内容について

本取扱書では、Ver.2 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

納車後にソフトウェア更新がされた場合は、ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

●お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。

●T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

納車後にソフトウェア更新をされた場合には、システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディア画面でバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

1 メインメニューの ⚙ にタッチします。

2 “運転支援アップデート” にタッチします。

■ 自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法を読む

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

https://manual.toyota.jp/safetysu/

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディア画面に通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ソフトウェアアップデートについて留意事項

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※

・法規上の問題が発生したとき ※

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

●ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク

●ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

警告

●事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）

→P.240

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.255

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.264

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.268

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.273

■ 発進遅れ告知機能

→P.278

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.280

■ レーダークルーズコントロール

→P.283

■ クルーズコントロール

→P.291

■ ドライバ異常時対応システム

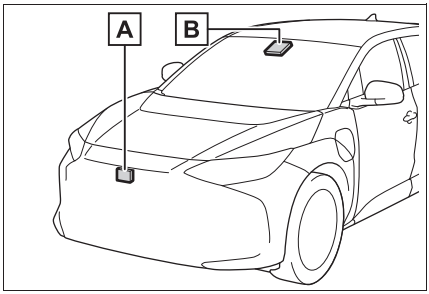
→P.294

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

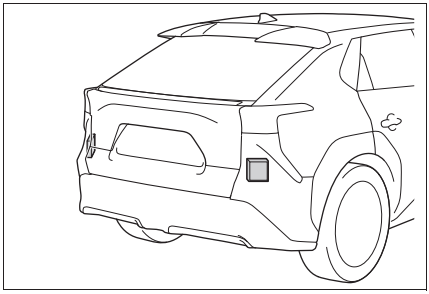
▶ フロント



A 前方レーダー

B 前方カメラ

▶ リヤ（後側方レーダー）



警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

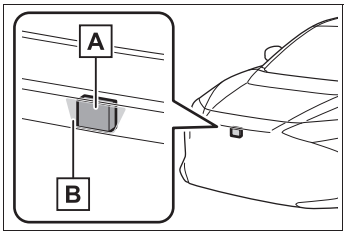
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパー・フロントグリルを交換したとき

■ヒーター機能付レーダー専用カバーについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

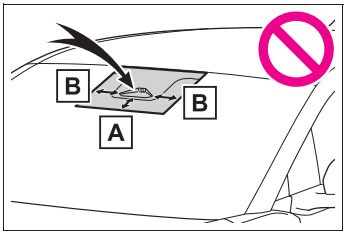
・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

■センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

●車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

●フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

●外気温が高温または低温のとき

●センサー前面に泥・雨滴・雪・虫・ゴミなどが付着したとき

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

●前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

●夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光・反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

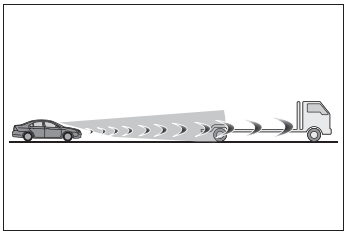
●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
・トンネル
・トラス橋
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

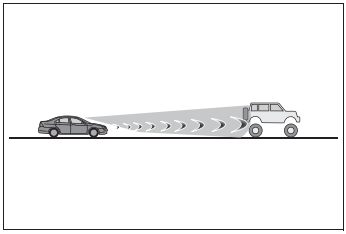
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ・ステアリング等の関連システムに異常を検出したとき

●VSC・TRC 等の安全システムが作動したとき

●VSC･TRC 等の安全システムが OFF になったとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.255）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.263）

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・安全にお使いいただくために：→P.249

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき:→P.249

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両

● 自転車 ※

● 歩行者

● 自動二輪車 ※

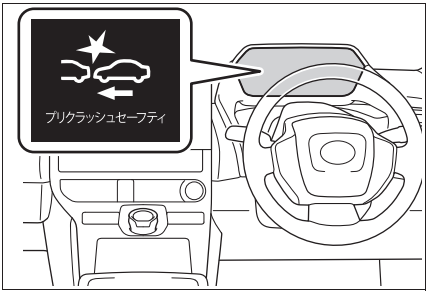
※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

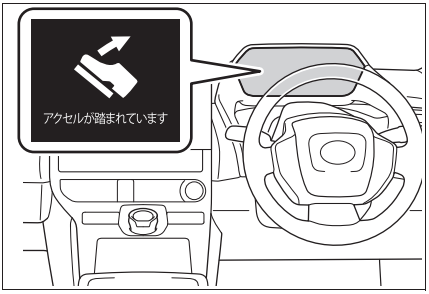
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告も行います。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ **プリクラッシュブレーキアシスト**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ **プリクラッシュブレーキ**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

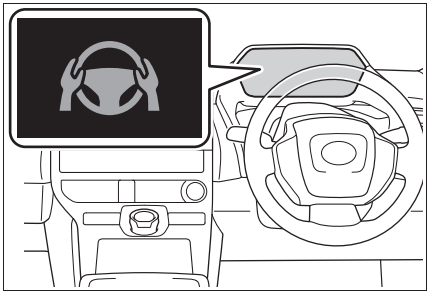
■ **緊急時操舵支援**

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

アクティブ操舵機能設定車：運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

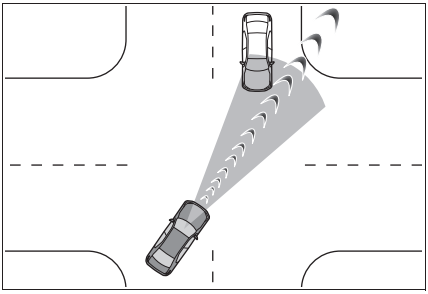
作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。



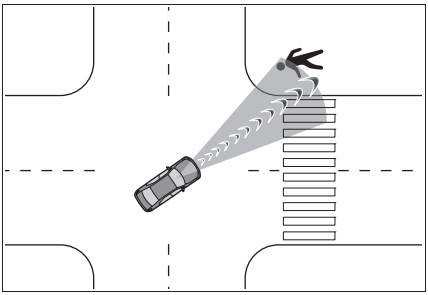
■ **交差点衝突回避支援（右左折）**

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき

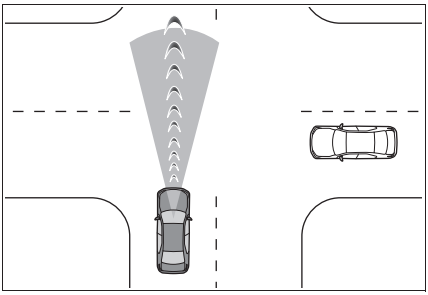


● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者や、自転車を検出したとき



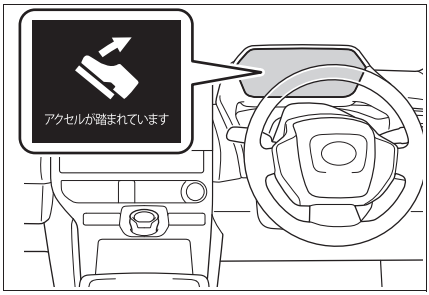
■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、EVシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

● プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

● プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

● プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

警告

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 180 km/h
対向車両	約 30 ～ 180 km/h	約 80 ～ 220 km/h
自転車	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
歩行者	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 80 km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 30 ～ 180 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180 km/h	約 10 ～ 180 km/h
自転車	約 30 ～ 80 km/h	約 30 ～ 80 km/h
歩行者	約 30 ～ 80 km/h	約 30 ～ 80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 10 ～ 80 km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 180 km/h
対向車両	約 30 ～ 180 km/h	約 80 ～ 220 km/h
自転車	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
歩行者	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h

作動対象	自車速度	相対速度
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 80 km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 30 ～ 180 km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80 km/h	約 40 ～ 80 km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h
歩行者	約 5 ～ 30 km/h	—	約 5 ～ 40 km/h
自転車	約 5 ～ 30 km/h	—	約 5 ～ 50 km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60 km/h	・自車速度以下 ・約 40 km/h 以下	約 5 ～ 60 km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車	約 0 ～ 15 km/h	約 0 ～ 15 km/h

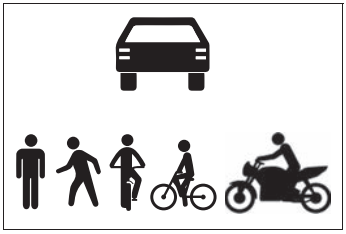
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

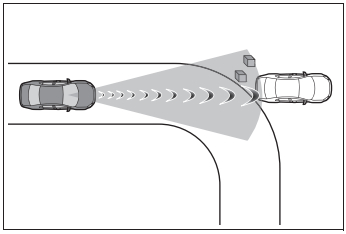
・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき

・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき

・ 作動対象などに急接近したとき

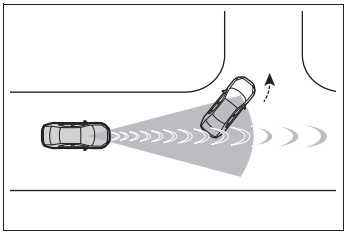
・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき

・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

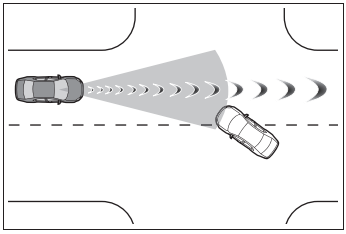


・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



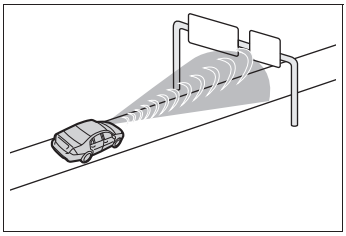
・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



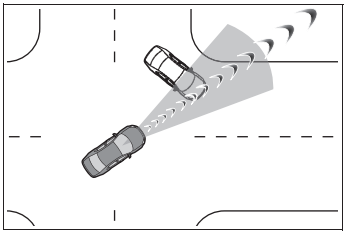
・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき

・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）

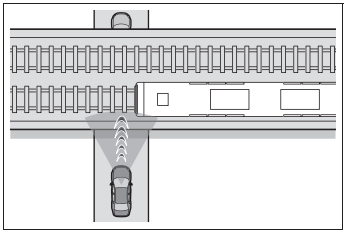
がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



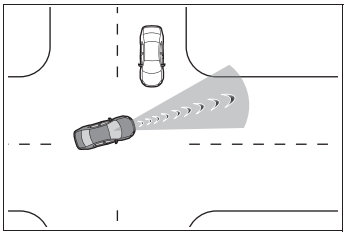
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路上方／下方を移動するものがあるとき



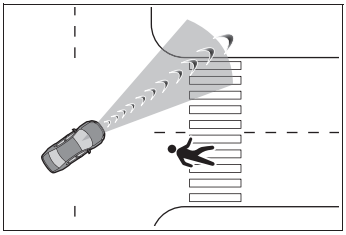
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき (急ハンドル・急加速・急減速など)
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車の移動速度が速いとき

・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

● 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.540）

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。（→P.540）

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

● レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が “早い” のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

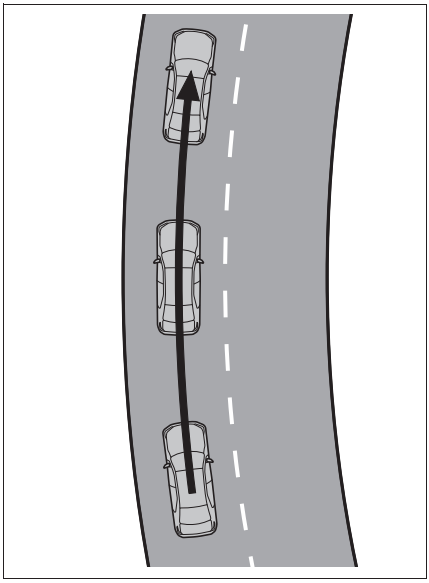
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車・周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

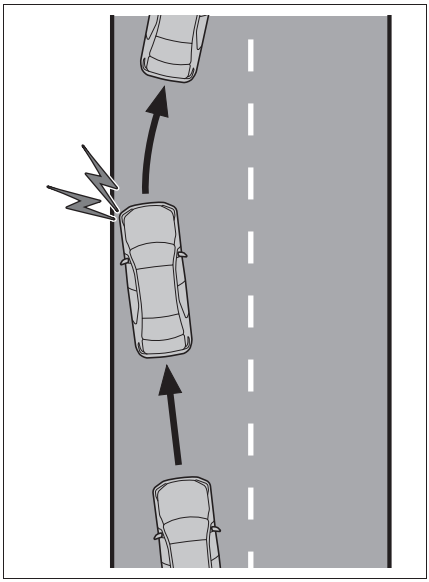
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●システムが車線を認識しているとき、または先行車・周辺車の軌跡を認識しているとき

●レーダークルーズコントロールが作動しているとき

●車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●急カーブを走行していないとき

●一定以上の加減速がないとき

●大きな操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.265）が行われていないとき

●車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件（→P.265）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

●手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

続いたときも同様に注意喚起が行われます。

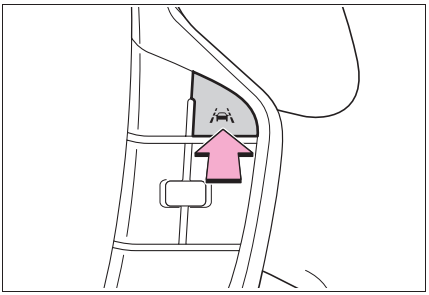
■**手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき**

車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

システムの ON/OFF を変更する

LTA の ON/OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

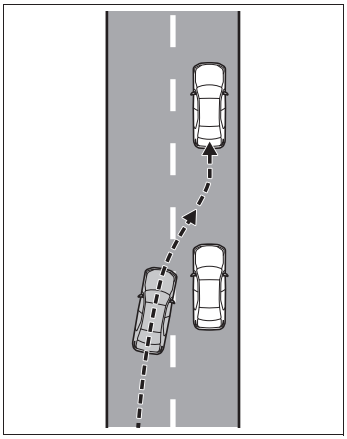


警告

■**機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車・周辺車が車線変更したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車・周辺車がふらついたとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車・周辺車が車線から逸脱したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車・周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき （移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253

警告

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.254
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.249

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
白色	灰色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	緑色	LTA が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

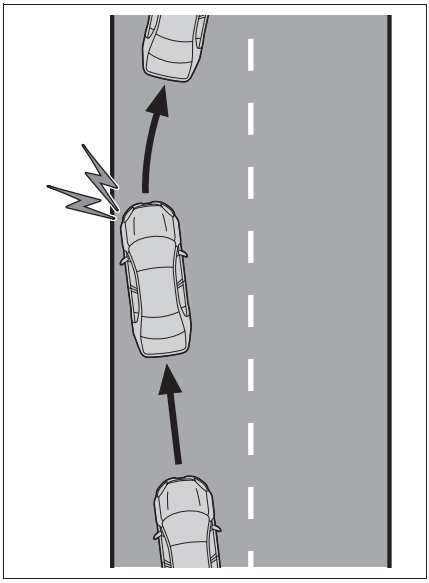
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



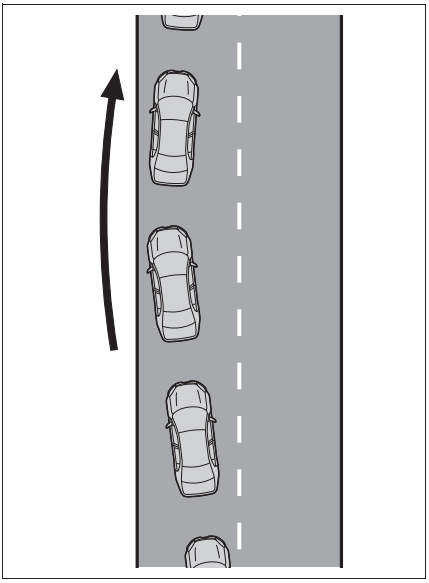
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

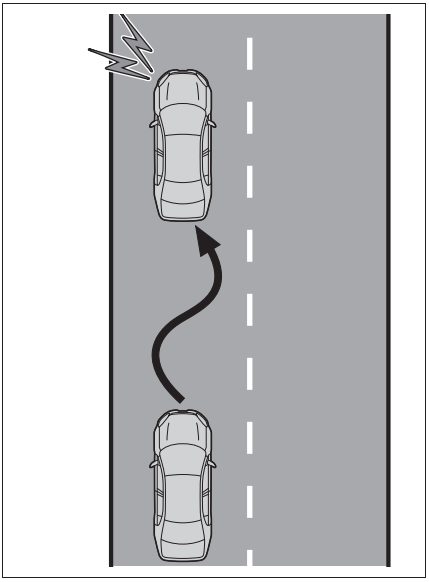
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



警告

■LDA をお使いになる前に

●LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

・車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にした時）

・システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・VSC または TRC を OFF にしていない

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.269）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.540）

● カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。（→P.540）

警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.254
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.249

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
OFF 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	白色	消灯	システムが車線を認識している
黄色点滅	黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
緑色	緑色	緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.274）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

●プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.275）

●プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

●わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.249

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

状況	作動内容	作動対象
道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。
・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・PCS が OFF のとき
・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.254
・シフトポジションが P、R または N のとき

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。
・車速が約 15km/h 以下のとき
・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。
・運転支援装置によるブレーキ制御、出

力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.254

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁・柵・ポール・工事用コーン・ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道・轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換・急加速・急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

●作動対象が複数重なっているとき

●作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

●作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

●作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき

●作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

●横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき

●駐車車両が横向き、斜め向きのとき

●子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）

●歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき

●歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）

警告

- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、 作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動 / 非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.541）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.541）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
 	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしていると

システムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青に替った後、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき

●車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

●道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合

●歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合

●交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合

●日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON/OFF を変更する

● 発進遅れ告知機能の作動/非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.541）

発進遅れ告知機能の設定を変更する

● カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.541）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

システムを OFF にする必要があるとき：→P.249

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253

ディスプレイ表示機能

● 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行して

いるとき

●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき

●工事などの通行規制区間に標識があるとき

●標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

●ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

・最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・一定以上の減速がないとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・一定以上のハンドル操作をしていないとき
・先行車がいないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

・右左折等により標識が検知できないとき
・信号機が矢印信号のとき
・信号機が点滅信号のとき
・信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
・ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・停止線に対し信号機が遠くにあるとき

・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

● 車の仕様によっては、表示される標識が一か所に重複する場合があります。

	重複表示の例

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.541）

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.288

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

警告

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

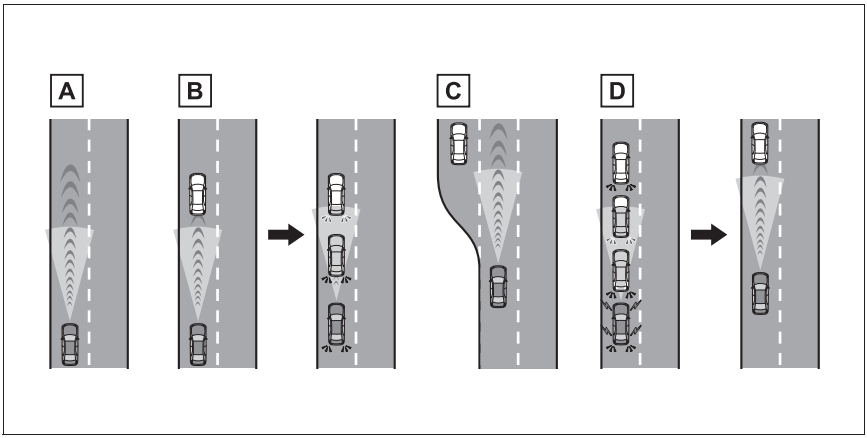
●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.253

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.249

基本機能



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行一追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

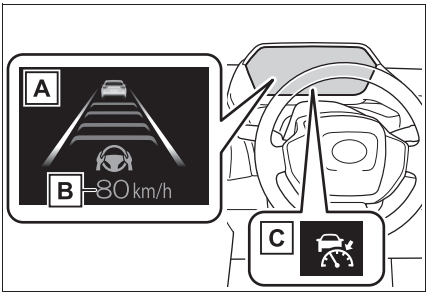
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

システムの構成部品

■ メーター表示

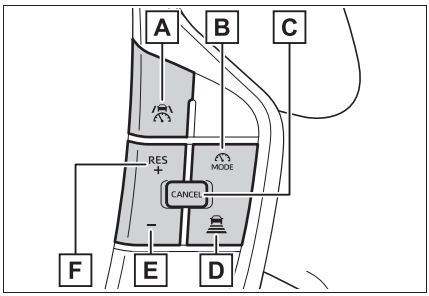


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C キャンセルスイッチ

D 車間距離切りかえスイッチ

E “-” スイッチ

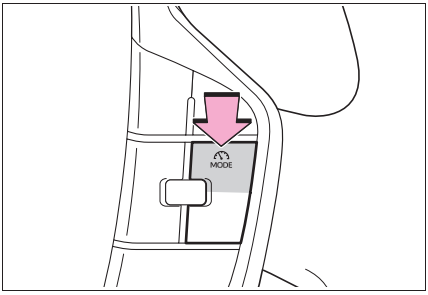
F “+” スイッチ、“RES” スイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズコントロールを選択します。

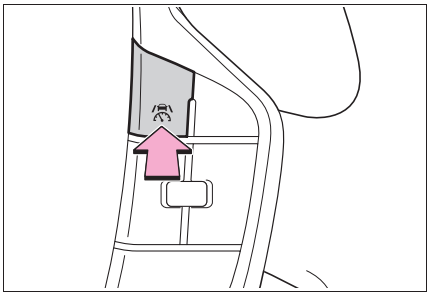
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

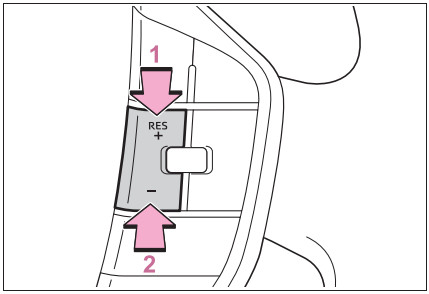
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

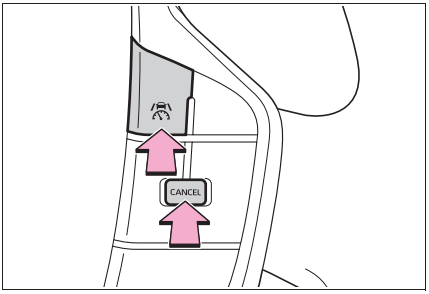
カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

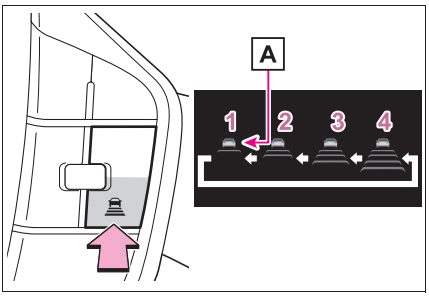
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/h の場合）
1	短	約 30m
2	中	約 45m
3	長	約 60m
4	最長	約 70m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

・車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。

・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.254

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.249

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.288）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけたとき

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

● 先行車が極端な低速走行をしているとき

● 速度を設定した直後

● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■ **カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況**

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

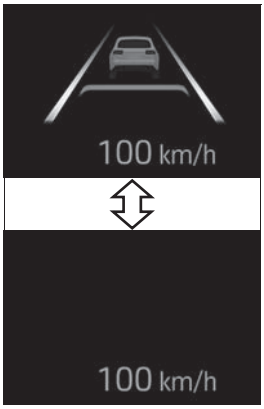
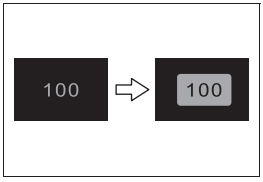
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。(→P.540)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

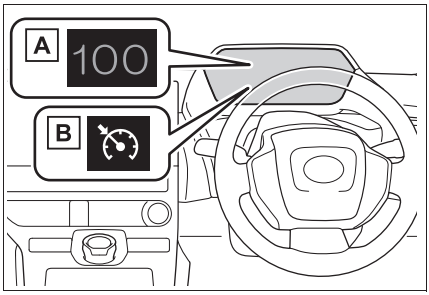
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.249

システムの構成部品

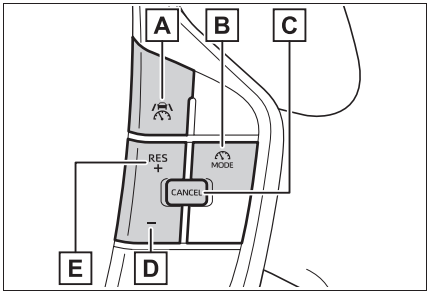
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C キャンセルスイッチ

D “-” スイッチ

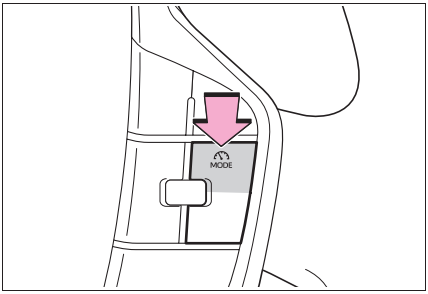
E “+” スイッチ、“RES” スイッチ

クルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

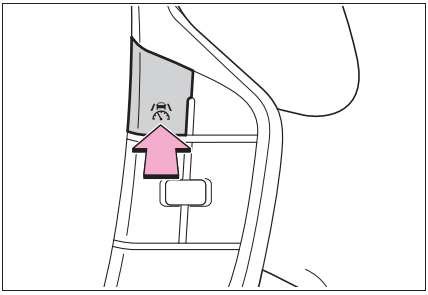
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

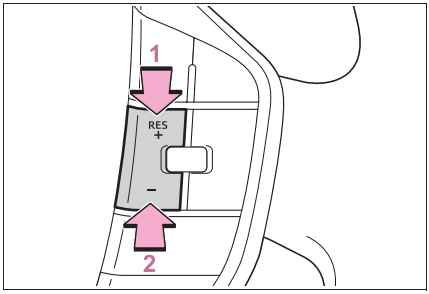
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

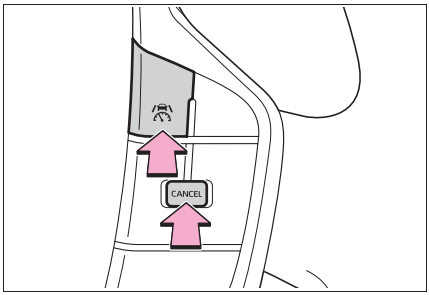
大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

知識

■クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.254

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーション		状態
白色		なし	クルーズコントロール OFF
緑色	100 km/h	設定速度：緑色	定速走行
緑色	100 ⇨ 100	設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは４つの状態に分けられます。「警告１フェーズ」、「警告２フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき

●自車速が約 50km/h 以上

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●パワースイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.254

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

異常状態から復帰するまでオーディオのミュート (消音）が継続します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊

急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていても EV システムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

●LTA

警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

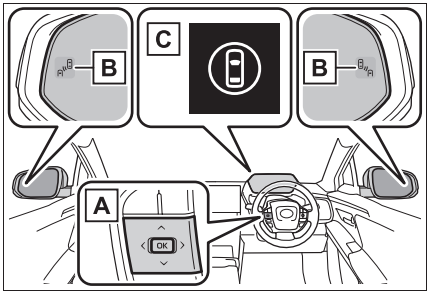
警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.145）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.542）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSF078

C5-001

警告

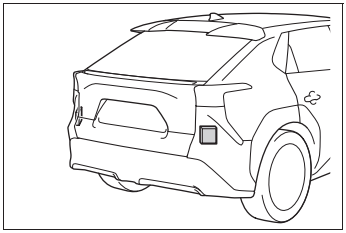
■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.300）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談下さい。

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.542）

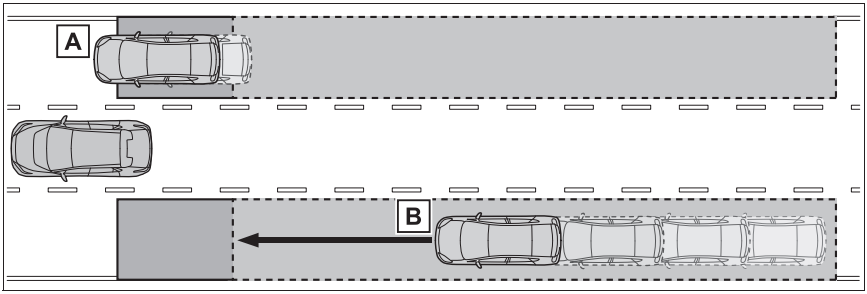
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.145）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

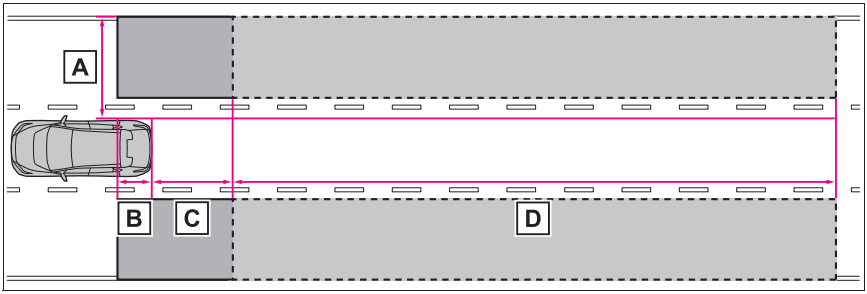


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※2

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※3

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車が追い越される場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

※3自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細についてはP.268 を参照してください。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●ブラインドスポットモニターがONのとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 10km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

●方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき

●大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき ※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

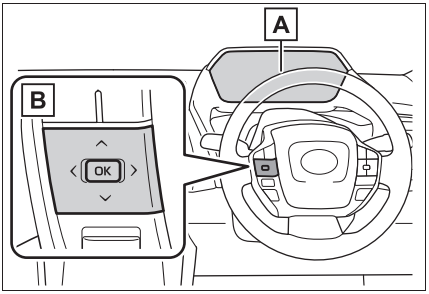
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.297

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B メーター操作スイッチ

後方車両接近告知の ON/OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON/OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.542）

知識

■ブザー音の聞こえ方について

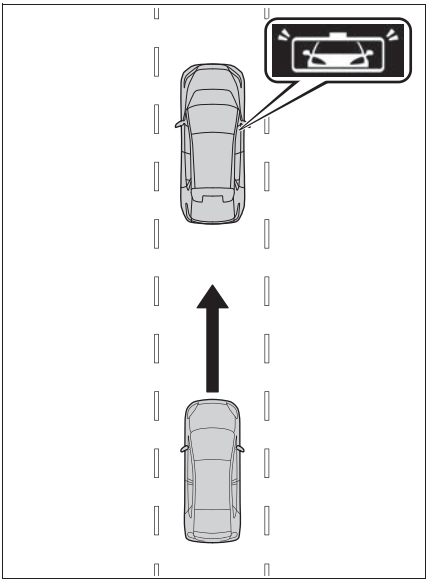
大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.542）

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



知識

■後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●後方車両接近告知が ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 60km/h 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●前回作動から約5分以上経過していること

■センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
・後続車が自車から離れていくとき
・後続車が自車を追い越そうとしているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接

近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート（通報提案機能）

周辺車両接近時サポートは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

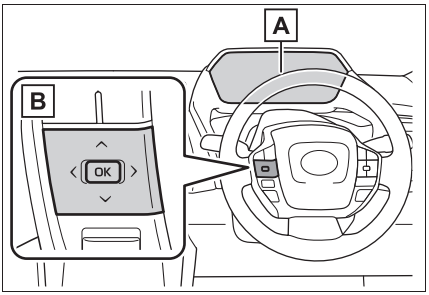
周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.297

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B メーター操作スイッチ

周辺車両接近時サポートの ON/OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON/OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.542)

知識

■音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイで“YES”を選択してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

知識

■周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●周辺車両接近時サポートが ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 60km/h 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●前回作動から約 10 分以上経過していること

■通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●携帯電話がマルチメディアと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

●携帯電話の電波が圏外でないとき

●携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ヘルプネット接続提案の作動条件

●通報提案がされていないとき

●ヘルプネットの契約がされている

■センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。
後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

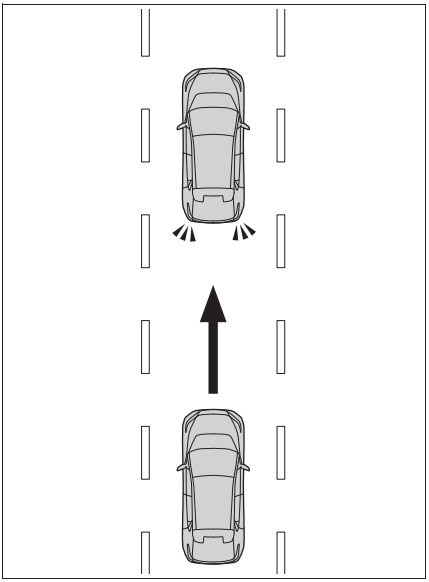
■システムを正しく作動させるために

→P.297

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表

示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



知識

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

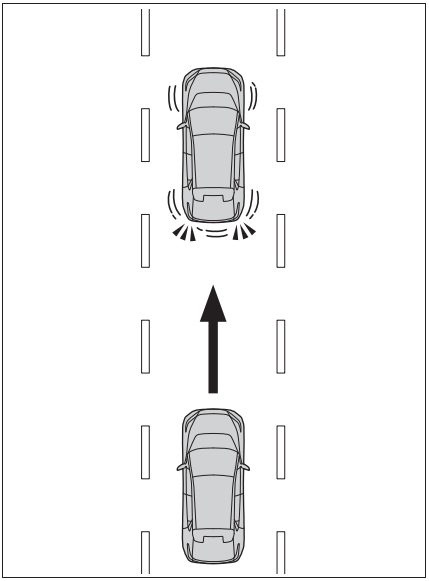
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.297

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき ※

●方向指示レバーを操作していないとき

●前回作動から約7分以上経過していること

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 0km/h のとき

※ シフトポジションが N のときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たま

りなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・けん引しているとき
・停車した直後に後方車両が接近したとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
・走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
・洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

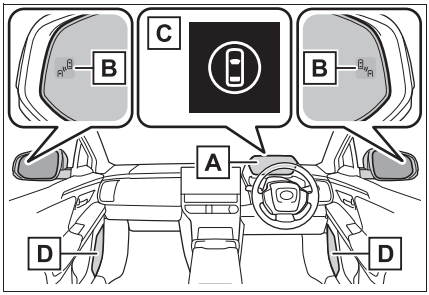
警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.145）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

D スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
- ドアを開いて乗車後、EV システムを始動する※まで
- EV システム停止後 3 分以上経過した場合
- マルチメディア画面の言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されている場合
- 外部より全ドアが施錠されている場合
- EV システム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続している場合
- マルチメディア画面の ACC カスタマイズ（→P.539）が ON となっている状態で、EV システムが停止されている場合
- マルチメディア画面の駐車支援音量設定が OFF となっている場合

※各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.542）

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.297

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.542）

安心降車アシストが OFF になる

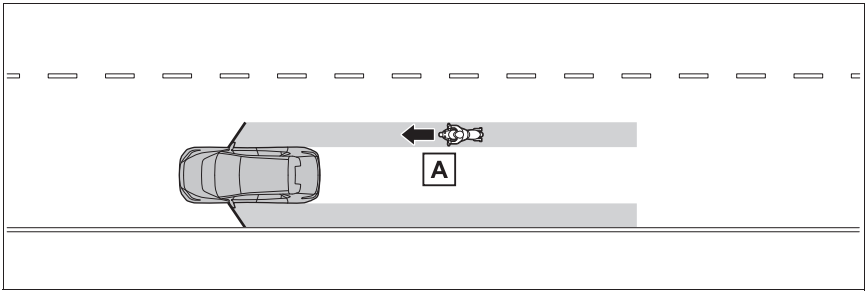
と、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

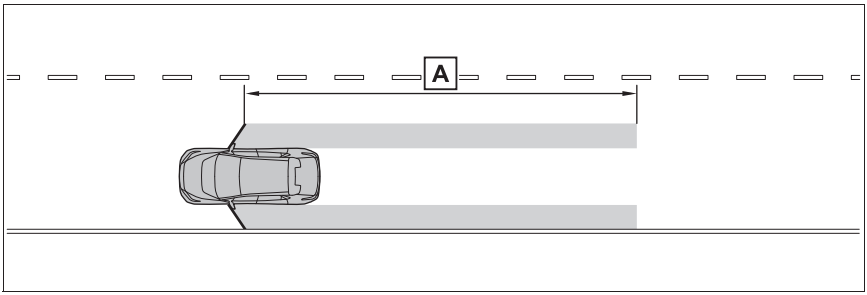
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき、EV システム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

●安心降車アシストが ON のとき

●停車中

●シフトポジションが R 以外のとき

■センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■システムが車両を検知しない条件

●安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

・接近する車両・自転車の速度が遅いとき ※

・ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車 ※

・真うしろから接近する車両・自転車 ※

・前方から接近する車両・自転車 ※

・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

・歩行者・動物など ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

●安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

・EV システム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）

・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車しているとき

・隣の駐車車両に後続する車両や自転車

・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車

・発進した直後の車両や自転車

・バックドアが開いているとき

・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき

・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき

・道路に対して傾いて停車しているとき

・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき

・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき

・車両や自転車が高速で接近するとき

・けん引しているとき

・急勾配の坂道に停車しているとき

・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

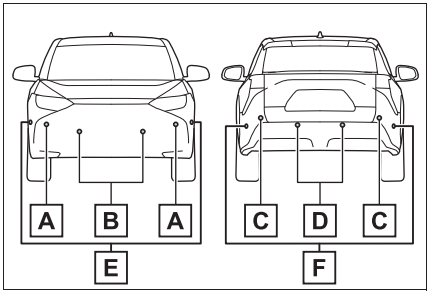
・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー

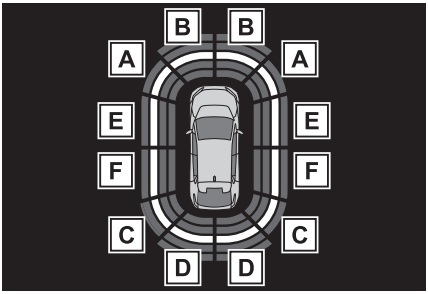
F リヤサイドセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディア画面に表示されます。

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は，静止物を検知しているときに、クリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

（→P.145）



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

E フロントサイドセンサー作動表示

F リヤサイドセンサー作動表示

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
（→P.543）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.145) が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー (→P.543) から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ただし、マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

またこのとき、クリアランスソナー機能の ON/OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

警告

- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき
- マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メータ故障時はブザーの音がならないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知でき

ない場合がありますので、常に目視で確認してください。

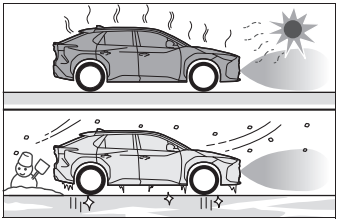
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

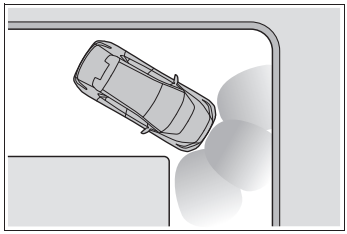
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチン

グ）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

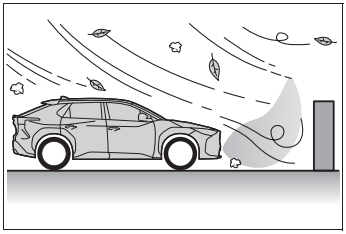
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

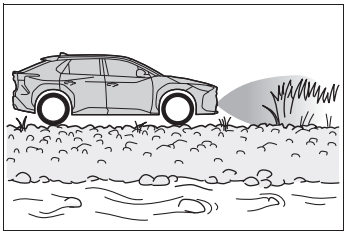
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

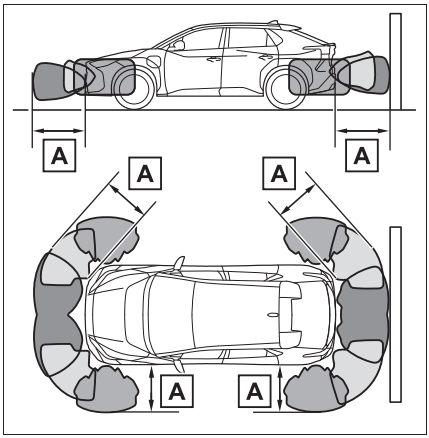


●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm サイドセンサー： 約 200cm ～ 165cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※ サイドセンサー： 約 165cm ～ 60cm※	断続音
サイドセンサー以外： 約 60cm ～ 45cm※ サイドセンサー： 約 60cm ～ 40cm※	速い断続音
サイドセンサー以外： 約 45cm ～ 30cm※ サイドセンサー： 約 40cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	継続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.321）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

知識

■ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.543）

■ブザー音の一時ミュート（消音）について

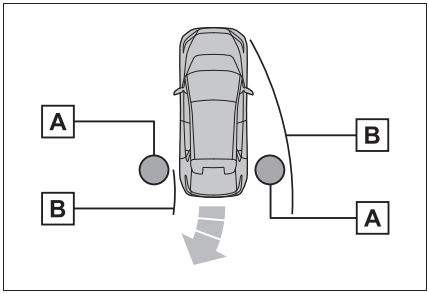
マルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

●次の時、自動でミュート（消音）が解除されます。
・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能

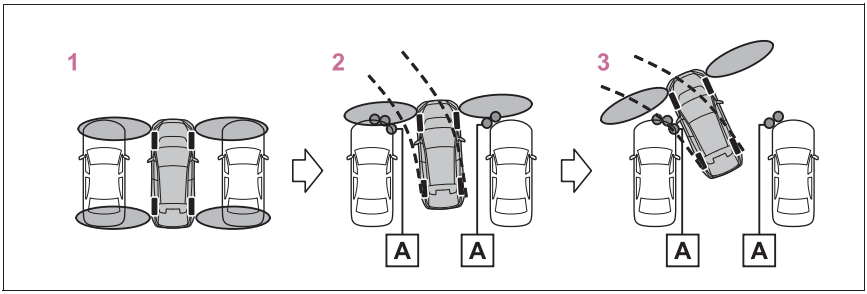
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状

態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

●EV システム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

●VIEWが押され、マルチメディア画面が表示されているとき

●フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

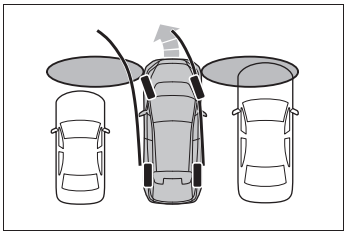
警告

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



●サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合

●サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は検知できません。

●サイドミラーが閉じられているときは、障害物を検知できません。

●補機バッテリーを脱着したときやあがったときはサイドミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

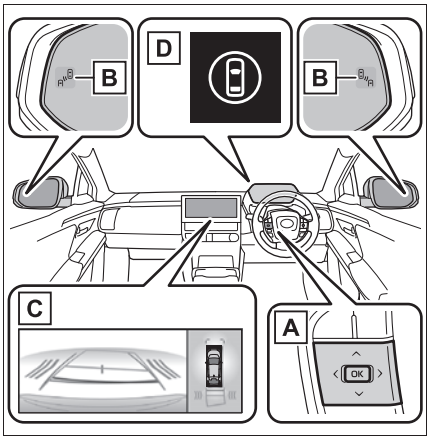
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.297

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター（→P.145）が点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.324）が点灯します。

イラスト※は両後方から車両が接近している例です。

※表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.543）

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.145）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

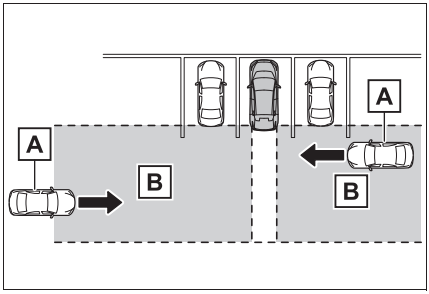
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.297

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



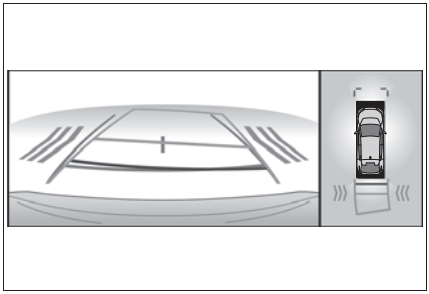
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

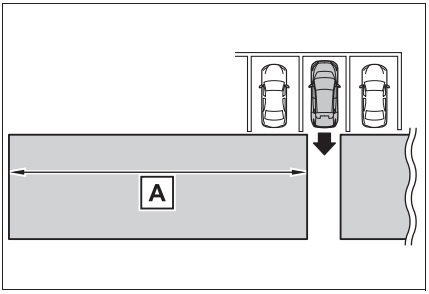
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切り換えることができます。（→P.543）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

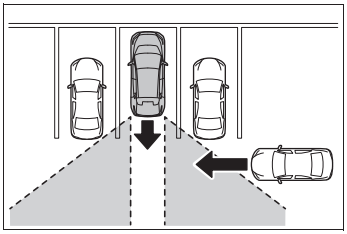
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

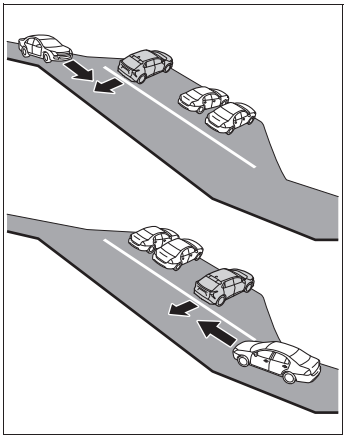
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

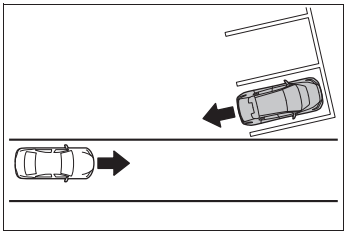
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、EV システムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき

●けん引しているとき

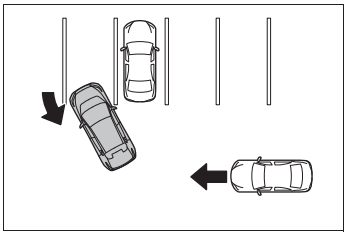
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

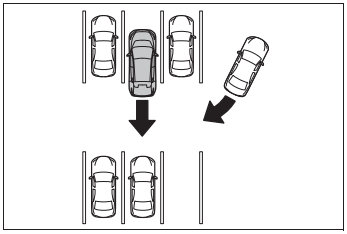
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



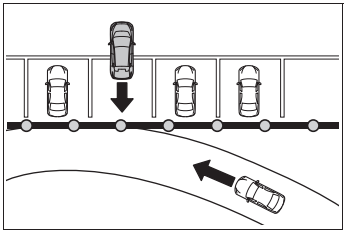
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



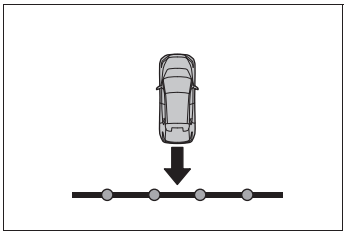
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

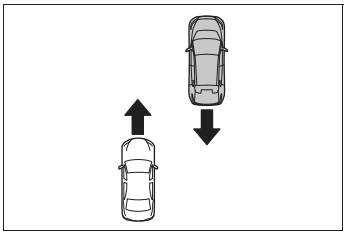


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

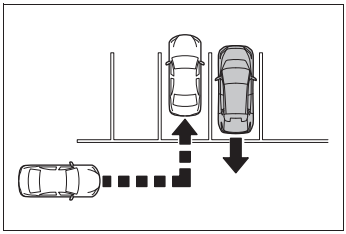


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

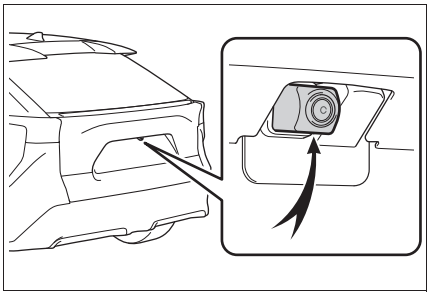
■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

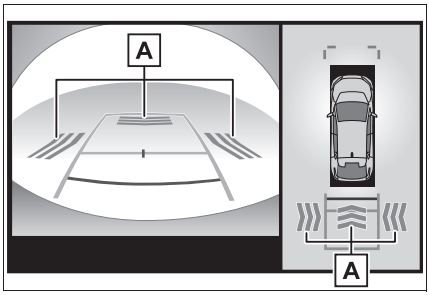
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

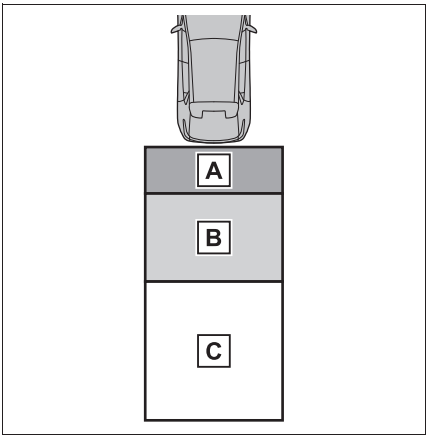
RCD の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.543）

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.145）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリアにいる場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がBエリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C Cエリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- アドバンストパークが作動中でないとき

■ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.543）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
・けん引しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の電波部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき

・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・けん引しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

● パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→P.336

● パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.339

● パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

→P.340

● パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）

→P.336

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。
センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキのON/OFFは、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.543）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）がOFFのとき、運転支援情報表示灯（→P.145）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.543）からON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（パワースイッチをOFFにしたあとで再度ONにしても、復帰しません）

EVシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

EVシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面およびマルチインフォメーショフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● EVシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● EVシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディス

プレイ表示：“アクセルが踏まれています　ブレーキを踏んでください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

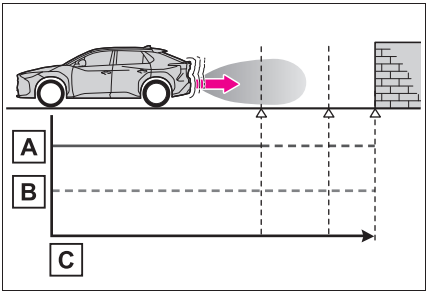
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、EV システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（EV システム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

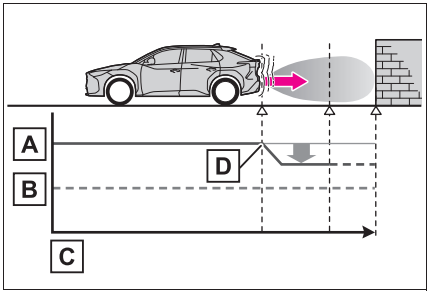


A EV システム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（EV システム出力抑制制御時）



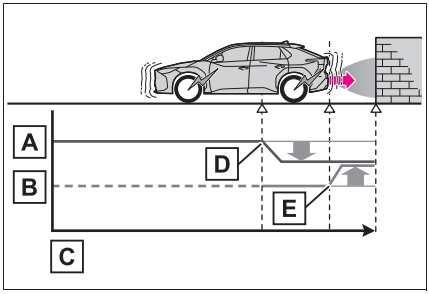
A EV システム出力

B 制動力

C 時間

D EV システム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（EV システム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A EV システム出力

B 制動力

C 時間

D EV システム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.145）

●シフトポジションを P にする

●進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する

●車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.316）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.333）、ブレーキ制御と EV システム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

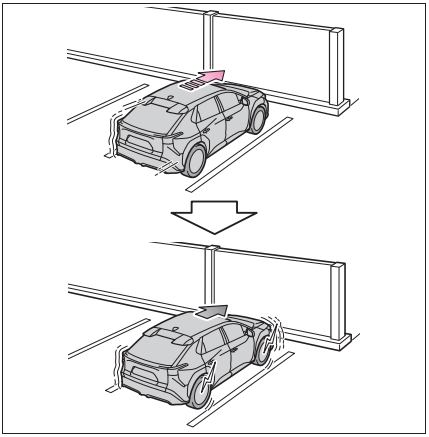
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

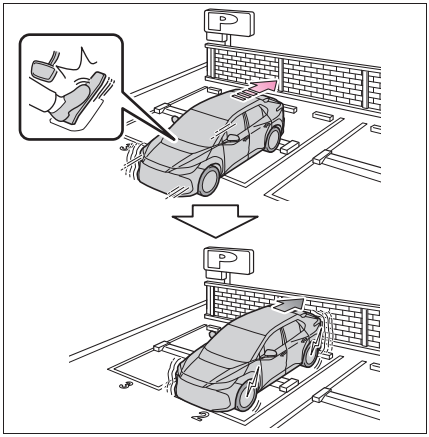
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

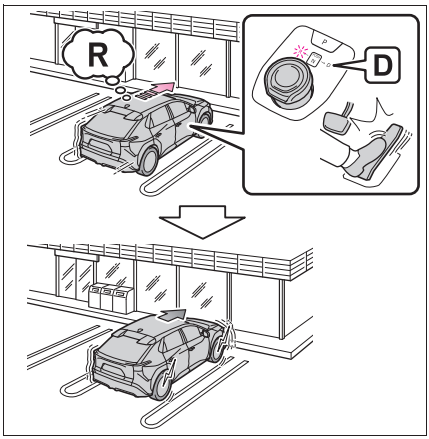
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ **アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき**



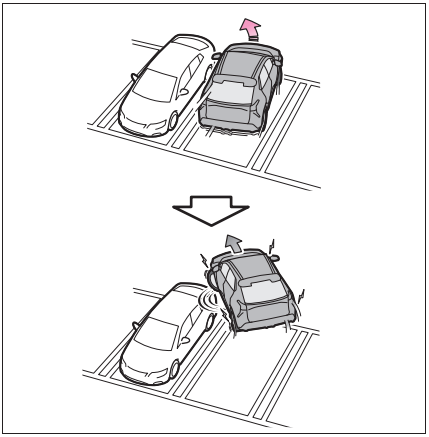
■ **誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき**



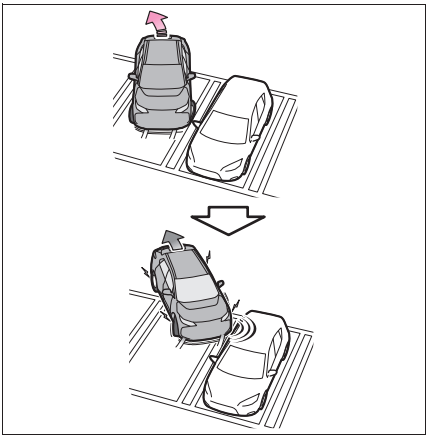
システム作動例（周囲静止物）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.315

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.316

■万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.335

■洗車時の注意

→P.317

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.144, 145）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●EV システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・EV システム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●EV システム始動後、車両が 7m 前進するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が 7m 前進するあいだ

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了

します。

●EV システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.319）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.318

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.318

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）

前後方静止物の作動条件（→P.337）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しない恐れがあります。

●縦列駐車時など側方の幅寄せする場合（→P.357）

■サイドエリアの静止物の検知について

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

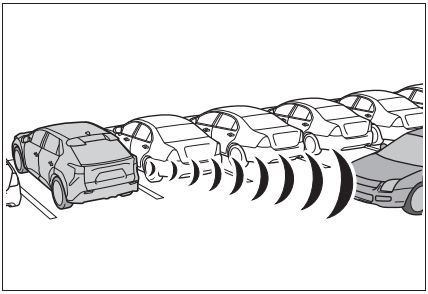
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.297

警告

■ **システムを正しく作動させるために**

→P.297

知識

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.144, 145）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●EV システム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- EV システム出力抑制制御作動中
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●EV システム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.326

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

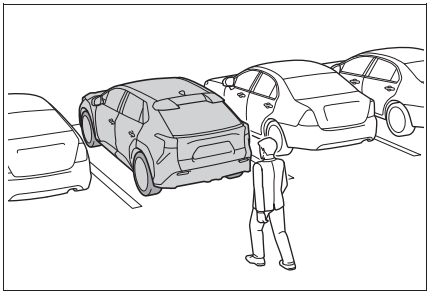
→P.327

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

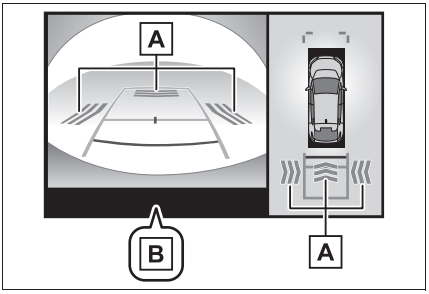
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディア画面上に表示され、回避操作を促します。



A 歩行者検知表示

B “ブレーキ！“

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.328

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.144, 145）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●EV システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・自車後方に歩行者がいるとき
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・EV システム出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●EV システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.335

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.329）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.330

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.330

トヨタチームメイト アドバンストパーク

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声・ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全・安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

アドバンストパークは、その地域の道路交通法及び規則に従ってご使用ください。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ リモート機能★

アドバンストパークのリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近へ

の駐車や出庫を補助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.369

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能一覧

■ 並列前向き・バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.352）

■ 並列前向き・バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.355）

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.357）

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.359）

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。（→P.361）

■ リモート機能★

車外からスマートフォンを操作することで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。（→P.366）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
  リモート機能を使用している場合は、アプリにより操作を中断し、車両を停車させてください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

警告

●次のようなもの・場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
リモート機能を使用している場合は、アプリにより操作を中断し、車両を停車させてください。

・細いもの（針金・フェンス・ロープ・ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板・自転車など）

・音波を吸収しやすいもの（綿・雪など）

・鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）

・背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）

・背が高く上部が張り出しているもの（梁など）

・地面に対し垂直でないもの

・障害物に対して斜めに接近する場合

●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

●周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
リモート機能を使用している場合は、アプリにより操作を中断し、車両を停車させてください。

●マルチメディア画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
リモート機能を使用している場合は、アプリにより操作を中断し、車両を停車させてください。

・作動中に運転席のドアが開けられたとき

・作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・作動中に故障が発生したとき

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

警告

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
リモート機能を使用している場合は、アプリにより操作を中断し、車両を停車させてください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地、砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜、段差、穴、側溝のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき

・車両周辺に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ・西日・影・雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき

・窓から手を出しているとき

・降雪や豪雨の場合

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

・タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

・けん引フック、バンパープロテクター、バンパートリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

警告

・区画線と認識してしまうようなもの（光・建物の映り込み・段差・側溝・路面ペイント・引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■リモート機能を使用するとき★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●リモート機能はアドバンストパークの関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法及び規則に従ってください。

●スマートフォンアプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。

●リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中はアプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。

●一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

●システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。

●ボンネットが閉じていることをご確認の上、ご使用ください。

●リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。

●リモート機能使用中はスマートフォンの連続操作をやめる（指を止める、指をはなすなど）ことで車両を停止することができます。また、アプリで電源ボタンをタッチすることや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。

●障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの連続操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止してください。

●スマートフォンの連続操作の動きを早くしたり遅くしても、車両が加速したり減速したりせず、システムで一定の速度となるように制御されます。

●スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。

●走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。

●車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。

●万一のときは電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。

●リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の Remote Park アプリが必要です。以下のシステムがサポートされています。

・Android™

警告

・Apple® iOS

●スマートフォンアプリへの車両登録時は車両と接続しているアプリをOFF にしてください。

●リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay 接続を OFF にしてください。

●駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

●リモート機能作動中は平坦で滑りにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。

●リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。

・アシストを中止する

・車両を停止する

・シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける

・パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）

・車両が施錠されたままになる

●リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。

●リモート機能使用中は、運転者は車両から約 3m 以上離れて立たないでください。それ以上離れると、リモート機能が中断され、メッセージがスマートフォン上に表示されます。車両に近づくとリモート機能を再開できます。

●周囲が暗い場合はヘッドライトを自動で点灯します。

●異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。

・ドアを開く

・非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過

●以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。

・EV システム始動中に、アシストモードを選択後

・パワースイッチが OFF のとき

注意

■アドバンストパークをお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

■リモート機能を使用するとき★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が 20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。

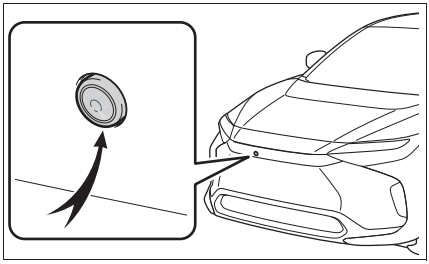
注意

- 使用前にスマートフォンのBluetooth 通信機能を ON にしてください。Bluetooth 機能 OFF の状態では、リモート機能をご利用いただけません。
- 使用中にスマートフォンのBluetooth 機能を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両とBluetooth 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合はリモート機能は中断します。3 分未満で Remote Park アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で Remote Park アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中にアプリを強制終了しないでください。強制終了した場合はアシストを中止します。
- 低温環境下では、補機バッテリー充電の為、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- 下り勾配では、平坦な道路に比べ走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。
- システム異常時には、シフトポジションが P またはパーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF してシステムを中止することがあります。その場合は、トヨタ販売店で点検を実施してください。
- システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い再開操作をしてください。
- リモートスタートが作動している場合はリモート機能が正常に作動しない場合があります。
- リモート機能終了時は法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結により、パーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

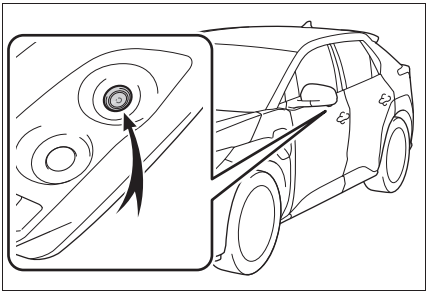
アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

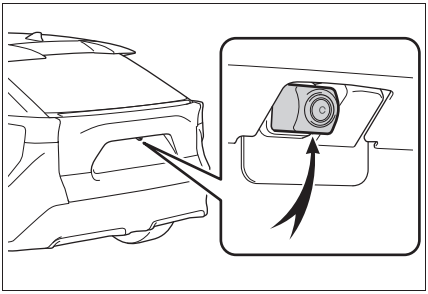
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.315

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき
・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて

光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■センサーの検知について

→P.317

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.317

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.318

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.318

警告

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。→P.316

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

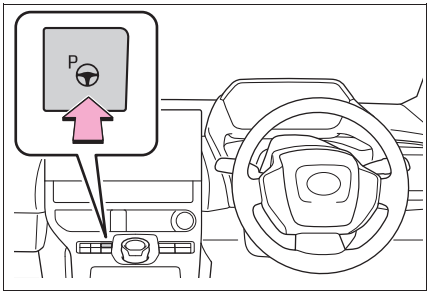
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

アドバンストパークのON/OFFを変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

●ブレーキペダルを踏んでいる

●停車している

●運転席シートベルトを着用している

●ハンドルを操作していない

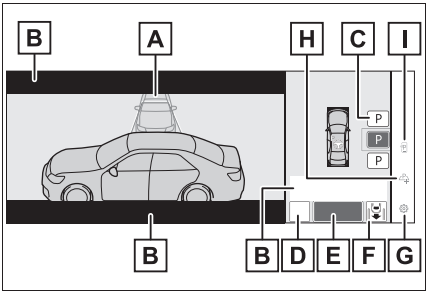
●アクセルペダルを踏んでいない
●ドアおよびバックドアが閉まっている
●ドアミラーが格納されていない
●パーキングブレーキがかかっていない
●レーダークルーズコントロールが作動していない
●ABS・VSC・TRC・PCS・PKSB が作動していない
●急勾配でない
●TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディア画面のメッセージを確認してください。（→P.374）

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディア画面に表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

P：並列前向き・バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。（→P.363）

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。（→P.372）

H 登録開始スイッチ

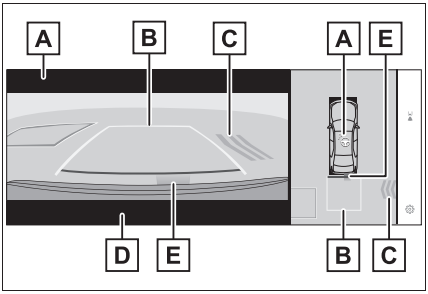
駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ★

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離※（黄色）と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！” と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.315

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■ **クリアランスソナーの割り込み表示について**

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON/OFF（→P.316）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■ **アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について**

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ **音声案内について**

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ **ブザー音について**

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■ **アドバンストパーク作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは**

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度 EV システムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバンストパークの並列前向き・バック駐車機能を使う

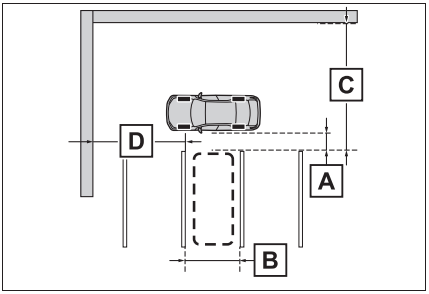
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き・バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースな

どの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き・バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

B 約 2.5m※

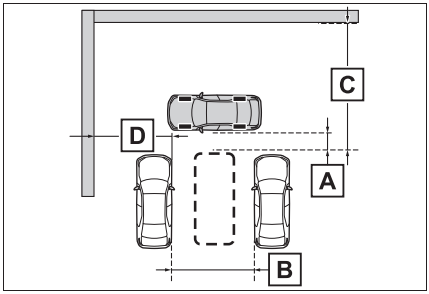
C 約 6m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

B 約 3m 以上 ※

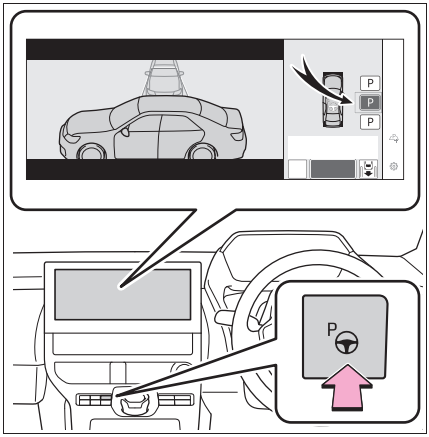
C 約 6m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

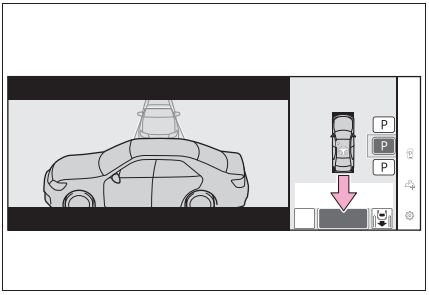
● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、にタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。

● 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、もしくはにタッチすると、駐車向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” または “後退します” の音声案内と表示が出たあと、前進・後退が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

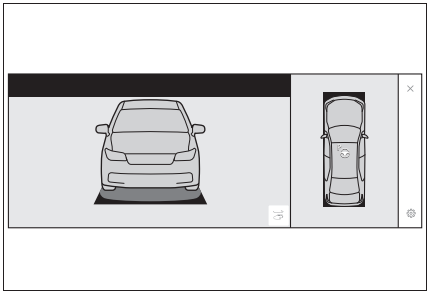
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.354

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面のにタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の “再開” スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

■並列前向き・バック駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

●狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

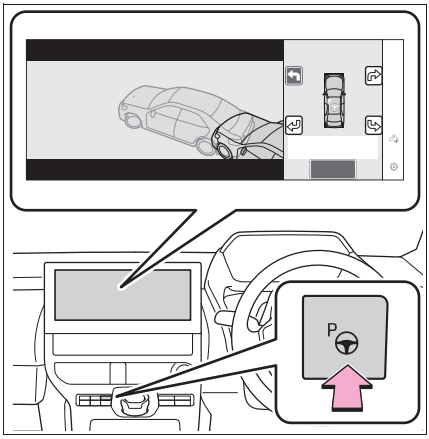
●駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

アドバンストパークの並列前向き・バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き・バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き・バック出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



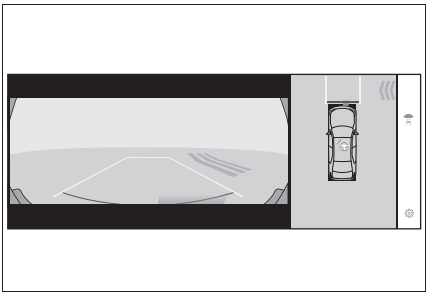
2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



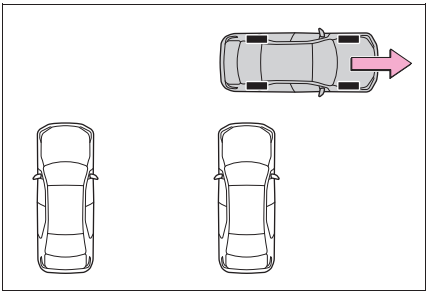
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.356

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.354

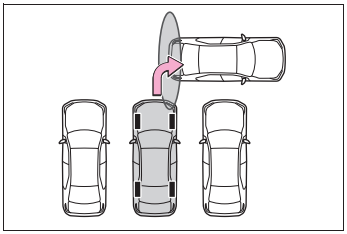
■並列前向き・バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き・バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

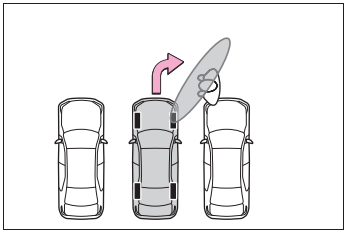
■並列前向き・バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き・バック出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両がある場合



●フロントまたはリヤのセンター・コーナーセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



■ブレーキが作動したとき

→P.354

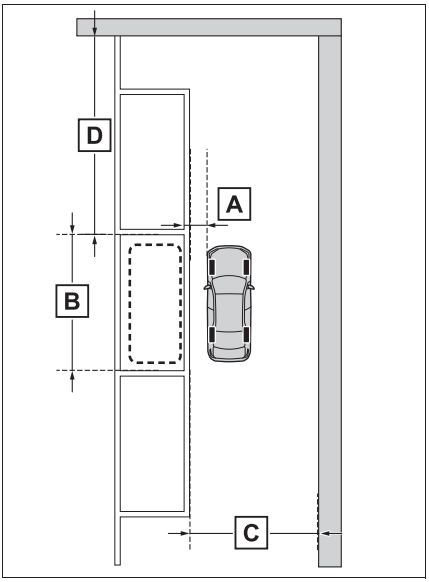
アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

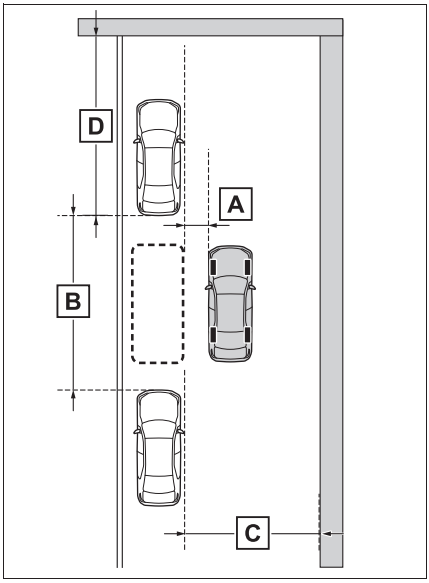
B 約 6m※

C 約 4.5m 以上※

D 約 8m 以上※

※駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合



A 約 1m※

B 約 7m 以上※

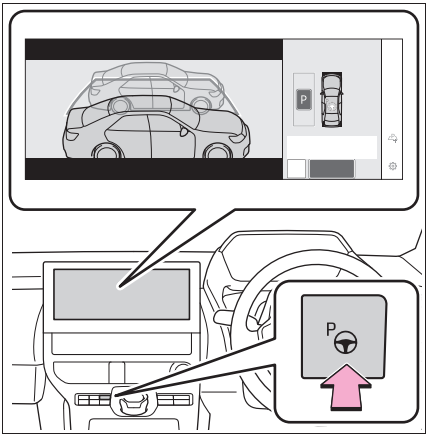
C 約 4.5m 以上※

D 約 8m 以上※

※駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア

画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



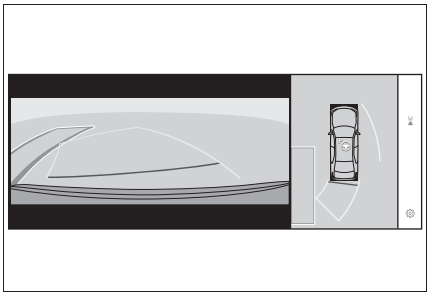
● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 並列前向き・バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Ⓟにタッチすると並列前向き・バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

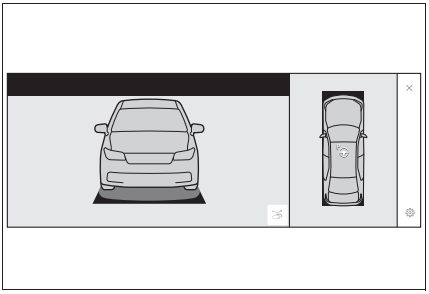
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.359

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面の にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



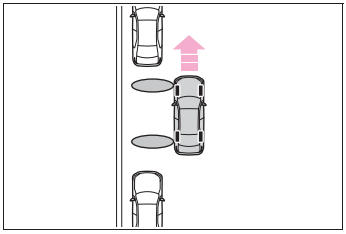
知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.354

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



■ブレーキが作動したとき

→P.354

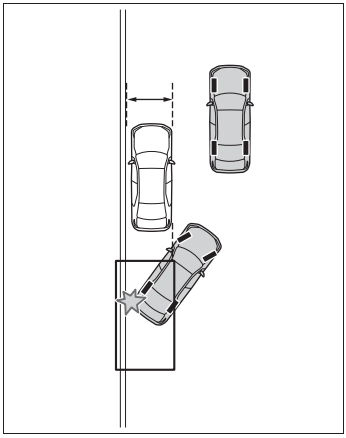
注意

■縦列駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

●隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



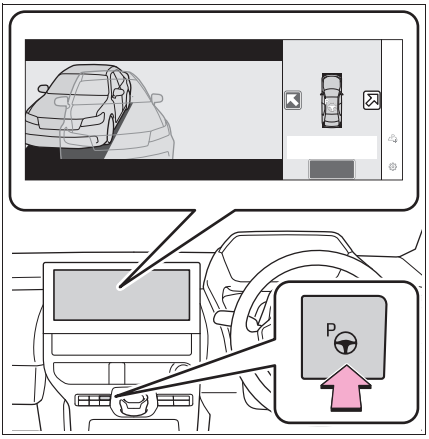
●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

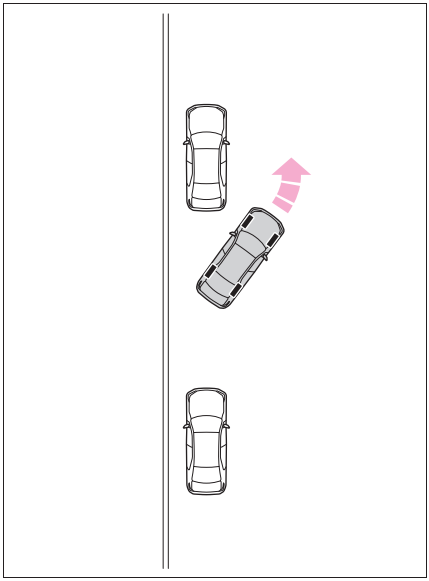
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.360

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.354

■縦列出庫機能について

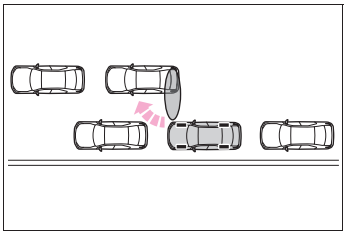
縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してし

まった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

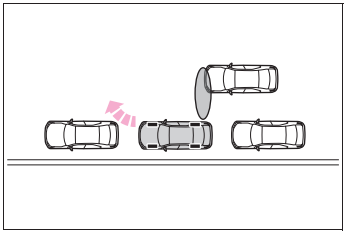
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

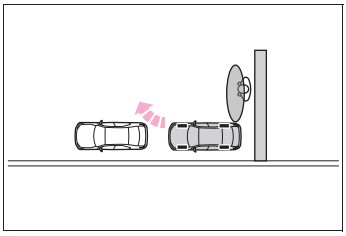
●出庫方向に信号待ちの車両がある場合



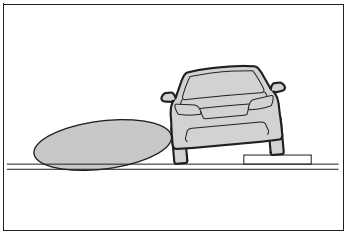
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



●フロントまたは、リヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合



●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

■ブレーキが作動したとき

→P.354

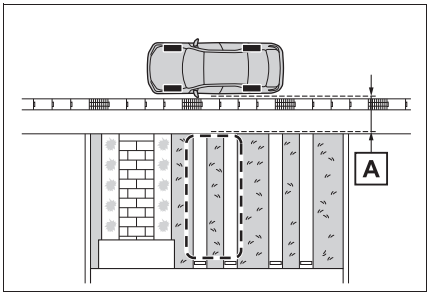
アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。

登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

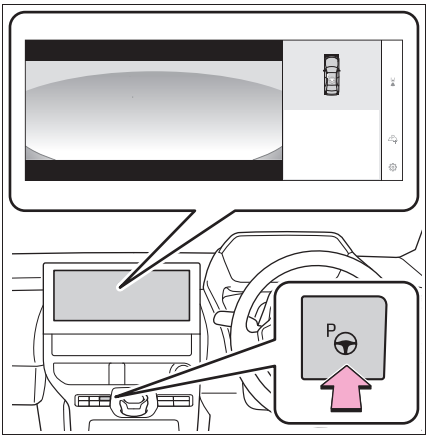
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

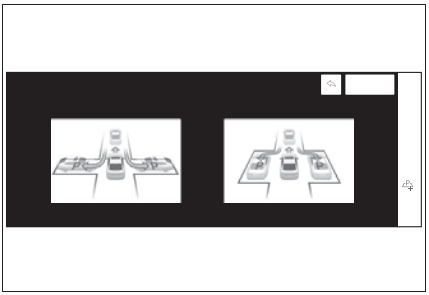
2 アドバンストパークメインスイッチを押し、にタッチする

区画線や隣接車両のいない駐車スペースでアドバンストパークメインスイッチを押した場合、”駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがありますが、続けてにタッチしてください。



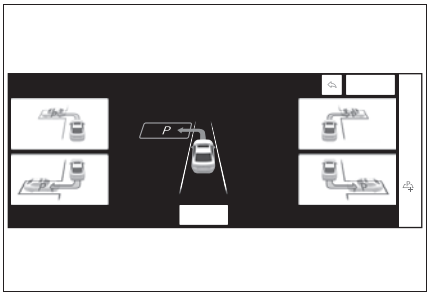
3 並列（前向き・バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

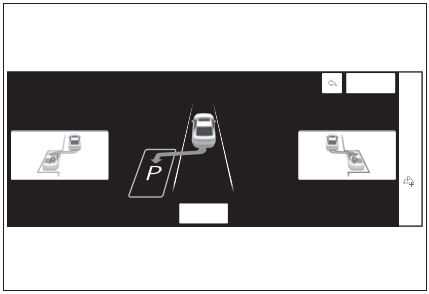


4 駐車の向きを選択する

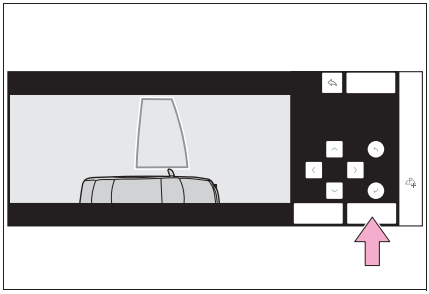
手順 **3** で並列（前向き・バック）駐車を選択した場合：



手順 **3** で縦列駐車を選択した場合：



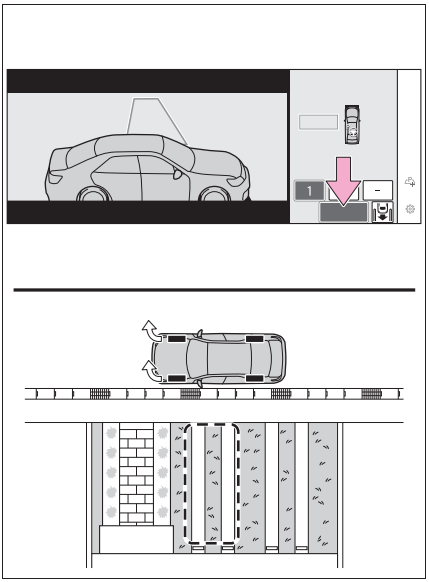
5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチにタッチする



6 “開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

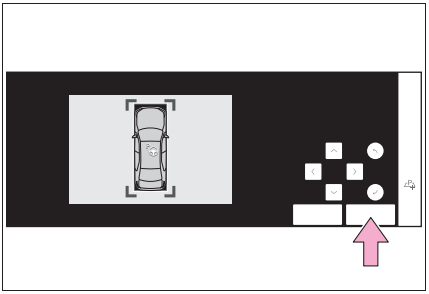
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.364



7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする

マルチメディア画面に“登録が完了しました”と表示されます。

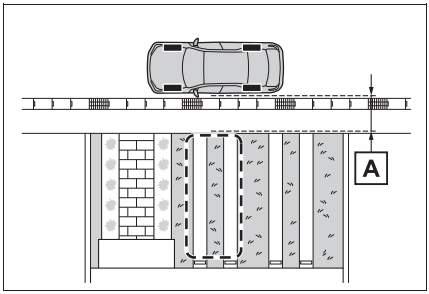


● 太枠内に障害物がない位置で登録してください。

● 調整できる範囲には限りがあります。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

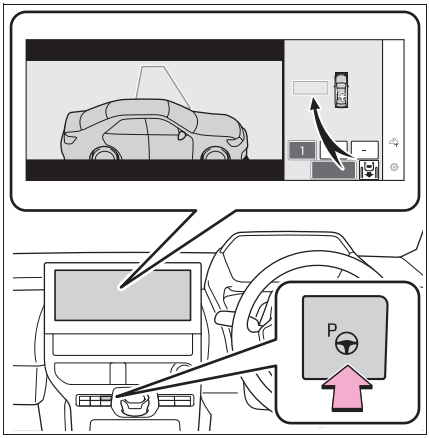
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 駐車したいスペースを選択し、“開始” スイッチにタッチします

このあとの手順は、並列前向き・バック駐車機能の手順 **3** 以降と同じです。（→P.352）

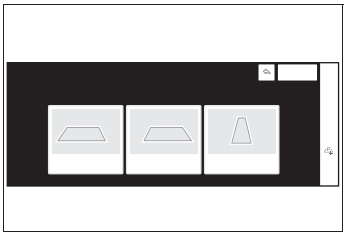
知識

■**周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは**

→P.354

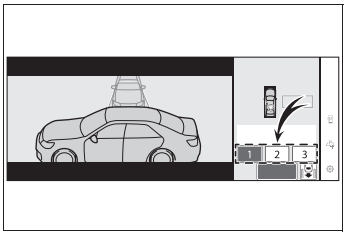
■**登録した駐車スペースを上書きするときは**

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で にタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■**登録した駐車スペースが複数あるときは**

駐車スペースを選択してから、“開始” にタッチします。



■**ブレーキが作動したとき**

→P.354

注意

■**メモリ機能を使用するときは（→P.355, 359）**

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・雨雪が降っているとき

・夜間（周囲が暗いとき）

●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

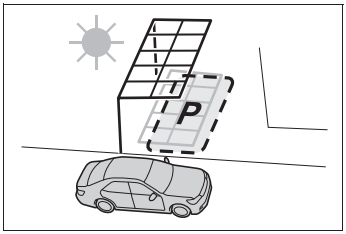
・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

●次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

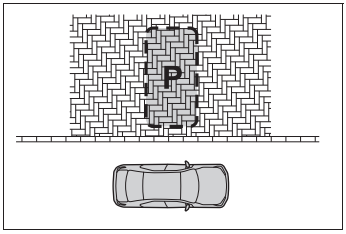
注意

・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



・駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき

・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）

・日照条件が登録したときと異なるとき（天気・時間帯）

・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

・路面の色や明るさが一様でないとき

・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき

・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき

・勾配がある駐車場

・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

注意

●カメラ故障時・交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークのリモート機能を使う★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォン操作で駐車機能・出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する（→P.353, 357）

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.353, 357）

3 スイッチにタッチし、“並列駐車・縦列駐車”にタッチする

4 “設定完了”にタッチする

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。パイロンは降車後に移動させることもできます。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 駐車位置に到着するとシフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■障害物があっても駐車機能を使用できる場合

●白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。

●アドバンストパークでの並列駐車では片側 3 枠ずつの最大 6 枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側 1 枠ずつの検出となります。

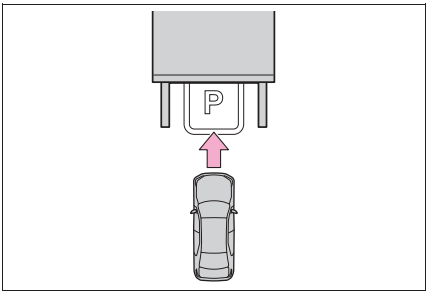
■ブレーキが作動したとき

→P.354

リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

1 アシストを開始したい場所に車両を停車する



2 アドバンストパークメインスイッチを押す（→P.353）

3 スイッチにタッチし、“前後に移動” にタッチする

4 “設定完了” にタッチする

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

8 スマートフォン画面の電源ボタンにタッチする

パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠されます。

知識

■進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。後方に壁があるときなどに、スマートフォン画面の進行方向切りかえスイッチを操作して、車両を少し前進させて荷物を入れた後、元の場所に戻すといった使い方ができます。

■ブレーキが作動したとき

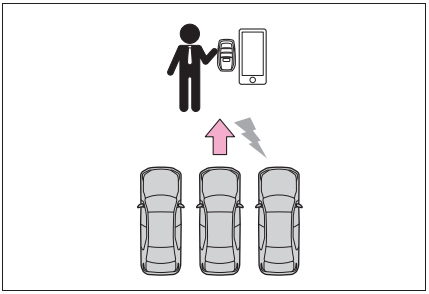
→P.354

リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチが OFF の車両に対して、並列・縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大 7m で、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

1 駐車中の車両に近づき、電子キーで解錠してからスマートフォンアプリを起動する

スマートフォンアプリが接続できない場合は、電子キーで再度解錠操作を行ってください。



2 スマートフォン画面の開始スイッチを選択する

車両のパワースイッチが ON になります。

3 出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する

4 車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

5 アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。

知識

■ブレーキが作動したとき

→P.354

リモート機能とメモリ機能を使用して駐車する

メモリ機能で事前に登録した駐車スペースの真横で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作でメモリ機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する（→P.363）

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.363）

3 スイッチにタッチし、“並列駐車・縦列駐車”にタッチする

4 “設定完了”にタッチする

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチを押すことでメモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。パイロンなどの障害物が進行方向に存在する場合は、降車後に障害物を移動させてください。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 駐車位置に到着すると、シフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■ブレーキが作動したとき

→P.354

リモート機能の使用前のご準備

■ 使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

1 アプリストアから Remote Park アプリをダウンロードする

2 車両のパワースイッチを ON にし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する

ペアリング登録については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照ください。

3 Remote Park アプリを立ち上げ、車両登録を実施する

4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

新規車両登録画面では、車両の名前や画像の変更が可能です。

メニュー画面から車両を追加することも可能です。

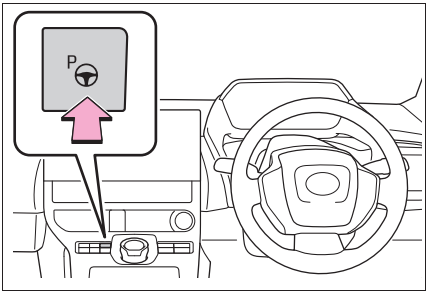
■ リモート機能の ON/OFF

1 マルチメディア画面の にタッチして、“Advanced Park”にタッチする

2 “Remote Park”の ON/OFF を選択する（初期設定は ON）

3 アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



4 マルチメディア画面に表示される スイッチにタッチする

注意

■**リモート機能について**

●電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。

●電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。

●デジタルキー装着車：デジタルキーのみの携帯ではリモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。

●車に乗り込んでリモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。

●リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。

●リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

●スマートエントリー＆スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき →P.184

●近くにインバーター式蛍光灯があるとき

■**電波が及ぼす影響について**

→P.187

■**電子キーの電池の消耗について**

●リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信をおこなうため、電池を消耗します。

●電池が切れたとき →P.477

■**センサーが正常に作動しないおそれのある状況**

→P.318

●リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

・車両と車両の周囲が最もよく見えること

・車両の進路に人・動物、または物体がないこと

・車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと

・車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと

・必要に応じて、リモート機能を中止すること

アドバンストパークを中止・中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークメインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはバックドアを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC・VSC を OFF にした
- TRC・VSC・ABS が作動した
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にマルチメディア画面上で “ 中止 ” にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディア画面の指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されているときにブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

■ リモート機能のアシストが中止されるとき★

次のような状況のとき、リモート機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークのアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトを外した場合は中断します。
- リモート機能を起動してから 5 分以上が経過したとき
- 何も操作をせずに 3 分が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の走行操作をしても走行できずに、30 秒が経過したとき
- スマートフォン画面の電源ボタンをタッチしたとき
- スマートフォンアプリが強制終

了されたとき

- 急勾配のとき
- リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
- 外気温がマイナス10℃以下のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **リモート機能のアシストが中断されるとき★**

次のとき、アシストを中断します。

- スマートフォンとマルチメディアシステムとの Bluetooth 通信が切断されたとき
- スマートフォンの連続操作が中断されたとき
- スマートフォンアプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）
- 電子キーが検知できないとき
- 前後の移動先に障害物があるとき
- アシスト走行中に車両が操作されたとき
- 走行中に電子キーの操作があったとき
- 走行中にドアの解錠操作があったとき
- 走行中にドアを開いたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アドバンストパークの設定を変更する

マルチメディア画面の ⚙ にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ **Remote Park★**

リモート機能の ON/OFF を設定できます。

■ **音声案内**

音声案内の ON/OFF を設定できます。

■ **速度モード**

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ **障害物回避距離**

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ **優先駐車方法**

並列前向き・バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ **優先駐車向き**

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ **優先出庫方向（並列）**

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き・バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き・バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

- “駐車位置調整（前向き）”、“駐車位置調整（バック）” による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物・車止め・縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

Remote Park アプリの設定を変更する★

■ クリアランスソナー警告音のON・OFF（スマートフォンでの設定）

スマートフォンアプリからクリアランスソナー警告音の ON・OFF を設定できます。

■ クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）

スマートフォンアプリからクリアランスソナー警告音の音量を設定できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチメディア画面に表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディア画面に表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません”が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません”が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました”が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチしてください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で

にタッチしたときに表示されます。システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.361）

スノーモード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

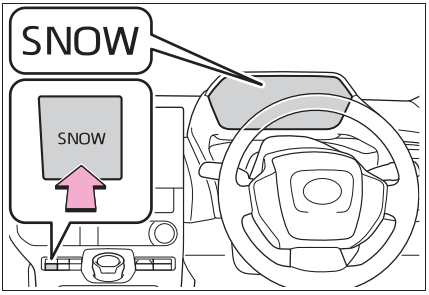
雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに適しているモードです。

スノーモードに切りかえるには

スノーモードスイッチを押す

スイッチを押すとスノーモードに切りかわり、メーターのスノーモード表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、スノーモードが解除されます。



知識

■スノーモードの自動解除について

スノーモードは、パワースイッチを OFF にする、もしくは回生ブーストを選択すると自動的に解除されます。

■スノーモードが使用できないとき

回生ブーストを選択しているとき、スノーモードに切りかえできません。

X-MODE★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オフロード路面での走破性を高めたモードです。

SNOW・DIRT と DEEP SNOW・MUD の 2 種類のモードを選択できます。

X-MODE 中は、ダウンヒルアシストコントロールにより、急な下り坂を走行時に一定の車速を維持するためにブレーキ制御を行います。

グリップコントロールでは、アクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、急な坂道や滑りやすい路面で低い車速を維持し、運転者の操作をサポートします。

警告

■X-MODE をお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- SNOW・DIRT 表示灯／ DEEP SNOW・MUD 表示灯が点灯していること確認してから走行してください。
- X-MODE は、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況や走行ルートをあらかじめよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

警告

■正しく作動しないおそれのある状況

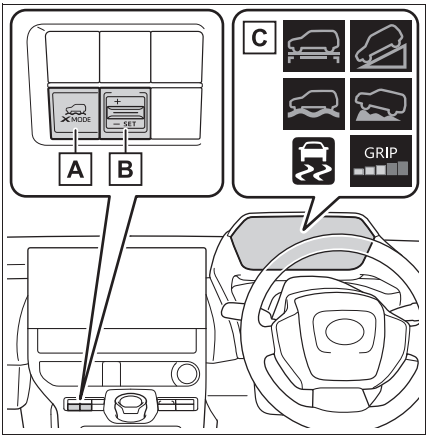
次の路面を走行する場合、車両の一定速度を維持できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・ 極端な急勾配

・ 凹凸の激しい路面

・ 積雪路、凍った路面などのすべりやすい路面

システムの構成部品



A X-MODE スイッチ

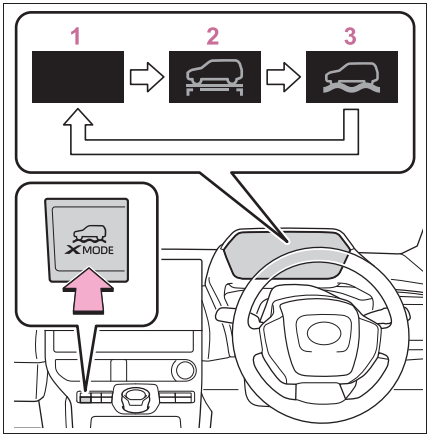
B グリップコントロールスイッチ

（→P.378）

C 作動表示灯

走行モードを選択するには

停車時または車速約 20 km/h 未満で走行中、目的の走行モードに切り替わるまで、X-MODE スイッチをくり返し押します。



1 ノーマルモード

電費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

2 SNOW・DIRT モード

雪道、砂利道など滑りやすい路面でタイヤが空転、スリップしてしまいそうなときなどに、タイヤの空転を抑えて走りやすくします。

このときメーターに SNOW・DIRT モード表示灯が緑色に点灯します。

3 DEEP SNOW・MUD モード

深雪やぬかるみなど、タイヤが埋まってしまうような特殊な場合に、TRC（トラクションコントロール）機能を一時的に解除し、必要に応じてタイヤを空転させて発進しやすくします。

このときメーターに DEEP SNOW・MUD モード表示灯が緑色に点灯します。また、メーターに VSC OFF 表示灯と PCS 警告灯が点灯します。

知識

■X-MODE が使用できないとき

次の場合は、システムが作動しません。

・ EV システムが始動していないとき

・ SNOW・DIRT モードまたは、DEEP

SNOW・MUD モードが選択されていないとき

・回生ブーストを選択しているとき

・アドバンストパークを使用しているとき

・EV システムが故障しているとき

■レーダークルーズコントロールまたは、クルーズコントロールについて

X-MODE 中はレーダークルーズコントロールまたは、クルーズコントロールが使用できません。レーダークルーズコントロールまたは、クルーズコントロール使用中の場合は、自動解除されます。

■X-MODE 中について

・X-MODE 中は、VSC OFF スイッチを操作しても VSC の ON/OFF は切り替わりません。SNOW・DIRT モードでは ON、DEEP SNOW・MUD モードでは OFF のまま固定されます。

・X-MODE 中は、エコモードスイッチ、回生ブーストスイッチを操作しても各モードには切り替わりません。

・SNOW・DIRT モードまたは DEEP SNOW・MUD モードは、悪路での走破性を高めるため、駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、ノーマルモードの状態に比べて、十分な電費性能が発揮できない場合があります。

■X-MODE の自動解除

・X-MODE は、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除されます。

・車速が約 40km/h を超えると、X-MODE は解除されメーターの X-MODE 表示灯が白色に点灯しノーマルモードに切りかわります。

・車速が約 35km/h 以下になると、X-MODE 表示灯が緑色に点灯し再び X-MODE に切りかわります。

■安全にお使いいただくために

X-MODE が ON のときは安全上、以下の操作を受け付けません。

・エコモードスイッチの操作

・回生ブーストスイッチの操作

X-MODE 選択時の、ダウンヒルアシストコントロール

X-MODE スイッチを押して、SNOW・DIRT モードまたは、DEEP SNOW・MUD モードが選択されているとき、ダウンヒルアシストコントロールが自動的に待機状態となり、以下の条件のときに作動します。

・車速が約 30km/h 以下

・アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいない

■目標車速を変更するとき

目標車速を変更するときは、アクセルペダルまたはブレーキペダルで調節します。ペダルから足を離すと、そのときの車速を目標にシステムが作動します。

知識

■X-MODE 中の、ダウンヒルアシストコントロールについて

・SNOW・DIRT モードまたは、DEEP SNOW・MUD モードのとき、ダウンヒルアシストコントロールをスタンバイ状態にすることができます。ダウンヒルアシストコントロールの作動状態により、作動表示灯が変わります。

・システムが作動していないとき、白色のインジケータが点灯します。

■X-MODE 選択時の、ダウンヒルアシストコントロールが使用できないとき

次の場合は、システムが作動しません。

・ SNOW・DIRT モードまたは、DEEP SNOW・MUD モードが選択されていないとき

・ シフトポジションが P のとき

・ グリップコントロールが作動しているとき

・ ブレーキシステムまたは、EV システムが故障しているとき

グリップコントロールを使用するときは

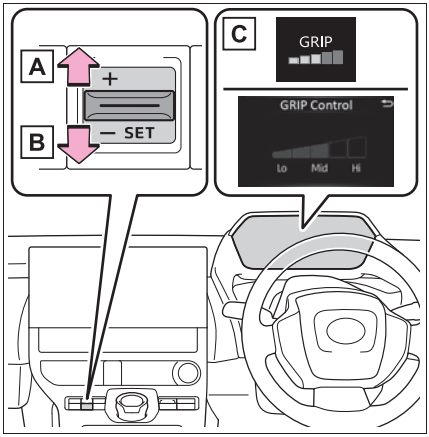
SNOW・DIRT モードまたは、DEEP SNOW・MUD モードを選択した状態で、グリップコントロールスイッチを押し下げます。

このとき、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯は消灯し、グリップコントロール表示灯が点灯します。

停車しているときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、スイッチを操作してください。坂道などで意図せず車が動き出す場合があります。

■ グリップコントロールの速度を設定する

希望の速度（約 2 ～ 10km/h）に設定するには、グリップコントロールスイッチを上または下へ押します。設定速度はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A 速度を上げる

B 速度を下げる

C グリップコントロール作動表示灯

■ グリップコントロールの作動

システム作動中は、グリップコントロール表示灯が緑色で点灯します。グリップコントロール表示灯が白色で点灯している場合は、ブレーキペダルを離すとシステムが作動します。

システム作動中は、アクセルペダルやブレーキペダルにより、一時的に加速または減速することができます。アクセルペダルやブレーキペダルの操作をやめると、設定速度に復帰します。

■ グリップコントロールを解除するときは

・ X-MODE スイッチを押す

グリップコントロールが解除されると、グリップコントロール作動灯が消灯し、暫くするとダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯します。

走行中にグリップコントロールを解除するときは、慎重に運転してください。

知識

■グリップコントロールの作動条件

・X-MODE のとき
・シフトポジションが D のとき
・パーキングブレーキが解除されているとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・ブレーキを踏んで停車している、もしくは車速が約 2 ～ 10km/h のとき

■グリップコントロールの自動解除

次のいずれかの場合、グリップコントロールが解除されます。

・ブレーキペダルを踏んで車両を停車させたとき
・車速が約 20km/h を超えたとき
・シフトポジションを D 以外にしたとき
・パーキングブレーキを作動したとき
・運転席ドアを開けたとき
・ABS、VSC が作動したとき
・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、パーキングサポートブレーキ）
・システムが継続できない環境と判断したとき
・パワースイッチを OFF にしたとき

■グリップコントロールが使用できないとき

次の場合、グリップコントロールを使用できません。

・ブレーキシステムまたは、EV システムが故障しているとき
・EV システム始動後、しばらく車両が走行するまでのあいだ

■ブレーキホールドシステムについて

グリップコントロールを使用すると、ブレーキホールドシステムが OFF になります。ブレーキペダルをしっかり踏み、スイッチを操作してください。

再度、ブレーキホールドシステムを使用する際は、グリップコントロールを解除したあとに、ブレーキホールドシステムを ON にしてください。

注意

■長時間の使用について

長時間連続して使用するとブレーキの温度が上昇し、一時的にシステムが停止することがあります。

■作動音や振動について

・モータールーム内から作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
・ブレーキペダルを踏んだとき、通常より硬くなるまたは通常の感覚と異なることがありますが、異常ではありません。

■スイッチを操作してもメータに作動表示灯が点灯しない場合

故障の可能性がありますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ 緊急ブレーキシグナル

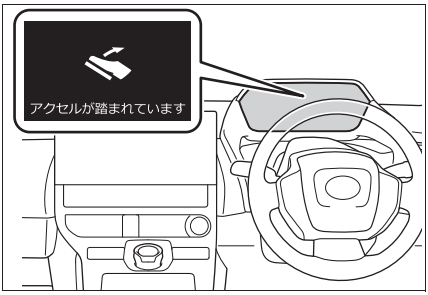
急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ（前突時の二次衝突軽減）

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

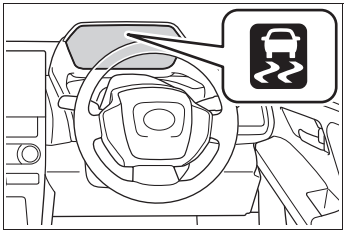
SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによる EV システムの出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



知識

■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■TRC を停止するには

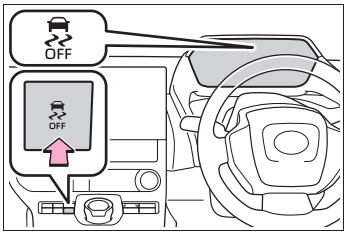
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも EV システムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。※

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.259)

■ OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっ

ています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトポジションがPまたはN以外(前進または後退での上り坂発進時)

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●パワースイッチがON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションをPまたはNにした

●アクセルペダルを踏んだ

●ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

●パワースイッチがOFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●EVシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、モータールームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECBの作動音

次のような場合にECBの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、モータールームから聞こえる作動音(“カチ”、“シュー”、“ジー”という音)

●EVシステム停止後1～2分後経過時に、モータールームから聞こえる作動音(“カチ”、“シュー”、“ジー”という音)

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチをOFFにしたとき

●(TRCのみを作動停止にしている場合)車速が高くなったとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSCが作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるため、EPSの効果が

下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、EV システムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキ（前突時の二次衝突軽減）の作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキ（前突時の二次衝突軽減）の解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 0km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

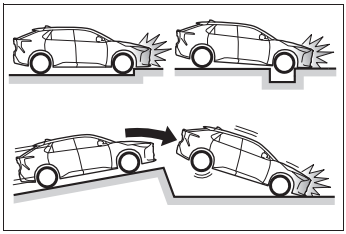
●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。

・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストがひんぱんに作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキ（前突時の二次衝突軽減）について

セカンダリーコリジョンブレーキ（前突時の二次衝突軽減）を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

●衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートはお客様の運転を補助し、より安心なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加※でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

※ グレード、オプションなどにより、追加の有無があります。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■ 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リアクロストラフィックアラート）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

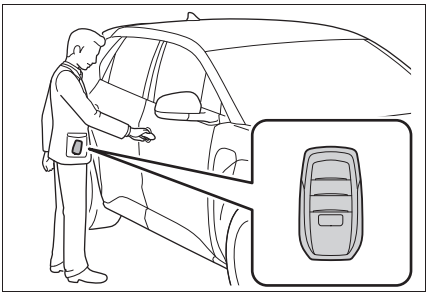
サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを起動する

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する。（→P.158, 164）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

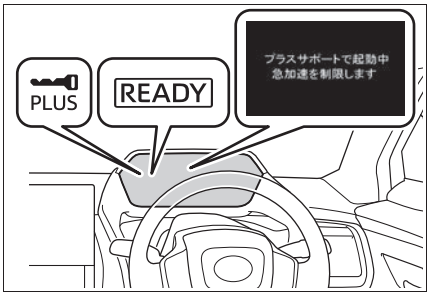


2 通常の手順で EV システムを始動します。（→P.221）

3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

EV システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にします。

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを施錠し、EV システムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

警告

●EV システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。（→P.145）プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

■プラスサポートを使用するときは（4WD 車）

次のシステムを使用しないでください。

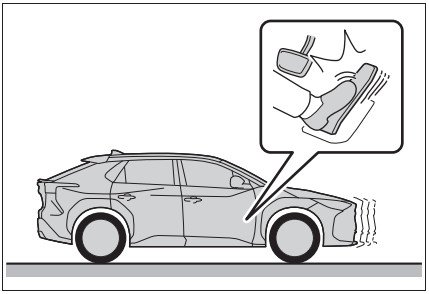
急アクセル時加速抑制が作動した場合、駆動力が制限され思わぬ事故につながるおそれがあります。

●X-MODE

●グリップコントロール

急アクセル時加速抑制

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、EV システムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにも EV システムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、EV システムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

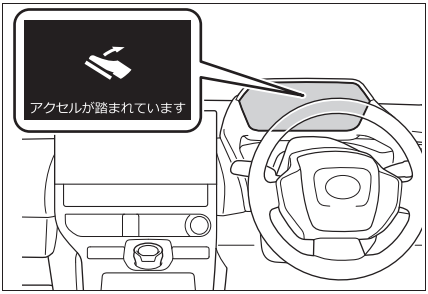
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートにより EV システムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、EV システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）
- 急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- 車両姿勢の変化

・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・冷却水

・ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.455）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するときは

トヨタ販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P.455 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
  また、次のシステムの使用は控

えてください。オートモードをOFFにしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ブレーキホールドシステム

・リモート駐車機能

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをPにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションをPにしたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P.232）

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションをPにした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

室内装備・機能

6

6-1. エアコンの使い方

ALL AUTO（ECO）制御 396

オートエアコン 398

リモートエアコンシステム 404

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター 406

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 410

6-3. 収納装備

収納装備一覧 412

ラゲージルーム内装備 416

6-4. その他の室内装備の使い方

電動サンシェード 420

その他の室内装備 421

アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 432

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 440

ALL AUTO（ECO）制御

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、各席の・シートヒーター／輻射ヒーター★・シートベンチレーター★・ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。
各システムの調整の手間を省き、航続距離延長と快適な状態の維持を両立するよう制御します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ALL AUTO（ECO）制御を使用する

エアコン操作パネルの AUTO スイッチを押す

AUTO スイッチの作動表示灯が点灯し、エアコン・シートヒーター／輻射ヒーター★・シートベンチレーター★・ステアリングヒーターがフロント席の乗車状態に応じてオート設定で作動します。

風量調整スイッチまたは吹き出し口切りかえスイッチを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ALL AUTO（ECO）制御を OFF にしてもエアコン・シートヒーター／輻射ヒーター★・シートベンチレーター★・ステアリングヒーターは OFF になりません。

また、ALL AUTO（ECO）制御作動中、ECO スイッチを押すと ECO 空調制御が OFF となります。

ALL AUTO（ECO）制御作動中に外気温度の低下によりフロントウインドウガラスに曇りが発生した場合は、エアコン操作スイッチの冷房・除湿スイッチまたはフロントデフロスタースイッチを押すことで曇りを取ることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各システムの作動について

■ **エアコン（→P.398）**

各席の設定温度を別々に調整することができます。

■ **シートヒーター／輻射ヒーター★・シートベンチレーター★（→P.406）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。

■ **ステアリングヒーター（→P.406）**

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

■乗員検知機能について

助手席のシートヒーター／輻射ヒーター★やシートベンチレーターは、乗員を検知した場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シートヒーター／輻射ヒーター★・シートベンチレーター★の作動について

パワースイッチを OFF したときに ALL AUTO（ECO）制御にて助手席側のシートヒーター／輻射ヒーター★またはシートベンチレーター★が作動していた場合は、次にパワースイッチを ON したときは自動的にシートヒーター／輻射ヒーター★またはシートベンチレーターが作動します。再度乗員の検知を行うには、ALL AUTO

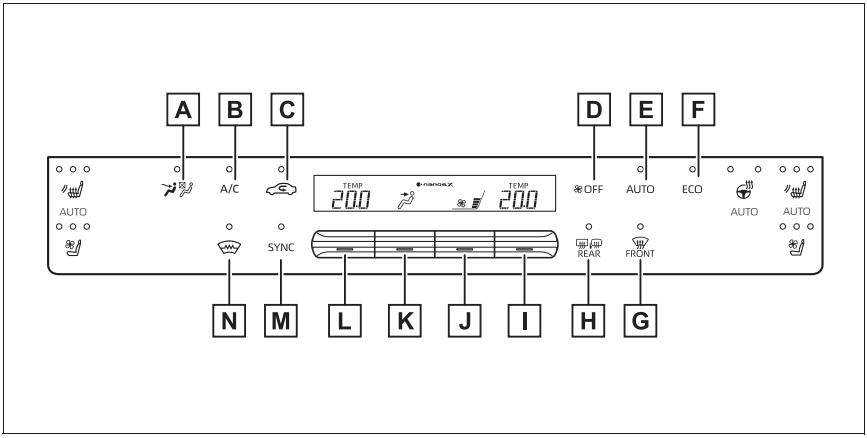
（ECO）スイッチを押してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A フロント席集中送風モード（S-FLOW）スイッチ

B 冷房・除湿スイッチ

C 内外気切りかえスイッチ

D OFF スイッチ

E ALL AUTO（ECO）スイッチ（→P.396）

F ECO（エコ空調モード）スイッチ

G フロントデフロスタースイッチ

H リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

I 運転席側温度調整スイッチ

J 風量調整スイッチ

K 吹き出し口切りかえスイッチ

L 助手席側温度調整スイッチ

M SYNC（各席連動モードスイッチ）スイッチ

N フロントワイパーデアイサースイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

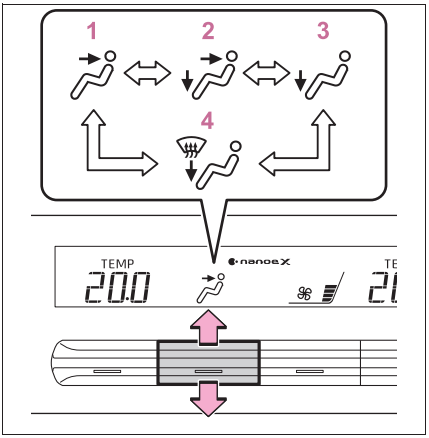
風量を増やすときは風量調整スイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

スイッチを操作するたびに吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ エアコン（冷房・除湿機能）を切りかえるには

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの霜を取るのに時間がかかる場合があります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

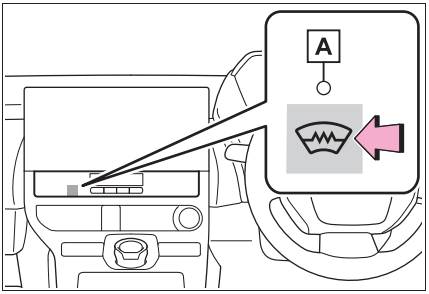
■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

フロントワイパーデアイサースイッチを押す

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯 A が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房･除湿スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モードのエアコン作動について

●エコ空調モードは電費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・EV システムやコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●エアコン操作パネルからエコ空調モードの ON/OFF を切りかえることができます。（→P.398）

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する

・エコ空調モードを OFF にする（→P.398）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ナノイー X ★ ※1, 2 について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。

この装置は運転席外側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます ※3

●ファンが作動すると、自動的にナノ

イー X 発生装置が作動します。

●ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹出口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風の時
・運転席外側の吹出口が開いている時

●ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
・ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1nanoe、ナノイー及び nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※2ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時はエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.474

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.544）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■フロントワイパーデアイサー★が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ナノイー X ★発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。

修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー X」★発生装置の損傷を防ぐために

運転席外側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの ALL AUTO（ECO）スイッチを押す（→P.396）

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、“AUTO” を ON にした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

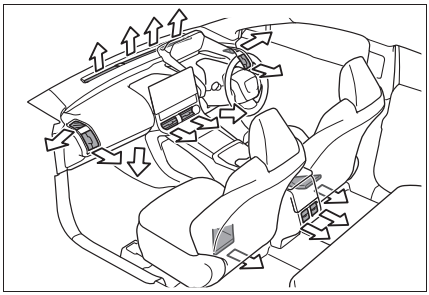
- SYNC が ON の時に、エアコン操作スイッチの SYNC スイッチを押す。
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり SYNC スイッチの作動表示灯が消灯します。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

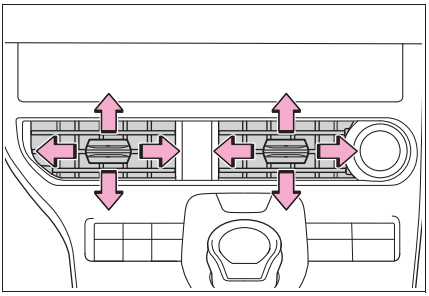
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

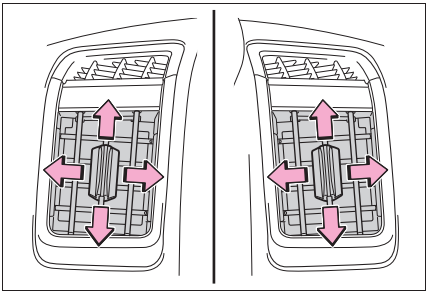
▶ フロント

風向きの調整



ノブを上下左右に動かしてください

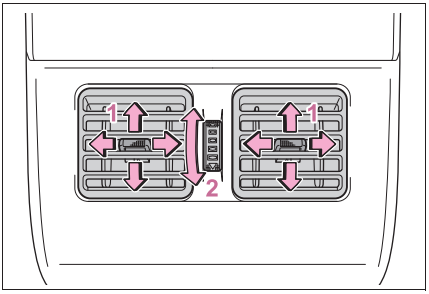
風向きを外側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



ノブを上下左右に動かしてください

風向きを下側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

▶ リヤ



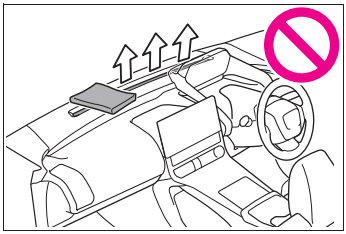
1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、電費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作パネルの を押し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、EV システム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- EV システム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

リモートエアコンシステム

駆動用電池に蓄えられた電力を使用して、乗車前に車外から冷房／暖房を作動させ、車内を空調することができます。

車両に充電ケーブルを接続した状態でリモートエアコンシステムを使用すると、外部電源からの電力を使用することができるため、駆動用電池の充電量の低下を抑えられます。

リモートエアコンシステム停止後は自動的に充電を行います。

車を降りる前に

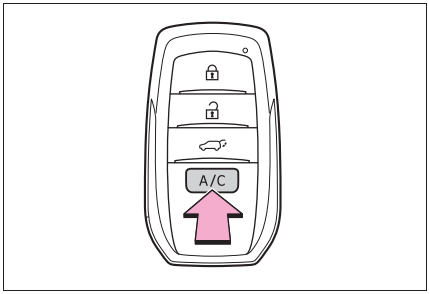
エアコンの設定温度を確認してください。（→P.399）

リモートエアコンシステムは、エアコンの設定温度に従って作動します。

作動させるには

電子キーの “A/C” を押したまま保持する

“A/C” を 2 回押して停止させることもできます。



知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしていないと、リモートエアコンシステムは作動しません。

●パワースイッチが OFF になっている

●すべてのドアが閉じている（バックドアを含む）

●ボンネットが閉じている

■リモートエアコンシステムの自動停止について

次のとき、自動的に停止します。

●リモートエアコンシステムの作動開始から約 20 分後

●作動条件がひとつでも満たされなくなったとき

駆動用電池の充電量が少ないときも、停止する場合があります。

■リモートエアコンシステムの作動について

次のような場合は、作動しないことがあります。

●駆動用電池の充電量が少ないとき

●EV システムが低温のとき（低外気温下に長時間放置したあとなど）

■フロントガラスの曇り取りについて

リモートエアコンシステムでフロントガラスの曇りを取る場合、通常のエアコン使用時よりも電力が制限されているため、十分にフロントガラスの曇りが取れないことがあります。また、外気温や湿度、エアコンの設定温度などにより、フロントガラスの外側が曇る場合があります。

■セキュリティ機能

リモートエアコンシステムを作動するとき、盗難防止のため施錠されていないドアは自動的に施錠され、ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P.184

■リモートエアコンシステムの作動中は

●リモートエアコンシステムの作動状態によっては、電動ファンが回転して作動音が発生しますが、異常ではありません。

●リモートエアコンシステム以外の電気負荷（シートヒーターなど）が作動しているときや、補機バッテリーの充電量が少ないときには、リモートエアコンシステムが停止することがあります。

●ワイパー・メーターなどは作動しません。

■電子キーの電池の消耗について

→P.158

■電子キーの電池が切れたとき

→P.477

警告

■使用上の警告

●車室内に人がいるときは使用しないでください。
リモートエアコンシステムを使用していても、システムの自動停止等により車室内が高温、または低温になる場合があります。お子さまやペットを車室内に残したままにしておくと、熱中症や脱水症状や低体温症になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

警告

●ボンネットが開いているときは、電子キーの “A/C” を操作しないでください。
意図せず冷房が作動して、冷却ファンに手や衣服などが巻き込まれるおそれがあります。

注意

■駆動用電池の消費を防ぐために

必要なとき以外、電子キーの “A/C” を操作しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター★／輻射ヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

フロントシートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

フロントシート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

● 輻射ヒーター

前席の足元を暖めることができます。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーター／輻射ヒーターに触れないようにご注意ください。

●乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

●皮膚の弱い方

●疲労の激しい方

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で使用しないでください。

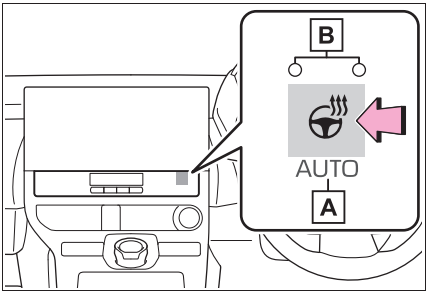
ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF（消灯）

作動中は AUTO インジケーター A、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

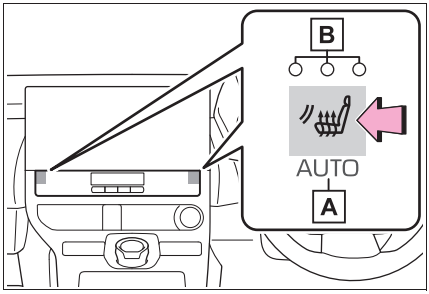
シートヒーター

システムの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター A、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しない

●毛布・クッションなどを使用しない

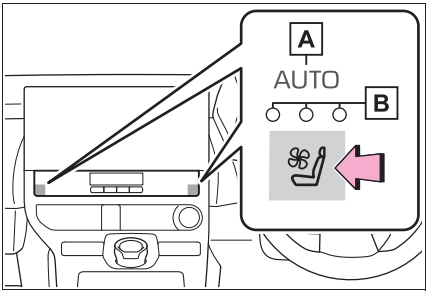
シートベンチレーター

システムの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター A、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。



知識

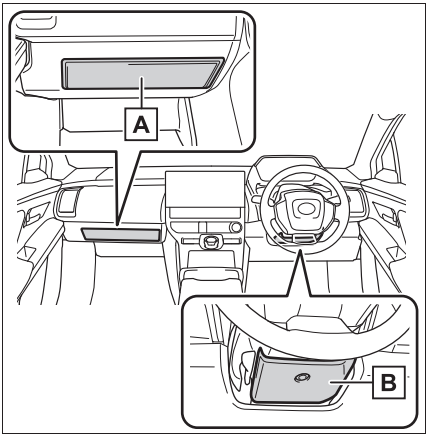
■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

輻射ヒーター



A 助手席側輻射ヒーター

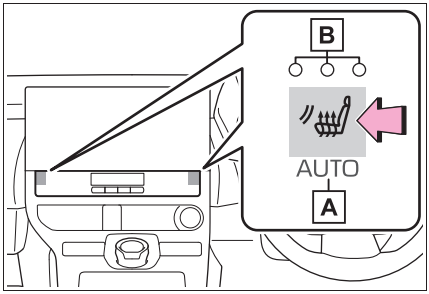
B 運転席側輻射ヒーター

システムの ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーターA、またはレベルインジケーターBのいずれか、または両方が点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON、かつシートベルトを装着しているとき

■輻射ヒーターの作動について

●ヒーター部に触り続けるなどによって、自動的に電源が切れることがあります。その場合は輻射ヒーターのスイッチを入れなおしてください。

●ヒーター温度が上昇するまでに時間がかかる場合があります。

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

輻射ヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しない

●毛布・クッション、荷物などが輻射ヒーターに触れないようにしてください。

警告

■走行中の警告

ハンドルから手を放したりペダルから足を放して、輻射ヒータに触れたり手や足をかざす行為は行わないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

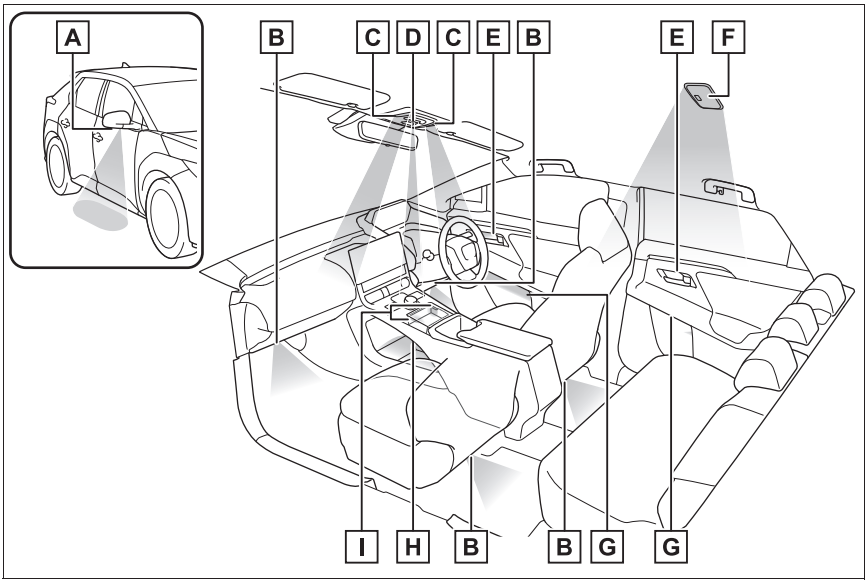
注意

■輻射ヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のあるもの、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A ドアミラー足元照明

B 足元照明

C フロントインテリアランプ・パーソナルランプ（→P.411）

D シフト照明

E インサイドハンドル照明

F リヤインテリアランプ（→P.411）

G ドアトリム照明

H センターコンソール下照明

I センターコンソール内照明

知識

■各部照明の自動点灯／消灯について

●電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）

●パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。（→P.545）

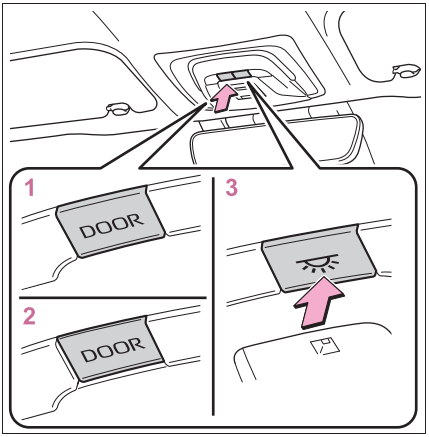
⚠注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するには

■ フロントインテリアランプ



1 ドア連動を OFF にする

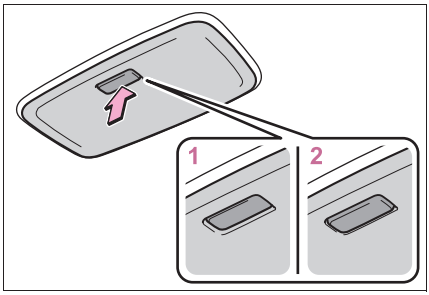
2 ドア連動を ON にする（ドアポジション）

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます

3 ランプを点灯／消灯する

リヤインテリアランプが連動して点灯・消灯します。

■ リヤインテリアランプ



1 ランプを点灯する

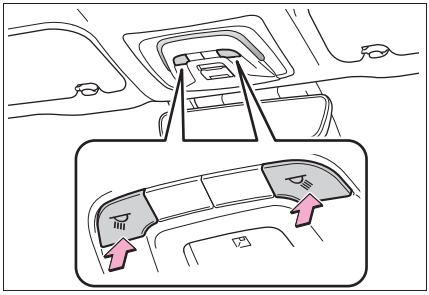
2 ドア連動を ON にする（ドアポジション）

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

フロントインテリアランプに連動してランプが点灯・消灯します。

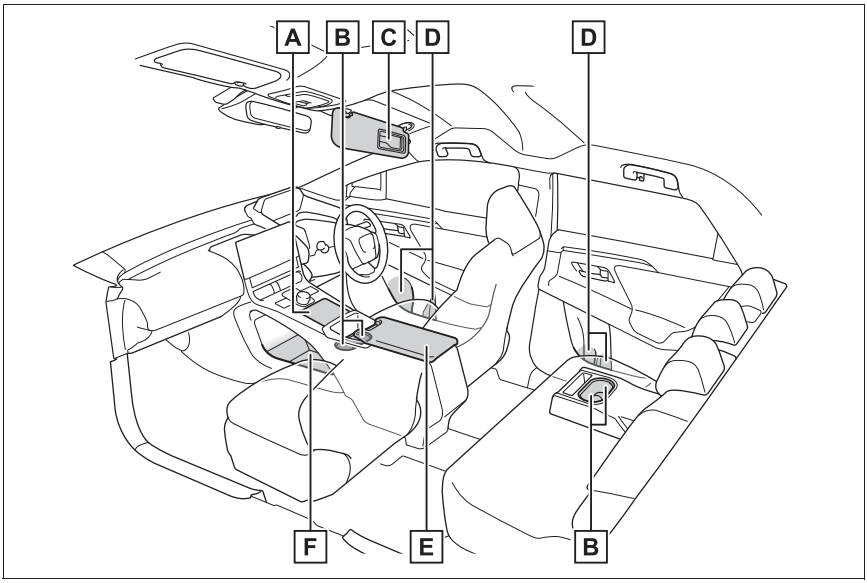
パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



収納装備一覧

収納装備の位置



A 小物入れ★（→P.415）

B カップホルダー（→P.413）

C カードホルダー（→P.415）

D ボトルホルダー（→P.414）

E コンソールボックス（→P.413）

F オープントレイ（→P.415）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

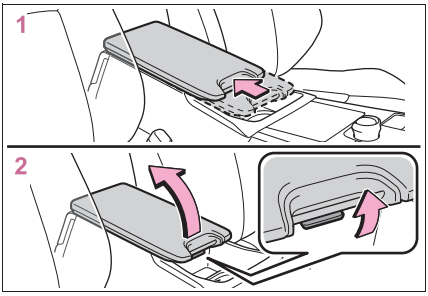
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

コンソールボックス



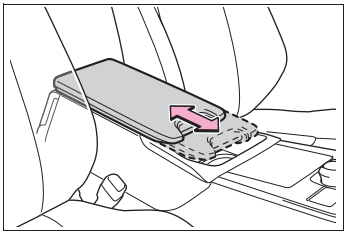
1 フタをいちばんうしろまでスライドさせる

2 レバーを引いてフタを開ける

知識

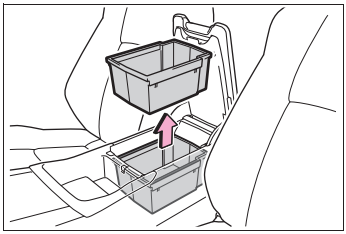
■スライド機能について

フタを前後にスライドすることができます。



■トレイについて

中のトレイをはずすことができます。



警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

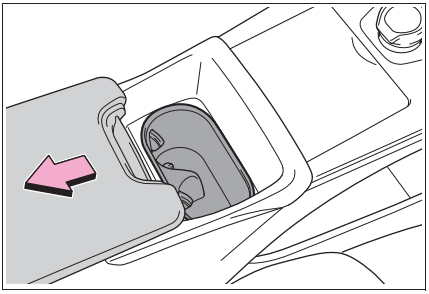
■コンソールボックスの損傷を防ぐために

過度の負荷をかけないでください

カップホルダー

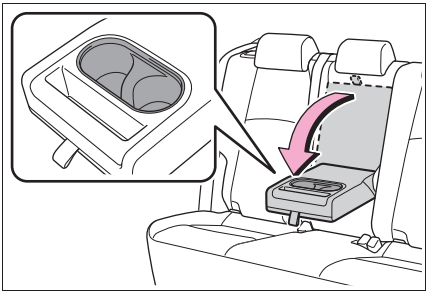
■ フロント

コンソールボックスのフタをいちばんうしろまでスライドさせる



■ リヤ

リヤアームレストを手前に倒す



警告

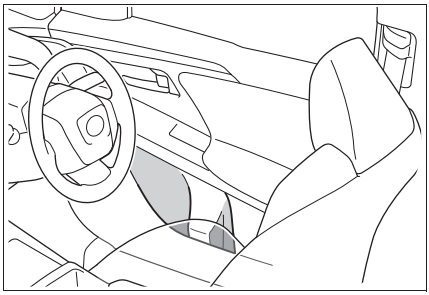
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

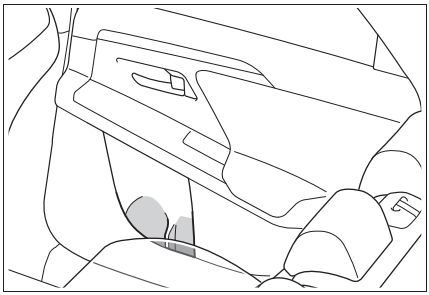
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ リヤドア



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

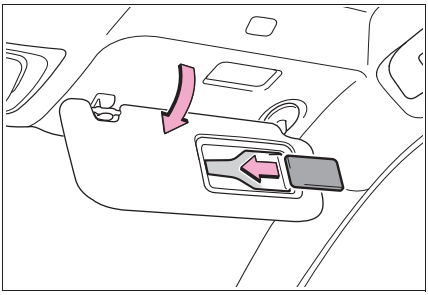
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

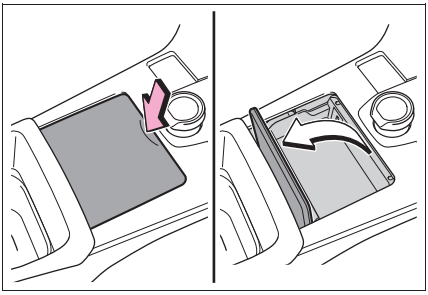
カードホルダー

バイザーを下ろす。

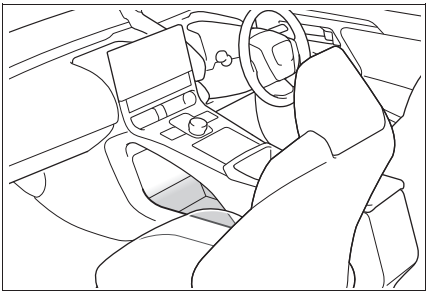


小物入れ（おくだけ充電［ワイヤレス充電器］非装着車）

小物入れのフタを押す



オープントレイ



警告

■走行中の警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。

急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

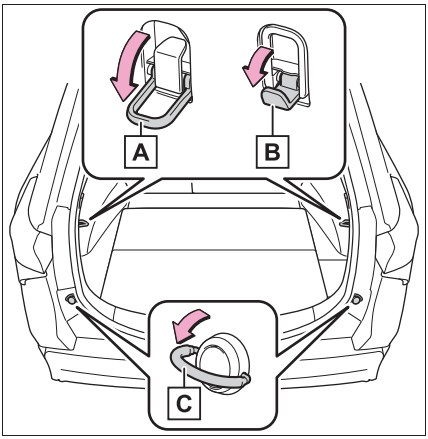
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



A アッパーフック（ロープフック）

B アッパーフック（ユーティリティフック）

C ロアフック

警告

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

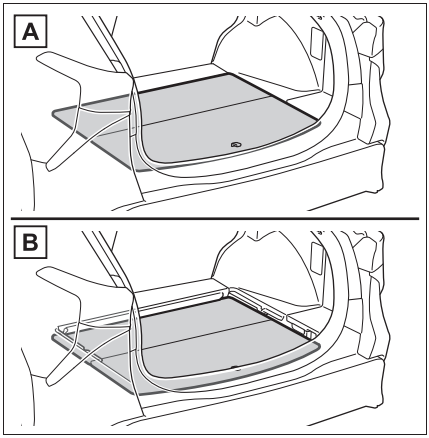
■アッパーフック（ユーティリティフック）の破損を防ぐために

4 kg以上のものをアッパーフック（ユーティリティフック）に吊り下げないでください。

デッキボード

■ 床面の高さを調節する

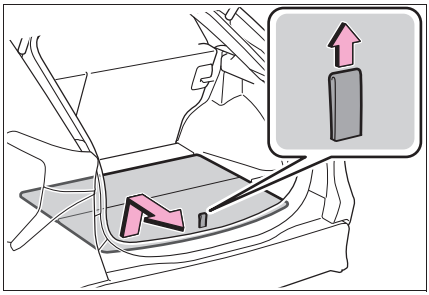
デッキボードのセット位置を変更することで、床面の高さを調節できます。



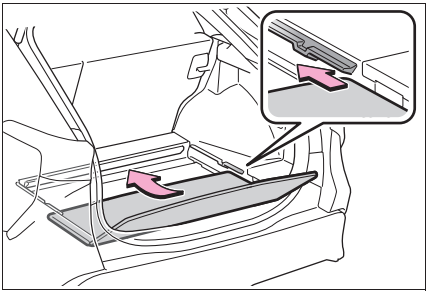
A 上段

B 下段

1 ストラップを引き、デッキボードを取りはずす



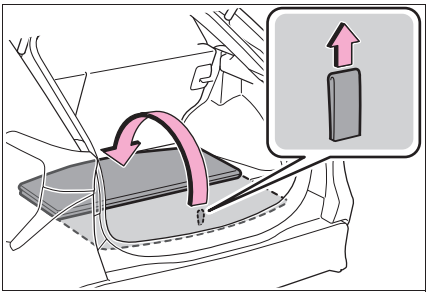
2 デッキボードの端を下段の溝に入れて前方へスライドさせる



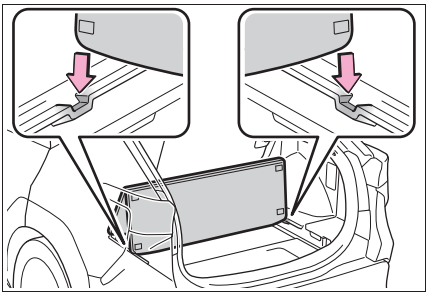
■ デッキボードを立てる

工具の取り出しやデッキアンダートレイを使用するときなど、デッキボードを立てた状態で保持することができます。

1 ストラップを引いてデッキボードを持ち上げて、前方に折りたたむ



2 デッキボードを立てた状態にしてデッキボードの端を溝に押し込む



警告

■デッキボードを操作するときは

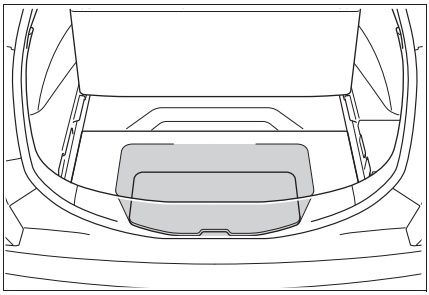
荷物を載せた状態で操作しないでください。指をはさむなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の警告

デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

デッキアンダートレイ

ストラップを引き上げ、車両前方に向けてデッキボードを折りたたむ



警告

■走行中の警告

デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、デッキアンダートレイに収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■停止表示板について

デッキアンダートレイに停止表示板を収納することができます。

ケースの大きさや形状によっては、収納

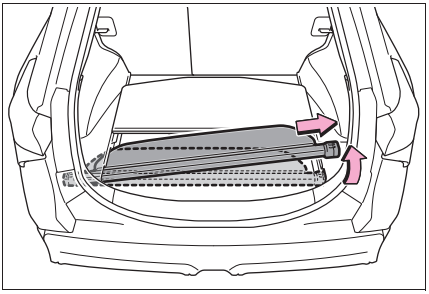
できない場合があります。

トノカバー（販売店オプション）

■ 取り出し

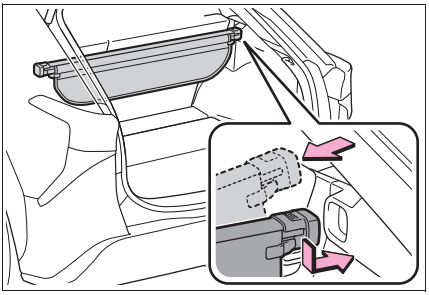
1 ストラップを引いてデッキボードを持ち上げて、前方に折りたたむ（→P.417）

2 トノカバーを取り出す

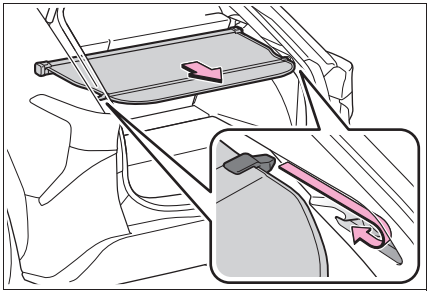


■ 使い方

1 左右の先端を押しながら、取り付け用の溝にはめる

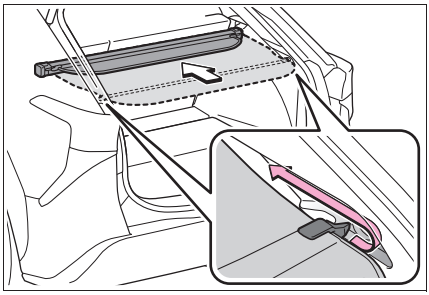


2 カバーを引き出して、ツメを左右のホルダーにかける

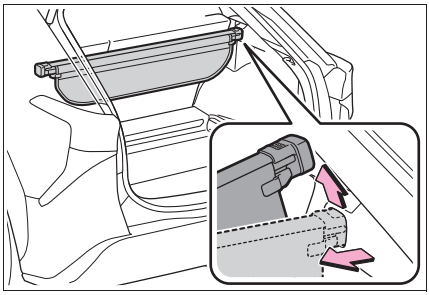


■ 取りはずし方

1 左右のホルダーからツメを取りはずす



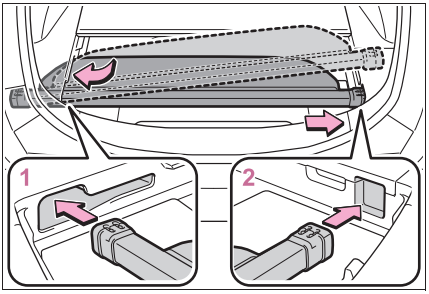
2 左右の先端を引き、取り付け用の溝からはずす



■ 収納

1 ストラップを引いてデッキボードを持ち上げて、前方に折りたたむ（→P.417）

2 左右の先端を押しながら、取り付け用の溝にはめる



1 デッキサイド左側の溝にトノカバーの左端を差し込む

2 デッキサイド右側の溝にトノカバーの右端を差し込む

警告

■トノカバーを取り付けるとき

トノカバーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■トノカバーを使用するとき

● トノカバーの上には何も置かないでください。

急ブレーキや急旋回時などに、置いたものが飛んだり、乗員に当たったりするおそれがあります。また、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● トノカバーの上でお子さまを遊ばせないでください。

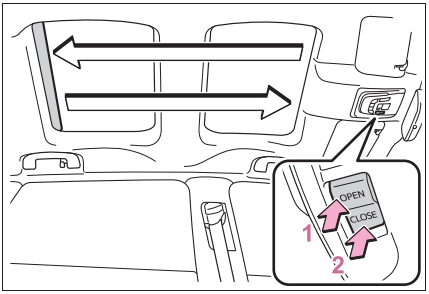
トノカバーが損傷する原因となり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

電動サンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチで電動サンシェードの操作ができます。

電動サンシェードを操作するには



1 開ける
2 閉める

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■電動サンシェードの挟み込み防止機能

●電動サンシェードを閉めるとき、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの “CLOSE” 側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。

●電動サンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の手順で初期化を行ってください。

1 パワースイッチを ON にする
2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける

全閉付近の位置まで閉じ、停止します。その後、開く方向に作動してから全閉位置で停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

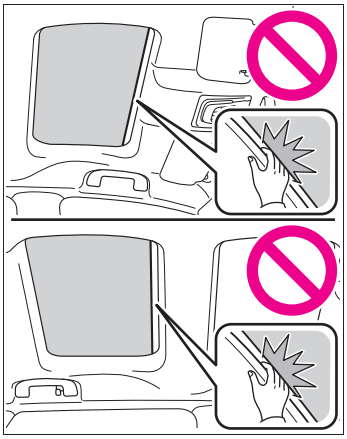
以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するとき

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



警告

●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

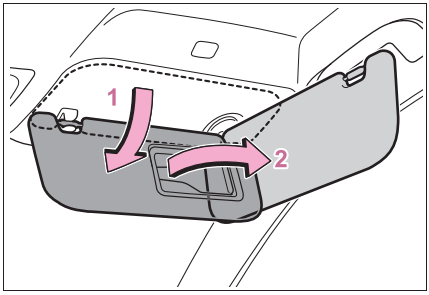
●挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。
また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには



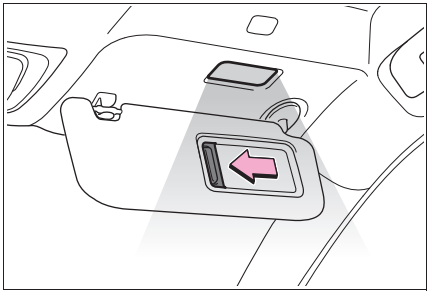
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

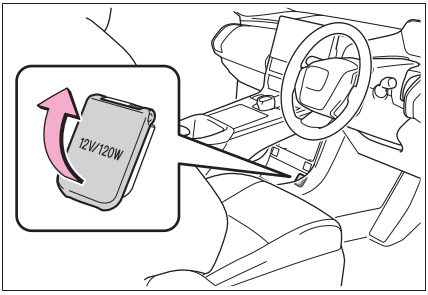
EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリーソケットを使うには

DC12 V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

フタを開けて使用する



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチが ACC または ON のとき

■EV システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、EV システムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

■誤作動を防ぐために

パワースイッチを OFF にするときは、充電機能をもつ電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすおそれがあります。

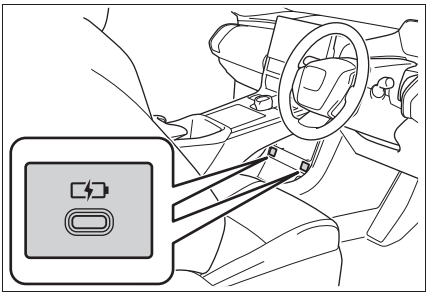
- ドアが施錠できない
- メーターのオープニング画面が表示される
- 室内灯やインストルメントパネル照明などが点灯する

充電用 USB Type-C 端子を使うには

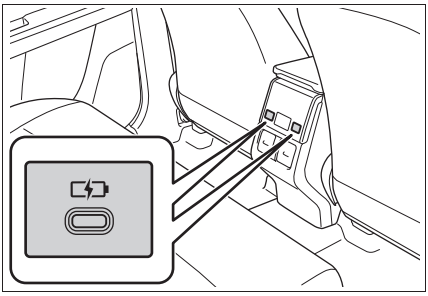
DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。
USB Type-A の使用方法については別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 充電用USB Type-C端子を使用するには

▶ インストルメントパネル



▶ コンソールボックス後方



知識

■充電用USB Type-C端子の作動条件

パワースイッチがACCまたはONのとき

■充電用USB Type-C端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源がOFFのとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用USB Type-C端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EVシステムが停止した状態で、充電用USB Type-C端子を長時間使用しないでください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格Qiに適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

適合機器はWPCのホームページでご確認いただけます。

https://www.wirelesspowerconsortium.com/

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

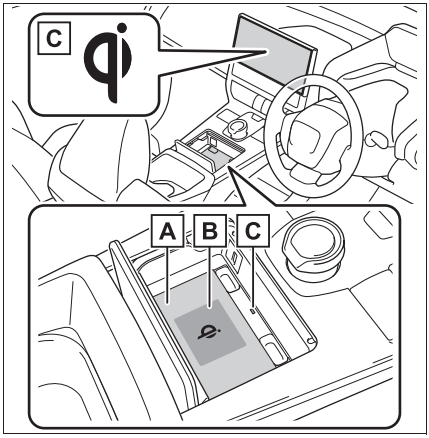
■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称



A 充電トレイ

B 充電エリア ※

C 作動表示灯

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアからはずれた場合、充電は自動的に停止します。
また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

充電エリアに携帯機器を置く

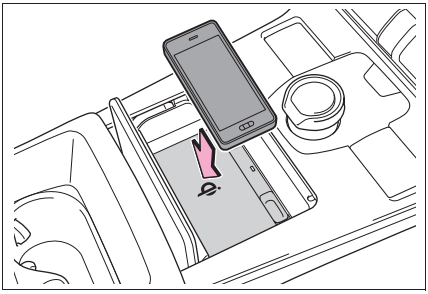
携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、

携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。
充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。充電が行われないときは、ワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色と橙色にゆっくり点滅し、充電コイルの作動音がくり返し聞こえることがあります。

充電が完了すると充電トレイ上の作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルがずれて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

■ 急速充電機能

● 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

・WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器

・7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

● 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯		状況
充電トレイ側	マルチメディア画面側	
消灯	非表示	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※1
		充電完了時 ※2
橙（点灯）	青	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
		充電中

※1待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、加熱されることはありません。

※2携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	マルチメディア画面側	
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	**車両とワイヤレス充電器の通信不良** **→ EV システムが作動中のときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。** パワースイッチのモードが ACC のときは、一度 EV システムを始動してください。（→P.221）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	**ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常** **→ EV システムが作動中のときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。** パワースイッチのモードが ACC のときは、一度 EV システムを始動してください。（→P.221）
緑（点灯）	青	**AM 放送局を自動選局している** **→ AM 放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。**
		スマートエントリー＆スタートシステムがキーの検出を行っている。 **→ キーの検出が完了するのをお待ちください。**

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ側	マルチメディア画面側	
橙（3 回連続の点滅をくり返す）	灰	**異物検知：** **充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた** **→ 充電エリア内にある異物を取り除いてください。**
		携帯機器のずれ： **携帯機器の充電用コイルが充電エリアからはずれたことで、異常過熱防止機能が働いた** **→ 携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。**
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	灰	**ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止** **→ いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。**

知識

■作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.2.4 以降に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

●ただし、以下の携帯機器に対しては、5W を超える充電に対応しています。

・7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。

・WPC 規格の Ver1.2.4 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムがキーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。「Qi」対応の製品でもカバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置

いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中の AM ラジオ放送連携機能

●充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。

●AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■充電中について留意事項

●車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

●携帯機器の使用状況により満充電にならないことがありますが、故障ではありません。

■作動中の音について

パワースイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は「カチッ」や「ジー」と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.448

■商標について

●iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

●Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

●充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない

●充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

●携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない

警告

- 小物入れがわりにものを置かない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 折りたたみ式などの小型の携帯機器を置いたとき
- 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3mm 以上あるとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに次のようなものを挟んだり、装着したりして、あいだが 2mm 以上となるとき
  - ・厚みがあるケースやカバー
  - ・充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
  - ・厚みがあるデコレーション
  - ・指リングやストラップなどのアクセサリー
  - ・レンズ部に凸形状があるケースやカバー
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
  - ・金属製のデコレーション
  - ・金属製のケースやカバー
  - ・携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーが車室内にないとき

注意

- Sペン（Galaxy 端末付属のタッチペン）内蔵の端末（Note シリーズ等）をご使用の場合、Sペンを挿入したままトレイに置いたとき
- 2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■スマートフォンのOSを更新したとき

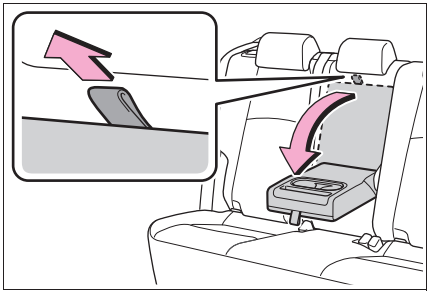
スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

ストラップを引き、手前に倒して使用します。



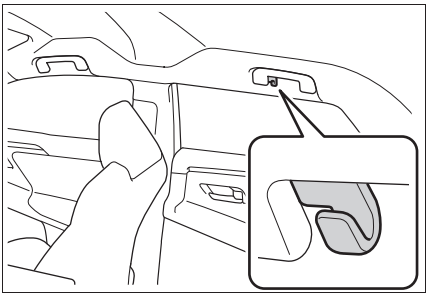
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



警告

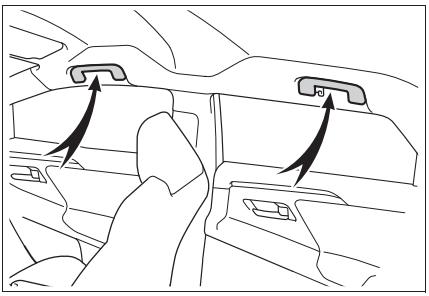
■**コートフックへかけてはいけないもの**

コートフックにハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■**アシストグリップについて**

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■**アシストグリップの破損を防ぐために**

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム

● アクセサリーコンセント

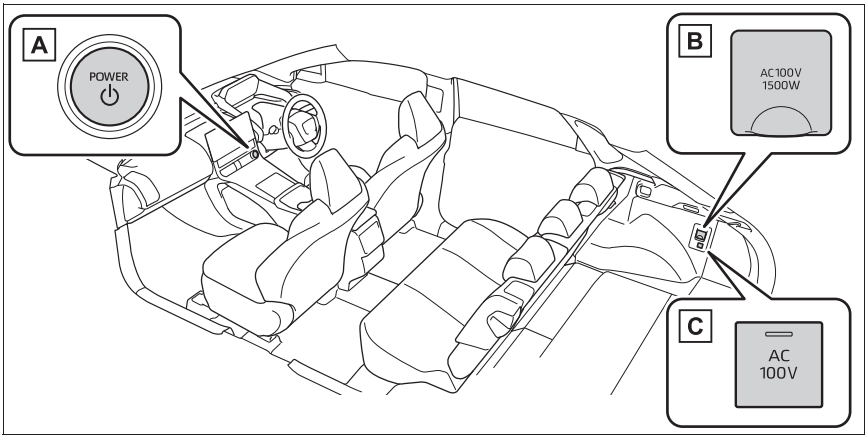
車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.433）

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.434）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.434）

システムの構成部品



A パワースイッチ（→P.221）

B ラゲージルーム内コンセント

C AC100V スイッチ

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をお勧めします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

非常時給電システムを使用するときには次の点についても確認ください。

- 普通充電・急速充電を行っていないこと
- DC 外部給電または V2H 給電を実施していないこと

アクセサリーコンセントを使用するには

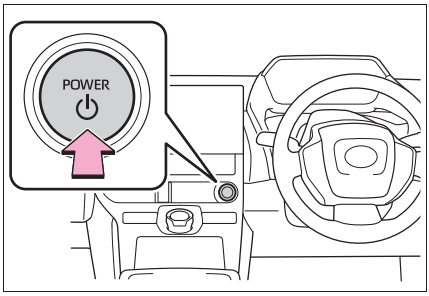
■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す (→P.221)

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

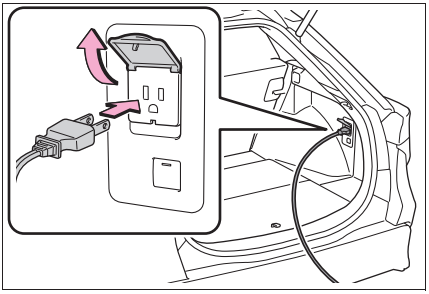
AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。



■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

コンセントはラゲージルーム内にあります。



■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

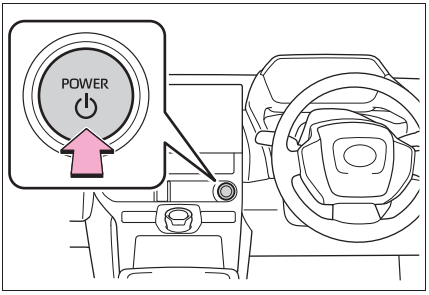
1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを押して ON にする（→P.223）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

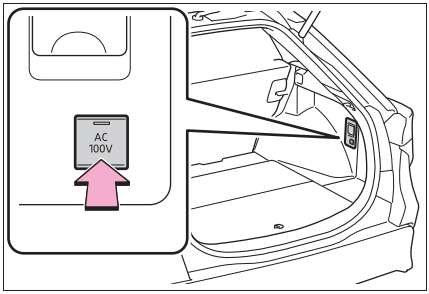


2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ、起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイに表示されないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める
5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

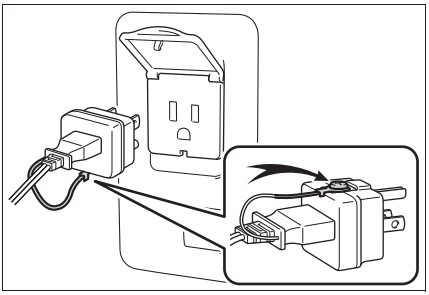
1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用し、アース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後部ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業ください。

知識

■アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用中、リア席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■停車中または駐車中に使用するとき

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアの施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキー(→P.160) でのみドアを施錠・解錠することができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりませんキーの所在を確認してください。”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認ください。

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、→P.237 を参照してください。

●DC 外部給電・V2H 給電は使用できません。

●車両への充電は実施できません。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

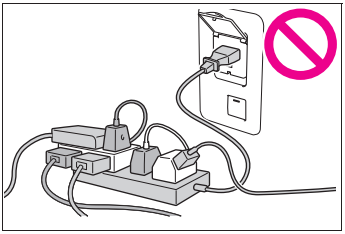
●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

警告

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しない



・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

警告

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

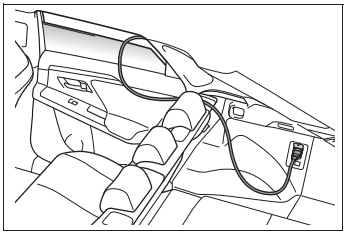
●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



・誤って車両を発進させない

●洗車は行わないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
また、モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエータ冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣 (特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど) が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

警告

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や燃焼のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してから EV システムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池を充電して駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。（→P.221）マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。
AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC100V スイッチを 3 回よりも多く押している	AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “駆動用電池の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が少なくなった	駆動用電池を充電後、非常時給電システムを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 444
内装の手入れ 448

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 451
ガレージジャッキ 453
ウォッシャー液の補充..... 454
タイヤについて 455
タイヤの交換 467
タイヤ空気圧について..... 473
エアコンフィルターの交換..... 474
電子キーの電池交換..... 477
ヒューズの点検・交換..... 479
電球（バルブ）の交換..... 481

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ､効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。

なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納する
・パワーバックドア★を停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラー★が引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
- Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.228 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する

（電子キーの盗難に注意してください）
・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.184）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されることがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について★

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

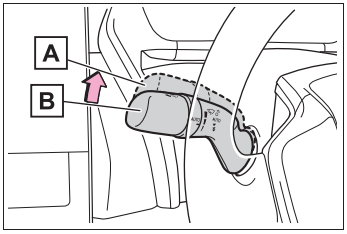
警告

■洗車をするときは

モータールーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

警告

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- Toyota Safety Sense
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- 後方車両への接近警報
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- セカンダリーコリジョンブレーキ
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- クリアランスソナー

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→P.244）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

注意

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部品は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。駆動用電池の中に水が侵入し、EV システムの不調や故障の原因になります。

●充電リッド付近に使用しないでください。充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

■アルミ部品の清掃について

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■IR カットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.32）電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→P.423）をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.250)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■IR カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

革部分の手入れをするには

■ 本革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ファブリック部分の手入れをするには

● 掃除機や粘着テープなどでほこりを取り除く

但し、助手席エアバッグオーナメント付近のほこりは、手で取り除いてください

● 水を浸した布を固くしぼり、汚れをふき取る

クリーナー等の洗剤を使用しないでください

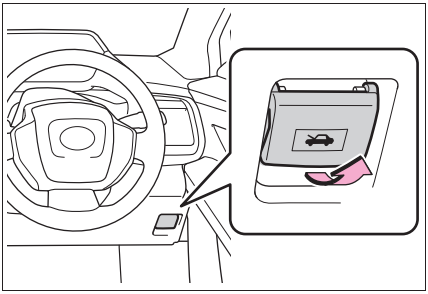
● 輻射ヒーター装着車：輻射ヒーター (→P.408) のファブリック部分を強く擦らない

ボンネット

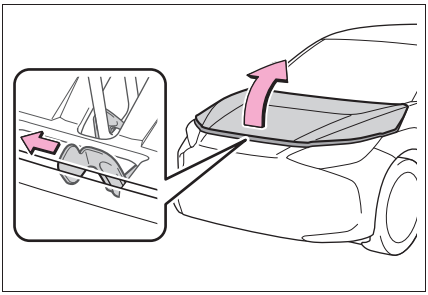
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

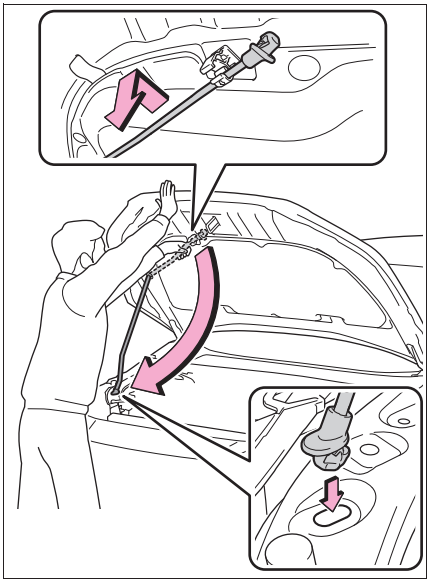
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押してボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ボンネットを開けるときは

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも作動する場合がありますので注意してください。

■モータールーム点検後の確認

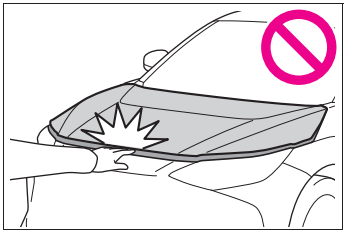
モータールーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、モータールーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.525

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

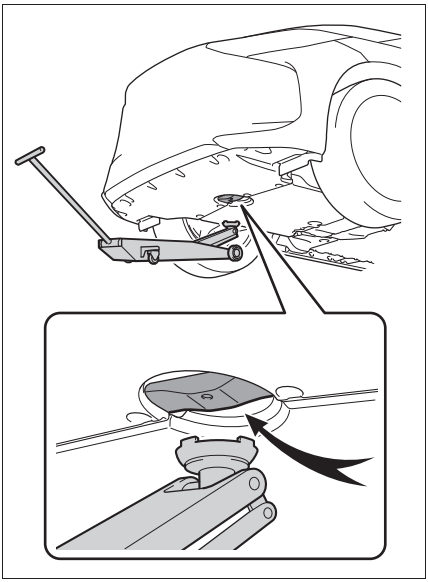
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

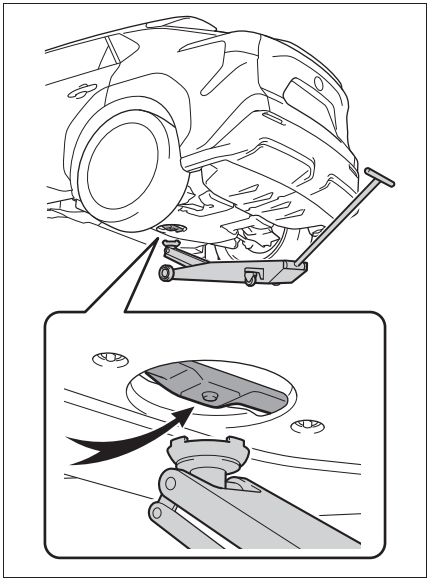
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



■ リヤ側



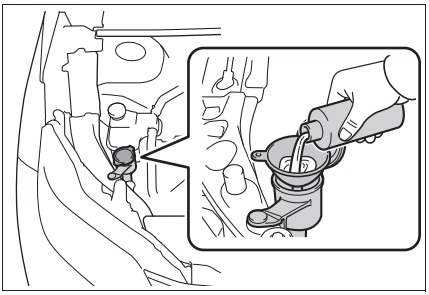
ウォッシャー液の補充

補充するには

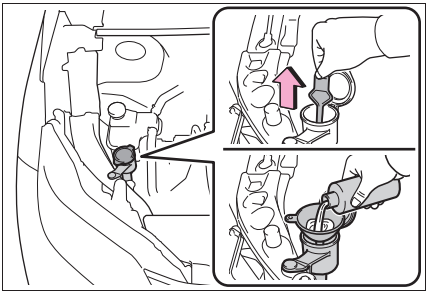
ウォッシャー液が “LOW” の位置まで低下するか、マルチインフォメーションディスプレイに “ウォッシャー液を補充してください” ★が表示されたら、ウォッシャー液を補充する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ タイプ A



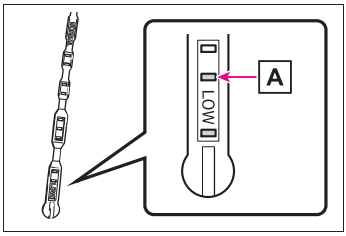
▶ タイプ B



知識

■ゲージの使い方（タイプ B のみ）

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。



A 現在の液量

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

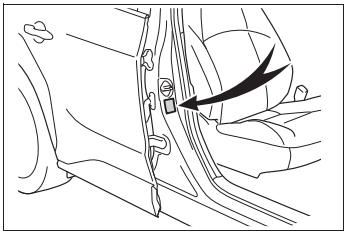
■タイヤ空気圧の数値

前輪：260kPa (2.6kg/cm^2)※

後輪：260kPa (2.6kg/cm^2)※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けボルトを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

● メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

● ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

● サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

● 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（電費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

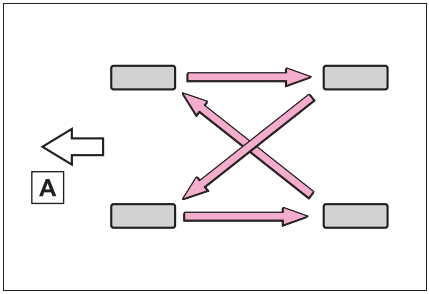
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



A 前側

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識

■タイヤローテーションを行うとき

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。
誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

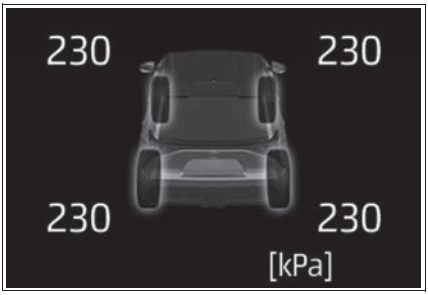
ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイで 2 種類の警報とブザーでお知らせをします。

- “空気圧を調整してください”が表示されたとき通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。
- “すみやかに安全な場所でタイヤ点検” が表示されたとき急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



■ 単位の切りかえかた

1 車を安全な場所に駐車し、EV システムを停止する

2 EV システムを始動する (→P.221)

車両が動いているときは、単位の切りかえができません。

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押し、“車両設定” を選択して “OK” を長押しする

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS 設定” を選択して “OK” を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“単位設定” を選択し “OK” を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押してお好みの単位を選択し、“OK” を押す

知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の IDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.463）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。

●トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

⚠注意

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤローテーションの後にタイヤの位置を登録するには

■ タイヤローテーションしたとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤの位置の登録のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、15分以上 EV システムを停止する

2 EV システムを始動する (→P.221)

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

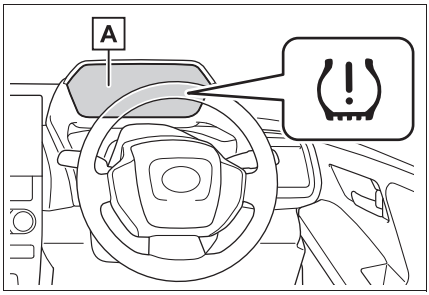
4 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押し、“車両設定” を選択して “OK” を長押しする

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS 設定” を選択して “OK” を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“タイヤローテーション” を選択して、“OK” を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し “はい” を選択して、“OK” を押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が “---” になり、タイヤの位置判定を開始します。



A 設定中 しばらくお待ちください

8 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、タイヤの位置登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 15 分間停車したあと、再度走行し直してください。

知識

■タイヤの位置を登録するときは

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。

●車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■タイヤ位置登録の操作について

●タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に位置登録処理が再開されるため、あらためて位置登録操作をやり直す必要はありません。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ位置登録がうまくいかないとき

●次の場合は、タイヤの位置登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 15 分間停車したあと、再度走行し直してください。

●タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

■ 指定空気圧での設定のしかた

1 EV システムを始動する （→P.221）

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

3 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押し、“車両設定

” を選択して “OK” を長押しする

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS 設定 ” を選択して “OK” を押す

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“ タイヤ空気圧設定 ” を選択して “OK” を押す

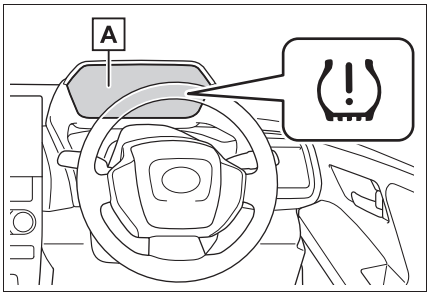
6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“ 指定空気圧で設定 ” を選択して “OK” を押す

フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を設定する

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“ はい ” を選択して “OK” を押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



A 設定中 しばらくお待ちください

■ 現在の空気圧での設定のしかた

1 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

2 EV システムを始動する (→P.221)

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押し、“ 車両設定 ” を選択して “OK” を長押しする

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS 設定 ” を選択して “OK” を押す

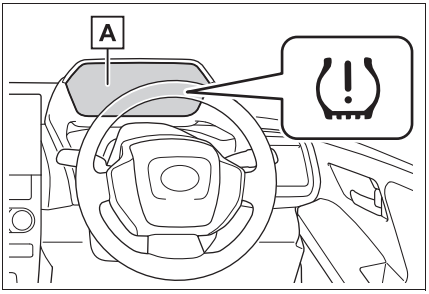
6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“タイヤ空気圧設定” を選択して “OK” を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“現在空気圧で設定” を選択して “OK” を押す

8 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“はい” を選択して “OK” を押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



A 設定中 しばらくお待ちください

知識

■タイヤ空気圧警報システムの警報精度（現在の空気圧で設定するとき）

●現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

●必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

■空気圧設定の操作（現在の空気圧で設定するとき）

●空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。

●設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

●現在の空気圧で設定をする場合、通常 2、3 分で終了します。

●空気圧設定操作時に警告灯が3回点滅しない場合、設定されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも設定できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■現在の空気圧で設定するとき

必ず指定空気圧に調整してから設定操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する

2 EV システムを始動する（→P.221）

車両が動いているときは、ID コードの登録作業ができません。

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押し、“車両設定” を選択して “OK” を長押しする

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS 設定” を選択して “OK” を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“タイヤ交換” を選択する

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“新規タイヤ登録” を選択する

8 セット選択に表示されているセット “タイヤセット 1” または “タイヤセット 2” を確認します。
表示されているセットに ID コードを登録します。
登録するセットを変更したい場合は、メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、登録したいセットを選択します。

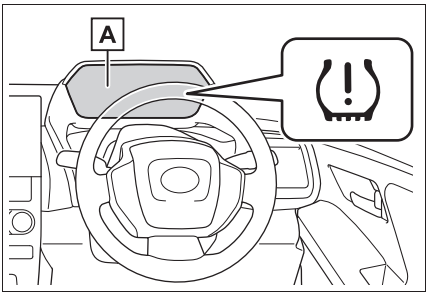
すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。

9 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“はい” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧

表示が “---” になります。



A 設定中 しばらくお待ちください

10 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行します。
登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

11 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する必要があります。
同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要ありません。

知識

■ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
  - 走行前に約 15 分以上駐車していない
  - 約 40km/h 以上で走行していない
  - 未舗装の場所を走行した
  - 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
  - タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、マルチインフォメーションディスプレイで再度、“新規タイヤ登録” を選択してください。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。

正しく中止するためには、再度、“新規タイヤ登録”を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

- この機能は 2 セット目（セット 2）のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、選択しても切りかえはできません。ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。
- ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。
- ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

■ ID コード切りかえのしかた

1 切りかえをしたいタイヤセットに交換をする

2 EV システムを始動する（→P.221）

車両が動いているときは、ID コードの登録作業ができません。

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押し、“車両設定”を選択して“OK”を長押しする

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS 設定”を選択して“OK”を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“タイヤ交換”を選択して“OK”を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“登録済みタイヤ登録”を選択して“OK”を押す

8 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、セット選択に表示されているセット（[セッ

ト 1] または [セット 2]）を選択します。

9 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“はい” を選択して “OK” を押す

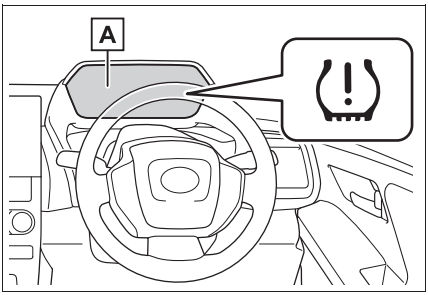
タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



A 設定中 しばらくお待ちください

10 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧の設定が必要です。

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要ありません。

11 タイヤの位置を登録する

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。
このお車はホイールボルトを使用しています。
工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のトヨタ純正ホイールボルトを使用する必要があります。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.485）
- パワーバックドア装着車は設定を OFF にする（→P.181）

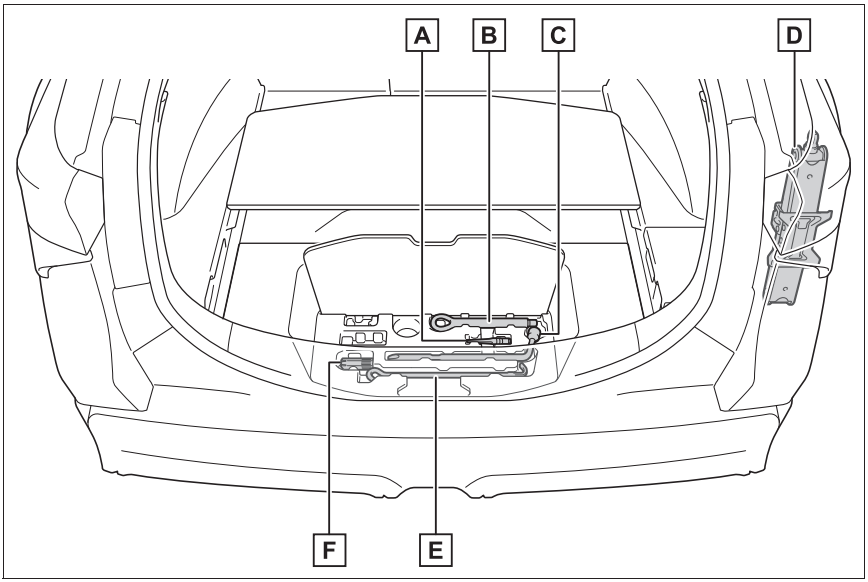
知識

■工具について

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具は搭載されていません。工具はトヨタ販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールボルトレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ガイドピン
- ホイールボルトソケット

工具の位置



A ガイドピン ※

B けん引フック

C ホイールボルトレンチ ※

D ジャッキ ※

E ジャッキハンドル ※

F ホイールボルトソケット ※

※ トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

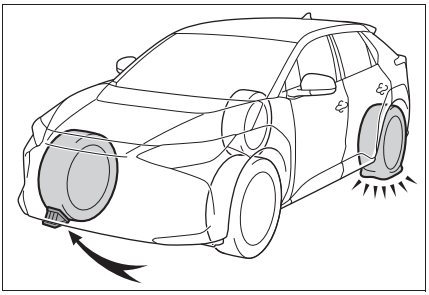
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したり車を走らせない

警告

- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

タイヤの取りはずし

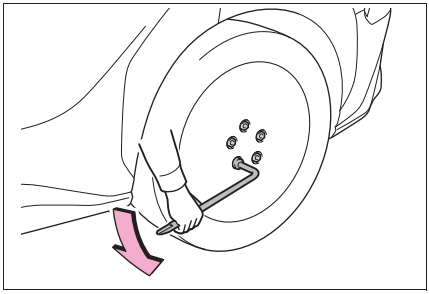
1 輪止め※をする



交換するタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

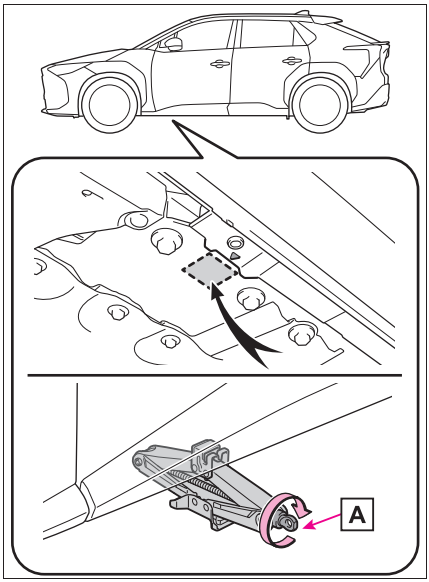
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ホイールボルトを少し（約 1 回転）ゆるめる

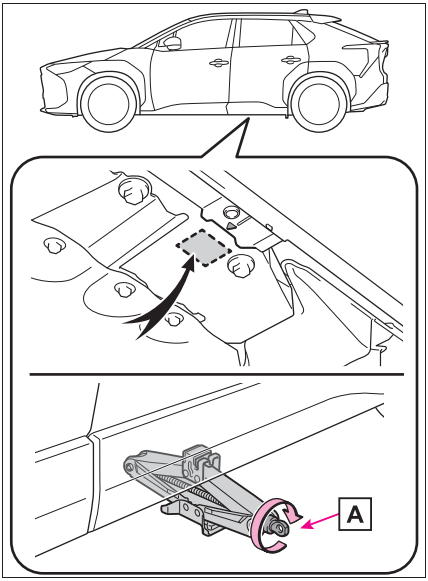


3 ジャッキの A 部を手でまわして、図の位置にしっかりかける

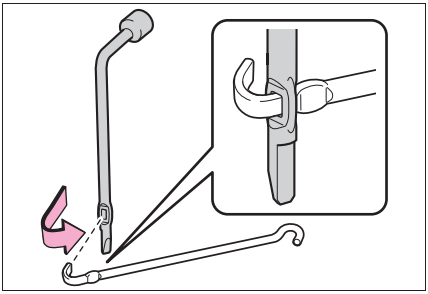
▶ フロント側



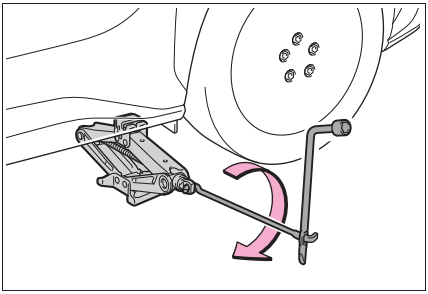
▶ リヤ側



4 ジャッキハンドルにホイールボルトレンチを取り付ける

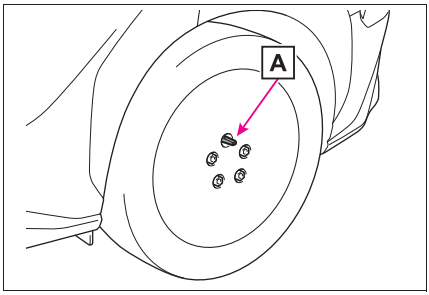


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



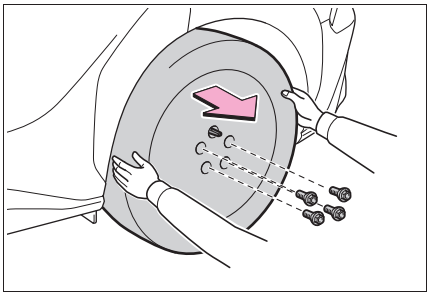
6 最上部にあるホイールボルト 1 本を取りはずし、ガイドピン A を手で締め付ける

時計回りに回らなくなるまで締め付けます。



7 残りのホイールボルトすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

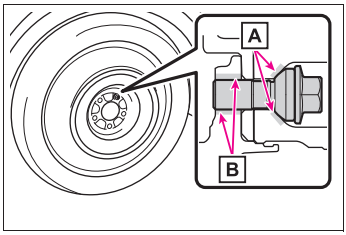
■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のトヨタ純正ホイールボルトを使用してください。なおトヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式・型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。

・ホイールボルトとホイールの球面座部Aにオイルやグリースを塗らないでください。
ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじBが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

・ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

■ホイールボルトを締め付けるときは

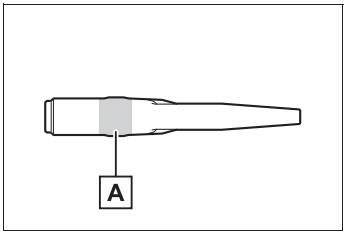
ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

警告

■ガイドピンについて

タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイール載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.181）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

注意

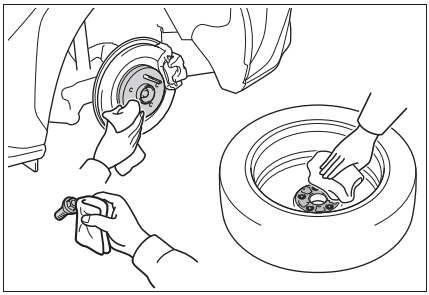
■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.458

タイヤの取りつけ

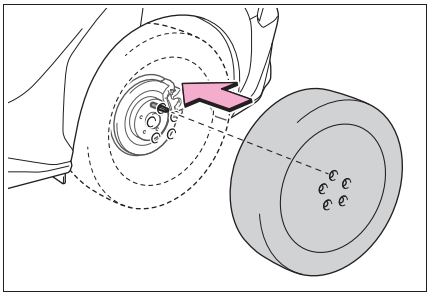
1 ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



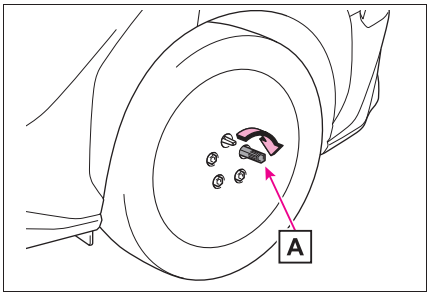
2 ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付ける

タイヤのホイールが接触面にあたるまで、しっかり取り付けてください。

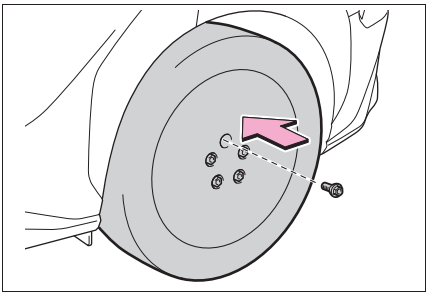


3 手または、ホイールボルトソケット A を使用し、ホイールボルトを軽く締め付ける

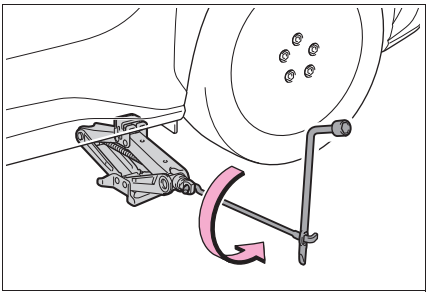
タイヤを手で押さえ、落下させないようにしてください。



4 ガイドピンを取り外し、ホイールボルトを手順 **3** 同様に軽く締め付ける

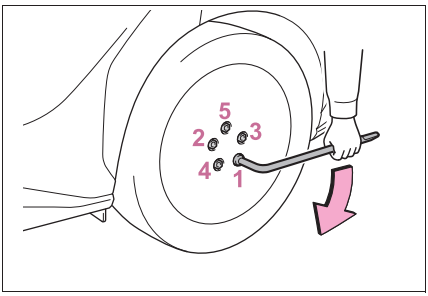


5 車体を下げる



6 ホイールボルトレンチを使用し、図の番号順でホイールボルトを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
140N・m（1428kgf・cm）



7 すべての工具を収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- ●電費の悪化
- ●乗り心地や操縦安定性の低下
- ●摩耗によるタイヤ寿命の低下
- ●安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- ●タイヤが冷えているときに点検する
- ●タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- ●走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- ●荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

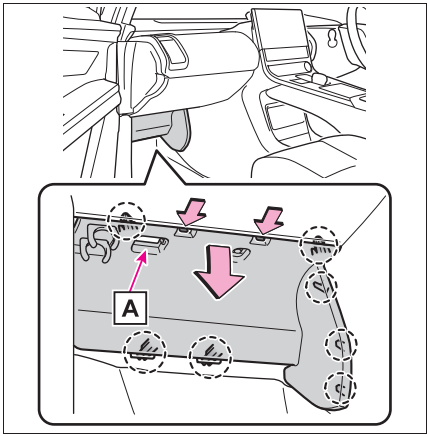
充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 助手席ドアを開ける

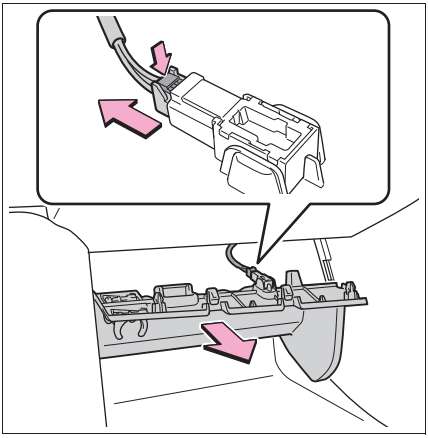
ドアを開けておくことで、リモートエアコンシステムの意図せぬ作動を防止できます。（→P.404）

3 発煙筒を取りはずす

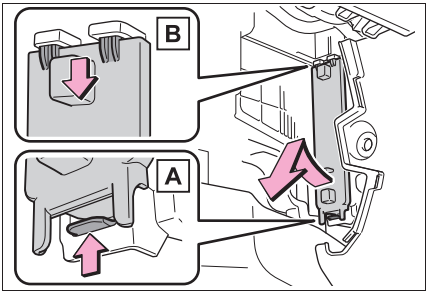
4 ツメを押しながら取っ手Aを持ってパネルを取りはずす。



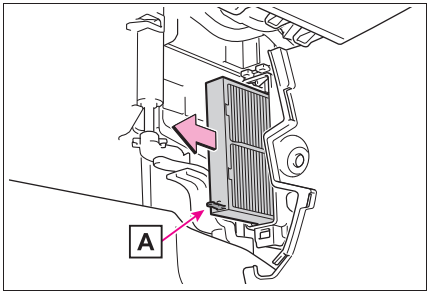
5 コネクターを切りはなす



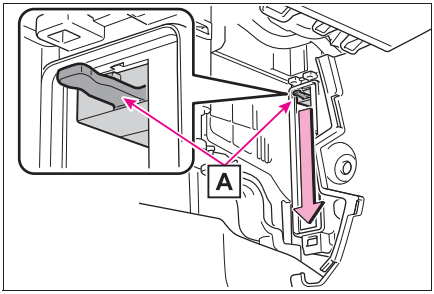
6 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす



7 フィルターケースAを持って下段のフィルターケースを取りはずす



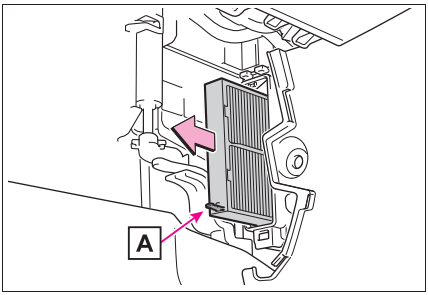
8 フィルターケースAを持って上段のフィルターケースを引き下げる



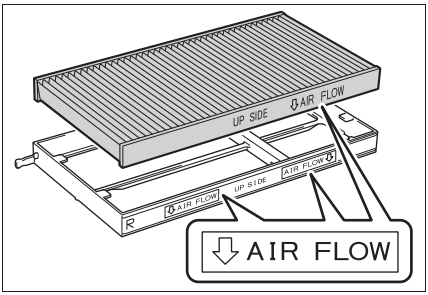
9 フィルターケースAを持って上段のフィルターケースを取りはずす

エアコン本体内の底部にほこり、ゴミ（落ち葉など）がたまっていることがある

ため掃除機などで取り除いて下さい。



10 フィルターを上段と下段のフィルターケースから取りはずし、新しいフィルターと交換する

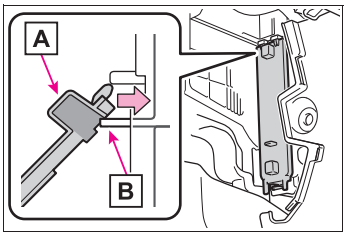


矢印が車両後方を向くように取り付けます。

知識

■フィルターカバー取り付けのときは

フィルターカバーの凹み部 A を図のように上段のフィルターケース B の上面を滑らせ、カバー取り付けの差し込み部に向かって持ち上げるように取り付ける。



■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

警告

■エアコンフィルターを交換するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 充電コネクターが接続されていないことを確認する
- リモートエアコンシステムを使用しない

注意

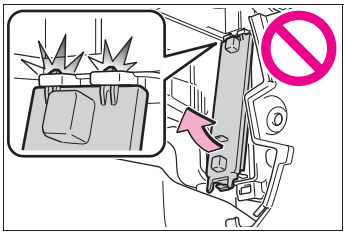
■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

注意

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池：CR2450

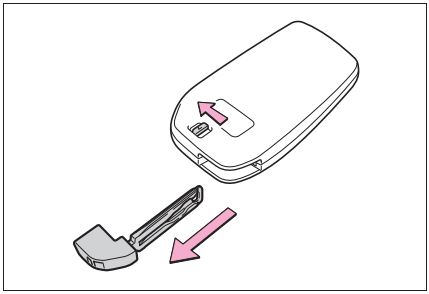
知識

■リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

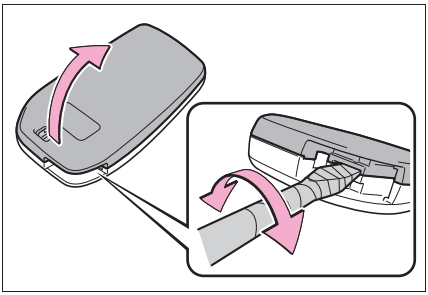
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

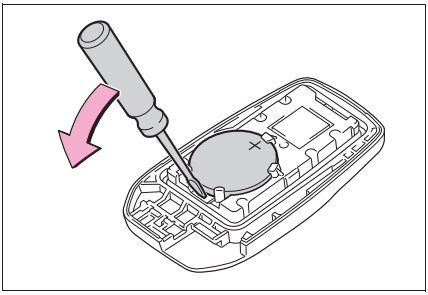


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

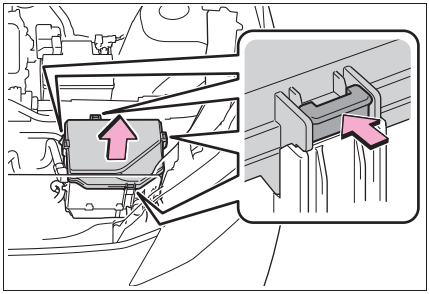
1 パワースイッチを OFF にする

充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 ヒューズボックスを開ける

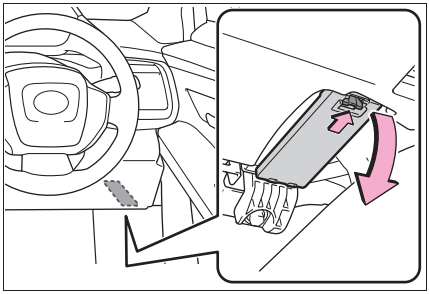
▶ モータールーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



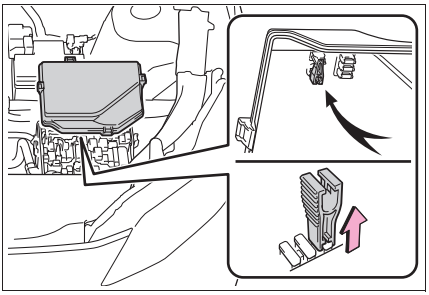
▶ 運転席足元

ヒューズボックスカバーを取りはずす



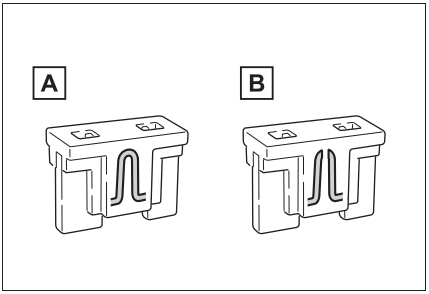
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

外装のランプが点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

知識

■LED ランプについて

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■ランプなどの電装部品を交換するとき

→P.480

万一の場合には

8

8-1. まず初めに

故障したときは 484
非常点滅灯（ハザードランプ）485
発炎筒..... 485
車両を緊急停止するには..... 486
水没・冠水したときは..... 487
車中泊が必要なときは..... 488

8-2. 緊急時の対処法

けん引について 489
警告灯がついたときは..... 494
警告メッセージが表示されたときは
..... 501
パンクしたときは 507
EV システムが始動できないときは
..... 517
キーをなくしたときは..... 518
充電リッドが開かないときは .. 519
電子キーが正常に働かないときは
..... 520
補機バッテリーがあがったときは
..... 522
オーバーヒートしたときは..... 526
スタックしたときは..... 528

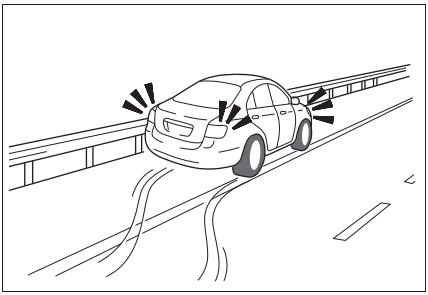
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.485）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



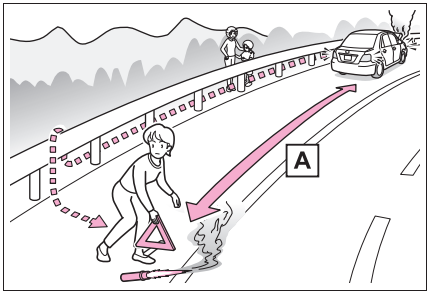
● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方A に発炎筒（→P.485）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

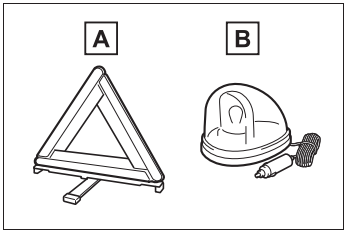


3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

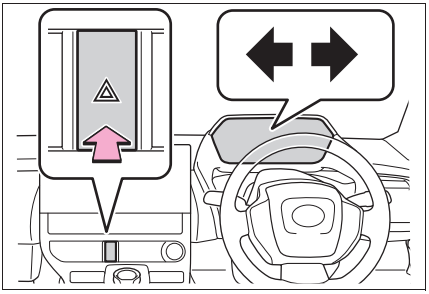
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●EV システム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。

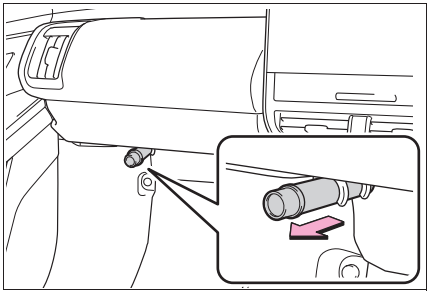
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

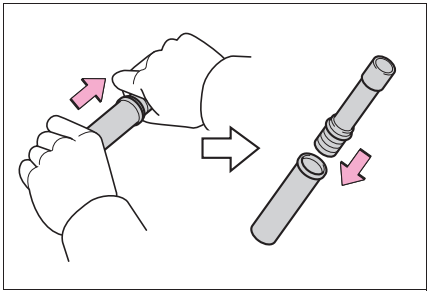
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



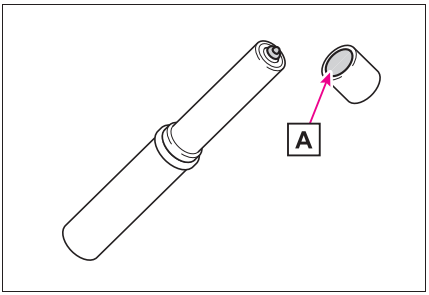
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発災筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発災筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発災筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発災筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発災筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発災筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

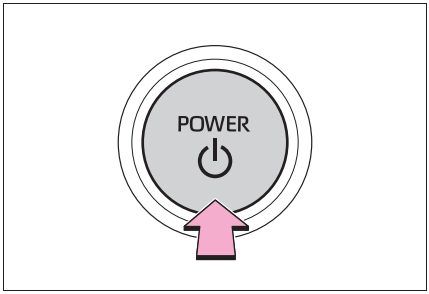
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 EV システムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して EV システムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

警告

■走行中にやむを得ずEVシステムを停止するときは

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
EV システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。
落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.223, 506）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.53）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.520）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.522）

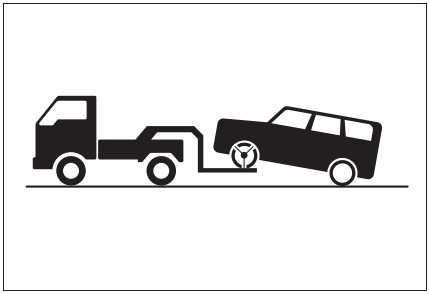
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- EV システムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

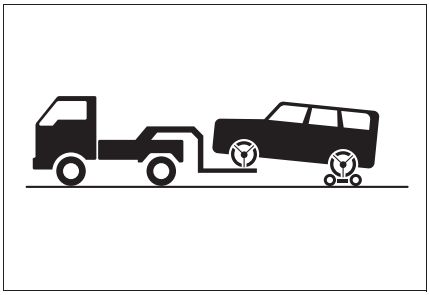
▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



パーキングブレーキを解除する

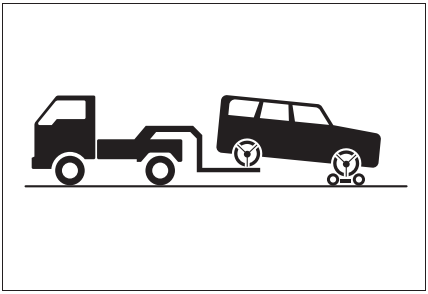
オートモードを OFF にしてください。（→P.232）

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

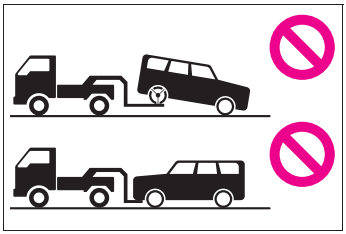
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

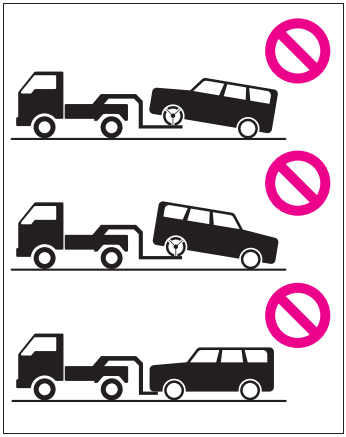
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ 4WD 車

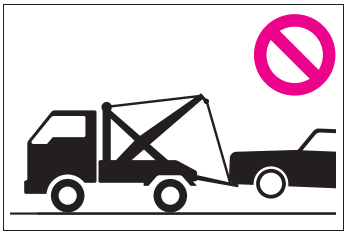
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説明書を確認してください。運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にしてください。

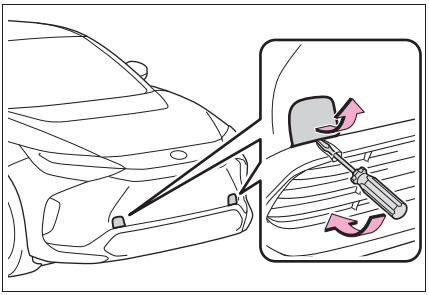
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

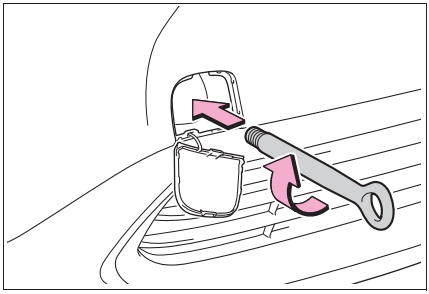
1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.508）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

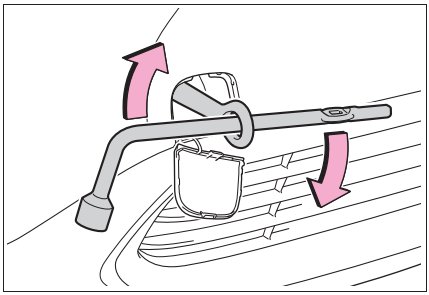


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールボルトレンチ※ や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ トヨタ販売店で購入することができます。

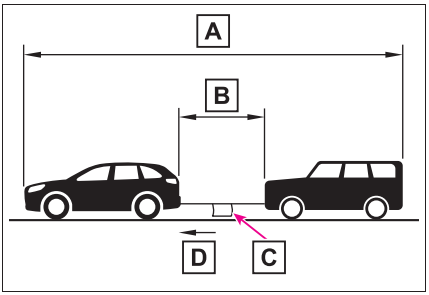


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、EV システムを始動する

EV システムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.232）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

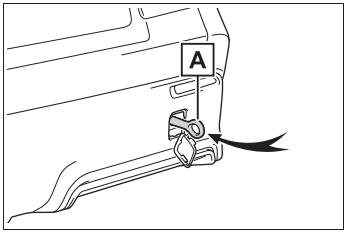
EV システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールボルトレンチについて

トヨタ販売店で購入することができます。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 輸送用フック／緊急用フック

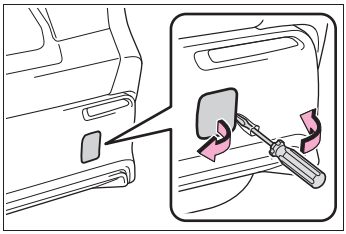
■リヤ側けん引フックを取り付けるには

輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

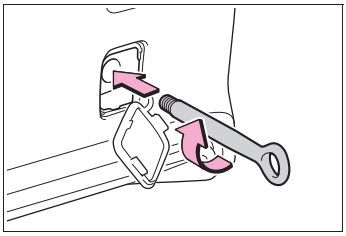
1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.508）

2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

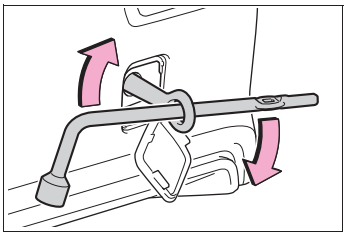


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールボルトレンチ※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※トヨタ販売店で購入することができます。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・パワースイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●パーキングブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●回生ブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS &ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 → **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ●ブレーキオーバーライドシステム作動時 → **アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 駆動用電池充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	駆動用電池の残量や状態から充電が必要 低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります。 → **駆動用電池を充電する（→P.84）**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点灯しブザーが鳴った場合： 自然要因 **→ タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。** タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.499）に従ってください。**

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LDA（レーンデパーチャーアラート）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	PDA(プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●後方車両への接近警報 ●後方車両接近告知 ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション） ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.503）**

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF （点滅または点灯）	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
(P) （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

- リヤドアを開閉すると約 60 秒間点灯します。
- いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約 60 秒後に消灯します。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.507

パンクしていないときは：
パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1. タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
2. 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。

空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯しま

す。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.458

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を確認・調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤがパンクしている場合は、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤの修理をしてください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについて

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定（→P.455）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.494）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “EV システム停止のためハンドルが重くなります ” が表示されたときは

走行中に EV システムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “EVシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.526

■ “ シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車 ” または “ シフトシステム故障 走行を継続できません ” が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください ” が表示されたときは

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ “EV システムが高温になるため停車時はブレーキを踏んでください ” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けると EV システムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “ バッテリー保護のため自動で電源を Off しました ” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回 EV システム始動時に、約 5 分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “回生ブレーキ制限中 減速時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。ブレーキペダルをしっかり踏んで減速して下さい。

・満充電により、これ以上回生ができないとき

・駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

・電気モーターやパワーコントロールユニットの温度が極端に高いとき

■ “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です” が表示されたときは

不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。

■ “ヘッドランプシステム故障販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●AHS（アダプティブハイビームシステム）

■ “機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●RCD（リヤカメラディテクション）

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）

●レーダークルーズコントロール

●RSA（ロードサインアシスト）

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

●BSM（ブラインドスポットモニター）

●RCTA（リヤクロストラフィックア

ラート）

- 後方車両への接近警報
- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **“機能停止　取扱書を確認”が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- 後方車両への接近警報
- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）

次の対処法に従ってください。

・バッテリー電圧を確認する

・Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.250）

・バックドアが開いていないか確認してください。

センサーが正しく作動していないおそれがあります。（→P.253, 300, 303, 306, 308, 310, 314, 318, 326, 330, 338, 340, 341）

・BSM、RCTA、後方車両への接近警報、安心降車アシスト、後方車両接近告知、周辺車両接近時サポート、セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中

後突対応）で使用するセンサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。
（→P.297）

・クリアランスソナー、PKSB で使用するセンサーとカメラに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。
センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■ **“機能停止 前方カメラ視界不良　取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）

●レーダークルーズコントロール

●RSA（ロードサインアシスト）

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。

・エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。

・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ **“機能停止 前方カメラ作動温度範囲外　常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）

●レーダークルーズコントロール

●RSA（ロードサインアシスト）

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる

・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります

・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ **“機能停止 前方レーダー汚れ　汚れを除去してください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステ

ム）

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.251）

・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。

車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ **“機能停止 前方レーダー作動温度範囲外　常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ **“機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.251）

・レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ **“クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●レーダークルーズコントロール

●クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ “ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のシステムが停止しています。

● ドライバーモニター

ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “ドライバーモニター使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。

レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

■ “アクセルを戻してください” が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

● ドライブスタートコントロール（→P.218）

■ “アクセルが踏まれています” が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

● プラスサポート★（→P.386）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトポジションの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

● 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・“バッテリ充電不足”（→P.522）
・“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください”（→P.126）

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・“スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”
・“バッテリ系故障”
・“アクセル系故障”
・“プラグイン充電システム故障”
・“EV システム故障”
・“シフトシステム故障 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
・“シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・“故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認”

注意

■“電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■“バッテリ充電不足”がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■“駆動用電池の点検を販売店で受けてください”が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、EV システムを始動することができなくなります。

●万一、EV システムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■タイヤがパンクしたときは

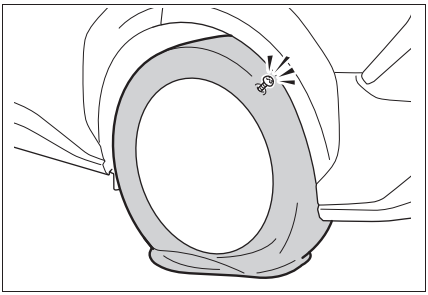
パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、

タイヤを応急修理してください。



・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

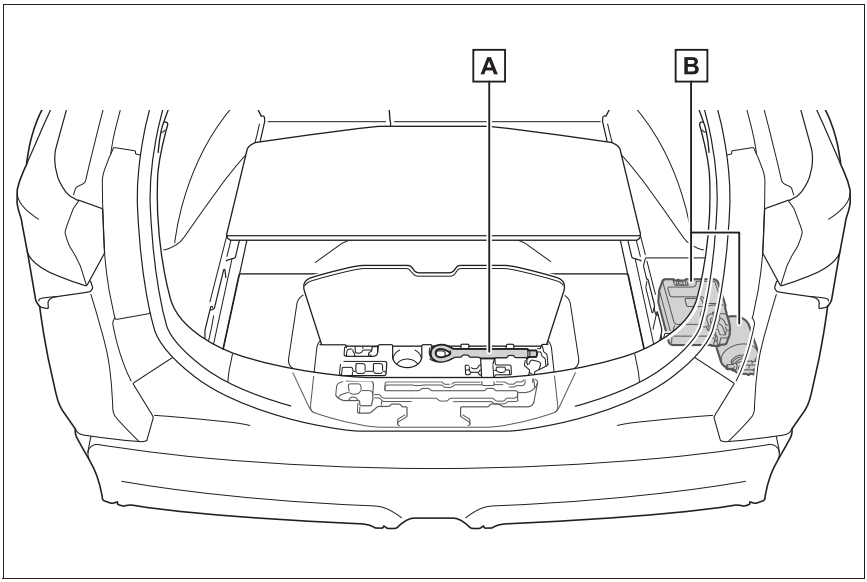
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の位置

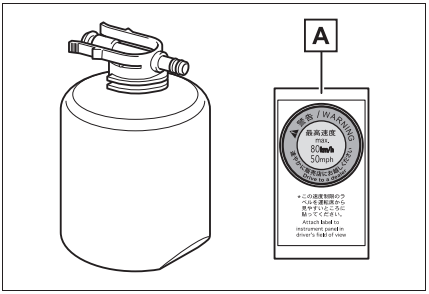


A けん引フック

B タイヤパンク修理キット

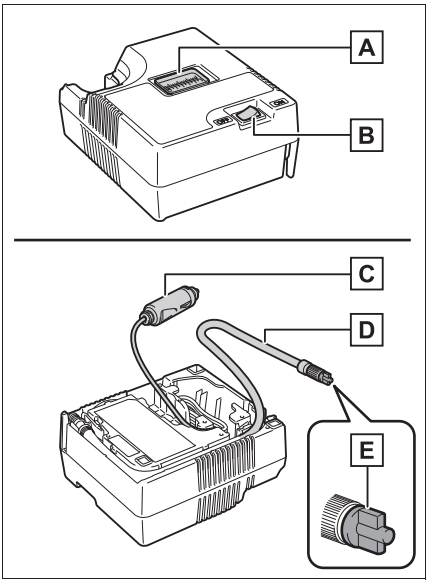
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－40℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットに

よる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

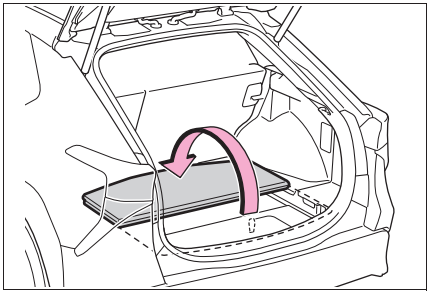
■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

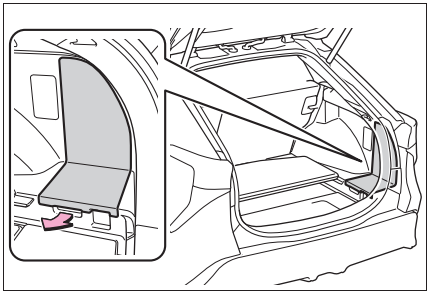
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

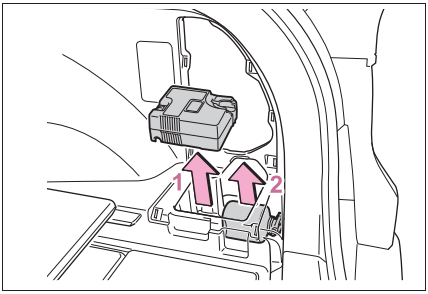
1 デッキボードを折りたたむ



2 カバーを取りはずす



3 応急用キットを取り出す



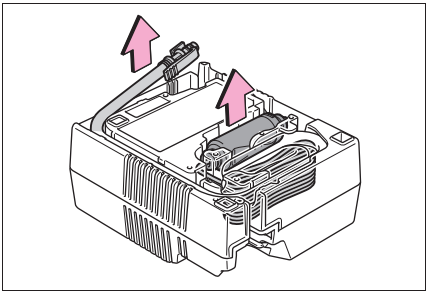
1 コンプレッサー
2 ボトル

応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

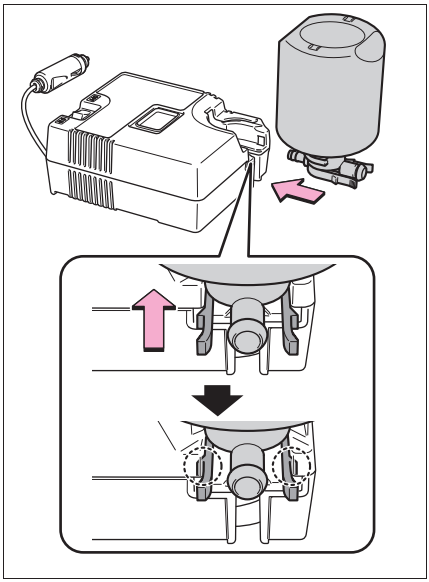
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



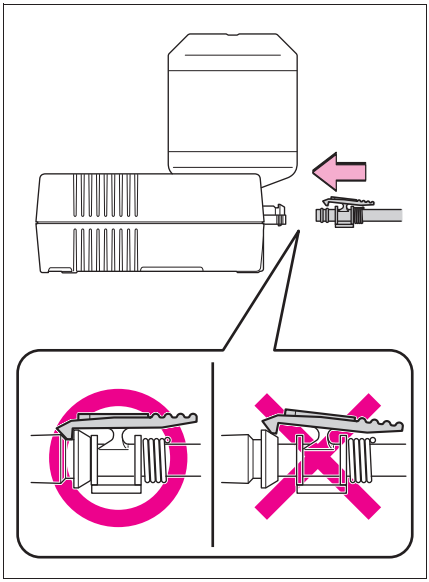
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

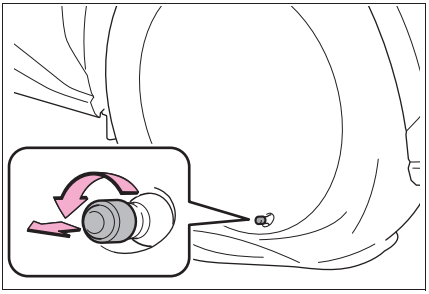


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

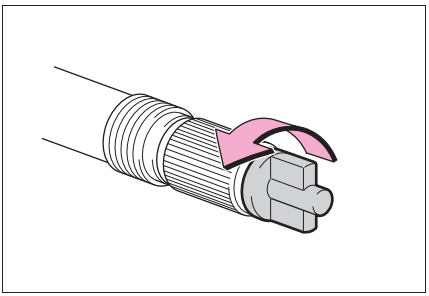


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



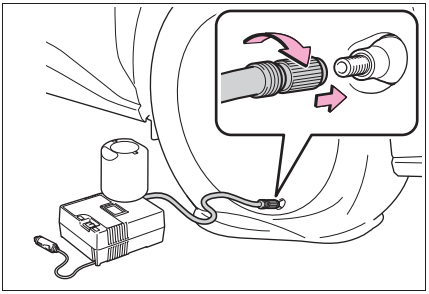
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

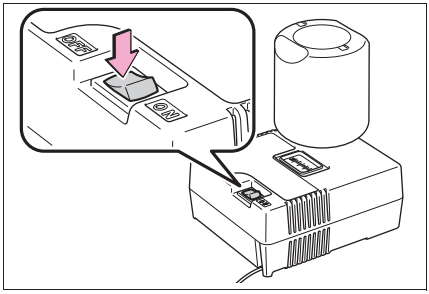


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

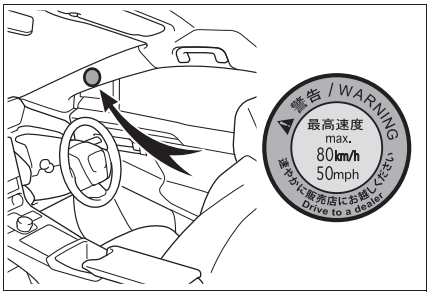


8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



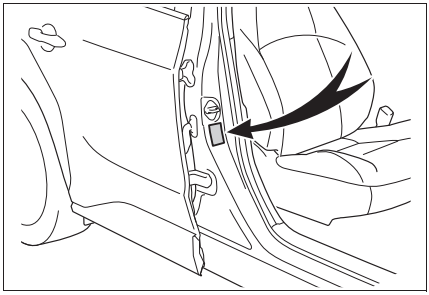
9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.422）

10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



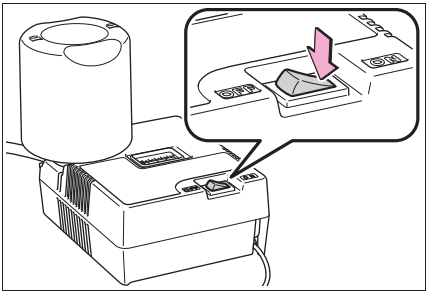
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.455）

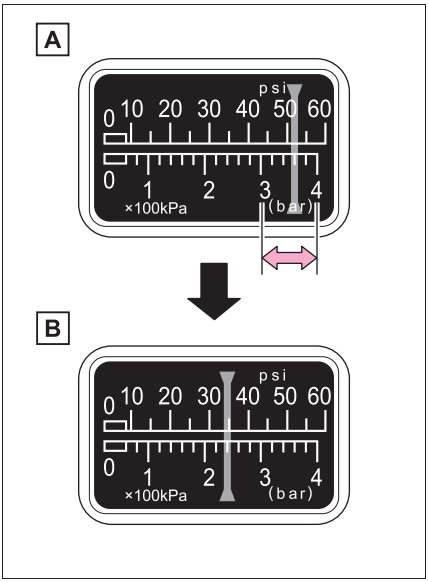


12 EV システムを始動する（→P.221）

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が300～400kPa（3.0～4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチをONにしてから約1～5分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチをOFFにしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約5～20分です（外気温により異なります）。25分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチをOFFにして、トヨタ販売店にご連絡ください。
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.455, 532）

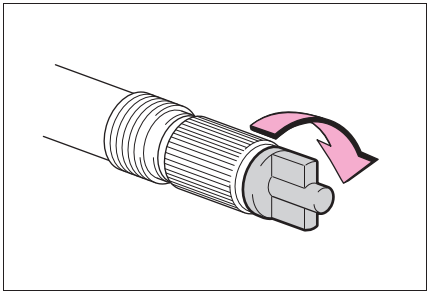
15 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

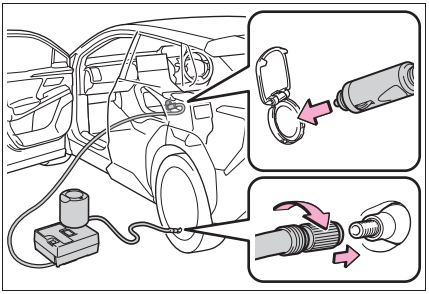


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

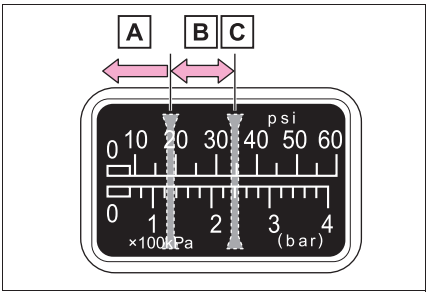
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにしてから再度OFFし、空気圧を確認する



A 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

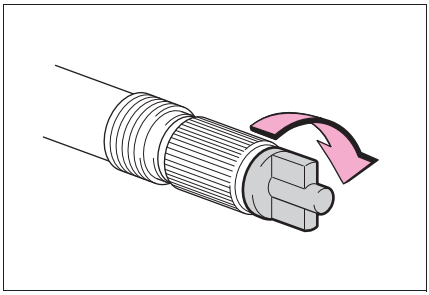
B 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順**22**へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.455）の場合：手順**23**へ

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**20**から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約100km以内、速度80km/h以下でトヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ売店にご相談ください。

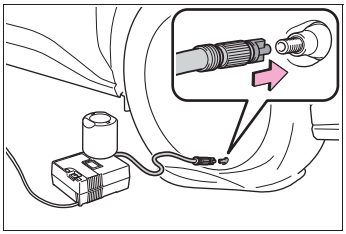
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急（パンク）修理キットを使用したとき

●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

EV システムが始動できないときは

EV システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものをご確認いただき、適切に対処してください。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

正しい EV システムの始動方法（→P.221）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。（→P.87）
- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→P.520）
- 駆動用電池が電欠している可能性があります。駆動用電池を充電して下さい。（→P.84）
- イモビライザーシステム※に異常がある可能性があります。（→P.53）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.223, 506）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、EV システムを一時的な処置で始動することができます。（→P.517）
- 駆動用電池の温度が極端に低い（およそ -30 ℃以下）可能性があります（→P.62, 222）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.522）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.522）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常の EV システム始動操作で EV システムが始動しないときは、次の手順で EV システムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキをかける
2 パワースイッチを ACC※ にする
3 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法で EV システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ マルチメディア画面のカスタマイズメニューから有無を切りかえることができます。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

充電リッドが開かないときは

充電リッドが通常の手順で開かないときは、次の手順で充電リッドを開けることができます。

充電リッドを開けるには

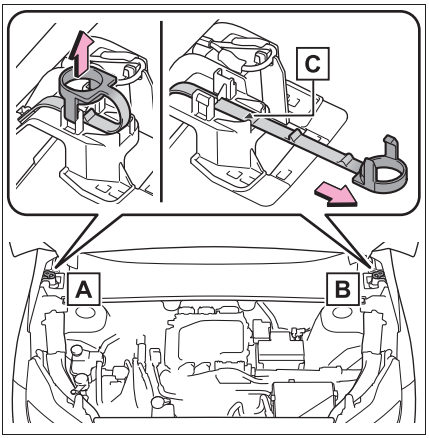
1 ボンネットを開ける（→P.451）

2 緊急解除レバーのリング部を引き上げて、外す

3 ベルトのマークCが図の位置になるまでリング部を引く

リング部は車両内側方向へ水平に引いてください。

解錠操作完了後、リング部を元の位置へ“カチッ”と音がするまで押し込み固定してください。



A 普通充電リッド側

B 急速充電リッド側

知識

■緊急解除レバーで解錠するとき

次のことをお守りください。

・リング部に無理な力をかけない

・水平に引っ張りすぎない

・ベルトがよじれて戻りにくいときは、ベルト部を押し込んで元に戻してください。

緊急時のみ使用してください。

解消しないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.184）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、EV システムを始動したりすることができます。

知識

■**電子キーが正常に働かないときは**

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.184）

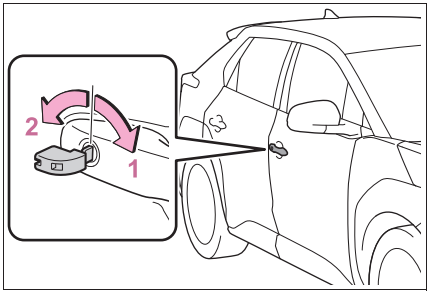
注意

■**スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき**

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

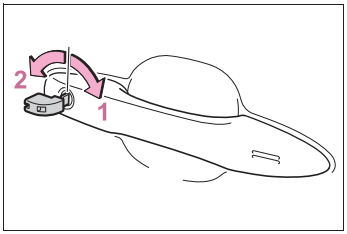
メカニカルキー（→P.160）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

知識

■**キー連動機能**



1 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
2 ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

警告

■**メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

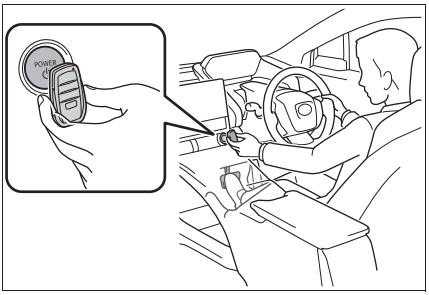
EV システムを始動するには

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する。

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■EV システムの停止のしかた

通常の EV システム停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明している EV システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.477）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.54）

■パワースイッチのモードの切りかえ

EV システム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.223）

補機バッテリーがあがったときは

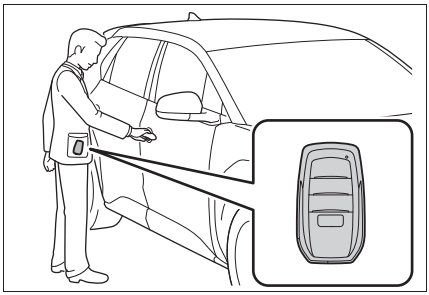
補機バッテリーがあがった場合、次の手順で EV システムを始動することができます。

EV システムを再始動するには

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、EV システムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

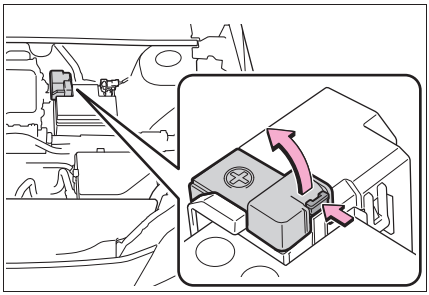
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.55）



2 ボンネットを開ける（→P.451）

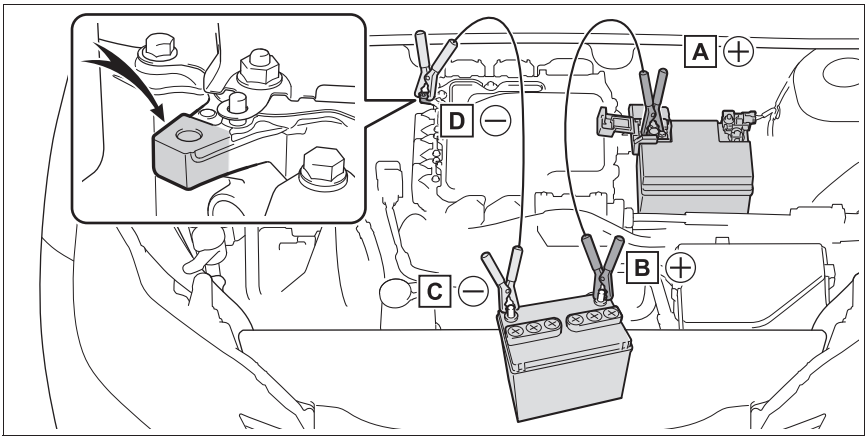
3 バッテリーの＋端子のカバーを開ける

図のように、ツメを押しながら、カバーを開けます



4 赤色のブースターケーブルを自車の＋端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を金属部 D につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてから EV システムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 EV システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 バッテリーの＋端子のカバーを閉じる

EV システムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●EV システムが停止しているときは、ランプ、エアコンやオーディオなどの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用し

ていないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってEV システムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーは EV システムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。また、補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の EV システム始動は失敗することがあります。2 回目以降の EV システム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●パワーバックドアシステムの初期化を行ってください。（→P.177）

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（286A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合には EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

警告

- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーを交換するときは

- 液栓がステーに近いと、バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

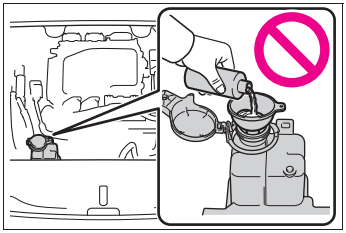
オーバーヒートしたときは

マルチインフォメーションディスプレイに “EV システム高温出力制限中です ” が表示される場合は、オーバーヒートの可能性があります。

⚠注意

■ラジエータ用冷却水

ラジエータの冷却水は、ラジエータ専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。トヨタ純正駆動用バッテリークーラントがない場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。



対処方法

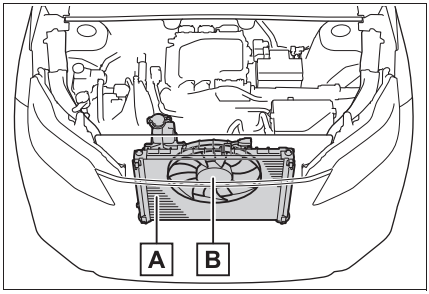
1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にする

2 EV システムが作動している状態で、ボンネットを開ける

3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているかを確認する
ファンが作動している場合：
“EV システム高温 出力制限中です ” 表示が消えるまで待ち、EV システムを停止する
ファンが作動していない場合：
すぐに EV システムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

4 EV システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

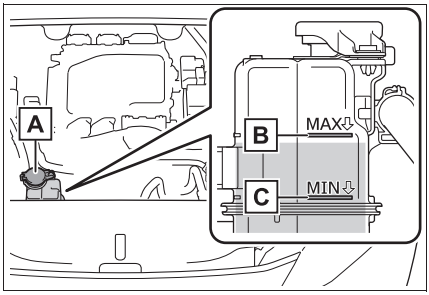
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

5 冷却水の量がリザーバータンクの “MAX” （上限）と “MIN” （下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

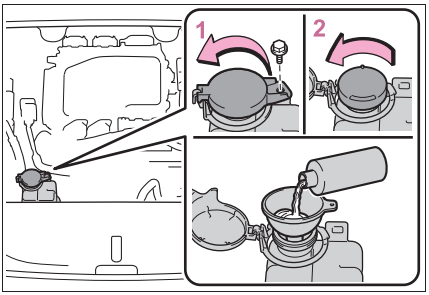
B “MAX” （上限）

C “MIN” （下限）

6 冷却水が不足している場合は、トヨタ純正駆動用バッテリークーラントを補給する

冷却水がない場合は、トヨタ販売店に連

絡してください。



1 ボルトを取りはずす

2 リザーバーキャップを開ける

できるだけ早く最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■モータールームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- モータールームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。モータールーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- EV システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

EV システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
EV システムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、EV システムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水には、水や他の冷却水を補充しないでください。また、冷却水用添加剤は使用しないでください。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

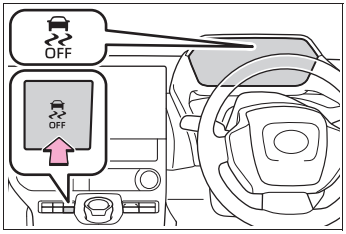
脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして EV システムを停止する
2 前輪周辺の土や雪を取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 EV システムを再始動する
5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ダイヤル式シフトを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 9

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ..... 530

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... 534

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 546

メンテナンスデータ

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正駆動用バッテリークーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　－ 35 ℃	6.1※1 7.6※2

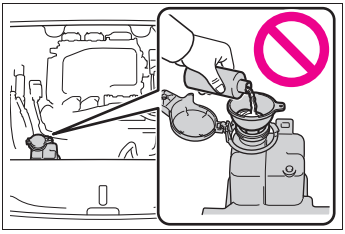
※1 FF（前輪駆動）車

※2 4WD（4 輪駆動）車

注意

■ラジエーター用冷却水について

ラジエーターへは、トヨタ純正駆動用バッテリークーラント（以下、純正品）もしくは純正品と同等性能の冷却液をご使用ください。なお、純正品以外を注入した場合、トヨタは駆動用バッテリーの安全性を保証することができません。最悪の場合、電池の短絡や損傷につながる恐れがあります。また、車両から抜き取った冷却液（純正品を含む）は、再使用しないでください。



ヒーターシステム

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　－ 35 ℃	4.5

フロント eAxle（イーアクスル）

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
e- トランスアクスルフルード　TE	3.9

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■フロント eAxle フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤ eAxle（イーアクスル）（4WD 車のみ）

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※）
e- トランスアクスルフルード TE	3.1

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

注意

■リヤ eAxle フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ※1

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※2	62

※1ブレーキペダルの点検に併せて、EV システムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.494 を参照してください）

※2EV システムが作動している状態で、300N（31kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき	消灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき	点灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.494 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5※1
4.8※2

※1寒冷地仕様車を除く

※2寒冷地仕様車

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
235/60R18 103H	18 × 7 1/2 J	260（2.6）	
235/50R20 104V XL	20 × 7 1/2 J	260（2.6）	

■ ホイールボルト締め付けトルク

トルク [N・m（kgf・cm）]
140N・m（1428kgf・cm）

車両仕様

名称	型式	電動機型式	駆動方式
bZ4X	XEAM10	1XM	FF（前輪駆動）
	YEAM15	1YM	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ **マルチメディア画面で設定するには**

1 メインメニューの⚙をタッチし、“車両カスタマイズ”を選択する

2 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

3 機能の作動内容を選択する

■ **マルチインフォメーションディスプレイで設定するには**

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの＜または＞を押して変更する項目を選択する

3 ON/OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの OK を押してご希望の設定に切りかえる

4 詳細設定が可能な機能では、OK を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、⮌スイッチを押します。

知識

■ **カスタマイズ設定を行うとき**

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、EV システムが作動している状態で操作を行ってください。

注意

■ **カスタマイズを行うときは**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→P.54）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	—	○

■ 充電システム（→P.85、93、100）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
充電電流 ※	MAX	16A	○	○	—
		8A			
充電量上限	Full	90%	○	○	—
		80%			
		70%			
		60%			
		50%			
急速充電電力	MAX	125 kW	○	○	—
		100 kW			
		75 kW			
		50 kW			
電池冷却	あり	なし	○	○	—

※ 100V での充電時には、この設定は反映されません。

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.148, 151）

機能の内容※	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
		中国語			
		韓国語			
単位	km/kWh	kWh/100km	—	○	—
電費グラフ	通算平均電費	始動後平均電費	—	○	—
オーディオシステム連携表示	あり	なし	—	○	—
4WD（トルク配分表示）★	表示	非表示	—	○	—
ドライブインフォ演算	始動後	リセット後	—	○	—
ドライブインフォ項目	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間			
割込表示	あり	なし	—	○	—
エンディング	ドライブインフォ	タイマー充電	—	○	—
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	○	—	○
		なし			
制動灯表示灯	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 機能についての詳しい説明は P.154 を参照してください

■ リヤシートリマインダー（→P.166）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後席置き忘れ防止の表示	あり	なし	—	○	—

■ ドアロック（→P.164, 520）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
シフトポジションをＰから動かすときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトポジションをＰにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○

■ パワーバックドア★（→P.172）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア開度調節	開度５	開度１～４ お好みの位置	—	○	—
パワーバックドア機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル３	レベル１ レベル２	—	○	—
作動ブザー	なし	あり	—	—	○
ハンズフリーパワーバックドアセンサー（キックセンサー）機能	あり	なし	—	○	—
キック検知ブザー	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.159, 182）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル５	OFF レベル１～７	○	—	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒 120 秒	—	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.182）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間	2.0 秒	非作動	—	—	○
		1.5 秒			
		2.5 秒			
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○
降車オートロック機能	あり	なし	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.159）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
ドアが施錠されている状態で 🚗 を操作したときのドアロック解錠作動（パワーバックドア装着車）（→P.172）	なし	あり（全ドア解錠）	—	—	○
		あり（バックドアのみ解錠）			

■ ドアミラー（→P.204）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		パワースイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→P.206）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○

■ マイセッティング（→P.209）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドライバーの切り替え	ゲスト	ドライバー1	○	—	—
		ドライバー2			
		ドライバー3			

■ パワースイッチ（→P.223）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC モード	あり／なし	○	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.237）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	より暗い	より明るい	○	—	○
		明るい			
		標準			
		暗い			
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	パワースイッチを OFF にする	パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ ランプ（→P.237）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）（→P.240）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	あり／なし	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	15 km/h ／ 30 km/h ／ 40 km/h	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり／なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり／なし	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	あり／なし	—	—	○
市街地用の配光制御	あり／なし	—	—	○

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.255）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	ON/OFF	—	○	—
警報タイミング	遅い／標準／早い	—	○	—

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.268）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート	ON/OFF	—	○	—
警報タイミング	標準／早い	—	○	—
警報手段	ハンドル振動／ブザー	—	○	—
低車速支援	ON/OFF	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（→P.283）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
再発進可能時間延長 ※	ON/OFF	—	○	—
加速度設定 ※	強／中／弱	—	○	—
速度設定（短押し）※	1km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—
速度設定（長押し）※	1km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—
ガイド文言表示 ※	ON/OFF	—	○	—
カーブ速度抑制 ※	強／中／弱／ OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.273）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト	ON/OFF	—	○	—
支援タイミング	遅い／標準／早い	—	○	—

■ 発進遅れ告知（→P.278）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車 ※	ON/OFF	—	○	—
信号 ※	ON/OFF	—	○	—
告知タイミング ※	早い／標準／遅い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.280）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト	ON/OFF	—	○	—
速度標識超過告知方法	無／表示／表示とブザー	—	○	—
その他告知方法	無／表示／表示とブザー	—	○	—
速度超過告知車速	10km/h ／ 5 km/h ／ 2 km/h	—	○	—

■ 休憩提案（→P.268）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	ON/OFF	—	○	—

■ ドライブスタートコントロール（→P.218）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし ※	—	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.296）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり／なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ ※	暗い／明るい	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	遅い／標準／早い	—	○	—
ブザー警報 ※	あり／なし	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 後方車両接近告知（→P.302）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後方車両接近告知機能 ※	あり／なし	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	遅い／標準／早い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 周辺車両接近時サポート（→P.304）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
周辺車両接近時サポート機能 ※	あり／なし	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 安心降車アシスト（→P.311）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
安心降車アシスト機能	On/Off	—	○	—
ドアミラーインジケーター表示 ※	あり／なし	—	○	—
接近車両検知の感度 ※	低い／中間／高い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー（→P.315）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能 ※1	あり／なし	—	○	—
ブザー音量 ※1, 2	レベル 1 ／レベル 2 ／レベル 3	—	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.323）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤクロストラフィックアラート機能	On/Off	—	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	レベル 1 ／レベル 2 ／レベル 3	—	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）（→P.328）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RCD（リヤカメラディテクション）機能	ON/OFF	—	○	—

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.331）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※	ON/OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ トヨタチームメイトアドバンストパーク（→P.342）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
Remote Park ★	あり	なし	○	—	—
音声案内	あり	なし	○	—	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
速度モード	標準	遅め	○	—	—
		速め			
障害物回避距離	標準	遠い	○	—	—
優先駐車方法	並列	縦列	○	—	—
優先駐車向き	バック	前向き	○	—	—
優先出庫方向（並列）	左	右	○	—	—
優先出庫方向（縦列）	右	左	○	—	—
駐車時の映像	ノーマル	ワイド	○	—	—
出庫時の映像	ワイド	ノーマル	○	—	—
駐車進路調整	0（中央）	-3（内側）～ +3（外側）	○	—	—
道幅調整	標準	やや狭い	○	—	—
		狭い	○	—	—
駐車位置調整（前向き）	0（中央）	-3（後）～ +3（前）	○	—	—
駐車位置調整（バック）	0（中央）	-3（後）～ +3（前）	○	—	—
後部取付部品設定	取付なし	10cm	○	—	—
		20cm			
		30cm			
		40cm			
登録した場所の消去	—	—	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→P.398）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○

■ イルミネーション（→P.410）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
車室内足元照明、シフト照明、インサイドハンドル照明、ドアトリム照明、センターコンソール下照明、センターコンソール内照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトポジションを P から動かすときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。

・シフトポジションを P から動かすと全ドアが施錠されます。

・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。

・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

● “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア★	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P.177
パワーウインドウ	・正常に働かないとき	P.206
タイヤ空気圧警報システム	・指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ・タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき	P.459

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 548
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 550
アルファベット順さくいん..... 552
五十音順さくいん 554

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→P.518）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.518）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.477）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.223）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.184）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.168）

故障かな？と思ったら

EV システムが始動できない

- 充電ケーブルが接続されていませんか？（→P.87）
- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.221）
- シフトポジションは P になっていますか？（→221）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.183）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法で EV システムを始動することができます。（→P.521）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.522）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.208）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（EV システムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.224）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.550）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.494, 501 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.507）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.528）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.54
ドアを開閉したとき	シフトポジションが P 以外になっている	P.501
	窓が開いている（EV システム停止中のみ）	P.207
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.54
	後方から自動車・自転車が接近している	P.311
EV システムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.158
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.183
	電子キーを車内に置き忘れている	P.501

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチを ACC または ON にするか、EV システムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.167
	パーキングブレーキが解除されていない	P.233
	シートベルトを着用していない※	P.496
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.216
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.283
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.255
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.264
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.268

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.280
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.278
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.294
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.315
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.328
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.323

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....398
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
.....380
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
.....380
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
.....240
BEV
（バッテリーエレクトリックビークル）.....58
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....296
ECB
（電子制御ブレーキシステム）..380
EDR
（イベントデータレコーダー）.....9
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....380
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....39
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....481
LED デイライト 238
Toyota Safety Sense
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....240
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....255
LTA（レーントレーシングアシスト）.....264
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....268
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....273
発進遅れ告知機能.....278
RSA（ロードサインアシスト）280
レーダークルーズコントロール
.....283
ドライバー異常時対応システム
.....294
LDA
（レーンディパーチャーアラート）
.....268
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....264
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..255
PDA
（プロアクティブドライビングアシスト）.....273
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....331
RCD
（リヤカメラディテクション）..328
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....323
RSA
（ロードサインアシスト）.....280
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....32
SYNC スイッチ
（シンクロスイッチ）.....402
TRC
（トラクションコントロール）..380

VSC

（ビークルスタビリティコントロール）.....380

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....522
アームレスト.....430
アウターミラー（ドアミラー）
安心降車アシスト.....311
格納のしかた.....205
操作.....204
ブラインドスポットモニター（BSM）296
ミラーヒーター.....399
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....323
アクセサリーコンセント.....432
アクセサリーソケット.....422
アクティブコーナリングアシスト（ACA）.....380
アシストグリップ.....431
足元照明.....410
アダプティブハイビームシステム...240
アラーム
オートアラーム.....54
音さくいん.....550
警告ブザー.....494, 501
安心降車アシスト.....311
操作.....312
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....380
警告灯.....495
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）.....182

い

イージークローザー（バックドア）.175
EV システム.....58
イモビライザーシステム.....53
運転のアドバイス.....65
オーバーヒート.....526
回生ブレーキ.....59
急速充電のしかた.....98
緊急始動機能.....517
緊急時の停止方法.....486
緊急停止システム.....64
高電圧部位.....61
サービスプラグ.....61
事故が発生したとき.....63
始動できないときは.....517
始動方法.....221
車両接近通報装置.....60
注意.....61
電気モーター.....58
電欠になったとき.....65
特徴.....58
特有の音と振動.....60
ドライブスタートコントロール.....218
パワー（イグニッション）スイッチ...221
普通充電のしかた.....90
ブレーキオーバーライドシステム.....214
補機バッテリーがあがった.....522
ボンネット.....451
メンテナンス・修理・廃車するとき.....60
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....221
EV システムの始動のしかた.....221

自動電源 OFF 機能.....224
車両を緊急停止するには.....486
モード切りかえ.....223
位置交換（タイヤローテーション）.456
イベントデータレコーダー（EDR）.....9
イモビライザーシステム.....53
イルミネーテッドエントリーシステム
.....410
インサイドハンドル照明.....410
インジケーター（表示灯）.....145
エラーインジケーター.....73
充電インジケーター（普通充電ケーブル）
.....73
電源インジケーター.....73
普通充電インジケーター（普通充電ポート）.....70
普通充電ケーブル.....73
READY.....221
インテリアランプ.....410, 411
インナーミラー.....195, 196

う

ウインカー（方向指示灯）.....230
電球（バルブ）の交換.....481
方向指示レバー.....230
ウインドウ
ウォッシャー.....244
パワーウインドウ.....206
リヤウインドウデフォッガー.....399
ウインドウロックスイッチ.....208
ウォッシャー
液の補充.....454
スイッチ.....244
タンク容量.....532
冬の前の準備・点検.....391
動けなくなったときは（スタック）.528
雨滴感知式ワイパー.....244
運転
雨の日の運転.....214
運転を補助する装置.....380
寒冷時の運転.....391
走行可能距離.....67
正しい運転姿勢.....27
手順.....213
電気自動車運転のアドバイス.....65
運転支援機能情報表示.....153
運転席シートベルト非着用警告灯...496

え

エアコン.....398
曇り取り（フロントガラス）.....399
「ナノイー X」.....400
フィルターの清掃.....474
フロント席集中送風モード（S-FLOW）
.....403
マイルームモード.....113
リモートエアコンシステム.....404
エアコン・デフォッガー.....399
エアバッグ.....32
SRS エアバッグ警告灯.....494
改造・廃棄.....37
警告ブザー.....494
作動条件.....33

正しい姿勢 27
配置 32
S-FLOW
フロント席集中送風モード 403
X-MODE 375
グリップコントロール 375
エレクトリックパワーステアリング（EPS）
機能 380
警告灯 495

お

オートアラーム 54
オートエアコン 398
オートドアロック・アンロック機能 168
オートレベリングシステム（ヘッドランプ） 239
オーバーヒート 526
オープナー
バックドア 172
ボンネット 451
オープントレイ 415
ALL AUTO（ECO）制御 396
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）. 423
お子さまを乗せるとき 38
ウインドウロックスイッチ 208
お子さまの安全のために 38
シートベルトの着用 29, 30
ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告 406
チャイルドシート 39
チャイルドシートの取り付け 39
チャイルドプロテクター 168
発炎筒の取り扱いに関する警告 486
バックドアに関する警告 169
バッテリーに関する警告 525
パワーウインドウに関する警告 207
オドメーター／トリップメーターディスプレイ 150
表示項目 150

か

カーテンシールドエアバッグ 32
カードホルダー 415
カーペット 448
洗浄 448
フロアマットの取り付け方 26
外気温度表示 148
回生ブレーキ 59
外装の電球（バルブ） 481
交換要領 481
外部給電 132
給電口 133
正常に給電できないときは 140
外部電源供給システム 132
顔認証システム 209
カスタマイズ機能 534
型式 533
カップホルダー 413
カメラ
前方カメラ 250
デジタルインナーミラー 200
トヨタチームメイト アドバンストパーク 348

白線認識用カメラ（LTA）.....264
白線認識用カメラ（LDA）.....268
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....399
ガレージジャッキ.....453
冠水路走行.....218
寒冷時の運転.....391

き

キー.....158
EV システムが始動できない.....517
キーナンバープレート.....158
キーの構成.....158
キーレスエントリー.....159, 182
キーをなくした.....518
正常に働かない.....520
施錠・解錠ができない.....520
デジタルキー.....161
電子キー.....158
電池が切れた.....477, 520
メカニカルキー.....160
ワイヤレスリモコン.....159
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム.....182
ワイヤレスドアロック.....159
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）...216
緊急時シートベルト固定機構.....30
緊急始動機能（EV システム）.....517
緊急時の対処
EV システムが始動できない.....517
オーバーヒートした.....526
キーの電池が切れた.....477, 520
キーをなくした.....518
警告灯がついた.....494
警告メッセージが表示された.....501
けん引.....489
故障したときは.....484
車中泊が必要なときは.....488
車両を緊急停止する.....486
水没・冠水したときは.....487
スタックした.....528
電子キーが正常に働かない.....520
発炎筒.....485
パンクした.....507
補機バッテリーがあがった.....522
緊急停止システム.....64
緊急ブレーキシグナル.....380

く

空気圧（タイヤ）.....532
タイヤ空気圧警報システム.....456
メンテナンスデータ.....532
区間距離計（トリップメーター）.....150
駆動用電池
充電について.....68
搭載位置.....58
駆動用電池残量計.....148
駆動用電池充電
警告灯.....495
曇り取り
フロントガラス.....399
ミラーヒーター.....399
リヤウインドウデフォッガー.....399

クラクション（ホーン）.....194
クリアランスソナー 315
警告灯 497
操作 316
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 237
電球（バルブ）の交換 481
クリップ
フロアマット.....26
グリップコントロール.....378
クルーズコントロール
警告灯 498
レーダークルーズコントロール283, 291

け

警音器（ホーン）.....194
計器類（メーター）.....148
警告灯.....144, 494
運転支援情報表示灯 497
ABS ＆ブレーキアシスト 495
SRS エアバッグ.....494
LTA 表示灯 497
LDA 表示灯.....496
駆動用電池充電.....495
クリアランスソナー OFF 表示灯 497
クルーズコントロール表示灯 498
シートベルト非着用.....496
充電.....494
スリップ表示灯.....498
タイヤ空気圧.....496
ドライブスタートコントロール.....495
パーキングブレーキ表示灯.....499
パワーステアリング.....495
PCS 498
PDA 表示灯 497
ブレーキ 494
ブレーキオーバーライドシステム.....495
ブレーキホールド作動表示灯.....498
レーダークルーズコントロール表示灯498
警告ブザー
SRS エアバッグ.....494
LDA（レーンディパーチャーアラート）
.....268, 496
LTA（レーントレーシングアシスト）264, 497
休憩提案機能（LDA）.....270
クリアランスソナー 497
クルーズコントロール 498
シートベルト非着用.....496
衝突警報 255
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....288
低速時加速抑制.....257
手放し運転警告（LTA）.....265
手放し運転警告（LDA）.....270
手放し運転警告（PDA）.....277
ドライブスタートコントロール.....495
パーキングブレーキ未解除走行時.....233
パワーステアリング.....495
半ドア 166, 183
半ドア走行.....167
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....497

プリクラッシュセーフティ 498
ブレーキ 494
ブレーキオーバーライドシステム 495
ブレーキホールド 498
ボンネット開 167
窓開 207
レーダークルーズコントロール 498
警告メッセージ 501
警告ラベル（EV システム）..... 61
化粧ミラー（バニティミラー）..... 421
けん引
けん引のしかた 489
フック 491

こ

交換
キーの電池 477
タイヤ 467
電球（バルブ）..... 481
ヒューズ 479
工具（ツール）..... 468, 508
航続可能距離 148
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 481
高電圧部位 61
後方車両接近通知 302
作動条件 303
後方車両への接近警報 307
コートフック 431
子供専用シート
取り付け方 40
小物入れ 412, 415
コンセント 432
コンソールボックス 413
コンライト（自動点灯・消灯装置）. 237

さ

サービスプラグ 61
サイドエアバッグ 32
サイド方向指示灯 230
電球（バルブ）の交換 481
方向指示レバー 230
サイドミラー（ドアミラー）..... 204
安心降車アシスト 311
格納のしかた 205
操作 204
ブラインドスポットモニター（BSM）296
ミラーヒーター 399
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）
..... 323
サンシェード 420
サンバイザー 421

し

シート 188, 189
正しい運転姿勢 27
チャイルドシート 39
調整 188, 189
手入れ 448
ヘッドレスト 191
シートヒーター 406
ALL AUTO（ECO）制御 396

シートベルト.....29
お子さまの着用.....29, 30
緊急時シートベルト固定機構.....30
高さ調節.....31
正しく着用するには.....30
着け方、はずし方.....30
手入れ.....448
妊娠中の方の着用.....29
非着用警告灯.....496
シートベルト非着用警告灯.....496
シートベルトプリテンショナー.....31
機能.....31
プリテンショナー警告灯.....494
シートベンチレーター.....406
ALL AUTO（ECO）制御.....396
事故が発生したとき（EV システムの注意）.....63
室内灯.....410
始動のしかた.....221
シフト照明.....410
シフトポジション.....225
操作.....225
車中泊が必要なときは.....488
ジャッキ
ガレージジャッキ.....453
車載ジャッキ.....468
ジャッキハンドル.....468
車幅灯
電球（バルブ）の交換.....481
ランプスイッチ.....237
車両型式.....533
車両仕様（スペック）.....530
車両情報表示.....153
車両接近通報装置.....60
車両データの記録.....7
車両を緊急停止するには.....486
充電
急速充電.....98
車載充電器.....96
充電装備.....68
充電に関するアドバイス.....86
充電に関する警告.....95, 101
充電のしかた.....90, 98
充電方法.....84
充電リッドが開けられない.....519
充電リッドの開閉.....69
正常に充電できない.....120
ソーラー充電システム.....116
タイマー充電機能.....104
電源について.....79, 84
V2H 充電.....98
普通充電.....90
普通充電ケーブル.....71
マイルームモード.....113
メッセージ.....126, 501
充電ケーブル（普通充電ケーブル）
安全機能.....73
インジケーター.....73
コントロールユニット.....72
充電ケーブルに関する警告.....71
電源プラグコードの交換.....74
普通充電コネクターを解錠できないとき.....78

充電ポート
急速充電リッド.....68
充電リッドが開かないとき.....519
充電リッドの開閉.....69
普通充電コネクターの施錠・解錠.....77
普通充電リッド.....68
充電用 USB 端子.....422
充電リッド
充電リッドが開かないとき.....519
周辺車両接近時サポート.....304
作動条件.....306
瞬間電費.....153
仕様（車両仕様）.....533
衝撃感知ドアロック解除システム...165
初期化
パワーウインドウ.....206
初期設定.....546
助手席シートベルト非着用警告灯...496

す

スイッチ
TRC OFF.....381
VSC OFF.....381
アダプティブハイビームシステム.....240
イグニッション.....221
ウインドウロック.....208
ウォッシャー.....244
エコモード.....228
X-MODE.....375
LTA（レーントレーシングアシスト）.266
回生ブースト.....229
グリップコントロール.....375, 378
クルーズコントロール.....291
シート調整.....188
シートヒーター.....407
シートベンチレーター.....407
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....285
ステアリングヒーター.....407
スノーモード.....375
ドアミラー.....204
ドアロック.....167
パーキングブレーキ.....231
ハザードランプ.....485
パワーウインドウ.....206
パワースイッチ.....221
非常点滅灯（ハザードランプ）.....485
フォグランプ.....243
輻射ヒーター.....408
ブレーキホールドスイッチ.....234
方向指示レバー.....230
ホーン（警音器）.....194
メーター操作.....152
ランプ.....237
リモートエアコンシステム.....404
リヤウインドウデフォッガー.....399
レーダークルーズコントロール.....285
ワイパー.....244
スタック.....528
ステアリングヒーター.....406
ALL AUTO（ECO）制御.....396
ステアリングホイール（ハンドル）.194
位置調整.....194
ステアリングヒーター.....406
メーター操作スイッチ.....152

ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル.....380
電球（バルブ）の交換.....481
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....391
スノーモード.....375
スペック（車両仕様）.....530
スマートエントリー＆スタートシステム
.....182
アンテナの位置.....182
EV システムの始動.....221
カスタマイズ設定.....534
緊急始動機能.....517
警告ブザー.....183
警告メッセージ.....183
作動範囲.....183
節電機能.....183
電波がおよぼす影響について.....187
ドアの解錠・施錠.....164, 170
バックドアの施錠・解錠.....170
スモールランプ（車幅灯）.....237
電球（バルブ）の交換.....481
ランプスイッチ.....237
スリップ表示灯.....381

せ

清掃.....444, 448
アルミホイール.....445
外装.....444
シートベルト.....448
内装.....448
ブレーキキャリパー.....445
レーダー.....250
制動灯
緊急ブレーキシグナル.....380
電球（バルブ）の交換.....481
セカンダリーコリジョンブレーキ（前突時の二次衝突軽減）.....380
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）.....309
積算距離計（オドメーター）.....150
セキュリティインジケーター.....53, 54
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....288
先行車発進告知機能.....278
センサー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
.....297
安心降車アシスト.....297
インナーミラー.....195
雨滴感知センサー.....245
LDA（レーンディパーチャーアラート）
.....268
LTA（レーントレーシングアシスト）.264
デジタルインナーミラー.....199
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....297
BSM（ブラインドスポットモニター）297
ライトセンサー.....238
レーダーセンサー.....250
洗車.....444
前照灯（ヘッドランプ）.....237
オートレベリングシステム.....239
電球（バルブ）の交換.....481
ライトセンサー.....238
ランプ消し忘れ防止機能.....239
ランプスイッチ.....237

そ

走行距離.....154
走行時間.....154
走行情報表示.....152
走行モード（X-MODE）.....375
送信機（タイヤ空気圧警報システム）
.....456
ソーラー充電システム.....116
速度計（スピードメーター）.....148
ソフトウェアアップデート.....247

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
.....230
方向指示レバー.....230
タイマー充電機能.....104
タイヤ.....455
空気圧.....473, 532
交換.....467
チェーン.....391
点検.....455
パンクしたときは.....507
パンク応急修理キット.....507
冬用タイヤ.....391
ホイールサイズ.....532
ローテーション（位置交換）.....456
タイヤが空まわりする（スタックした）
.....528
タイヤ空気圧.....154
警告灯.....496
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの切りかえ.....465
ID コードの登録.....463
機能について.....456
空気圧バルブ／送信機について.....458
空気圧表示画面.....456
タイヤの位置登録.....459
タイヤの空気圧設定.....460
タイヤチェーン.....391
ダイヤル式シフト.....225
シフトポジションの切りかえ.....225
操作.....225

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....391
チャイルドシート.....39
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け50
シートベルトでの固定.....48
選択方法.....39
チャイルドプロテクター.....168
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
.....231
冬季の注意.....391
パーキングブレーキ表示灯.....499
ブレーキ警告灯.....494
未解除走行時警告ブザー.....233
メンテナンスデータ.....531

つ

ツール（工具）.....468

て

提案サービス機能.....155
ディスプレイ
マルチインフォメーションディスプレイ
.....151

手入れ.....444, 448
アルミホイール.....445
外装.....444
シートベルト.....448
デジタルインナーミラー.....200
内装.....448
ブレーキキャリパー.....445
レーダー.....250
テールランプ（尾灯）.....237
電球（バルブ）の交換.....481
ランプスイッチ.....237
デジタルインナーミラー.....196
デジタルキー.....161
デッキアンダートレイ.....417
デッキフック（荷物固定用フック）.416
デッキボード.....416
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....399
電気モーター.....58
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....481
電欠になったとき.....65
点検基準値（メンテナンスデータ）.530
電子キー.....158
作動範囲.....183
正常に働かないとき.....520
節電機能.....183
電池が切れた.....520
電池交換.....477
電池交換（キー）.....477
電動サンシェード.....420
電動パーキングブレーキ
パーキングブレーキ表示灯.....499
ブレーキ警告灯.....494
電費
平均電費.....153
電費
瞬間電費.....153

と

ドア.....164
オートドアロック・アンロック機能...168
衝撃感知ドアロック解除システム.....165
スマートエントリー＆スタートシステム.....182
チャイルドプロテクター.....168
ドアガラス.....206
ドアロックスイッチ.....167
バックドア.....169
ロックレバー.....167
ワイヤレスリモコン.....164
ドアトリム照明.....410
ドアミラー
安心降車アシスト.....311
格納のしかた.....205
操作.....204
ブラインドスポットモニター（BSM）296
ミラーヒーター.....399
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....323
ドアミラー足元照明.....410
盗難防止装置
イモビライザーシステム.....53
オートアラーム.....54
時計.....148, 150
トップテザーアンカレッジ.....51
トノカバー.....418

Toyota Safety Sense.....249
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....240
PCS（プリクラッシュセーフティ）....255
RSA(ロードサインアシスト).....280
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....268
先行車発進告知機能.....278
ソフトウェアアップデート.....247
ドライバー異常時対応システム.....294
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....273
レーダークルーズコントロール.....283
トヨタチームメイト アドバンストパーク.....342
縦列出庫機能.....359
縦列駐車機能.....357
並列前向き・バック出庫機能.....355
並列前向き・バック駐車機能.....352
メモリ機能.....361
リモート機能.....366
ドライバー異常時対応システム.....294
ドライブスタートコントロール.....218
急発進の抑制制御.....218
後退速度の抑制制御.....218
トラクションコントロール（TRC).380
トリップメーター.....150
トルク配分.....154

な

内装
収納装備.....412
手入れ.....448
「ナノイー X」.....400

に

荷物
積むときの注意.....219
デッキフック.....416
荷室内装備.....416

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....528

は

パーキングサポートブレーキ.....331
操作.....333
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....339
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....340
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）.....336
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）.....336
パーキングブレーキ.....231
操作.....231
冬季の注意.....391, 392
パーキングブレーキ表示灯.....499
ブレーキ警告灯.....494
未解除走行時警告ブザー.....233
メンテナンスデータ.....531
パーソナルランプ.....410, 411
ハイビーム（ヘッドランプ）.....237
アダプティブハイビームシステム.....240
電球（バルブ）の交換.....481
ランプスイッチ.....237

ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 481
ハザードランプ（非常点滅灯）
スイッチ 485
電球（バルブ）の交換 481
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 206
パワーバックドア 177
発炎筒 485
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 481
バックドア 169
イージークローザー 175
バックドアハンドル 171
バッテリー（駆動用電池）
充電について 68
搭載位置 58
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯 494
補機バッテリーがあがった 522
補機バッテリーを交換するとき 524
BEV（バッテリーエレクトリックビークル） 58
バニティ（化粧用）ミラー 421
バニティミラーランプ
装備について 421
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 481
パワーウインドウ 206
ウインドウロックスイッチ 208
閉めることができないときは 206
初期化 206
操作 206
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 207
挟み込み防止機能 206
巻き込み防止 206
パワースイッチ 221
EV システムの始動のしかた 221
自動電源 OFF 機能 224
車両を緊急停止するには 486
モードの切りかえ 223
パワーステアリング 380
警告灯 495
パワーメーター 148
パンク応急修理キット 508
パンクした
タイヤパンク応急修理キット装着車 507
番号灯（ライセンスプレートランプ） 237
電球（バルブ）の交換 481
ランプスイッチ 237
ハンズフリーパワーバックドア 174
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 194
ステアリングヒーター 406
メーター操作スイッチ 152

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC） 380
ヒーター
エアコン・デフォッガー 398
駆動用電池 84
シートヒーター 406
ステアリングヒーター 406
輻射ヒーター 406
ミラーヒーター 399

ヒーターシステム
メンテナンスデータ.....531
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）
警告灯.....497
非常時給電システム.....432
使用できないときは.....440
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ.....485
電球（バルブ）の交換.....481
尾灯（テールランプ).....237
電球（バルブ）の交換.....481
ランプスイッチ.....237
ヒューズ.....479
表示灯.....145
日よけ（サンバイザー).....421
ヒルスタートアシストコントロール380

ふ

V2H 給電.....98
ブースターケーブルのつなぎ方.....522
フォグランプ
スイッチ.....237
電球（バルブ）の交換.....481
輻射ヒーター
ALL AUTO（ECO）制御.....396
ブザー
休憩提案機能（LDA）.....270
クリアランスソナー.....320
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....288
手放し運転警告（LTA）.....265
手放し運転警告（LDA).....270
手放し運転警告（PDA）.....277
パーキングブレーキ未解除走行時警告233
半ドア.....166, 183
半ドア走行.....167
ブレーキホールド.....498
窓開警告.....207
普通充電ケーブル
安全機能.....73
インジケーター.....73
コントロールユニット.....72
充電ケーブルに関する警告.....71
電源プラグコードの交換.....74
普通充電コネクターを解錠できないとき.....78
普通充電コネクターの施錠・解錠.....77
フック
けん引フック.....491
コートフック.....431
デッキフック.....416
フロアマット固定フック.....26
冬の前の準備（寒冷時の運転).....391
冬用タイヤ.....391
ブラインドスポットモニター（BSM）.....296
操作.....298
プラスサポート（販売店装着オプション）.....386
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能.....255
操作.....263
PCS 警告灯.....498

ブレーキ
回生ブレーキ.....59
緊急ブレーキシグナル.....380
警告灯.....494
パーキングブレーキ.....231
ブレーキ警告灯.....494
ブレーキホールド.....234
メンテナンスデータ.....531
ブレーキアシスト.....380
機能.....380
ブレーキオーバーライドシステム...214
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる.....216
ブレーキフルード.....531
ブレーキホールド.....234
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）.....273
操作.....276
フロアマット.....26
フロントイーアクスル
メンテナンスデータ.....531
フロントインテリアランプ.....411
フロントコンソール下照明.....410
フロントシート.....188
シートヒーター.....406
シートベンチレーター.....406
正しい運転姿勢.....27
調整.....188
手入れ.....448
ヘッドレスト.....191
フロントフォグランプ
スイッチ.....243
電球（バルブ）の交換.....481
フロント方向指示灯.....230
電球（バルブ）の交換.....481
方向指示レバー.....230
フロントワイパーデアイサー.....400

へ

平均車速.....154
平均電費.....153
ヘッドランプ.....237
電球（バルブ）の交換.....481
ライトセンサー.....238
ランプ消し忘れ防止機能.....239
ランプスイッチ.....237
ヘッドランプオートレベリングシステム.....239
ヘッドレスト.....191
ベンチレーター（シートベンチレーター）.....406

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....467
メンテナンスデータ.....532
ホイールボルトレンチ.....468
方向指示灯.....230
電球（バルブ）の交換.....481
方向指示レバー.....230
ホーン（警音器）.....194
補機バッテリー
交換するとき.....524
冬の前の準備.....391
補機バッテリーがあがった.....522
保証.....10
ボトルホルダー.....414
ボンネット.....451
開け方.....451
警告ブザー.....167
警告メッセージ.....167

ま

マイセッティング.....209
マイルームモード.....113
マルチインフォメーションディスプレイ
.....151
運転支援機能情報表示.....153
LDA（レーンディパーチャーアラート）
.....271
LTA（レーントレーシングアシスト）.267
クルーズコントロール.....291
警告メッセージ.....501
車両情報表示.....153
設定.....154
走行情報表示.....152
タイヤ空気圧.....456
提案サービス機能.....155
電費グラフ.....153
時計.....150
ドライブインフォメーション.....154
トルク配分表示.....154
メーター操作スイッチ.....152
メニューアイコン.....152
レーダークルーズコントロール.....285

み

ミラー
アウターミラー.....204
インナーミラー.....195
デジタルインナーミラー.....196
ドアミラー.....204
バニティミラー.....421
ミラーヒーター.....399

め

メーター
計器類.....148
警告灯.....144, 494
警告メッセージ.....501
照度調整.....150
設定.....154
時計.....148
表示灯.....145
マルチインフォメーションディスプレイ
.....151
メーター操作スイッチ.....152
メーター照度調整.....150
メーター表示の切りかえスイッチ...150
メカニカルキー.....160
メニューアイコン.....152
メンテナンスデータ.....530

も

モーター（電気モーター）.....58
ボンネット.....451

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....534
雪道ですべって動けない（スタックした）
.....528
油脂類.....530

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
.....237
電球（バルブ）の交換.....481
ランプスイッチ.....237

ラゲージフック 416
ラジエーター
オーバーヒート.....526
メンテナンスデータ.....530
ランプ
アダプティブハイビームシステム.....240
インテリアランプ.....410
室内灯 410
電球（バルブ）の交換.....481
パーソナルランプ.....411
非常点滅灯（ハザードランプ）.....485
フロントフォグランプ.....243
ヘッドランプ（前照灯）.....237
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）.....230
ライトセンサー.....238
ランプ消し忘れ防止機能 239
リヤフォグランプ.....243
ランプ消し忘れ防止機能.....239

り

リモートエアコンシステム.....404
リヤアームレスト 430
リヤイーアクスル
メンテナンスデータ.....531
リヤインテリアランプ.....411
リヤウインドウデフォッガースイッチ 399
リヤカメラディテクション（RCD）328
操作.....329
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....323
操作.....324
リヤシート.....189
シートヒーター.....406
ヘッドレスト.....191
リヤ席シートベルト非着用警告灯...496
リヤフォグランプ
スイッチ 243
電球（バルブ）の交換 481
リヤ方向指示灯.....230
電球（バルブ）の交換 481
方向指示レバー.....230

る

ルーフラゲージキャリア.....219
ルームミラー（インナーミラー）...195, 196

れ

冷却水 530, 531
冬の前の準備.....391
メンテナンスデータ 530, 531
冷却装置（ヒーターシステム）.....531
冷却装置（ラジエーター）.....530
オーバーヒート.....526
メンテナンスデータ 530
レーダークルーズコントロール.....283, 291
カーブ速度抑制機能.....288
警告灯 498
接近警報 288
レーダー 250
レーンディパーチャーアラート（LDA）.....268
警告灯 496
操作.....270
レーントレーシングアシスト（LTA）.....264
警告灯 497
操作.....266

レバー
方向指示 230
ボンネット解除 451
ロック（ドア）..... 164

ろ

ロードサインアシスト (RSA)..... 280
ロック
ウインドウロック 208
スマートエントリー＆スタートシステム 182
チャイルドプロテクター 168
ドア 164
バックドア 169
ワイヤレスリモコン 159

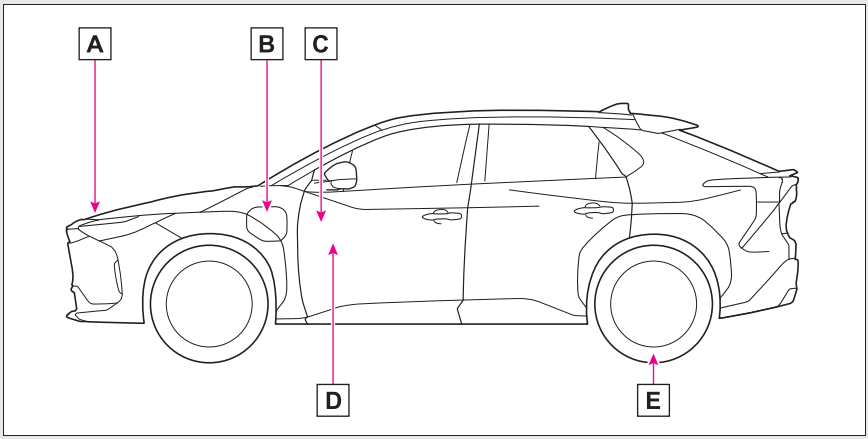
わ

ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充 454
フロント 244
ワイパブレード（寒冷地用）..... 392
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）. 423
ワイヤレスリモコン 159
作動の合図 165
操作 159
電池の交換 477
半ドア警告ブザー 166
リモートエアコンシステム 404
ワックス 444

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

- ·オーディオ
- ·パノラミックビューモニター
- ·ナビゲーションシステム
- ·音声操作システム
- ·ハンズフリー
- · ETC2.0 システム

充電スタンドでの情報



A ボンネットフック（→P.451）

B 充電ポート（→P.68）

C パワーバックドアスイッチ★（→P.172）

D ボンネット解除レバー（→P.451）

E タイヤ空気圧（→P.532）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

外部電源	P.84
充電時間	P.86
タイヤが冷えているときの空気圧	P.532

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォームによるお問い合わせ

チャットによるお問い合わせ

手話通訳サービスによるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

a J -2

TOYOTA

M 42E96
01999-42E96
IS-2024年 4 月17日
2023年10月25日 初版
2024年 4 月24日 2 版
bZ4X